令和６年度 第１回 奥越地域医療構想調整会議	資料1 - 1
令和６年７月２３日（火）１９時～	

地域医療構想の推進について①

（１）地域医療構想の推進にかかる国動向、本県の取組方針
（２）今後の医療・介護需要の推計

（1）地域医療構想の推進にかかる国の動向、
　　本県の取組方針

（2）今後の医療・介護需要の推計

（3）病床機能報告を基にした入院元・退院先の分析

（4）在宅医療・介護の状況、医療・介護の連携

（5）かかりつけ医の普及啓発

（6）今後の地域医療構想の取組について

地域医療構想の推進にかかる国の動向 ①

2025年度（令和7年度）に向けた国、都道府県及び医療機関の取組

- 国は都道府県あたり１～２か所の推進区域、全国１０～２０か所程度のモデル推進区域を設定。モデル推進区域においてアウトリーチの伴走支援を実施
- 都道府県は推進区域の調整会議で協議を行い、区域対応方針（医療提供体制上の課題、解決に向けた方向性及び取組内容等）を策定。令和5年3月に公表した医療機関対応方針について、医療機関の取組の進捗管理を行う

本県の推進区域、モデル推進区域

- 本県においては、国が嶺南構想区域を推進区域として設定
- 嶺南地域は、2025年の総病床数について、必要病床数と見込み数の差異が全国上位（国の設定基準では、上位150位／全体339区域）にあることから、推進区域として設定
- モデル推進区域は、必要量より多くなっている病床機能別の病床数について、2015年と比べて増加かつ病床利用率が低下している区域を設定。本県は該当なし。

嶺南地域における区域対応方針の策定の方向性

- 嶺南構想区域は、奥越、丹南構想区域に比べ、医療資源が集中している福井市内から距離が遠いため、可能な限り地域内で急性期から回復期・慢性期、在宅医療までを完結できる医療提供体制が必要
- このため、病床機能別の必要病床数を目安に機能転換を進めるとともに、区域内で医療機関間の役割分担と連携強化を図ることが重要
- 嶺南構想区域においては、二州地域と若狭地域の両地域における外来医療や在宅医療、介護との連携をきめ細かく議論するため、保健所単位で地域医療構想調整会議を開催しており、区域対応方針の策定・推進に当たっては、両地域の地域性も考慮

地域医療構想の推進にかかる国の動向 ②

新たな地域医療構想に関する検討会

- 新たな地域医療構想について、2040年頃を見据え、医療・介護の複合ニーズを抱える85歳以上人口の増大や現役世代の減少に対応できるよう、病院のみならず、かかりつけ医機能や在宅医療、医療・介護連携等を含め、地域の医療提供体制全体の構想として検討
- 令和6年3月から6月までに検討会を6回開催、医療、介護関係団体、保険者、学識経験者等のヒアリングを実施
- 今年末までに最終まとめを行い、令和7（2025）年度に国が新たな地域医療構想に関するガイドラインの検討・発出、令和8（2026）年度に都道府県が検討・策定を行い、令和9（2027）年度から新たな地域医療構想の取組を開始

新たな地域医療構想の方向性（総論）（案）より抜粋（厚労省令和6年6月21日資料）

●方向性（イメージ案）

- 新たな地域医療構想は、2040年頃を見据えて、85歳以上人口の増加、生産年齢人口の減少に伴い、医療従事者の確保が困難となることが見込まれる中で、地域ごとに在宅医療や医療・介護複合ニーズ等の増加、生産年齢人口に係る医療需要の減少等に対して、医療機関等が機能に応じて連携するとともに、介護施設・事業者・住まい等とも連携しながら対応することにより、持続可能な質の高い効率的な医療提供体制の確保を目指すもの。
- 大都市部、地方都市部、過疎地域等の地域差を踏まえつつ、身近な地域におけるかかりつけ医機能やそれを支える入院機能等、より広い区域における二次救急等を受け入れる機能、さらに広い区域における三次救急や人材確保等の拠点となる機能等の確保など、階層的に地域で必要な医療提供体制の確保を目指す。

●視点・手法（イメージ案）

- 新たな地域医療構想は、2040年頃を見据えて、将来の病床・外来・在宅等の医療需要の推計や医療従事者の確保の見込みを踏まえ、外来医療、在宅医療、介護施設・事業者・住まい等との連携等について地域（身近な地域）で協議を行うとともに、入院機能について地域（より広い区域）で協議を行い、全体を都道府県単位で統合・調整を行うことにより、地域の医療提供体制全体の将来ビジョン（方向性）を示す。

⇒検討会での議論を踏まえ、将来の医療需要推計や医療・介護等の連携に関する協議について、本県では令和６年度から７年度にかけて先行して実施したい。

地域医療構想の推進にかかる課題の整理

2025年度（令和7年度）までの本県における取組

- 本県として地域医療構想の最終年度である2025年において最低限必要となる一般病床と療養病床の合計は、8,150床程度と考えており、各医療機関の対応方針（案）において、2025年7月1日時点の意向を見ると、県内の病床数は8,246床（一般病床と療養病床の合計）となる見込みであることから、病床数に関して構想は順調に進んでいると評価

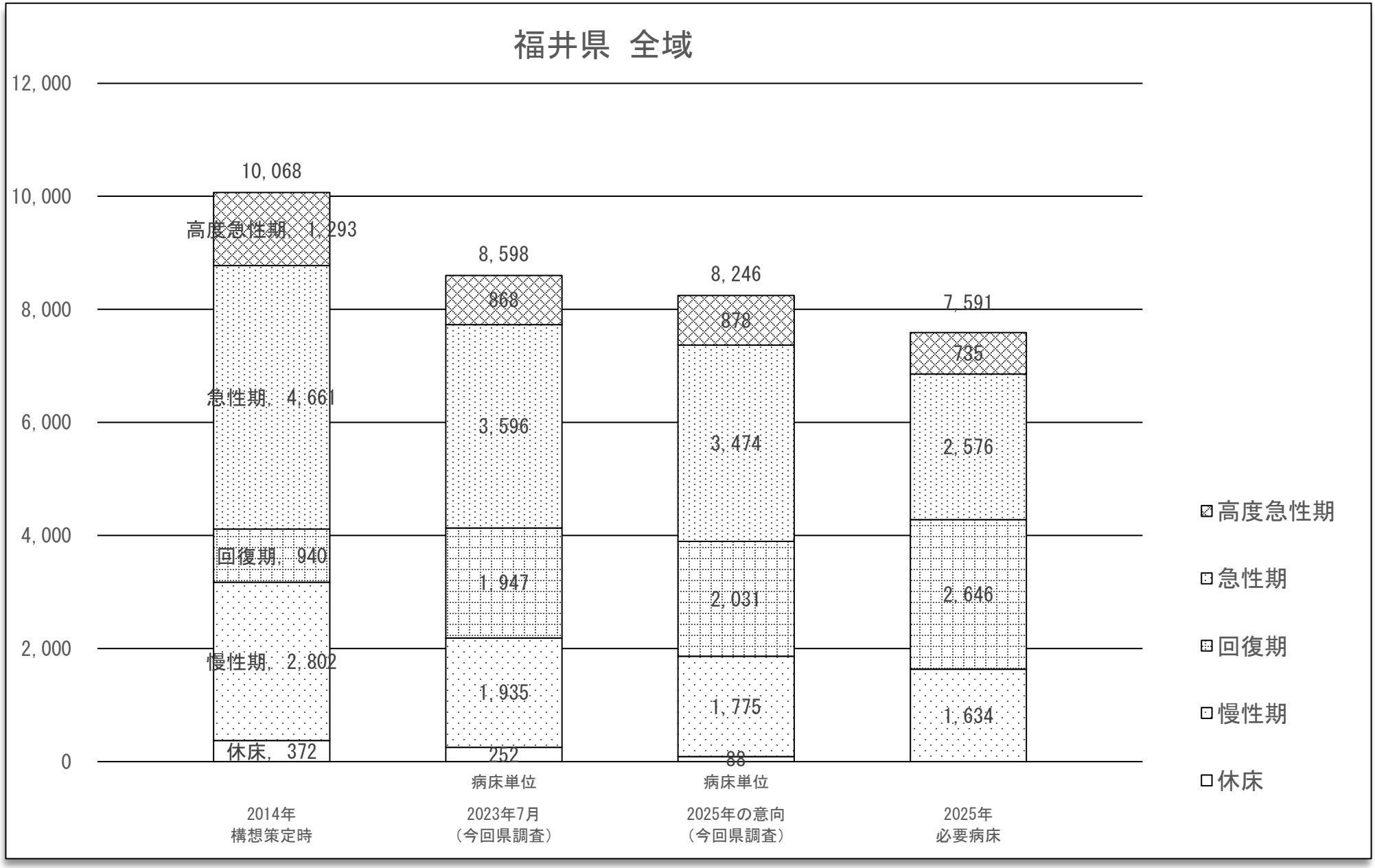
  【内訳】　・地域医療構想に定める必要病床数（一般病床と療養病床の合計）　7,591床
  ・新興感染症発生・まん延時に必要となる一般病床と療養病床の合計　約300床
  （福井県感染症予防計画において確保目標としている400床の内数）
  ・重症心身障害児（者）の受入れに必要となる一般病床　240床

- 病床機能を見た場合は依然として急性期が多く、回復期が不足見込みであることから、今後は病床機能の転換や医療機関の役割分担・連携に係る協議を中心的に行いたい。
- これまでの地域医療構想調整会議においては、急性期病床から回復期病床への転院、入院から介護施設への移行などがスムーズに進んでいないとの意見があった。

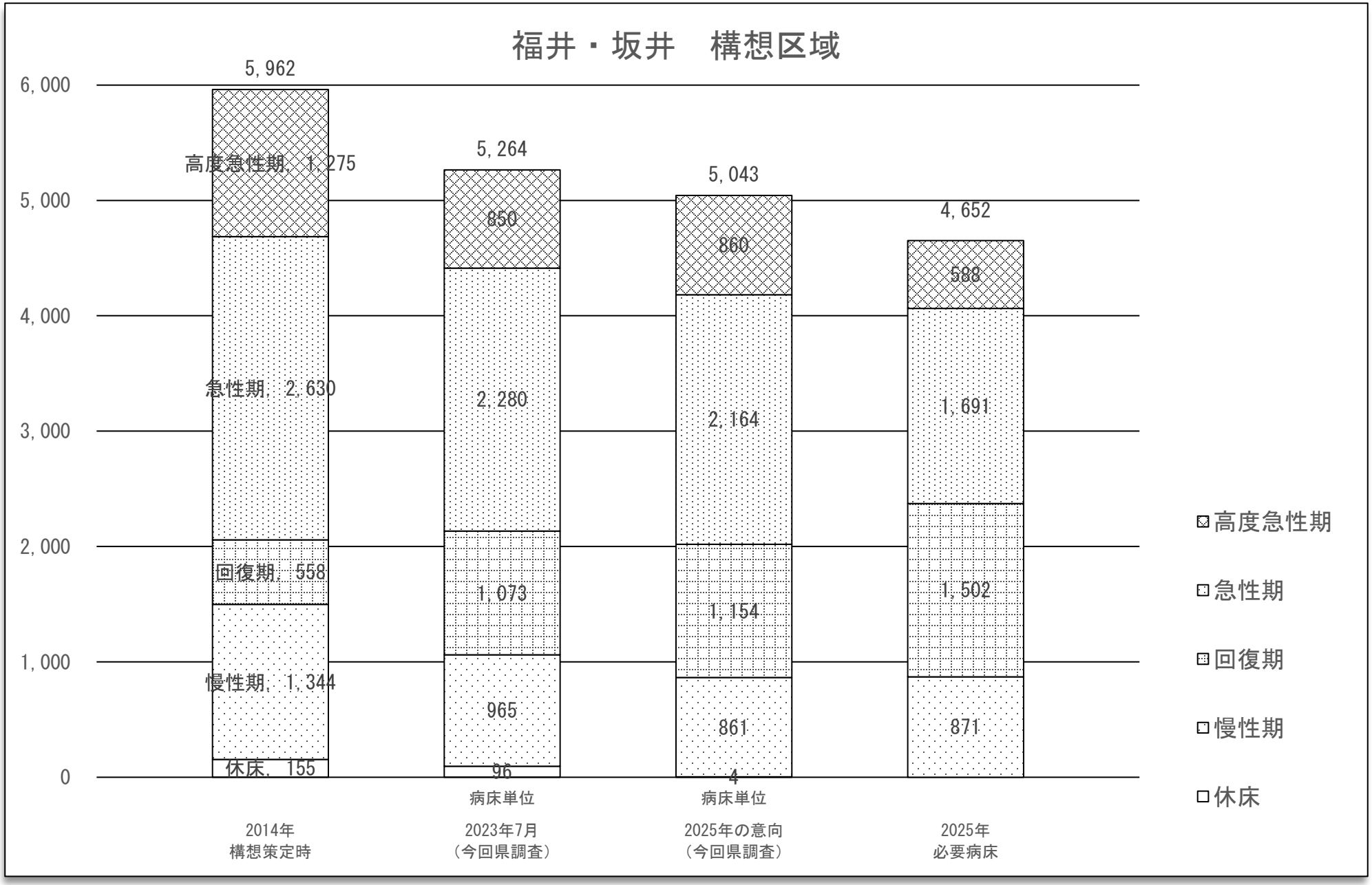
令和6年度第1回地域医療構想調整会議における説明

- 最新の将来人口推計（令和5年12月公表）に基づく、構想区域ごとの医療・介護需要の推計を行い、2040年頃を見据えた今後のおおまかな方向性を確認
- 医療機関間、医療・介護の連携を協議するにあたって、まずは、病床機能報告（令和5年度）から把握できる、病院ごとの入院元・退院先別の患者数を分析し、各構想区域の現状、各医療機関の役割分担、連携の状況を把握
- 推計・分析にあたっては、新たな地域医療構想等に関する検討会での議論・意見を参考にする。
- そのほか、在宅医療・介護の状況、かかりつけ医の普及啓発など地域医療構想の推進にかかる県の取組等を説明

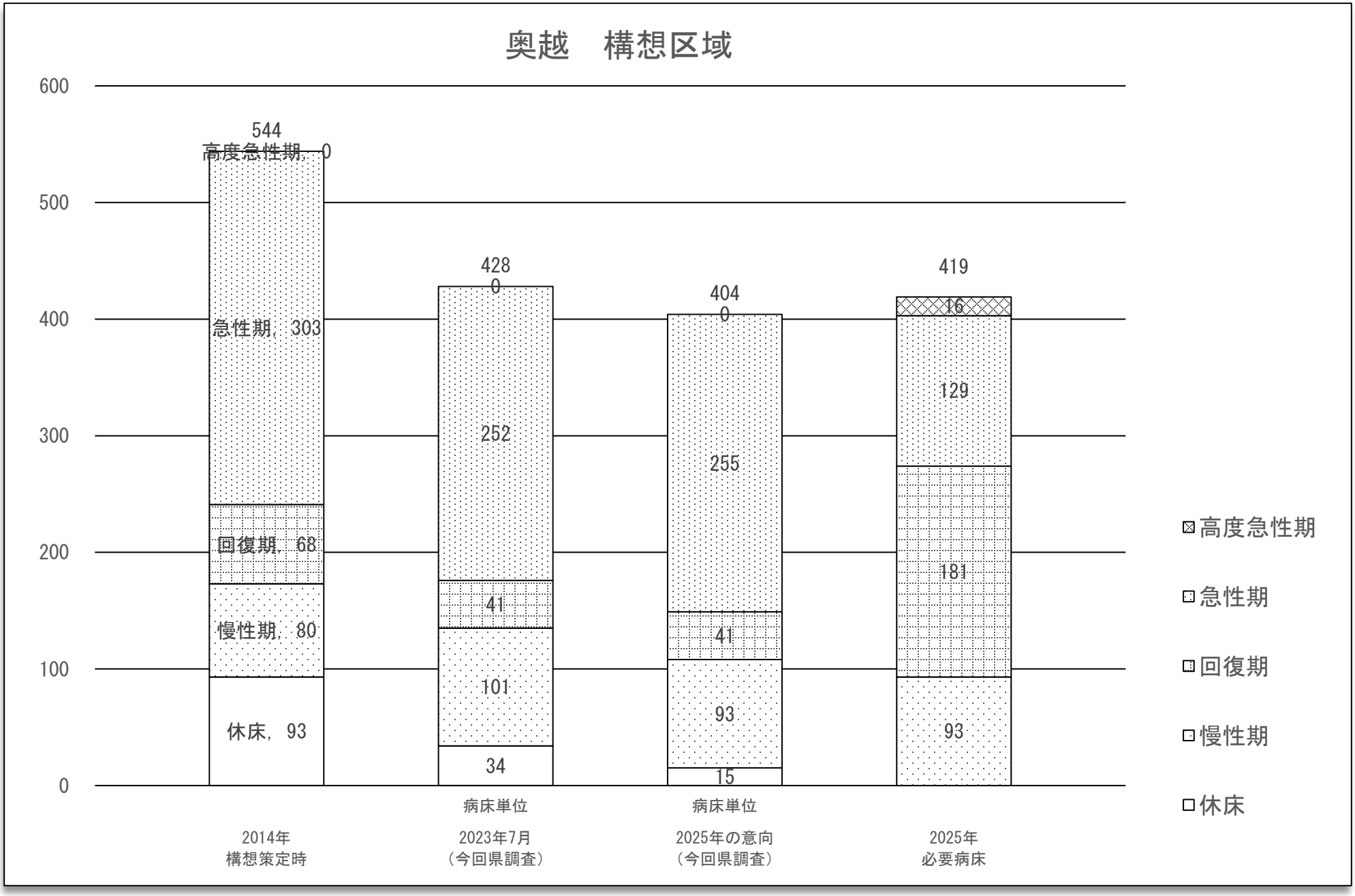
＜参考＞ 令和6年3月末時点 対応方針（福井県全域）



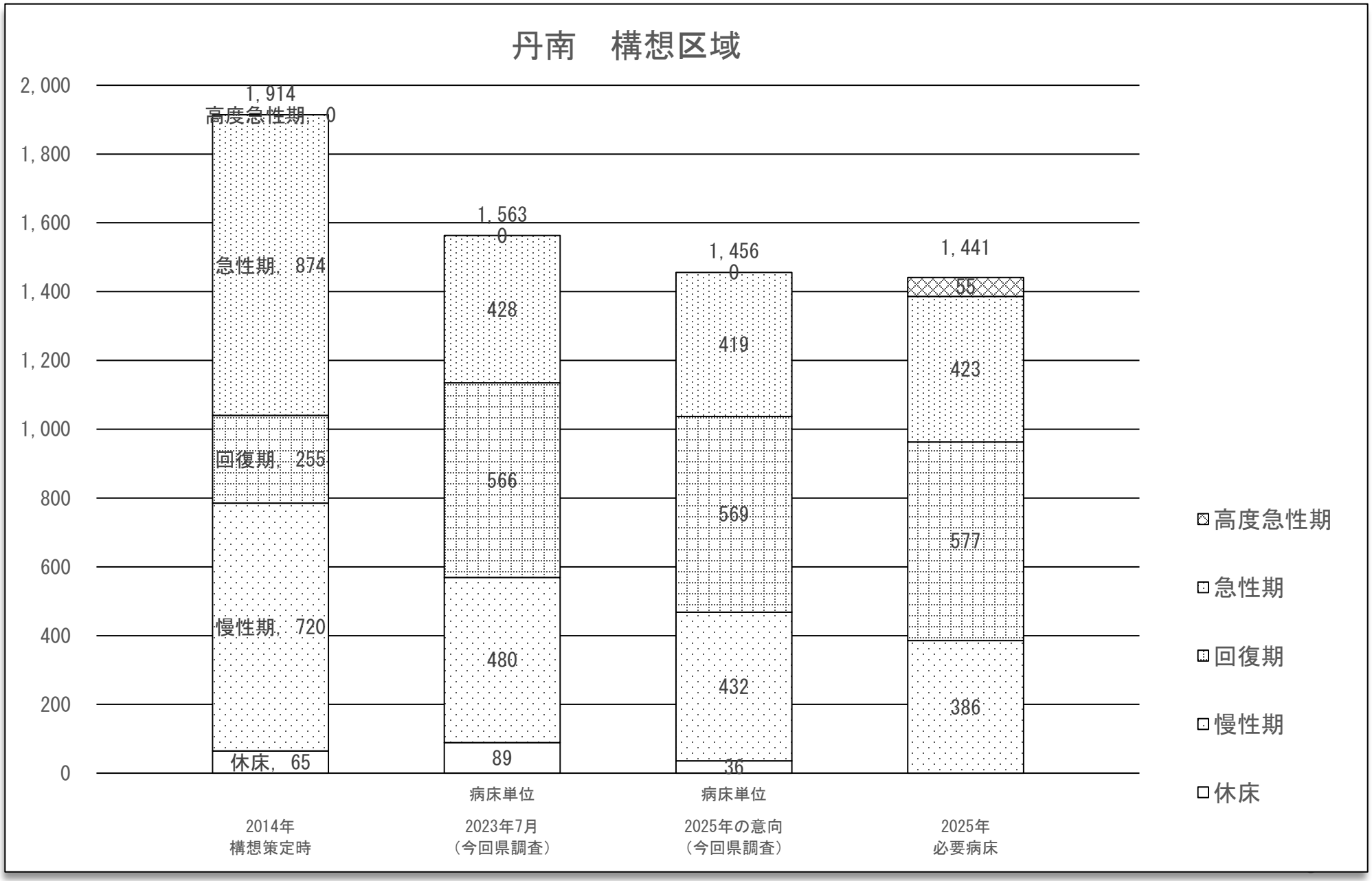
＜参考＞令和6年3月末時点 対応方針（福井・坂井構想区域）



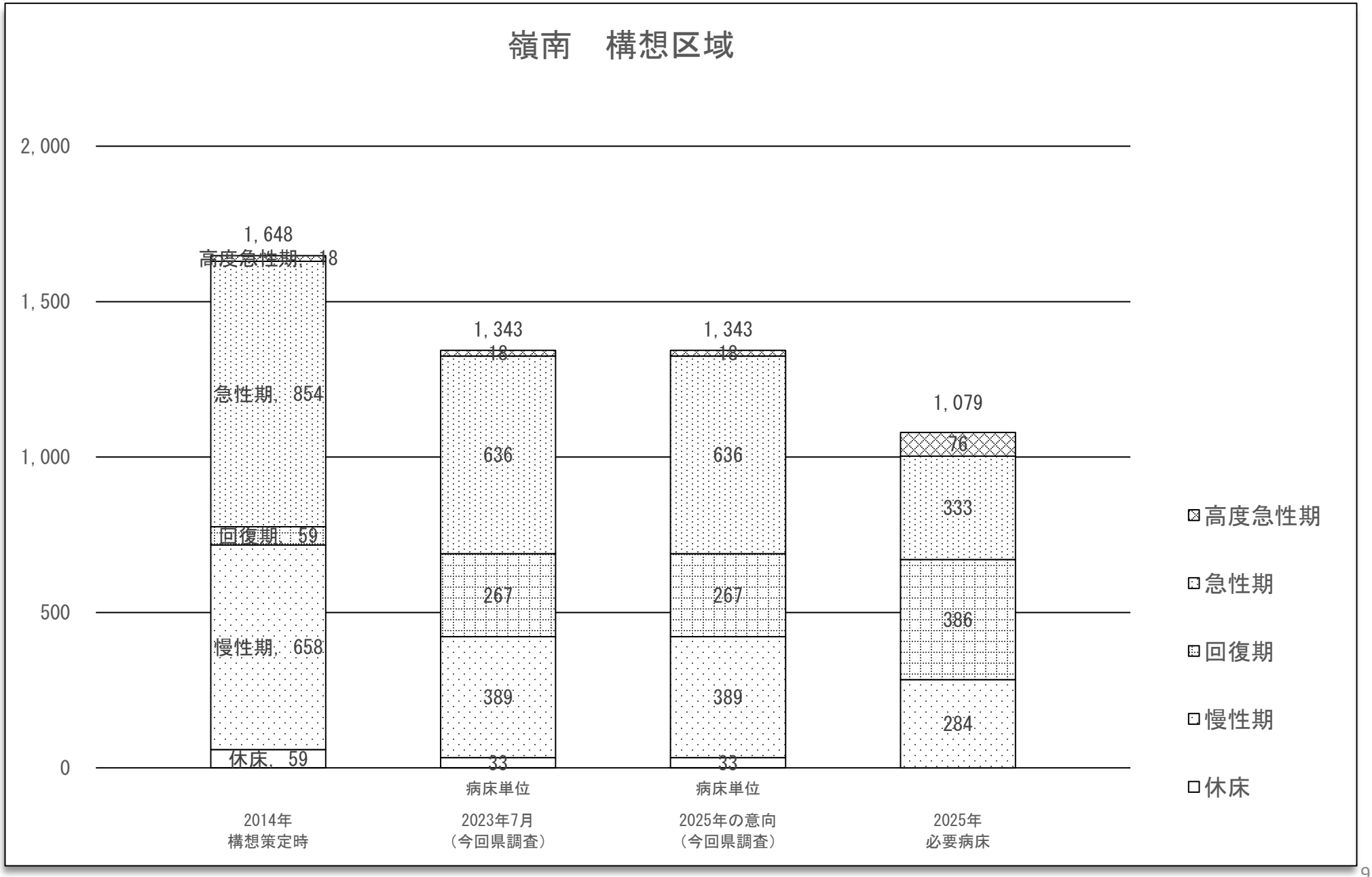
＜参考＞令和6年3月末時点 対応方針（奥越構想区域）



＜参考＞令和6年3月末時点 対応方針（丹南構想区域）



＜参考＞令和6年3月末時点 対応方針（嶺南構想区域）



（1）地域医療構想の推進にかかる国の動向、
本県の取組方針

（2）今後の医療・介護需要の推計

（3）病床機能報告を基にした入院元・退院先の分析

（4）在宅医療・介護の状況、医療・介護の連携

（5）かかりつけ医の普及啓発

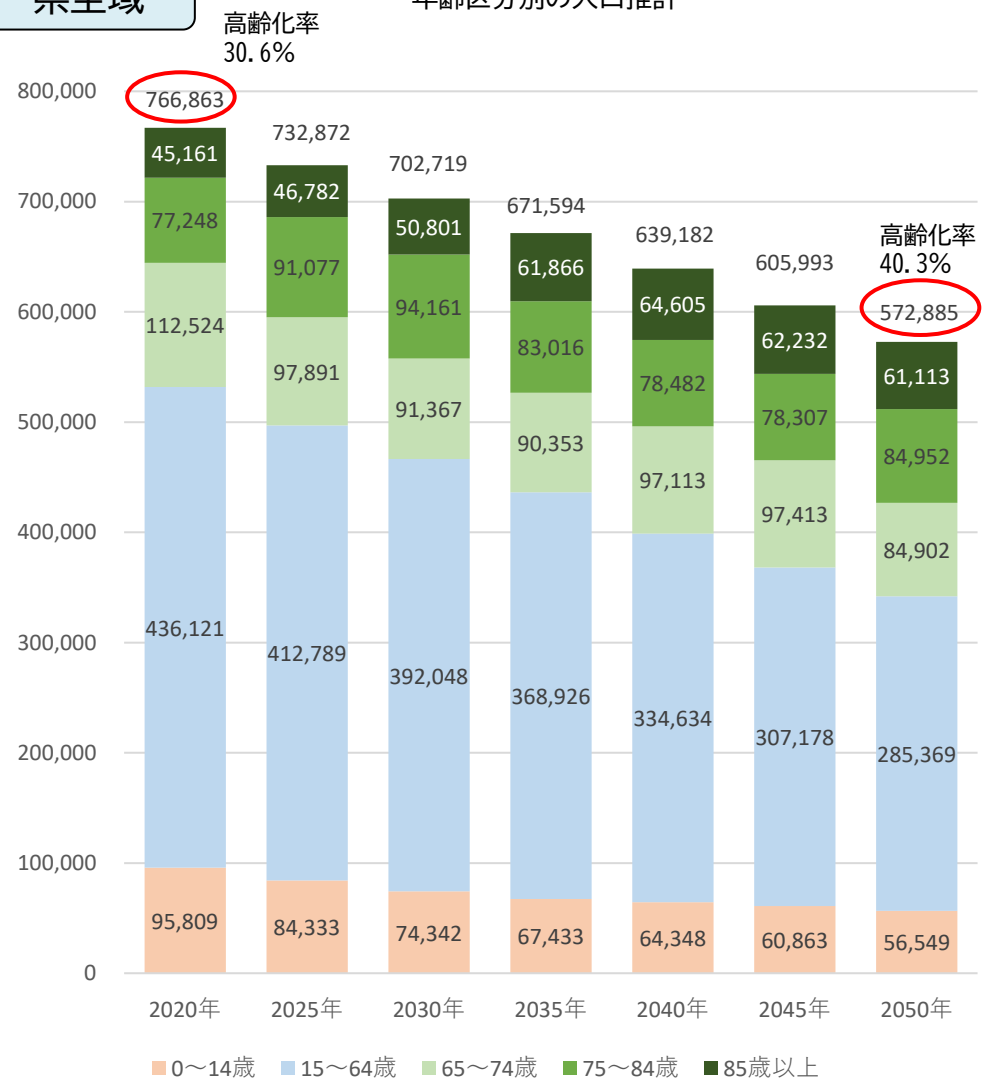
（6）今後の地域医療構想の取組について

将来推計人口（県全域）

・本県の人口は2020年（令和2年）から2050年（令和32年）にかけて減少（766,863人→527,885人、△193,978人、△25.3%）
・後期高齢者（75歳以上）は2030年（令和12年）まで増加（2020年対比+18.4%）し、その後は減少。団塊ジュニア世代が後期高齢者となる2050年には再び増加（2020年対比+19.3%）
・85歳以上人口は2040年（令和22年）頃に最多（2020年対比+43.1%）となる見込み
・高齢化率（65歳以上人口割合）は2020年30.6%から2050年40.3%へ上昇

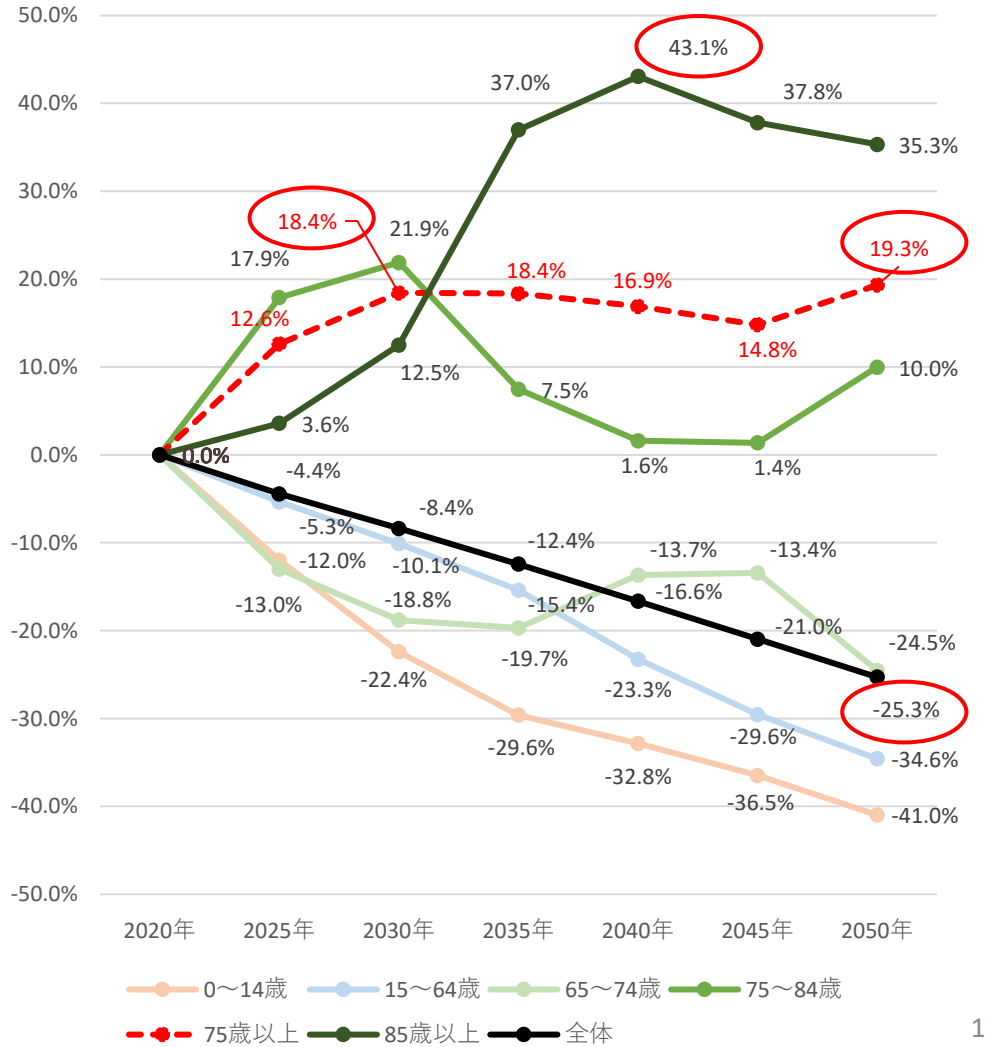
県全域

年齢区分別の人口推計



出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）

2020年対比の年齢区分別の人口増減率



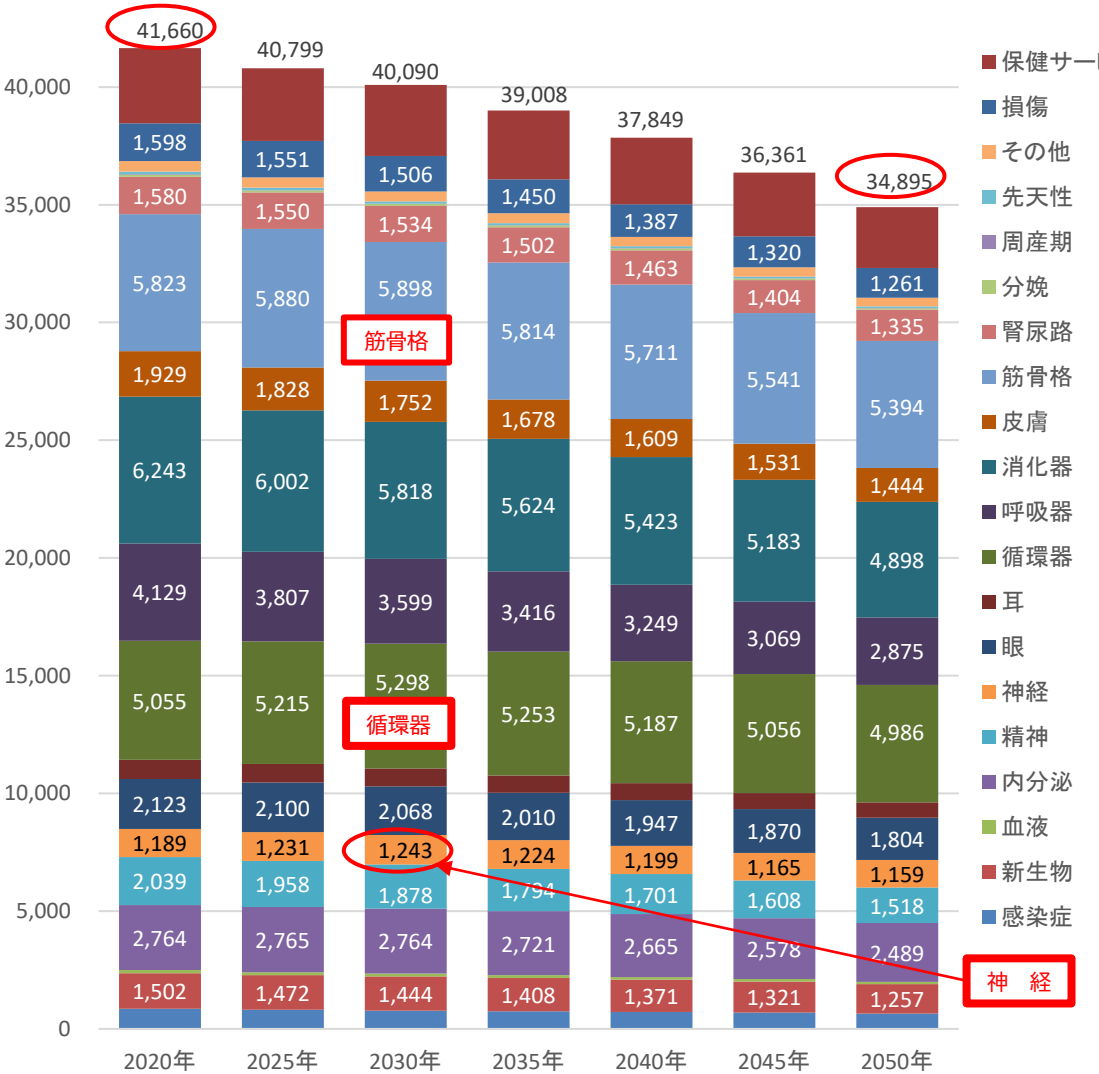
医療需要の推計 ～外来患者数（県全域）～

・本県の外来患者数（需要）は、すでに減少していると推測
・ただし、高齢化に 伴い増加する疾患（循環器系（心疾患、脳梗塞等）、神経系（末梢神経障害等）、筋骨格系（関節症、脊椎障害等）など）では、2030年（令和12年）頃までは外来患者数が増加し、2040年（令和22年）頃までは2020年（令和2年）を上回る状況が続く見込み。

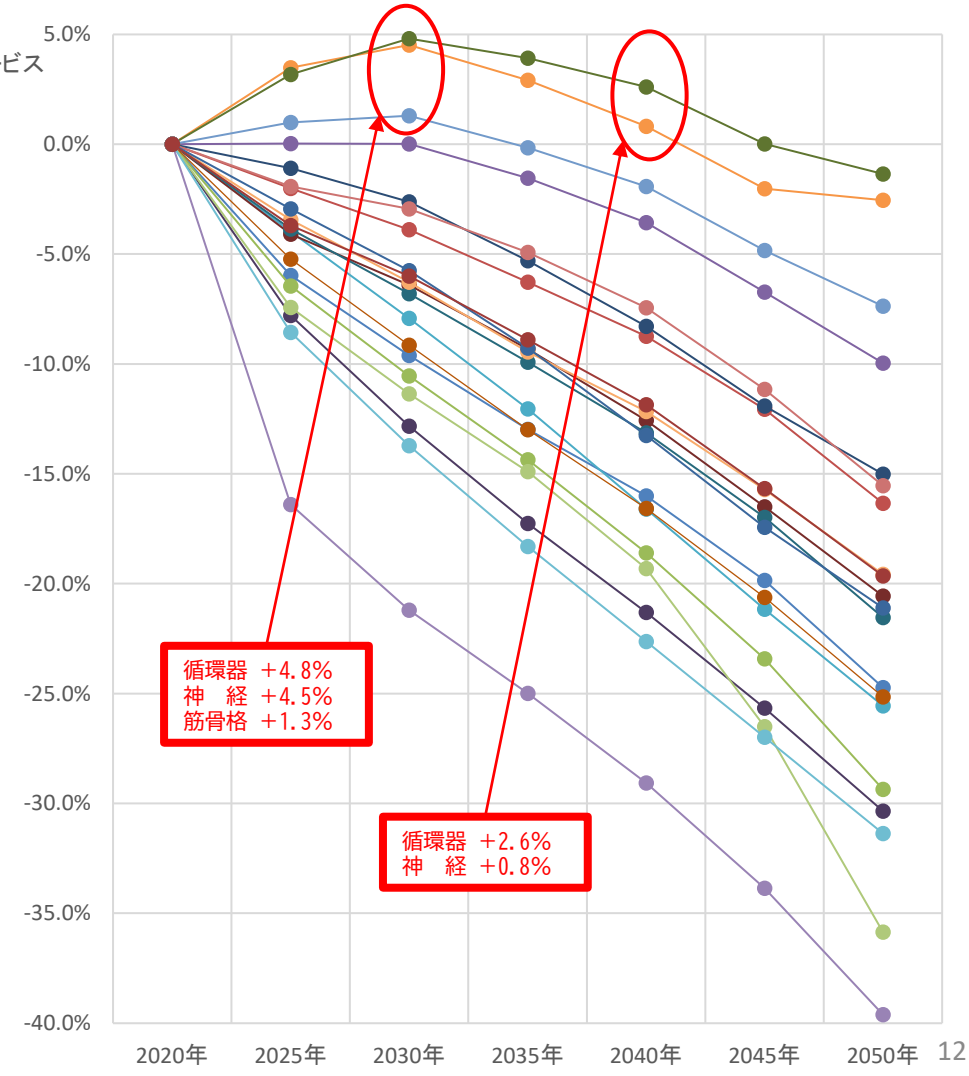
県全域

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

疾患別の外来患者数推計（人／日）



2020年対比の疾患別の外来患者数増減率



医療需要の推計 ～入院患者数（県全域）～

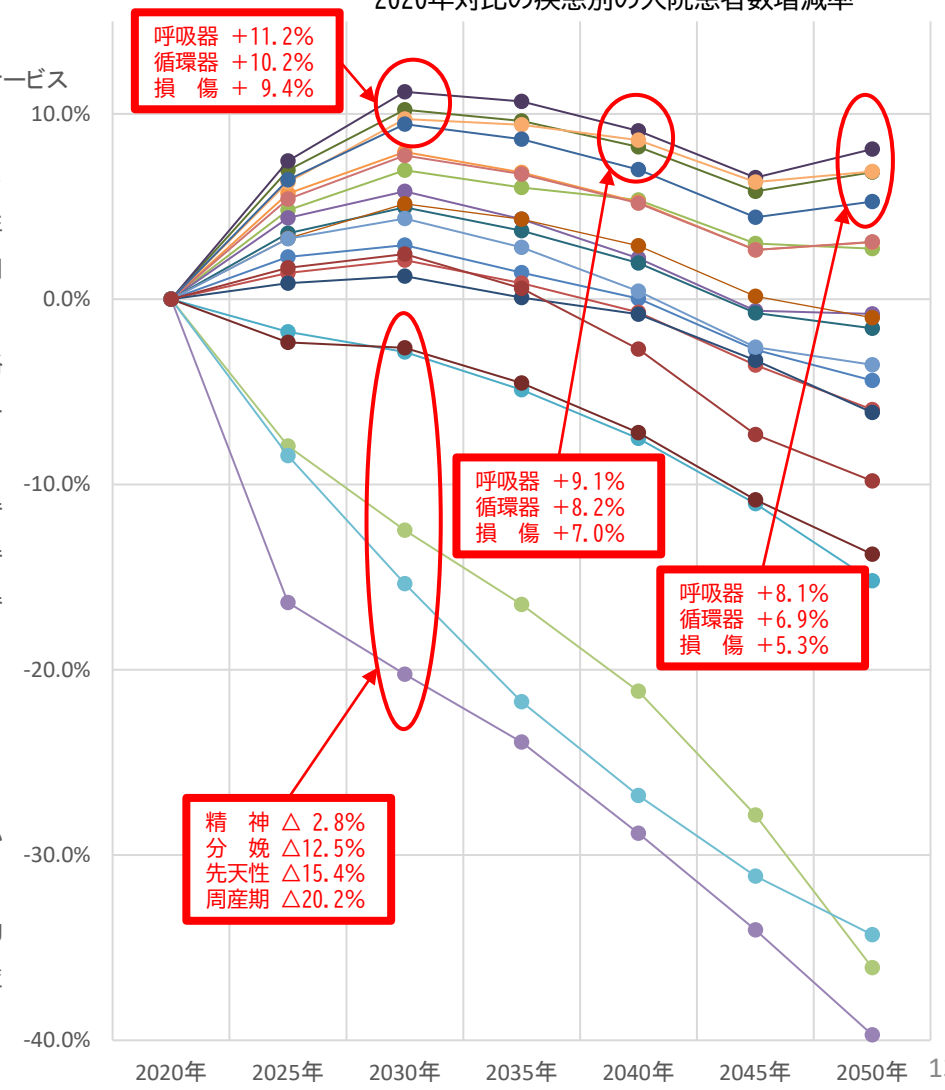
・本県の入院患者数（需要）は、2030年（令和12年）頃まで増加し、高齢化に伴い増加する疾患（呼吸器系、循環器系（心疾患、脳梗塞等）、損傷（骨折等）など）では、2020年対比5～10%程度の増加が2050年（令和32年）まで続く見込み。
・2030年以降、入院患者数は減少するものの、2050年までは2020年（令和2年）と同程度の入院患者数が続く見込み。

県全域

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

疾患別の入院患者数推計（人／日）

2020年対比の疾患別の入院患者数増減率



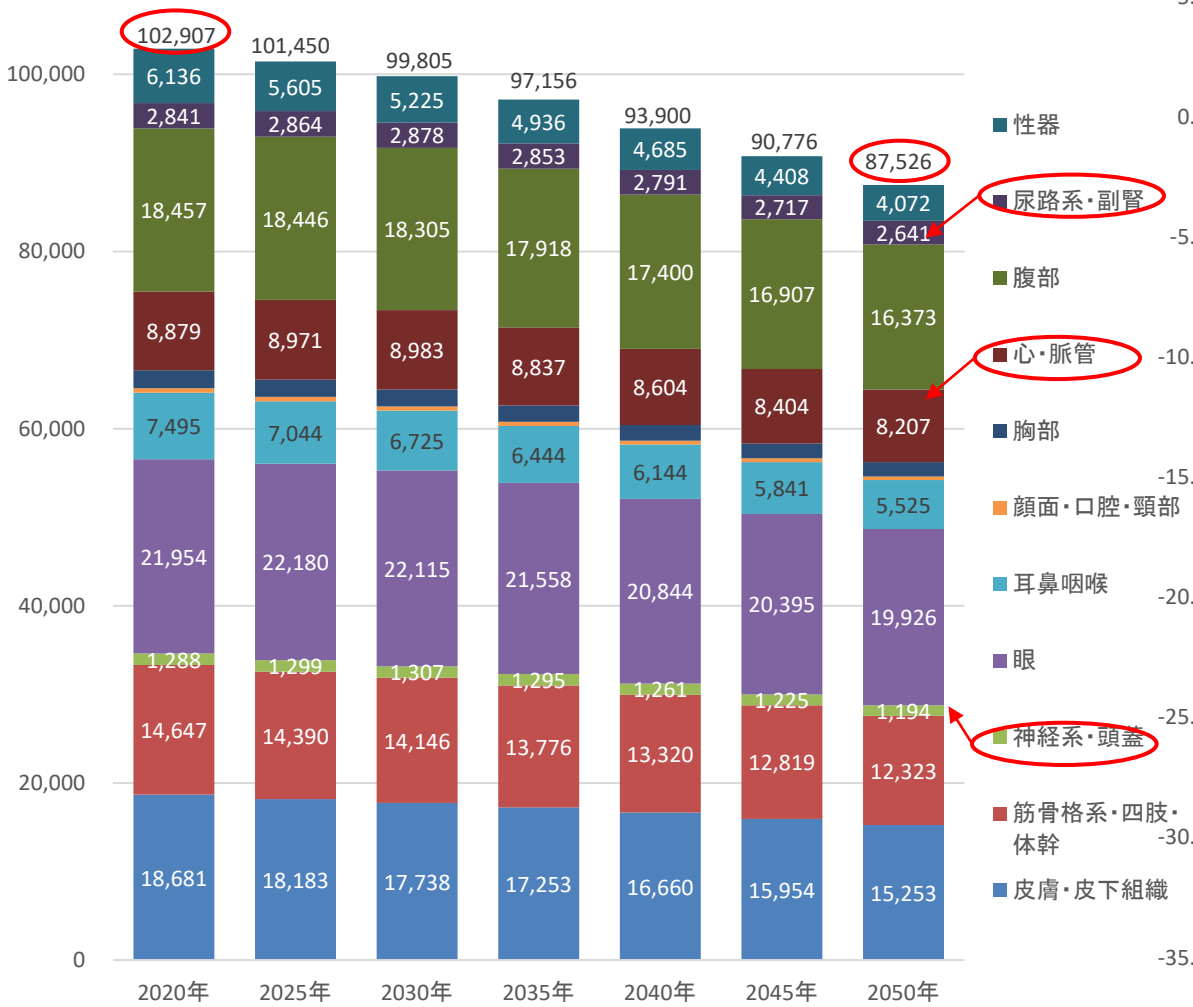
医療需要の推計 ～手術件数（県全域）～

・本県の手術件数（需要）は、すでに減少傾向にあると推測
・部位別では、神経系・頭蓋、心・脈管、尿路系・副腎については2030年（令和12年）頃までは微増し、それ以降は全ての部位で減少

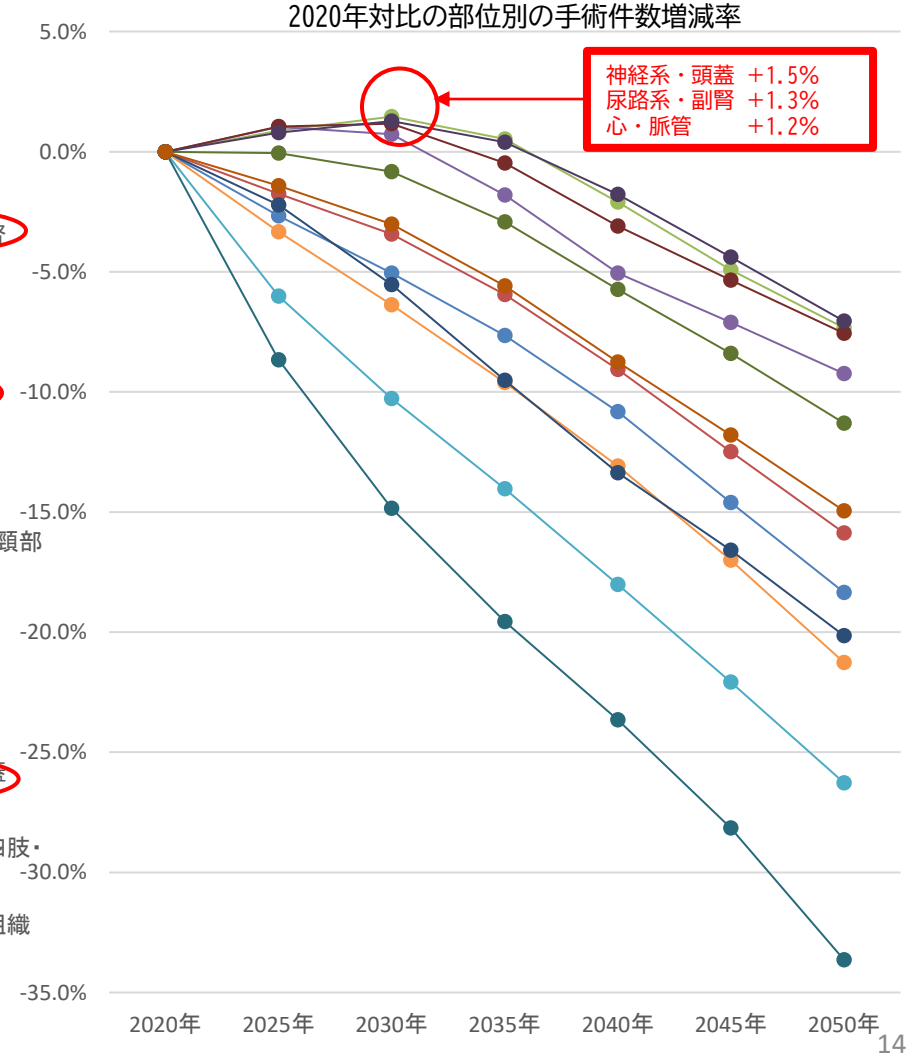
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、性年齢別の発生率について「令和元年10月1日推計人口」（総務省）、「第6回NDBオープンデータ（2019年4月～2020年3月）」（厚労省）をもとに推計

県全域

部位別の手術件数推計（件／年間）



2020年対比の部位別の手術件数増減率



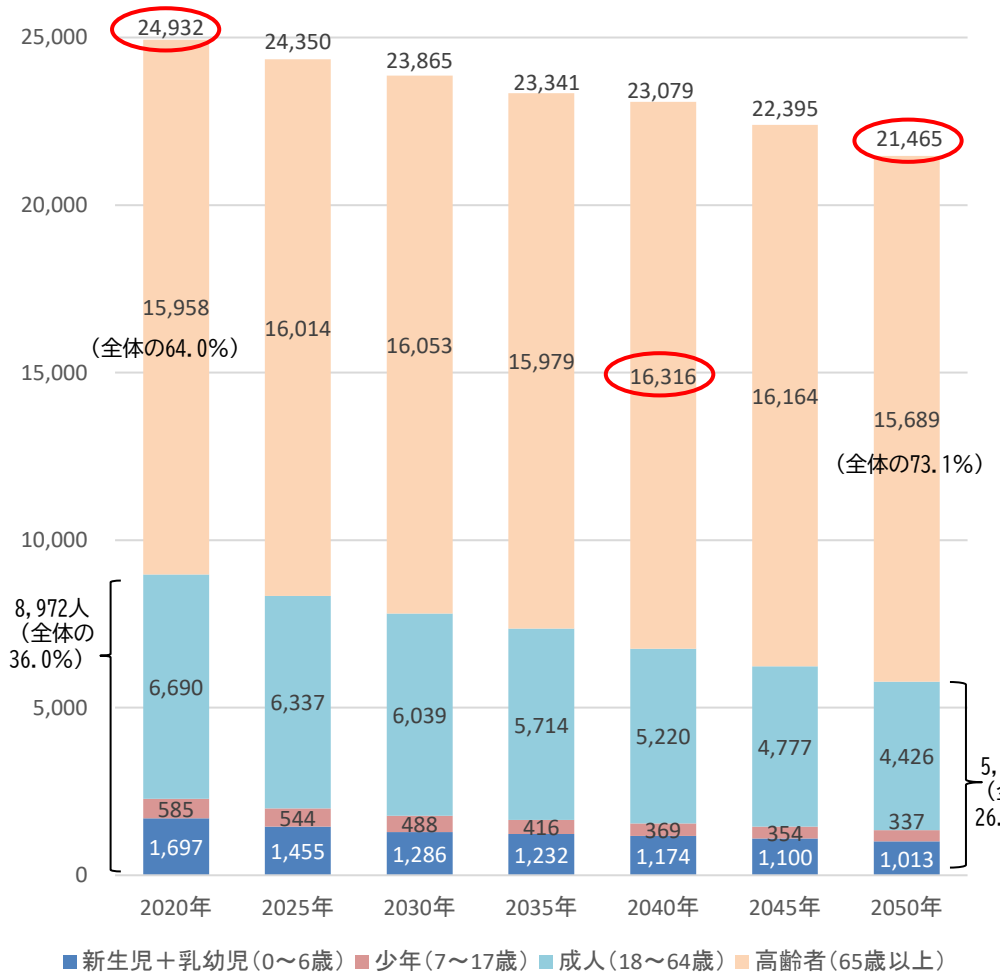
医療需要の推計 ～救急搬送件数（県全域）～

・本県の救急搬送件数（需要）は2020年（令和2年）以降すでに減少傾向にあると推測
・高齢者の搬送件数は団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年（令和22年）頃に最多となる見込み
・重症度別では、中等症および重症に比べ、65歳未満に多い軽傷の搬送が大きく減少

県全域

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、発生率について「救急救助の現況（2020年版、2019（令和元）年調査）」（消防庁）、「令和元年10月1日推計人口」（総務省）をもとに推計

急病の年齢区分別搬送の人数推計（人／年間）



急病の傷病程度別の人数推計（人／年間）

医療需要の推計　～往診、訪問診療（県全域）～

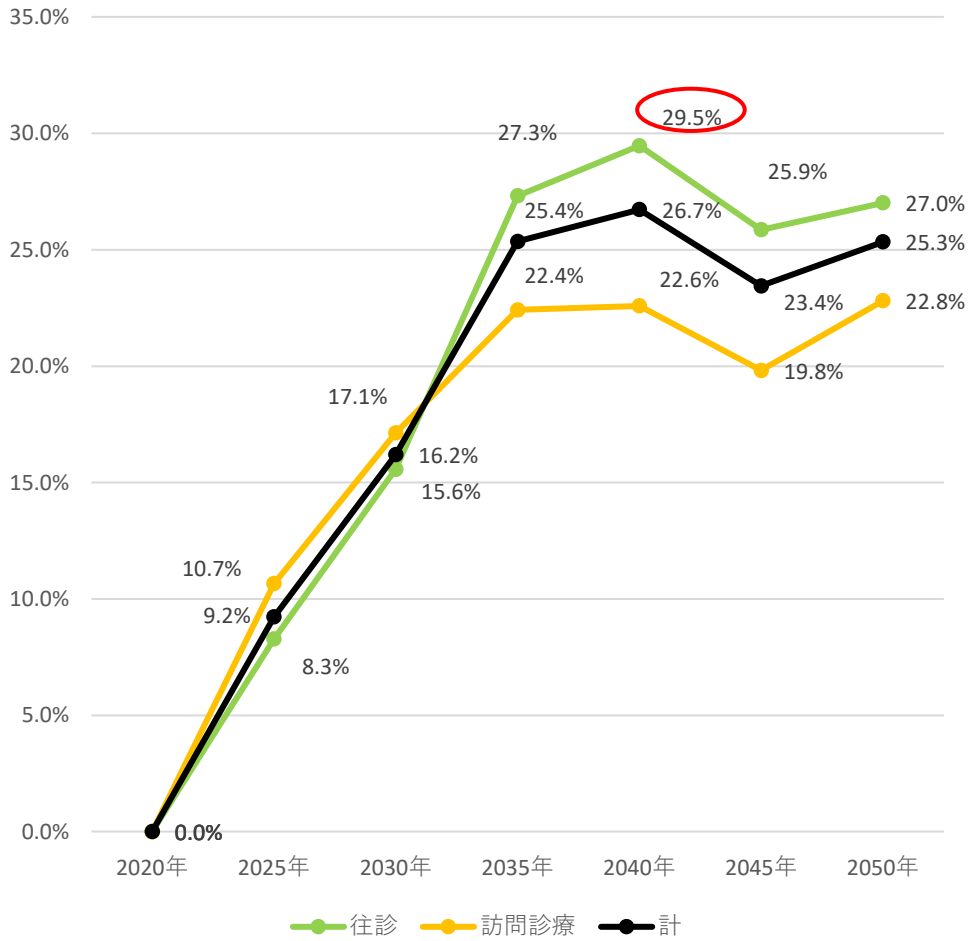
・本県の往診、訪問診療（一日あたり）を必要とする患者数は2040年（令和22年）頃にかけて増加し、それ以降も同程度の患者数がある見込み
・85歳以上人口の増加に伴い、急な体調不良等に対応する往診を必要とする患者が特に増加する見込み

県全域

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

往診、訪問診療が必要な患者数推計（人／日）

2020年対比の往診、訪問診療が必要な患者数推計（人／日）



介護需要の推計～要介護・要支援認定者数（県全域）～

・本県の要介護・要支援認定者数は2020年（令和2年）から2040年（令和22年）にかけて25%程度増加する見込み
・このうち、要介護者は2020年から2040年にかけて27%程度増加する見込み

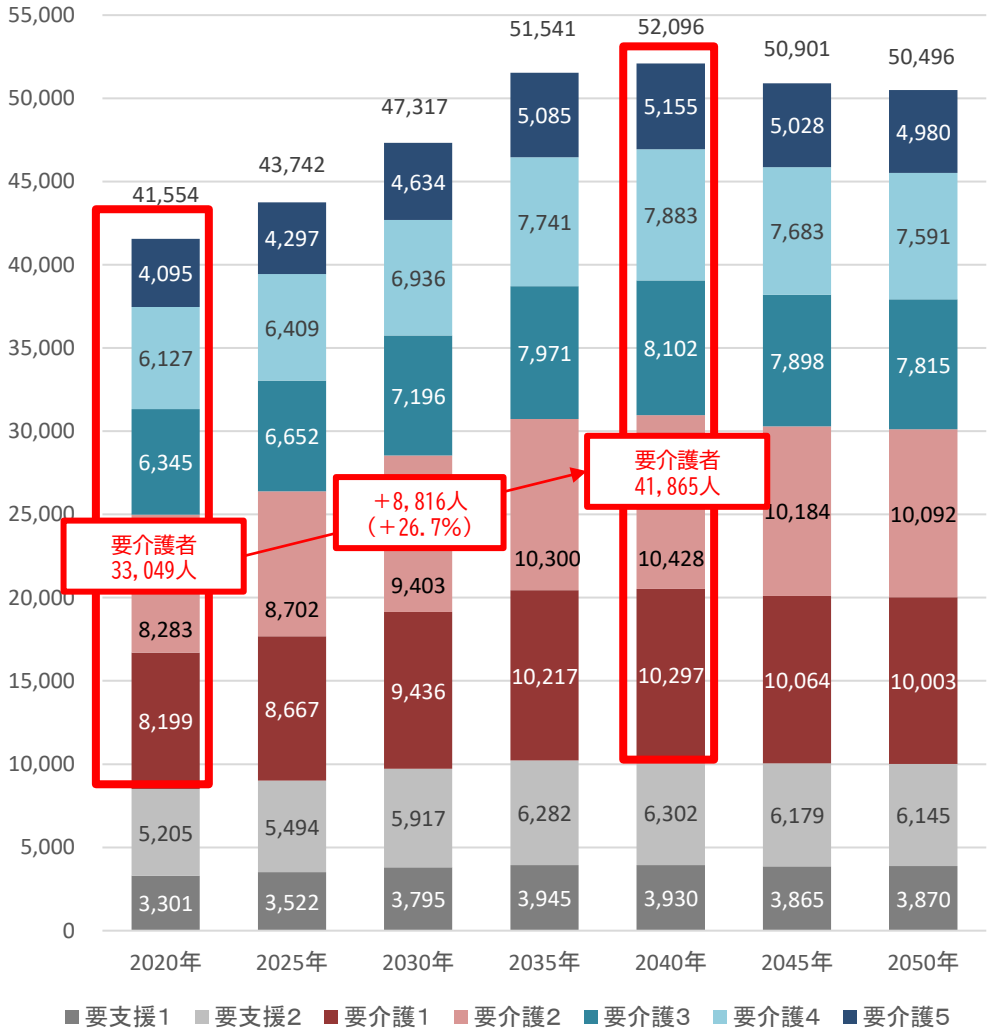
※令和6年3月に策定した「福井県高齢者福祉計画 福井県介護保険事業支援計画」では、市町の推計をもとに2040年までの見込を記載している。この資料では、左記の出典をもとに2050年までの推計を行ったため、前記の計画とは数字が一致しない点に注意

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、発生率について「令和元年度介護事業状況報告（年報）都道府県別要介護（要支援）認定者数」（厚生労働省）、「令和元年10月1日推計人口」（総務省）をもとに推計

県全域

年齢区分別の要介護・要支援認定者数の推計（人）

要介護度別の要介護・要支援認定者数の推計（人）



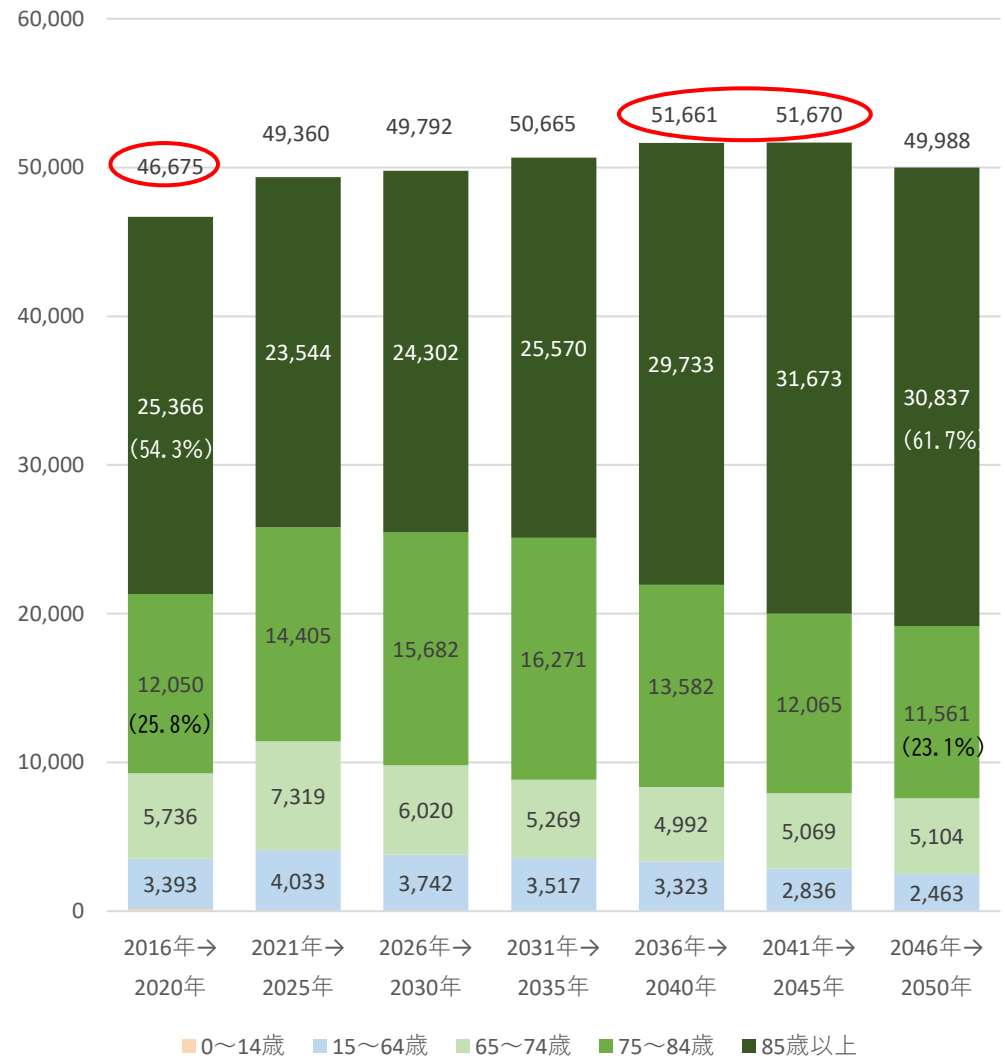
医療・介護需要推計 ～死亡者数（県全域）～

・本県の死亡者数は2040年（令和22年）頃に最多となり、今後、看取り需要が増えると推測される。
・後期高齢者（75歳以上）、とくに85歳以上の死亡者数は2045年（令和27年）頃まで増加する見込み

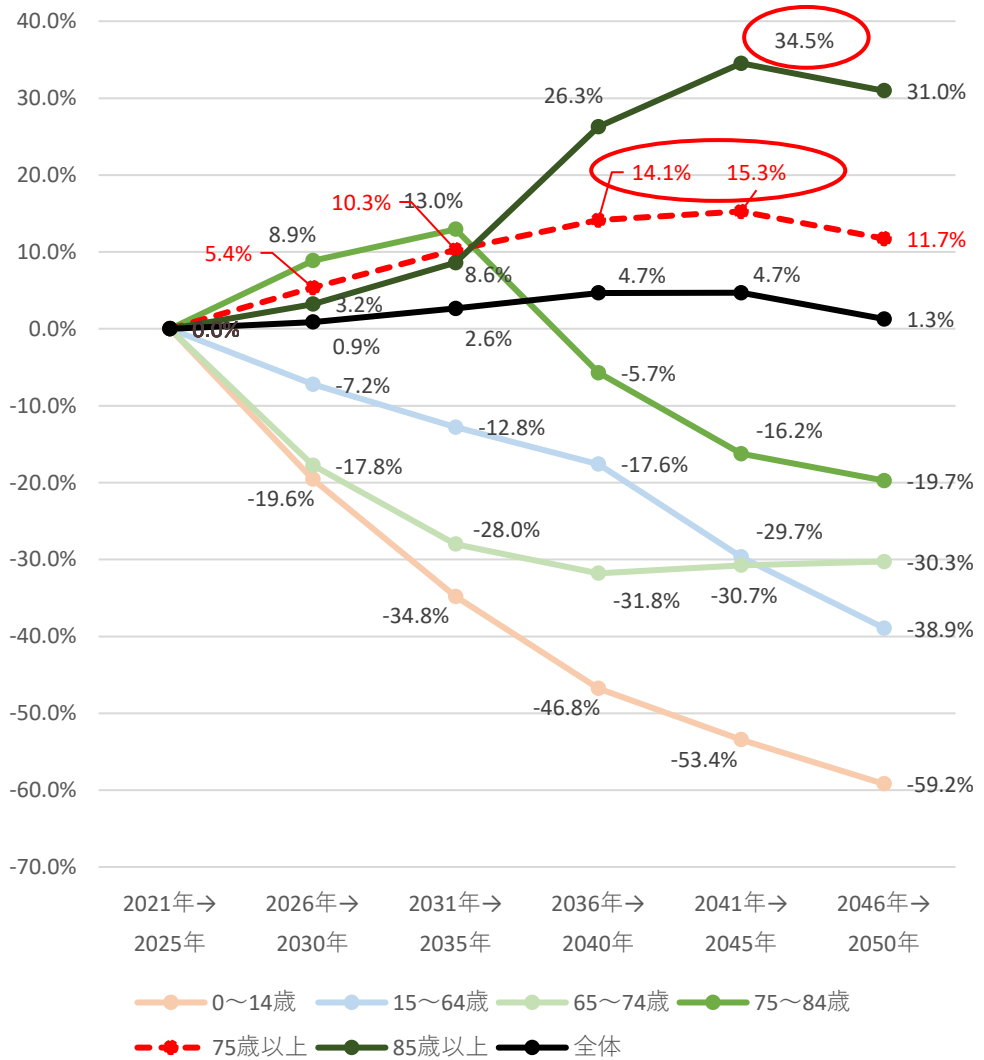
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）
「人口動態統計」（2016年（H28）～2020年（R2））（厚生労働省）は実数

県全域

年齢区分別の死亡者数（5年間）



2021→2025年の5年間と対比した年齢区分別の死亡者増減率



医療・介護需要の推計（県全域）　主なもの

2020年に比べて増加する指標はオレンジ色網掛け

	2020年（令和2年）	2030年（令和12年）	2040年（令和22年）	2050年（令和32年）
人口（全体）	766,863 人	702,719 人	639,182 人	572,885 人
人口（85歳以上）	45,161 人	50,801 人	64,605 人	61,113 人
人口（75歳以上）	122,409 人	144,962 人	143,087 人	146,065 人
人口（65歳以上）	234,933 人	236,329 人	240,200 人	230,967 人
高齢化率	30.6 %	33.6 %	37.6 %	40.3 %
外来患者数	41,660 人	40,090 人	37,849 人	34,895 人
2020年対比で 増加する主な疾患	—	循環器 +4.8% 神　経 +4.5% 筋骨格 +1.3%	循環器 +3.9% 神　経 +2.9%	なし
入院患者数	9,591 人	10,108 人	9,816 人	9,469 人
2020年対比で 増加する主な疾患	—	呼吸器+11.2% 循環器+10.2% 損　傷 +9.4%	呼吸器 +9.1% 循環器 +8.2% 損　傷 +7.0%	呼吸器 +8.1% 循環器 +6.9% 損　傷 +5.3%
手術件数	102,907 人	99,805 人	93,900 人	87,526 人
2020年対比で 増加する部位	—	神経系・頭蓋 +1.5% 心・脈管 +1.3% 尿路系・副腎 +1.2%	なし	なし
救急搬送件数	24,932 人	23,865 人	23,079 人	21,465 人
救急搬送件数（65歳以上）	15,958 人	16,053 人	16,316 人	15,689 人
救急搬送件数に占める高齢者（65歳以上）の割合	64.0 %	67.3 %	70.7 %	73.1 %
訪問診療が必要な患者数	201.7 人	236.3 人	247.3 人	247.7 人
往診が必要な患者数	303.8 人	351.1 人	393.4 人	385.9 人
要介護認定者数	33,049 人	37,605 人	41,865 人	40,481 人
死亡者数　（各年までの5か年）	46,675 人	49,792 人	51,661 人	49,988 人

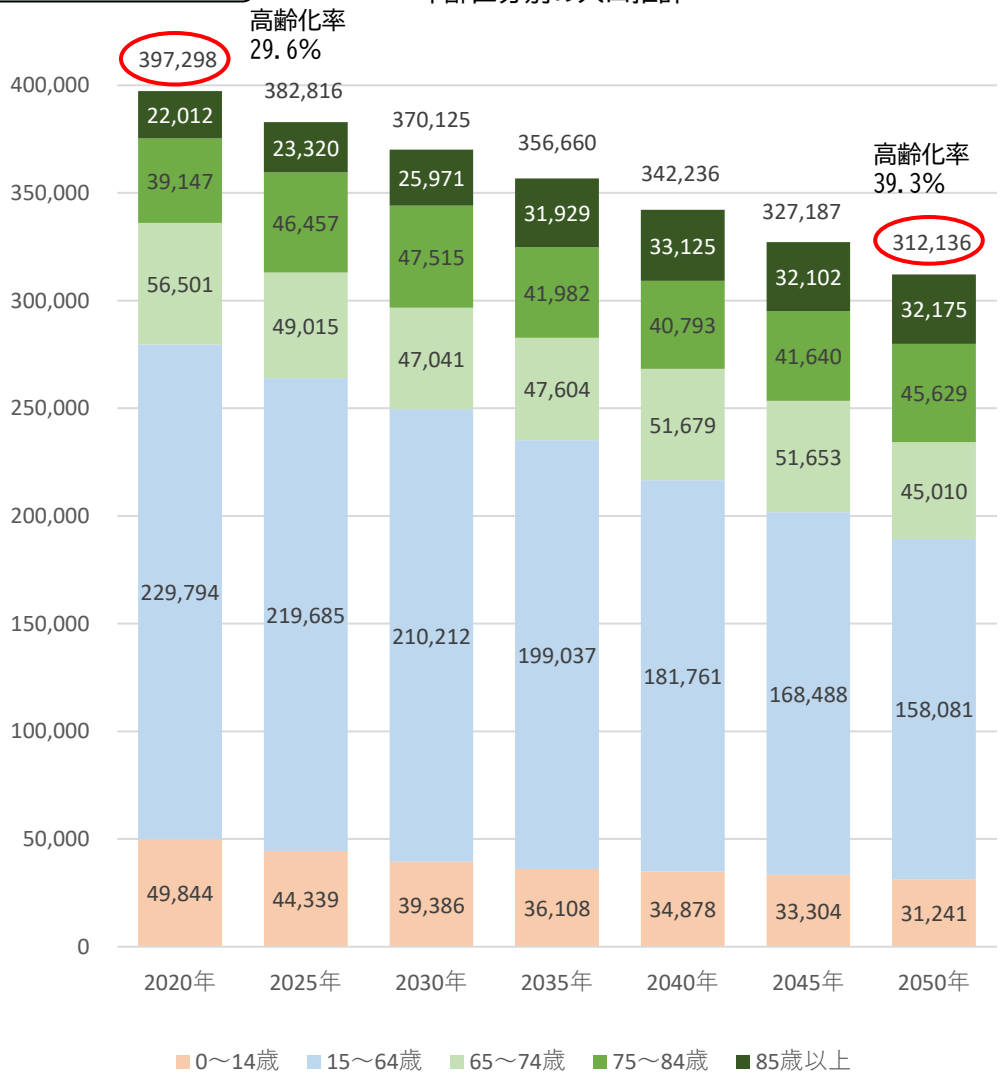
将来推計人口（福井・坂井構想区域）

・人口は2020年（令和2年）から2050年（令和32年）にかけて減少（397,298人→312,136人、△85,162人、△21.4%）
・後期高齢者（75歳以上）は2050年まで増加
・85歳以上人口は2040年（令和22年）には2020年対比+50.5%増加
・高齢化率（65歳以上人口割合）は2020年29.6%から2050年39.3%へ上昇

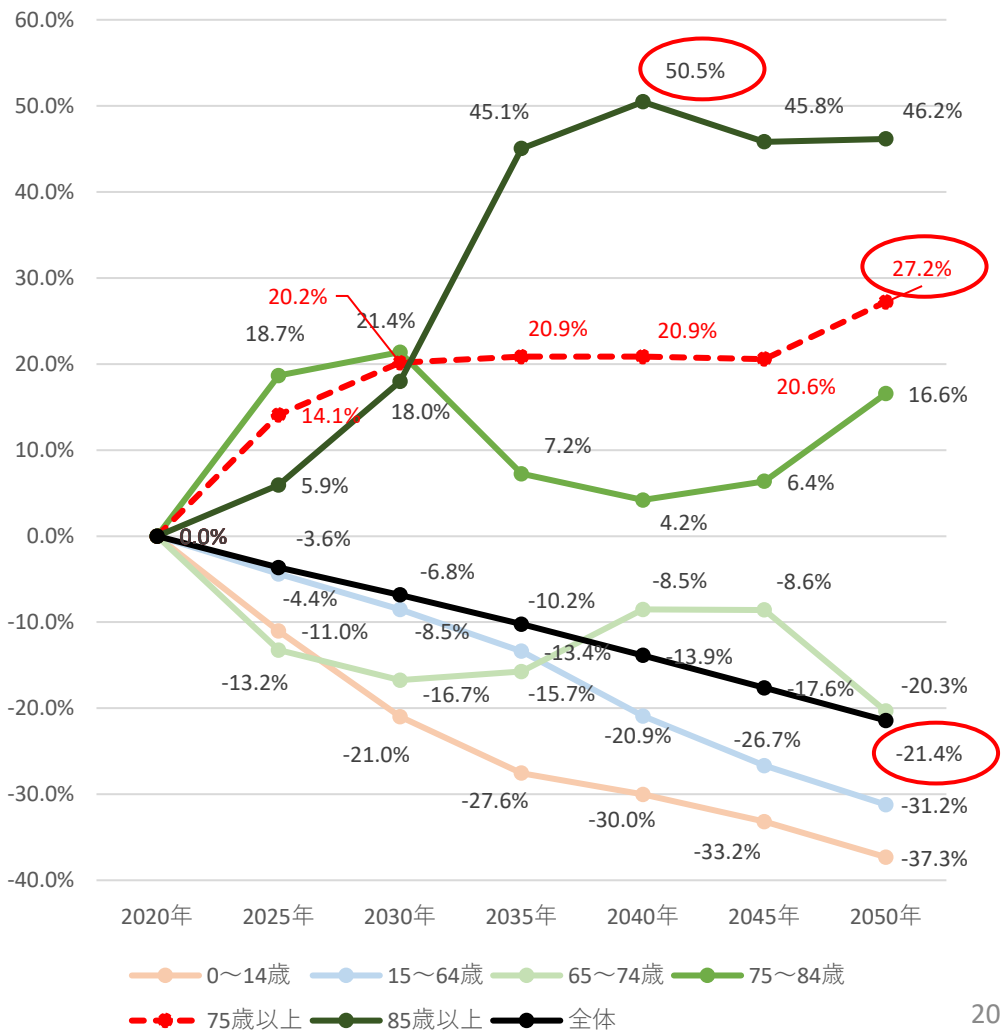
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）

福井・坂井

年齢区分別の人口推計



2020年対比の年齢区分別の人口増減率



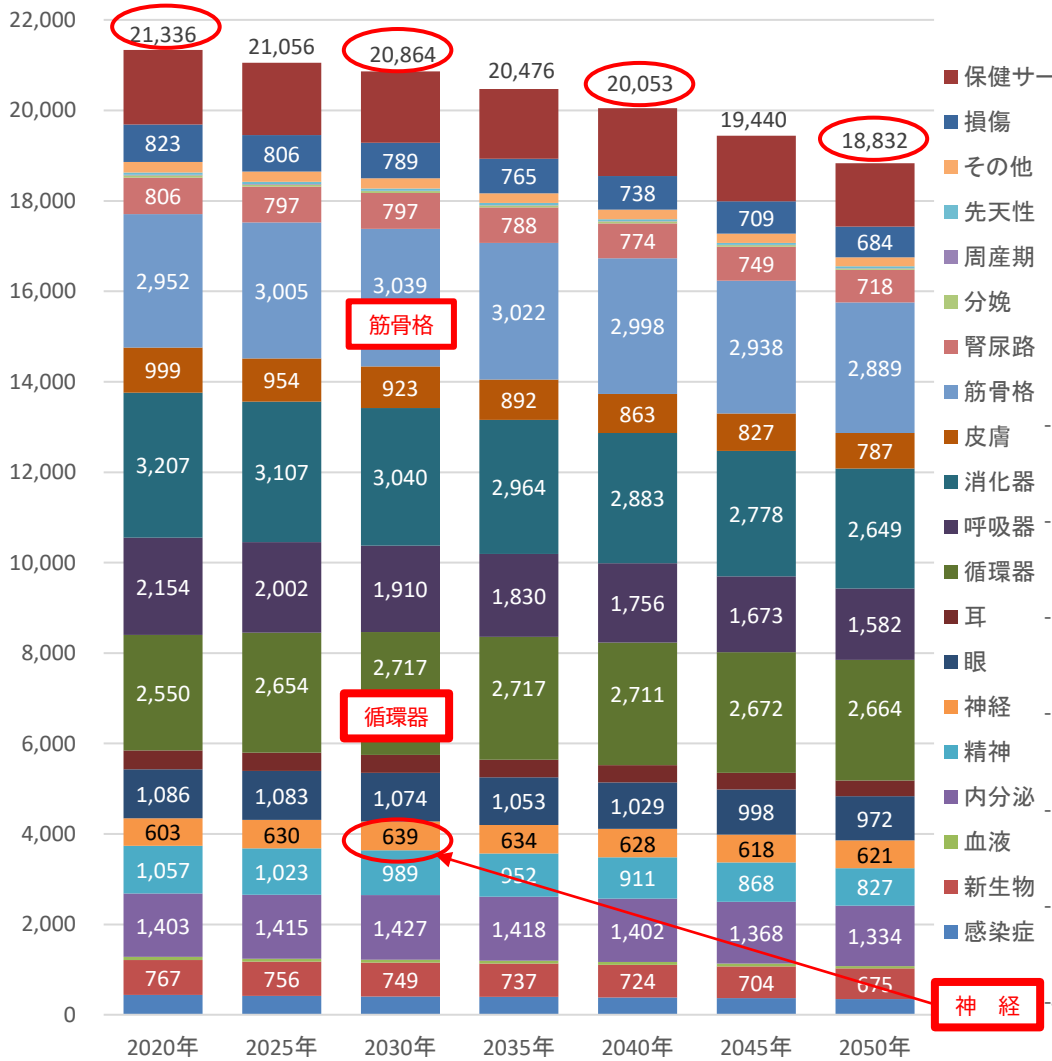
医療需要の推計 ～外来患者数（福井・坂井構想区域）～

・外来患者数（需要）は、すでに減少していると推測
・ただし、高齢化に 伴い増加する疾患（循環器系（心疾患、脳梗塞等）、神経系（末梢神経障害等）、筋骨格系（関節症、脊椎障害等）など）では、2030年（令和12年）から2040年（令和22年）頃までは外来患者数が増加し、その後も2020年（令和2年）を上回る状況が続く見込み。

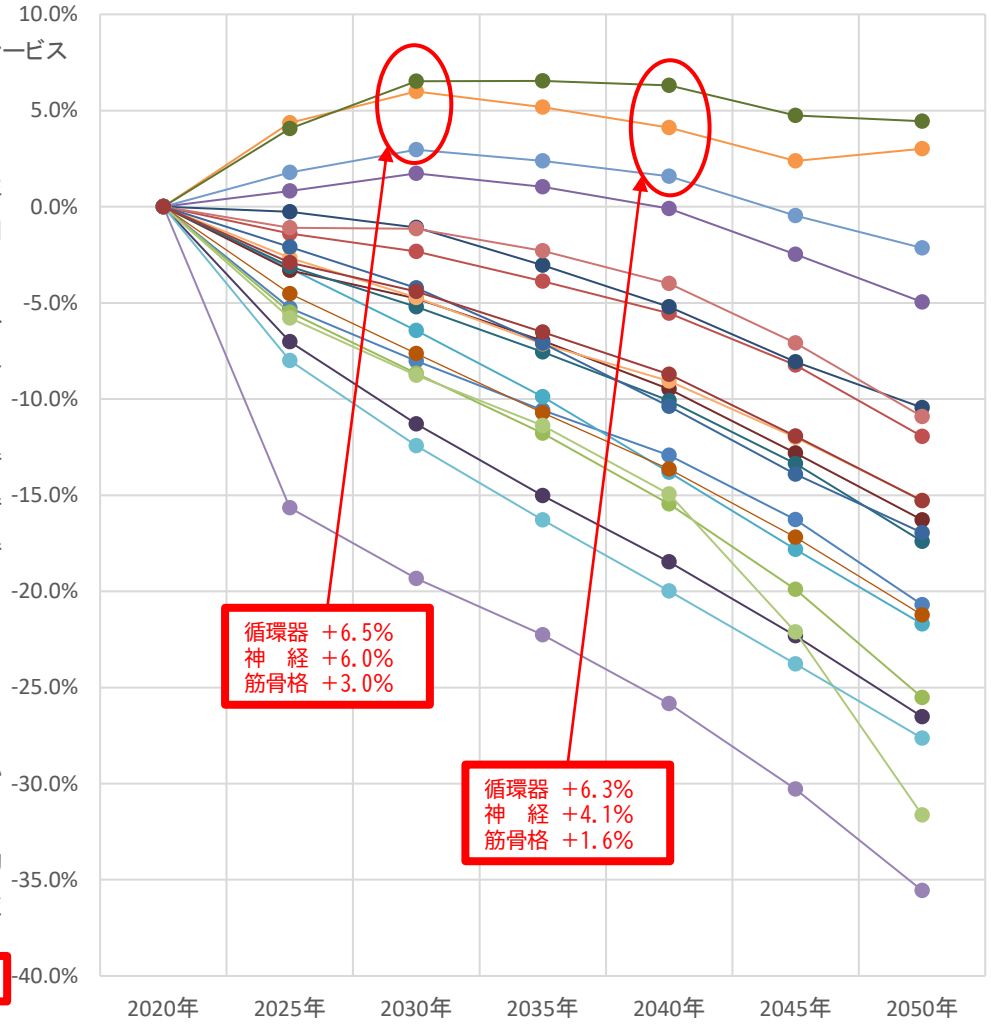
福井・坂井

疾患別の外来患者数推計（人／日）

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計



2020年対比の疾患別の外来患者数増減率



医療需要の推計 ～入院患者数（福井・坂井構想区域）～

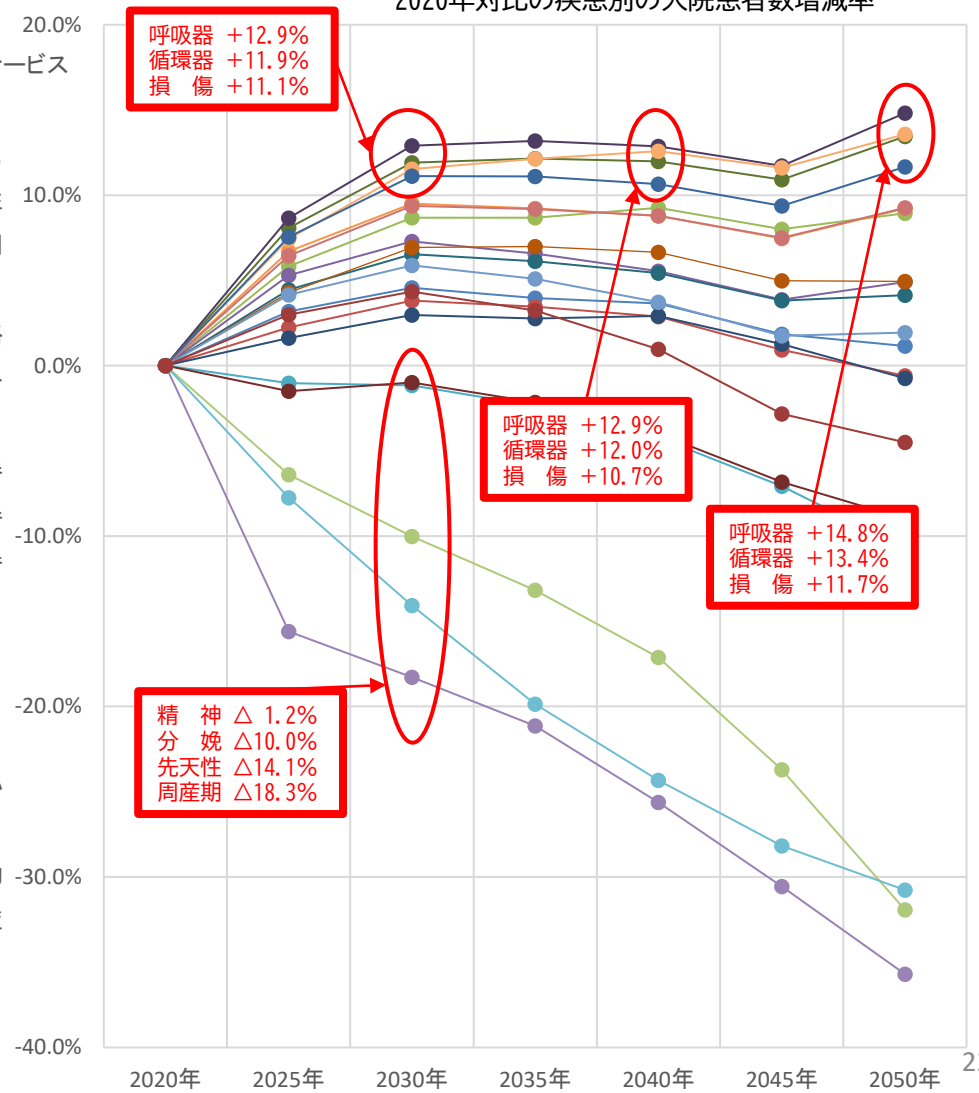
・入院患者数（需要）は、2030年（令和12年）頃まで増加し、高齢化に伴い増加する疾患（呼吸器系、循環器系（心疾患、脳梗塞等）、損傷（骨折等）など）では、2020年（令和2年）対比10%以上の増加が2050年（令和32年）まで続く見込み。
・2050年までは2030年と同程度の入院患者数が続く見込み。

福井・坂井

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

疾患別の入院患者数推計（人／日）

2020年対比の疾患別の入院患者数増減率



医療需要の推計 ～手術件数（福井・坂井構想区域）～

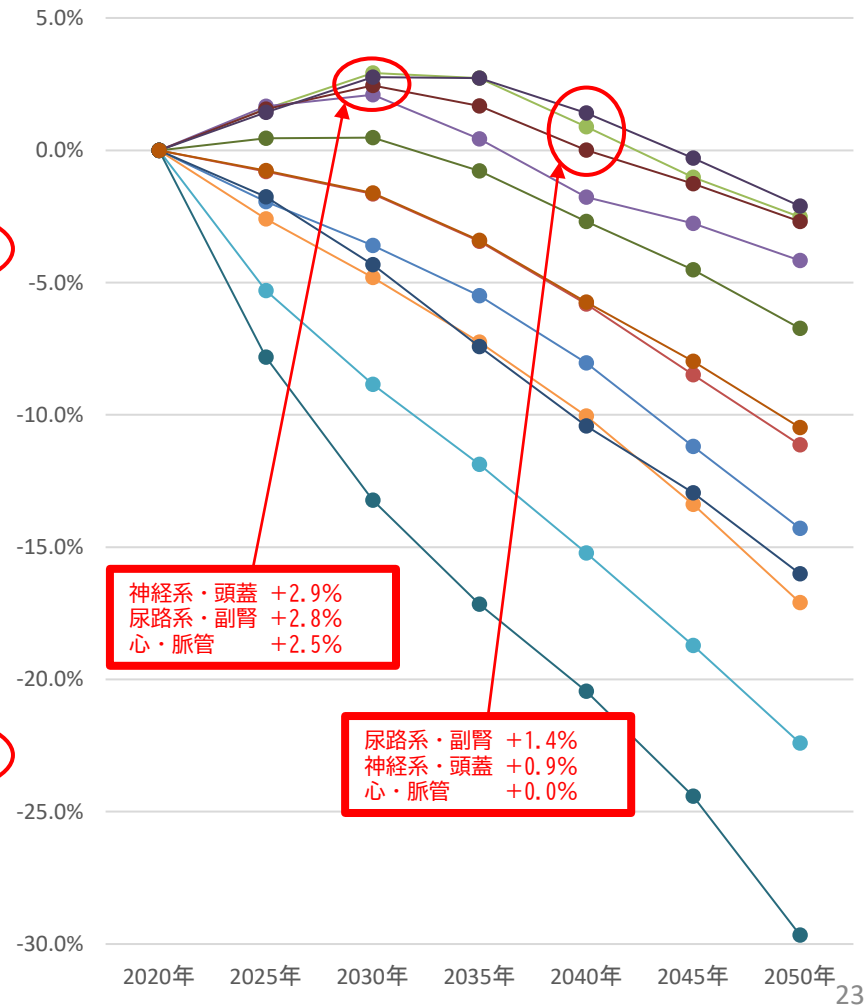
・手術件数（需要）は、すでに減少傾向にあると推測
・部位別では、神経系・頭蓋、心・脈管、尿路系・副腎については2030年（令和12年）頃まで微増し、2050年（令和32年）までは2020年（令和2年）と同程度の手術件 数がある見込み

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、性年齢別の発生率について「令和元年10月1日推計人口」（総務省）、「第6回NDBオープンデータ（2019年4月～2020年3月）」（厚労省）をもとに推計

福井・坂井

部位別の手術件数推計（件／年間）

2020年対比の部位別の手術件数増減率



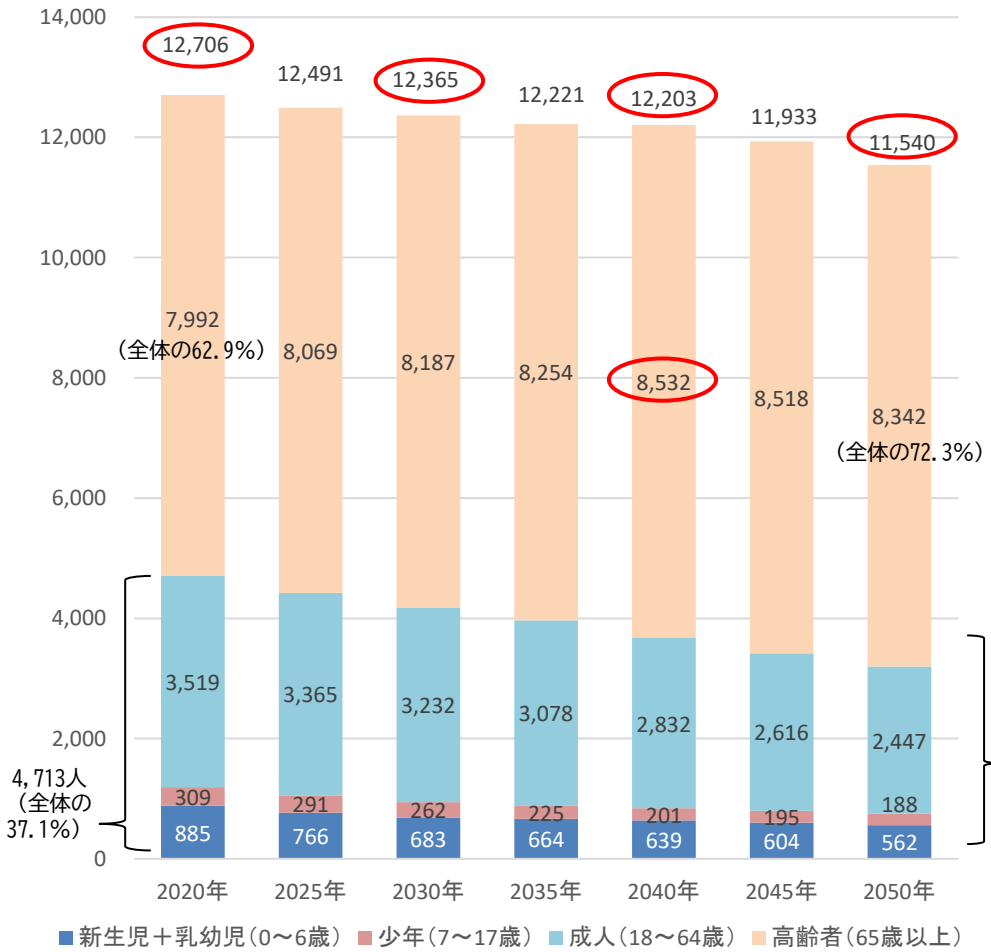
医療需要の推計 ～救急搬送件数（福井・坂井構想区域）～

・救急搬送件数（需要）は2020年（令和2年）以降すでに減少傾向にあると推測
・高齢者の搬送件数は年々増加し、2040年（令和22年）頃が最多となる見込み
・重症度別では、中等症および重症に比べ、65歳未満に多い軽傷の搬送が大きく減少

福井・坂井

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、発生率について「救急救助の現況（2020年版、2019（令和元）年調査）」（消防庁）、「令和元年10月1日推計人口」（総務省）をもとに推計

急病の年齢区分別搬送の人数推計（人／年間）



急病の傷病程度別の人数推計（人／年間）

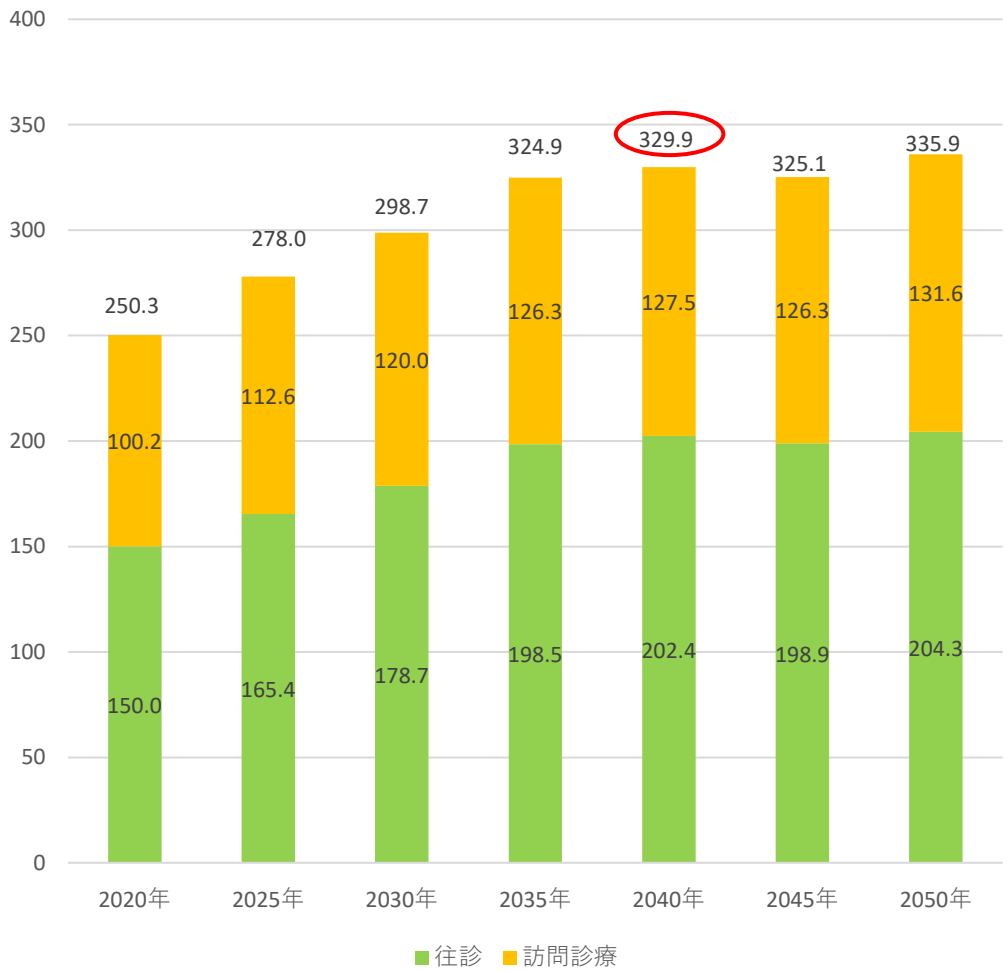
医療需要の推計　～往診、訪問診療（福井・坂井構想区域）～

・往診、訪問診療（一日あたり）を必要とする患者数は2040年（令和22年）頃にかけて増加し、それ以降も同程度の患者数がある見込み
・85歳以上人口の増加に伴い、急な体調不良等に対応する往診を必要とする患者が特に増加する見込み

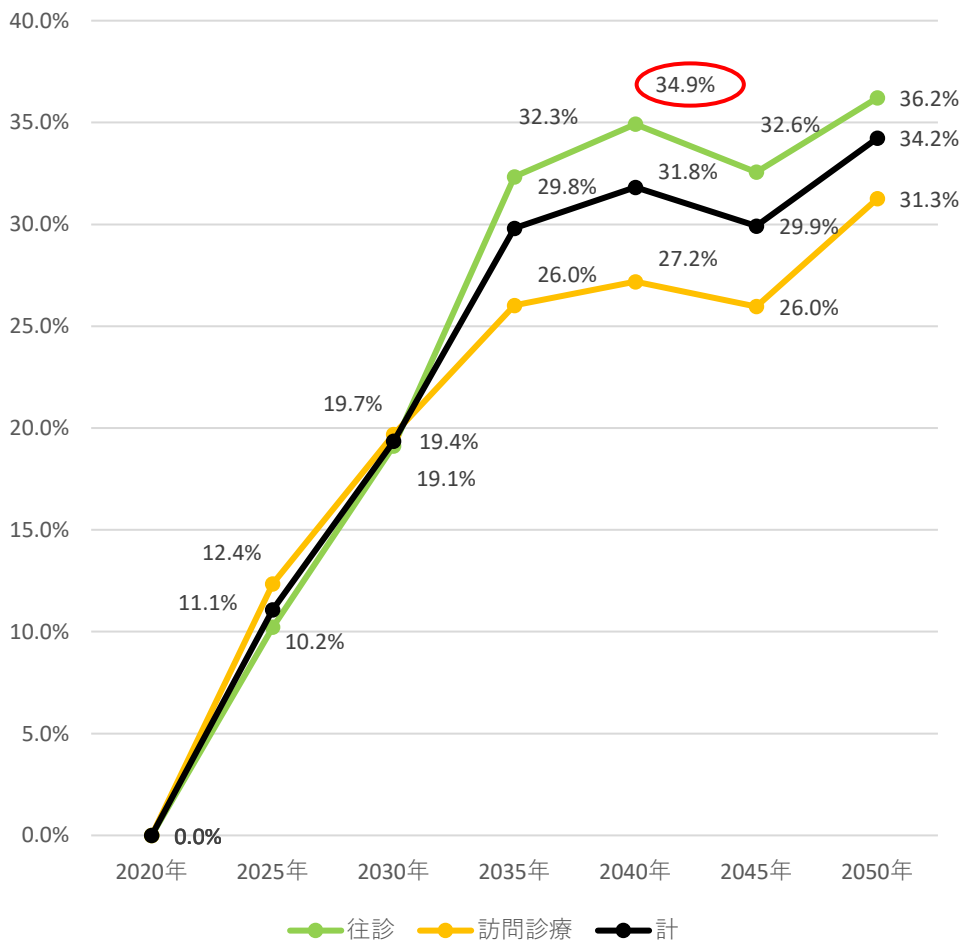
福井・坂井

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

往診、訪問診療が必要な患者数推計（人／日）



2020年対比の往診、訪問診療が必要な患者数推計（人／日）



介護需要の推計～要介護・要支援認定者数（福井・坂井構想区域）～

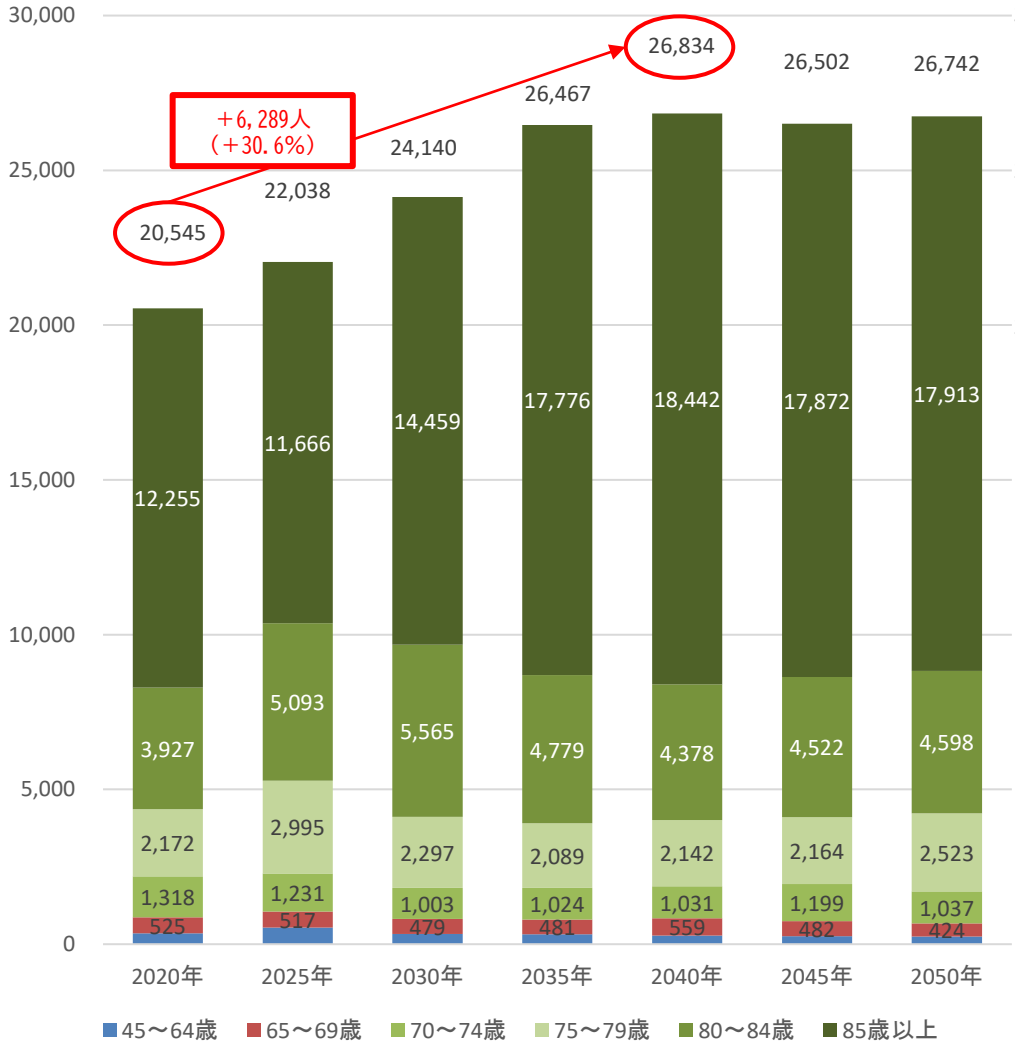
・要介護・要支援認定者数は2020年（令和2年）から2040年（令和22年）にかけて30%程度増加する見込み
・このうち、要介護者は2020年から2040年にかけて32%程度増加する見込み

※令和6年3月に策定した「福井県高齢者福祉計画 福井県介護保険事業支援計画」では、市町の推計をもとに2040年までの見込を記載している。この資料では、左記の出典をもとに2050年までの推計を行ったため、前記の計画とは数字が一致しない点に注意

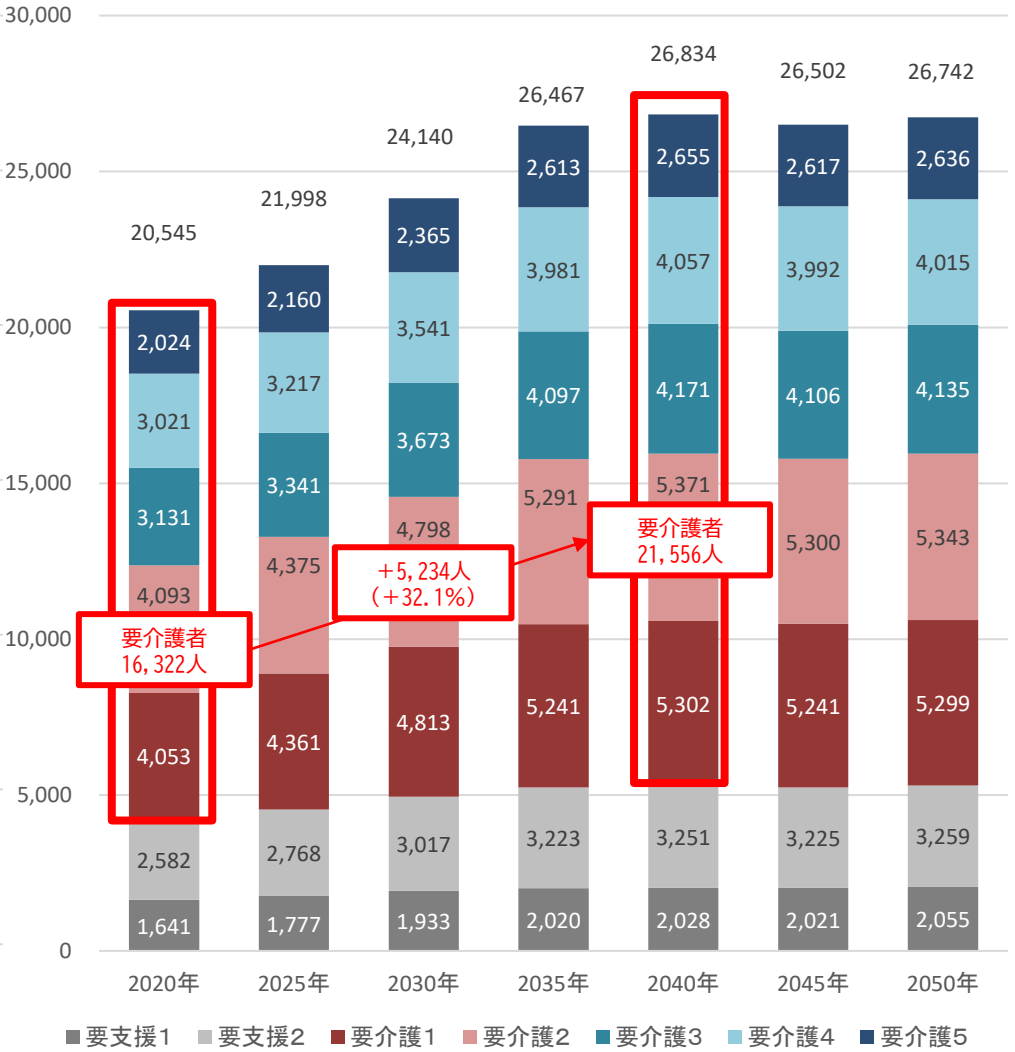
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、発生率について「令和元年度介護事業状況報告（年報）都道府県別要介護（要支援）認定者数」（厚生労働省）、「令和元年10月1日推計人口」（総務省）をもとに推計

福井・坂井

年齢区分別の要介護・要支援認定者数の推計（人）



要介護度別の要介護・要支援認定者数の推計（人）



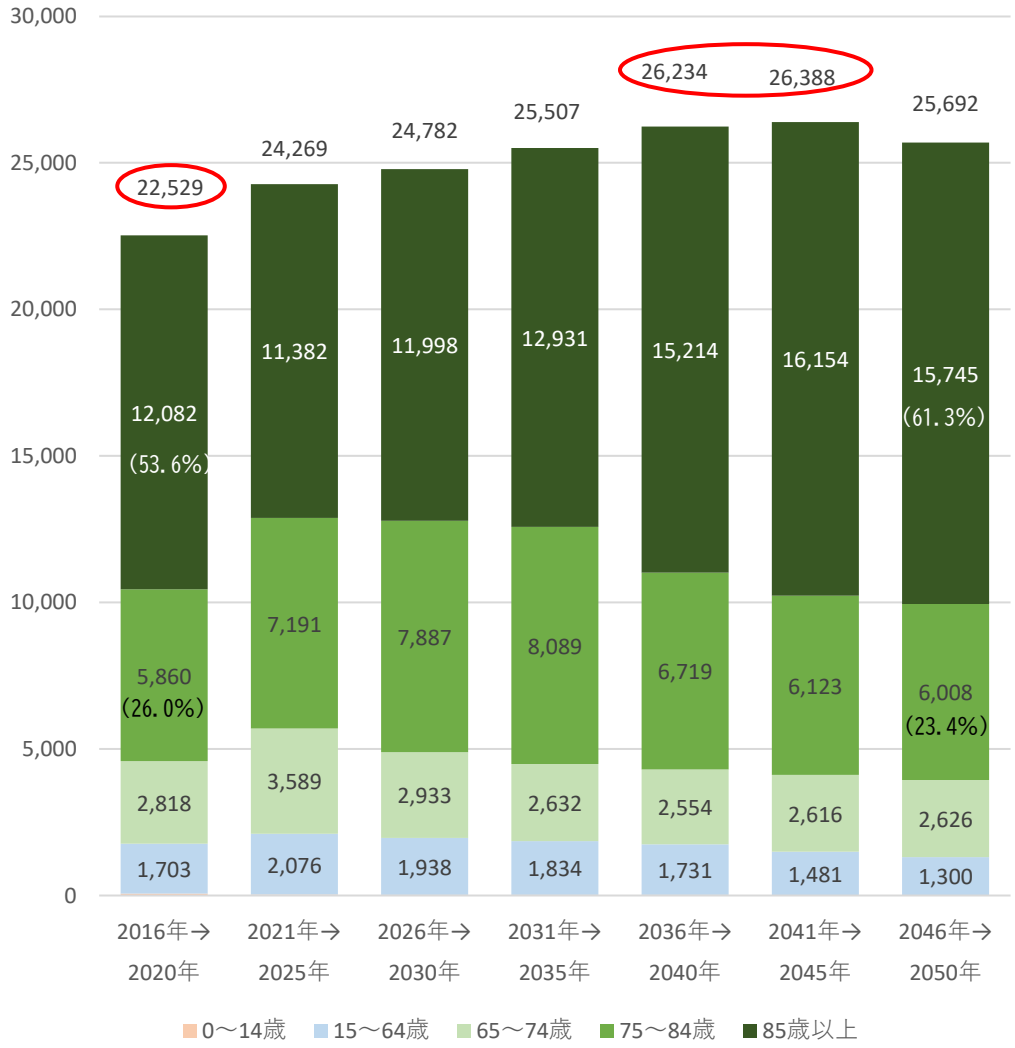
医療・介護需要推計 ～死亡者数（福井・坂井構想区域）～

・死亡者数は2040年（令和22年）頃に最多となり、今後、看取り需要が増えると推測される。
・後期高齢者（75歳以上）、とくに85歳以上の死亡者数は2045年（令和27年）頃まで増加する見込み

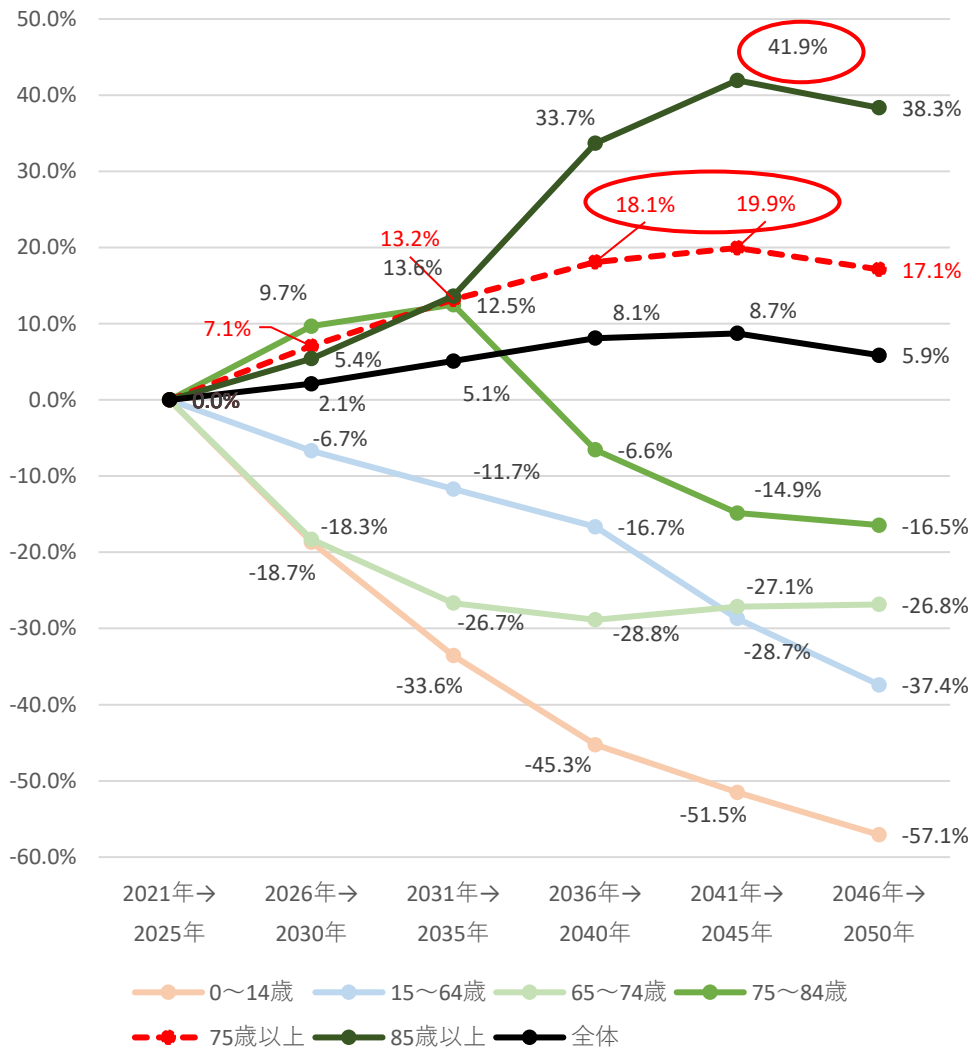
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）
「人口動態統計」（2016年（H28）～2020年（R2））（厚生労働省）は実数

福井・坂井

年齢区分別の死亡者数（5年間）



2021→2025年の5年間と対比した年齢区分別の死亡者増減率



医療・介護需要の推計（福井・坂井構想区域）　主なもの

2020年に比べて増加する指標はオレンジ色網掛け

	2020年（令和2年）	2030年（令和12年）	2040年（令和22年）	2050年（令和32年）
人口（全体）	397,298 人	370,125 人	342,236 人	312,136 人
人口（85歳以上）	22,012 人	25,971 人	33,125 人	32,175 人
人口（75歳以上）	61,159 人	73,486 人	73,918 人	77,804 人
人口（65歳以上）	117,660 人	120,527 人	125,597 人	122,814 人
高齢化率	29.6 %	32.7 %	36.7 %	39.3 %
外来患者数	21,336 人	20,864 人	20,053 人	18,832 人
2020年対比で 増加する主な疾患	—	循環器 ＋6.5% 神　経 ＋6.0% 筋骨格 ＋3.0%	循環器 ＋6.3% 神　経 ＋4.1% 筋骨格 ＋1.6%	循環器 ＋4.4% 神　経 ＋3.0%
入院患者数	4,851 人	5,192 人	5,136 人	5,068 人
2020年対比で 増加する主な疾患	—	呼吸器＋12.9% 循環器＋11.9% 損　傷＋11.1%	呼吸器＋12.9% 循環器＋12.0% 損　傷＋10.7%	呼吸器＋14.8% 循環器＋13.4% 損　傷＋11.7%
手術件数	52,617 人	51,766 人	49,597 人	47,105 人
2020年対比で 増加する部位	—	神経系・頭蓋＋2.9% 尿路系・副腎＋2.8% 心・脈管＋2.5%	尿路系・副腎＋1.4% 神経系・頭蓋＋0.9%	なし
救急搬送件数	12,706 人	12,365 人	12,203 人	11,540 人
救急搬送件数（65歳以上）	7,992 人	8,187 人	8,532 人	8,342 人
救急搬送件数に占める高齢者（65歳以上）の割合	62.9 %	66.2 %	69.9 %	72.3 %
訪問診療が必要な患者数	100.2 人	120.0 人	127.5 人	131.6 人
往診が必要な患者数	150.0 人	178.7 人	202.4 人	204.3 人
要介護認定者数	16,322 人	19,190 人	21,556 人	21,428 人
死亡者数　（各年までの5か年）	22,529 人	24,782 人	26,234 人	25,692 人

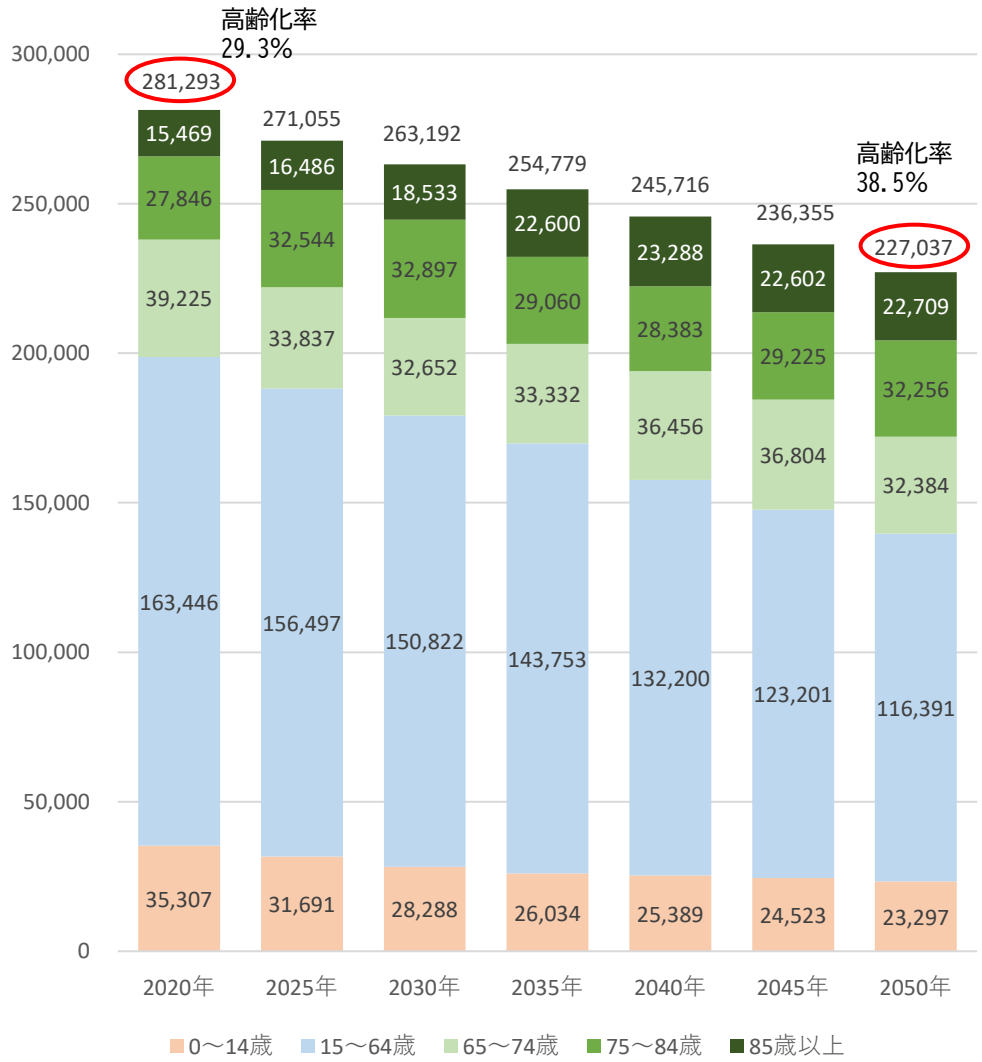
将来推計人口（福井地域）

・人口は2020年（令和2年）から2050年（令和32年）にかけて減少（281,293人→227,037人、△54,256人、△19.3%）
・後期高齢者（75歳以上）は2050年まで一貫して増加
・85歳以上人口は2040年（令和22年）には2020年対比+50.5%増加
・高齢化率（65歳以上人口割合）は2020年29.3%から2050年38.5%へ上昇

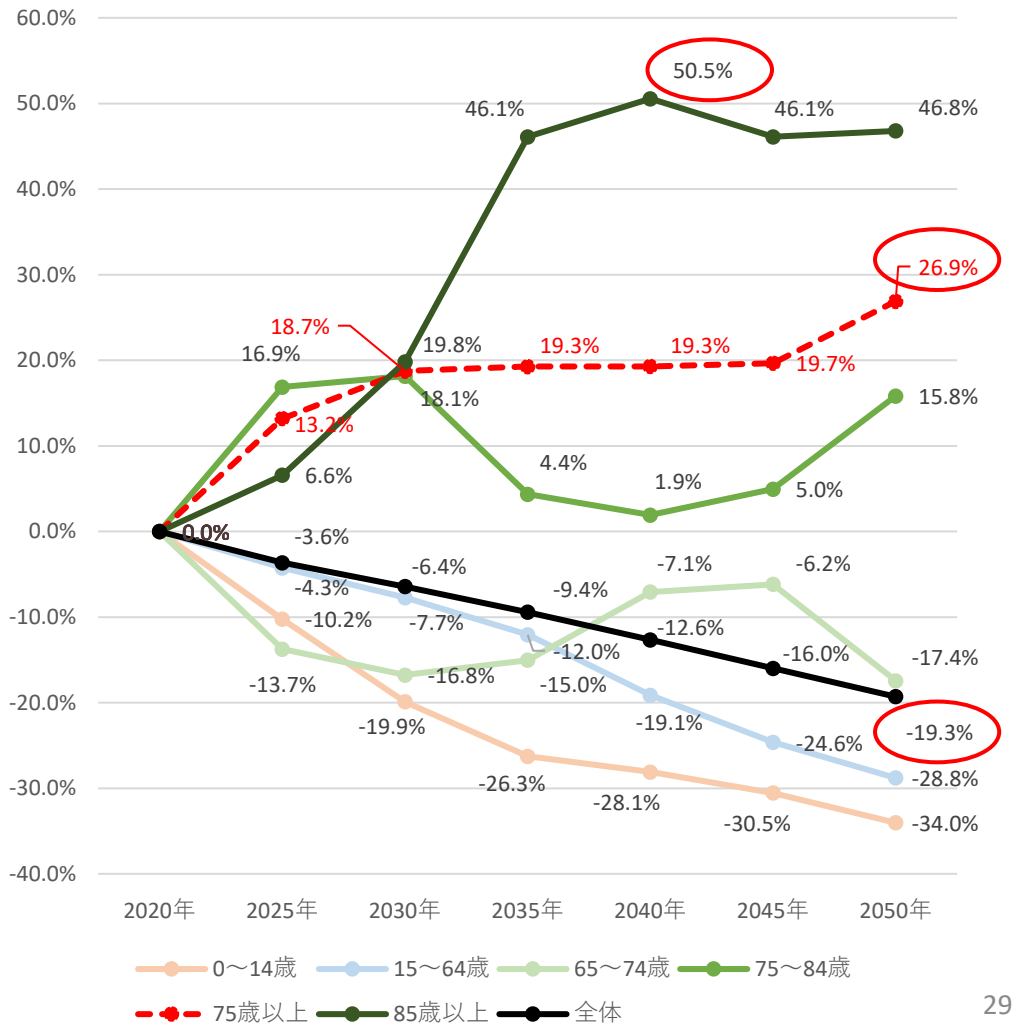
福井

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）

年齢区分別の人口推計



2020年対比の年齢区分別の人口増減率



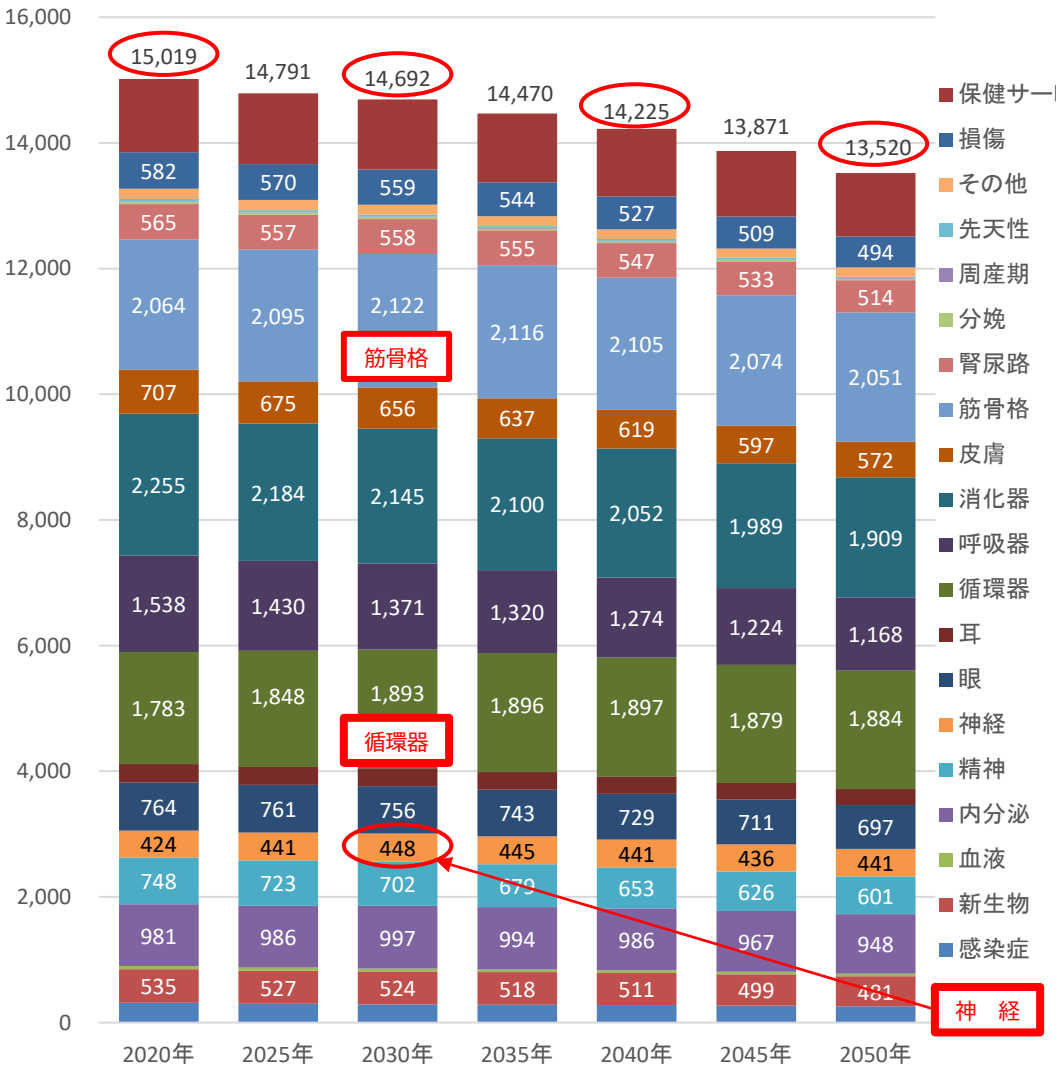
医療需要の推計 ～外来患者数（福井地域）～

・外来患者数（需要）は、すでに減少していると推測
・ただし、高齢化に 伴い増加する疾患（循環器系（心疾患、脳梗塞等）、神経系（末梢神経障害等）、筋骨格系（関節症、脊椎障害等）など）では、2030年（令和12年）から2040年（令和22年）頃までは外来患者数が増加し、その後も2020年（令和2年）を上回る状況が続く見込み。

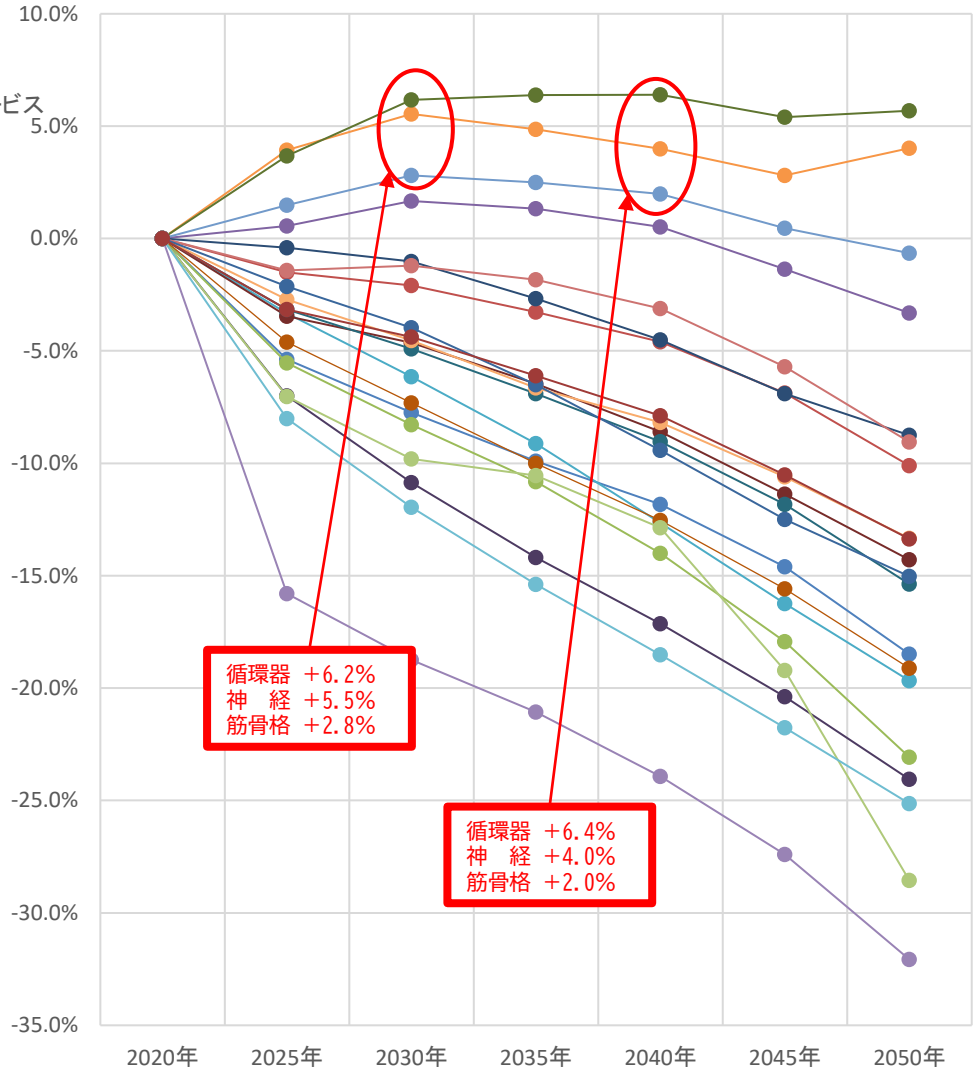
福井

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

疾患別の外来患者数推計（人／日）



2020年対比の疾患別の外来患者数増減率



医療需要の推計 ～入院患者数（福井地域）～

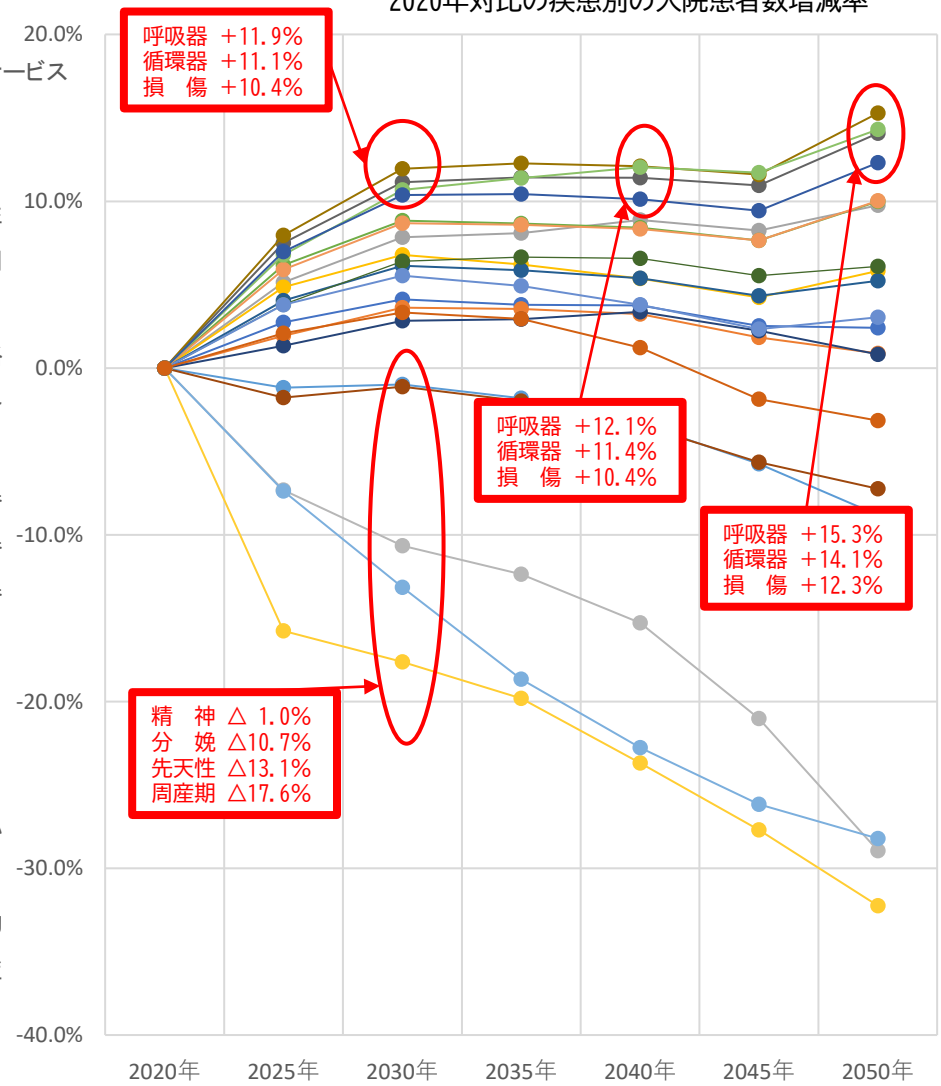
・入院患者数（需要）は、2030年（令和12年）頃まで増加し、高齢化に伴い増加する疾患（呼吸器系、循環器系（心疾患、脳梗塞等）、損傷（骨折等）など）では、2020年（令和2年）対比10%以上の増加が2050年（令和32年）まで続く見込み。
・2050年までは2030年と同程度の入院患者数が続く見込み。

福井

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

疾患別の入院患者数推計（人／日）

2020年対比の疾患別の入院患者数増減率

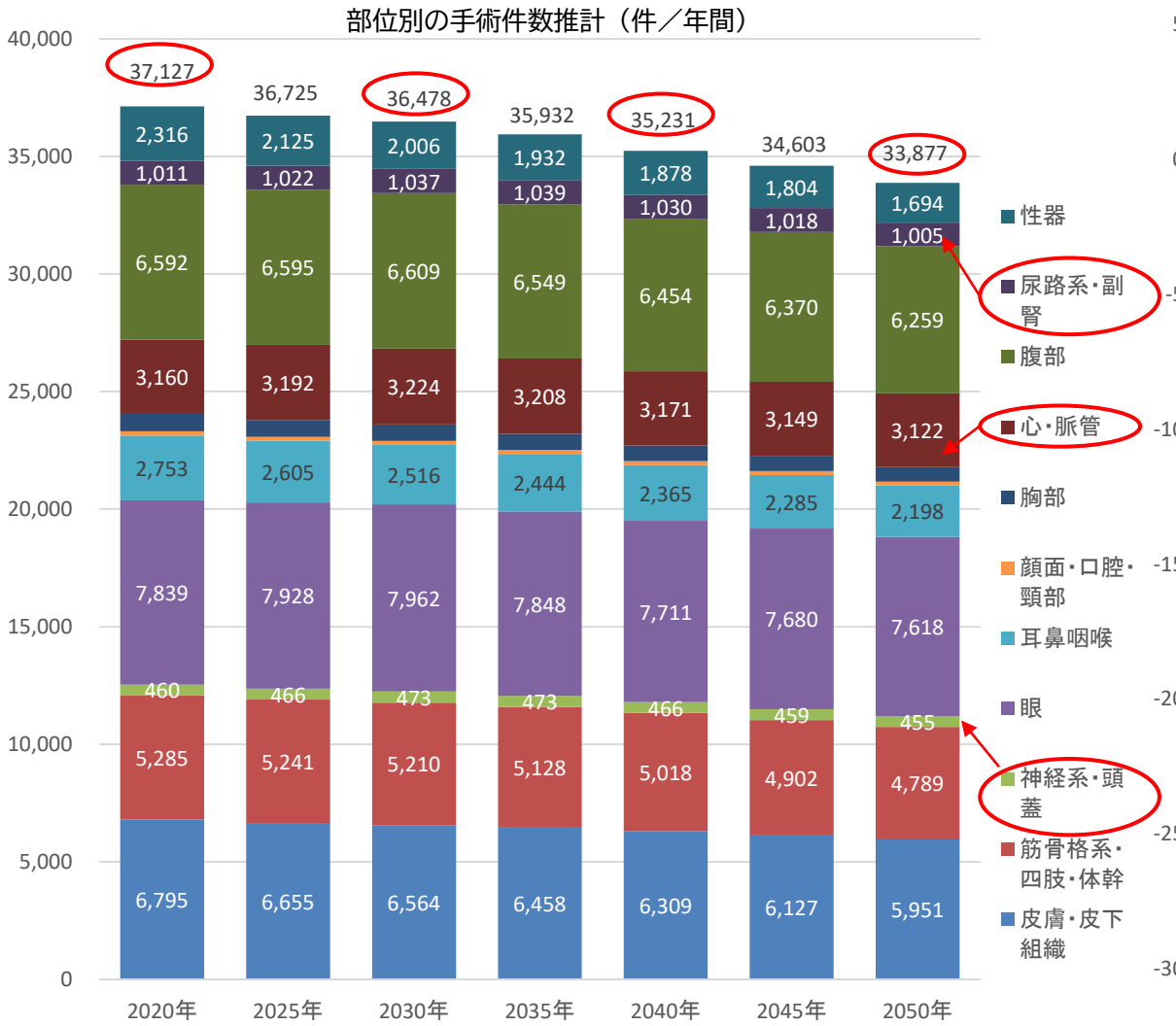


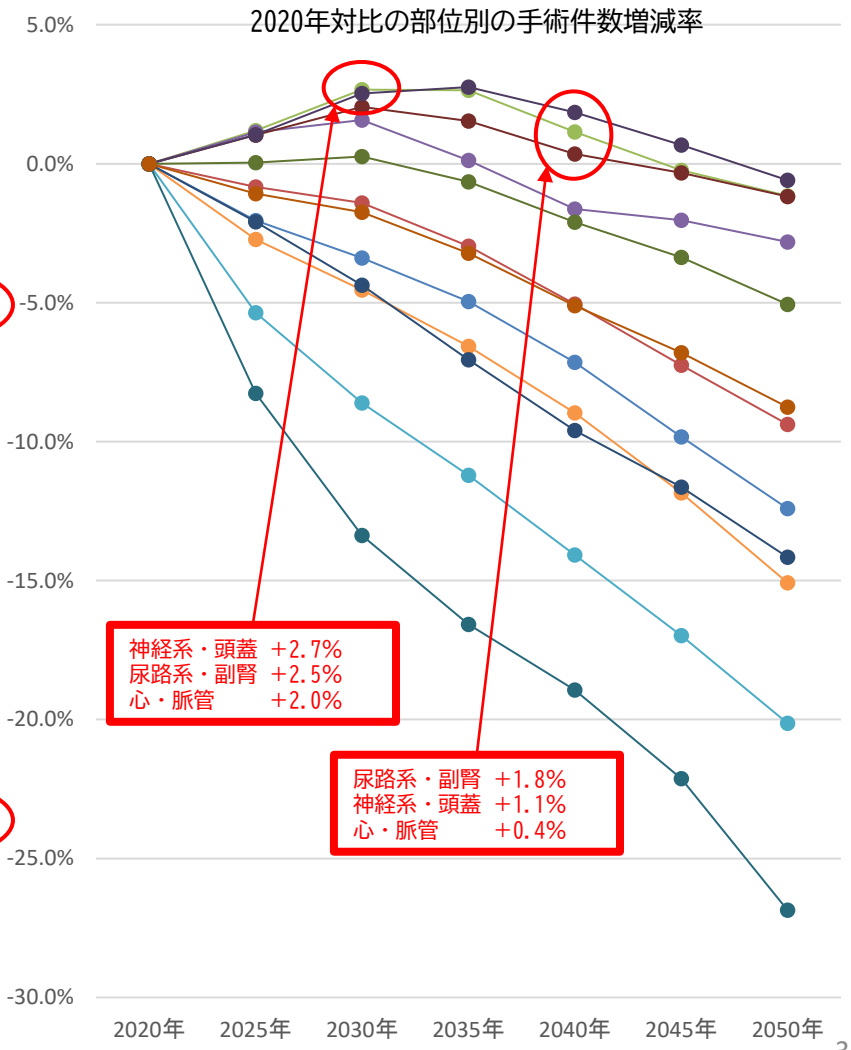
医療需要の推計 ～手術件数（福井地域）～

・手術件数（需要）は、すでに減少傾向にあると推測
・部位別では、神経系・頭蓋、心・脈管、尿路系・副腎については2030年（令和12年）頃まで微増し、2050年（令和32年）までは2020年（令和2年）と同程度の手術件数がある見込み

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、性年齢別の発生率について「令和元年10月1日推計人口」（総務省）、「第6回NDBオープンデータ（2019年4月～2020年3月）」（厚労省）をもとに推計

福井



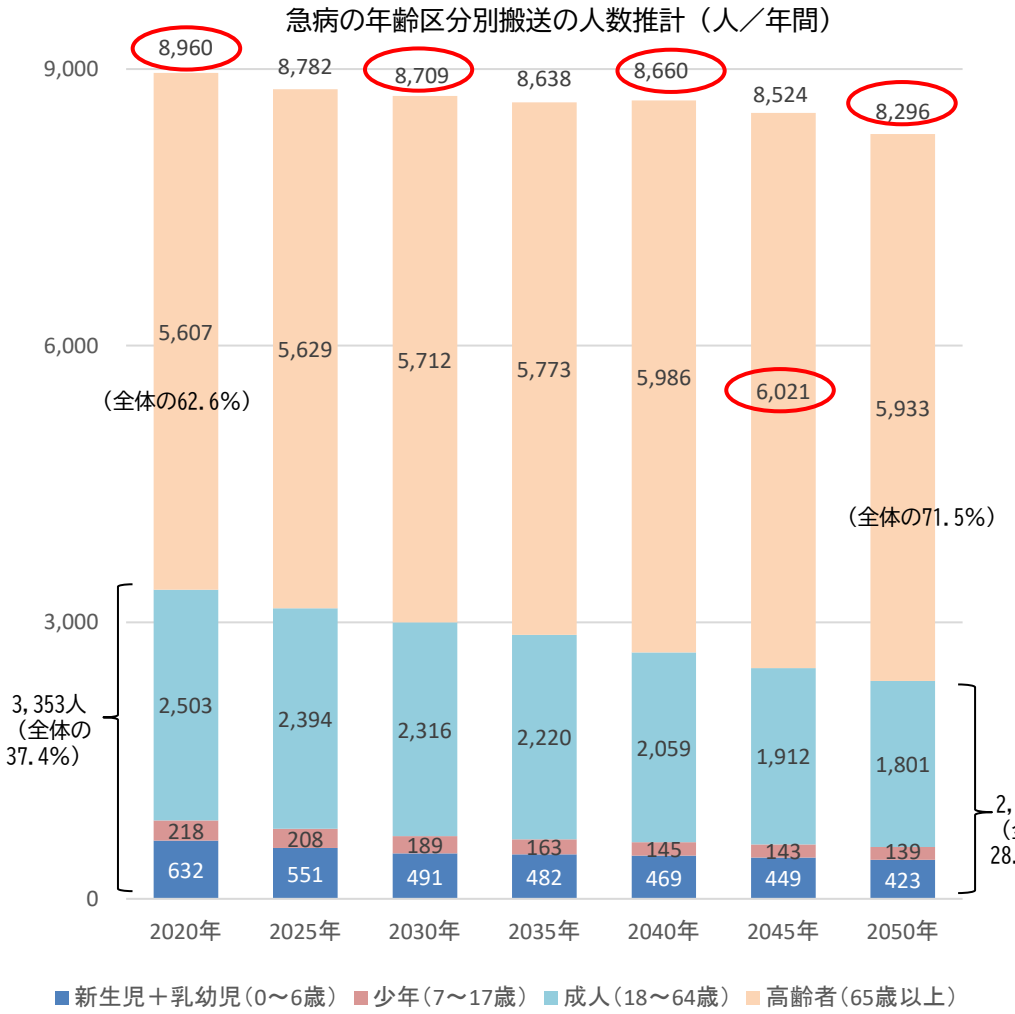


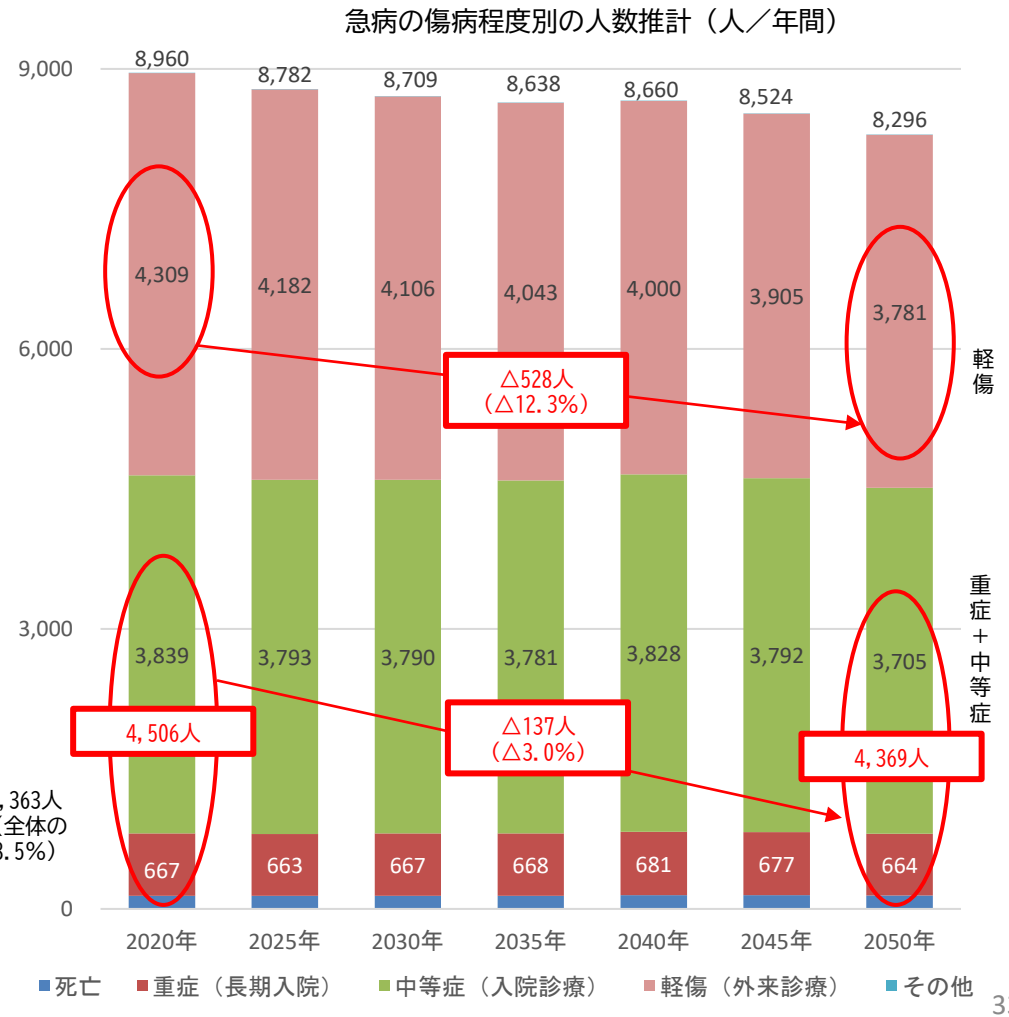
医療需要の推計 ～救急搬送件数（福井地域）～

・救急搬送件数（需要）は2020年（令和2年）以降すでに減少傾向にあると推測
・高齢者の搬送件数は年々増加し、2045年（令和27年）頃が最多となる見込み
・重症度別では、中等症および重症に比べ、65歳未満に多い軽傷の搬送が大きく減少

福井

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、発生率について「救急救助の現況（2020年版、2019（令和元）年調査）」（消防庁）、「令和元年10月1日推計人口」（総務省）をもとに推計





医療需要の推計　～往診、訪問診療（福井地域）～

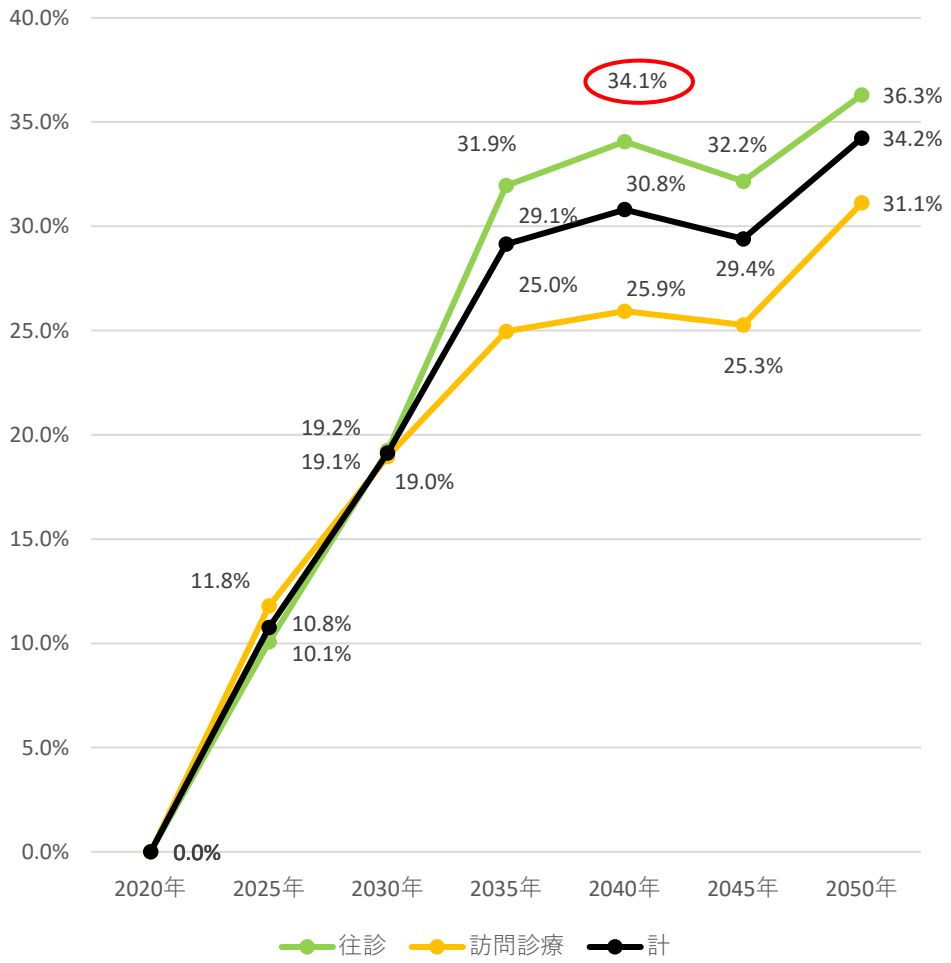
・往診、訪問診療（一日あたり）を必要とする患者数は2040年（令和22年）頃にかけて増加し、それ以降も同程度の患者数がある見込み
・85歳以上人口の増加に伴い、急な体調不良等に対応する往診を必要とする患者が特に増加する見込み

福井

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

往診、訪問診療が必要な患者数推計（人／日）

2020年対比の往診、訪問診療が必要な患者数推計（人／日）



介護需要の推計～要介護・要支援認定者数（福井地域）～

・要介護・要支援認定者数は2020年（令和2年）から2040年（令和22年）にかけて30%程度増加する見込み
・このうち、要介護者は2020年から2040年にかけて31%程度増加する見込み

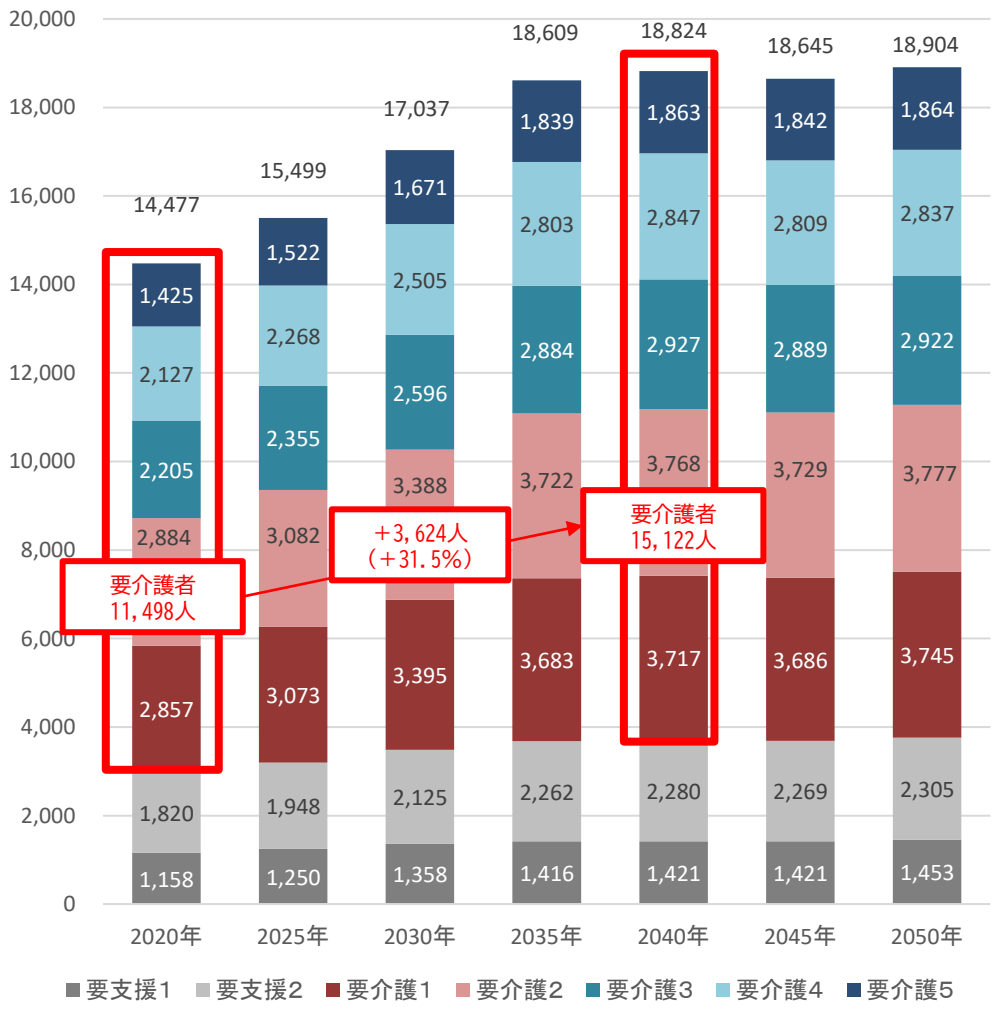
福井

※令和6年3月に策定した「福井県高齢者福祉計画 福井県介護保険事業支援計画」では、市町の推計をもとに2040年までの見込を記載している。この資料では、左記の出典をもとに2050年までの推計を行ったため、前記の計画とは数字が一致しない点に注意

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、発生率について「令和元年度介護事業状況報告（年報）都道府県別要介護（要支援）認定者数」（厚生労働省）、「令和元年10月1日推計人口」（総務省）をもとに推計

年齢区分別の要介護・要支援認定者数の推計（人）

要介護度別の要介護・要支援認定者数の推計（人）



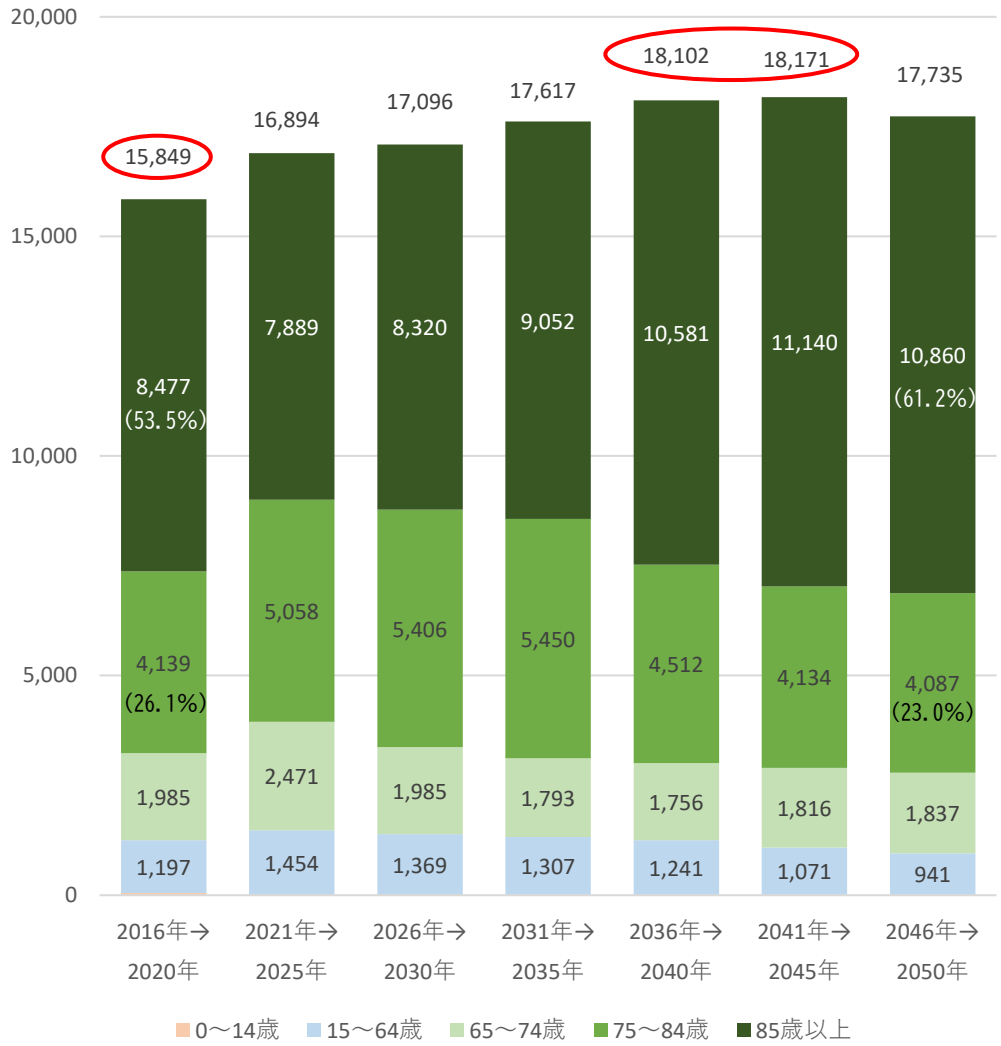
医療・介護需要推計 ～死亡者数（福井地域）～

・死亡者数は2040年（令和22年）頃に最多となり、今後、看取り需要が増えると推測される。
・後期高齢者（75歳以上）、とくに85歳以上の死亡者数は2045年（令和27年）頃まで増加する見込み

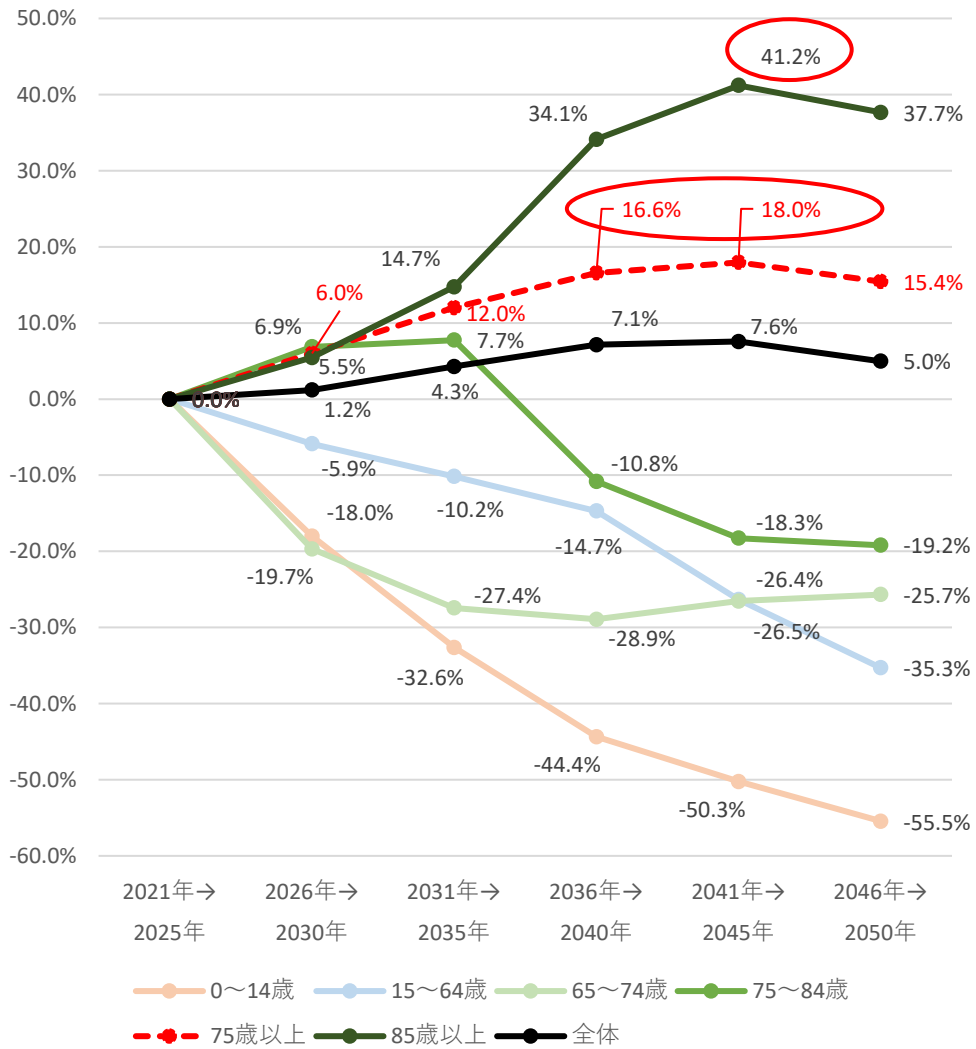
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）
「人口動態統計」（2016年（H28）～2020年（R2））（厚生労働省）は実数

福井

年齢区分別の死亡者数（5年間）



2021→2025年の5年間と対比した年齢区分別の死亡者増減率



医療・介護需要の推計（福井地域）　主なもの

2020年に比べて増加する指標はオレンジ色網掛け

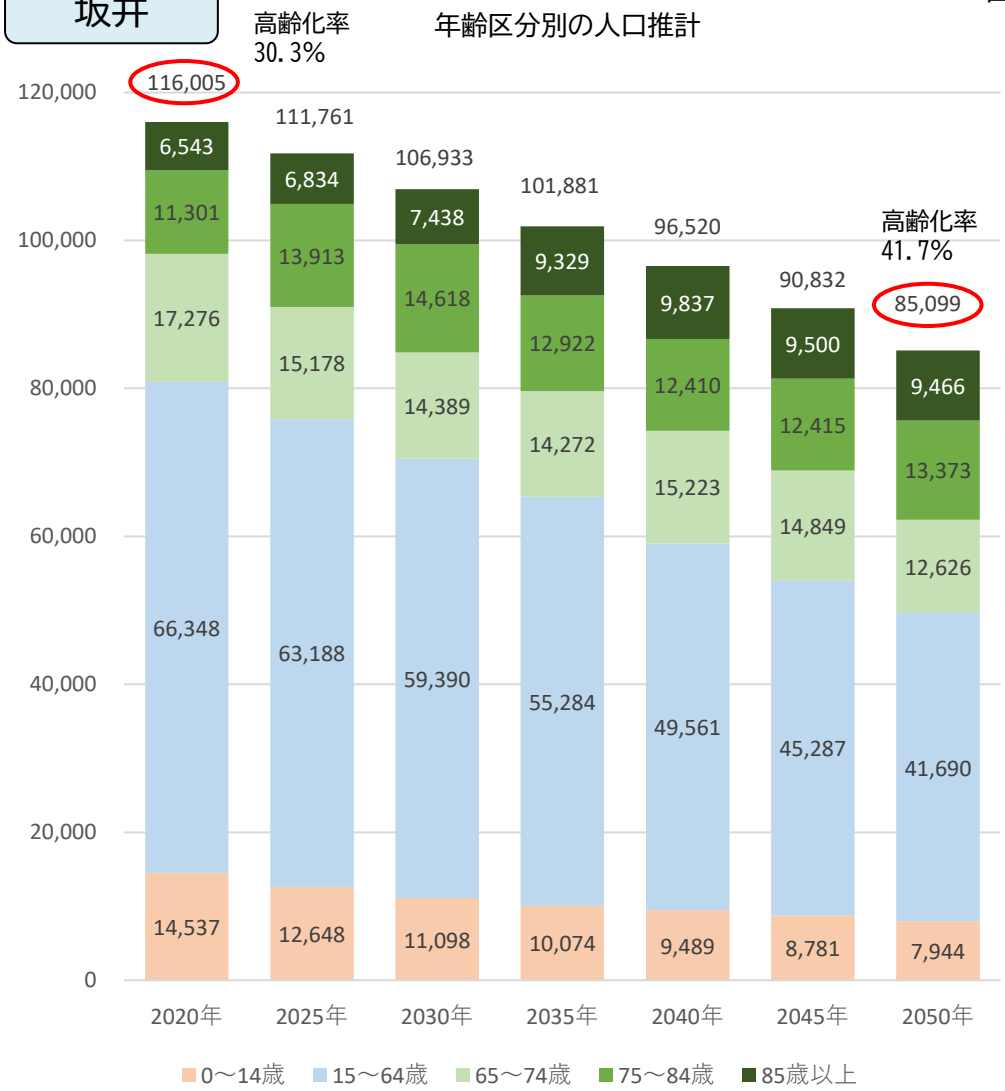
	2020年（令和2年）	2030年（令和12年）	2040年（令和22年）	2050年（令和32年）
人口（全体）	281,293 人	263,192 人	245,716 人	227,037 人
人口（85歳以上）	15,469 人	18,533 人	23,288 人	22,709 人
人口（75歳以上）	43,315 人	51,430 人	51,671 人	54,965 人
人口（65歳以上）	82,540 人	84,082 人	88,127 人	87,349 人
高齢化率	29.3 %	31.9 %	35.9 %	38.5 %
外来患者数	15,019 人	14,692 人	14,225 人	13,520 人
2020年対比で 増加する主な疾患	—	循環器 ＋6.2% 神　経 ＋5.5% 筋骨格 ＋2.8%	循環器 ＋6.4% 神　経 ＋4.0% 筋骨格 ＋2.0%	循環器 ＋5.7% 神　経 ＋4.0%
入院患者数	3,404 人	3,626 人	3,602 人	3,593 人
2020年対比で 増加する主な疾患	—	呼吸器＋11.9% 循環器＋11.1% 損　傷＋10.4%	呼吸器＋12.1% 循環器＋11.4% 損　傷＋10.4%	呼吸器＋15.3% 循環器＋14.1% 損　傷＋12.3%
手術件数	37,127 人	36,478 人	35,231 人	33,877 人
2020年対比で 増加する部位	—	神経系・頭蓋＋2.7% 尿路系・副腎＋2.5% 心・脈管＋2.0%	尿路系・副腎＋1.8% 神経系・頭蓋＋1.1% 心・脈管＋0.4%	なし
救急搬送件数	8,960 人	8,709 人	8,660 人	8,296 人
救急搬送件数（65歳以上）	5,607 人	5,712 人	5,986 人	5,933 人
救急搬送件数に占める高齢者（65歳以上）の割合	62.6 %	65.6 %	69.1 %	71.5 %
訪問診療が必要な患者数	70.9 人	84.3 人	89.3 人	92.9 人
往診が必要な患者数	105.9 人	126.2 人	141.9 人	144.3 人
要介護認定者数	11,498 人	13,555 人	15,122 人	15,145 人
死亡者数　（各年までの5か年）	15,849 人	17,096 人	18,102 人	17,735 人

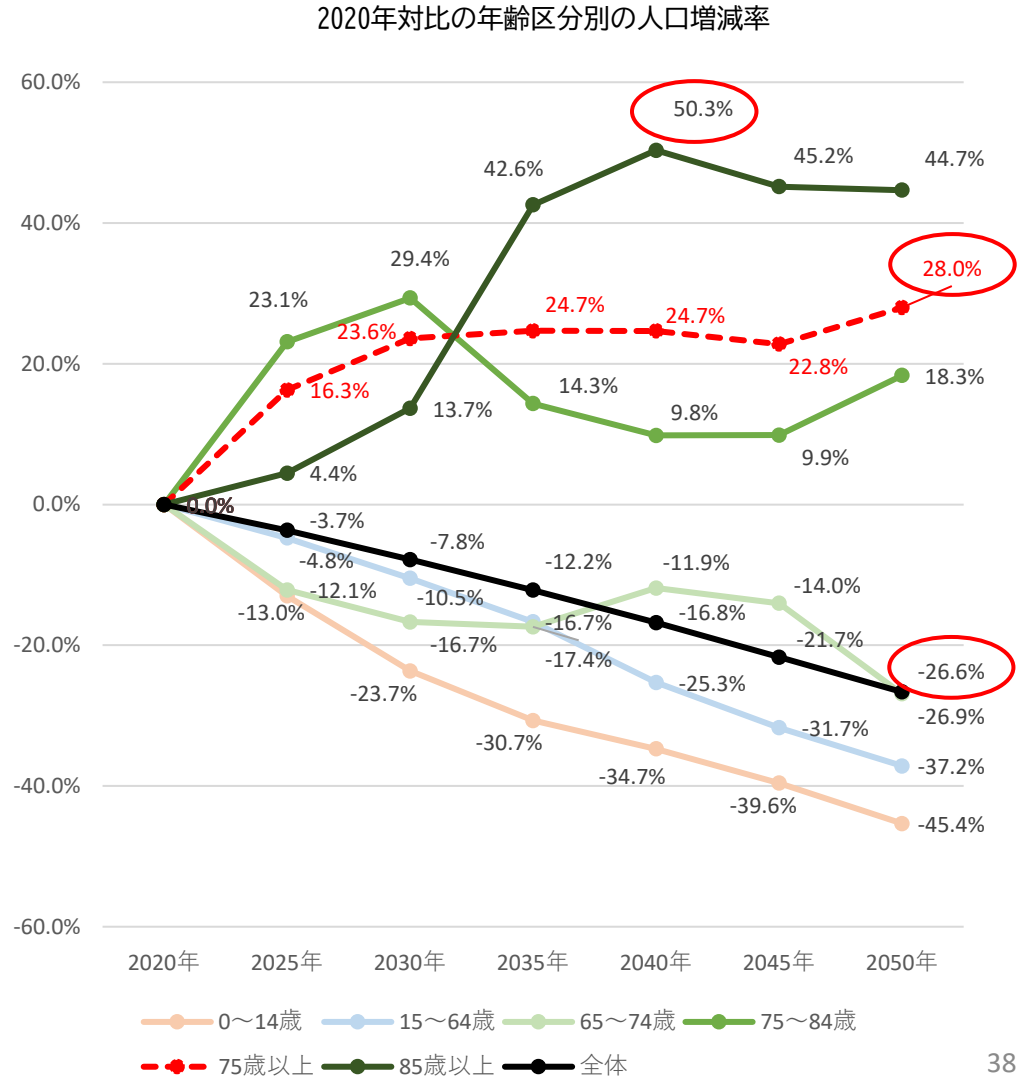
将来推計人口（坂井地域）

・人口は2020年（令和2年）から2050年（令和32年）にかけて減少（116,005人→85,099人、△30,906人、△26.6%）
・後期高齢者（75歳以上）は2040年（令和22年）まで増加し、2045年（令和27年）に減少。団塊ジュニア世代が後期高齢者となる2050年には再び増加
・85歳以上人口は2040年には2020年対比+50.3%増加
・高齢化率（65歳以上人口割合）は2020年30.3%から2050年41.7%へ上昇

坂井

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）





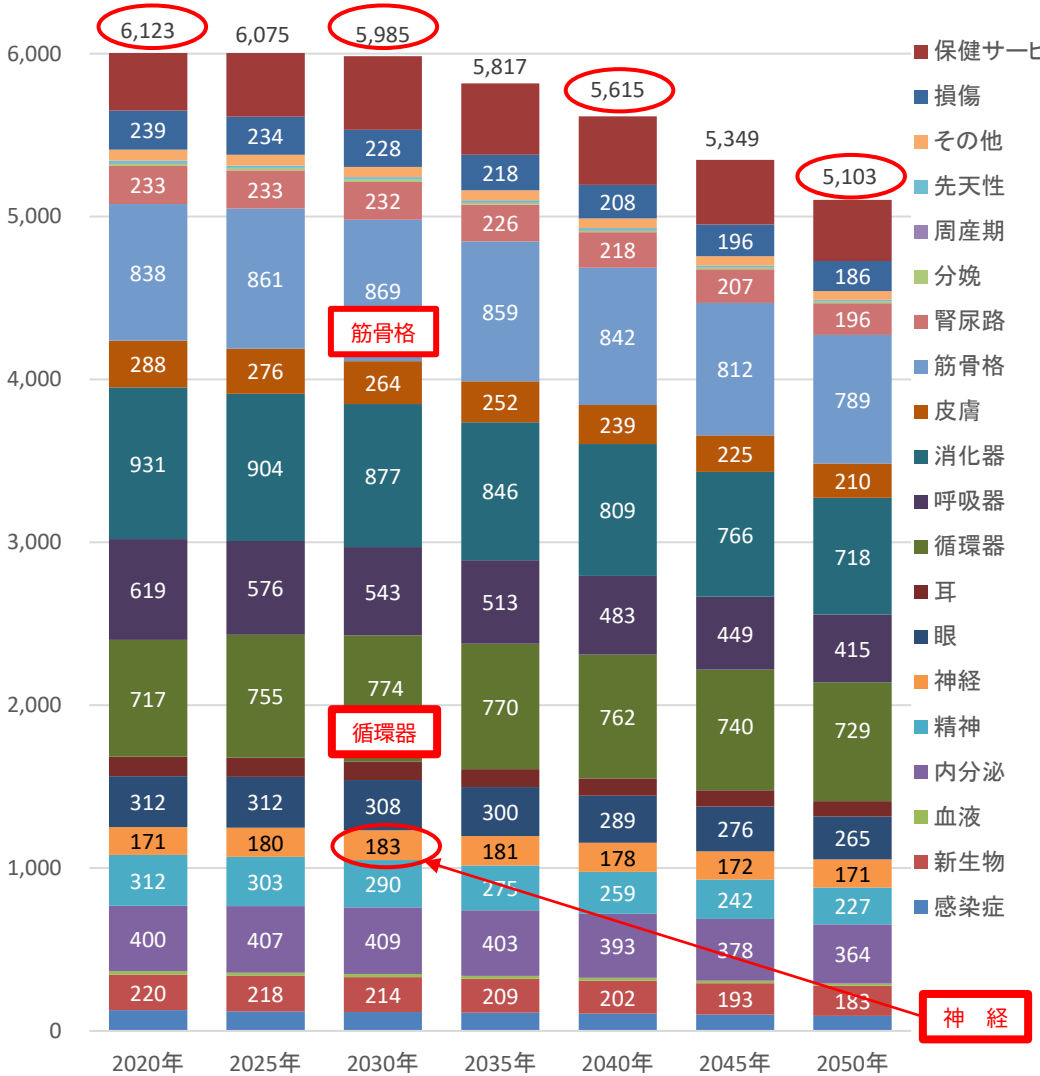
医療需要の推計 ～外来患者数（坂井地域）～

・外来患者数（需要）は、すでに減少していると推測
・ただし、高齢化に 伴い増加する疾患（循環器系（心疾患、脳梗塞等）、神経系（末梢神経障害等）、筋骨格系（関節症、脊椎障害等）など）では、2030年（令和12年）頃までは外来患者数が増加し、その後も2020年（令和2年）を上回る状況が続く見込み。

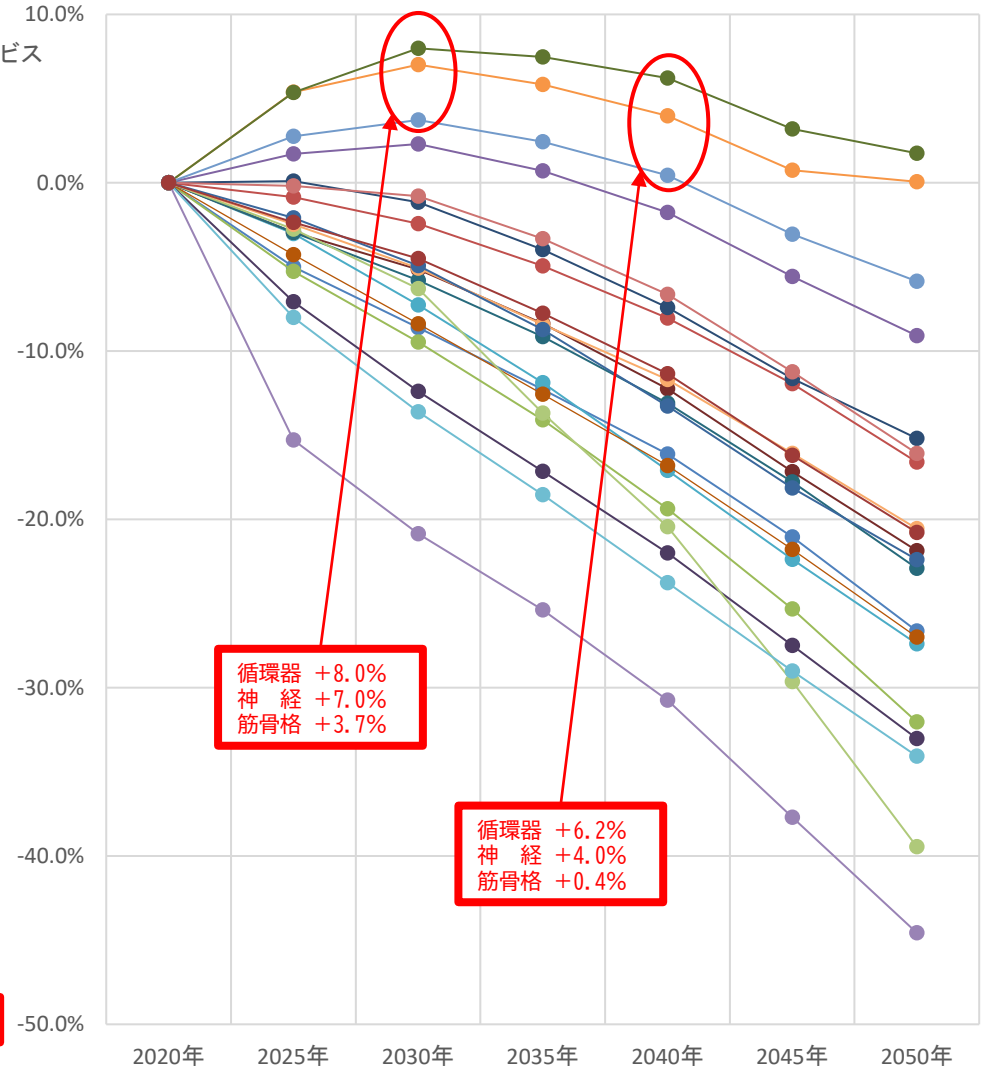
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

坂井

疾患別の外来患者数推計（人／日）



2020年対比の疾患別の外来患者数増減率



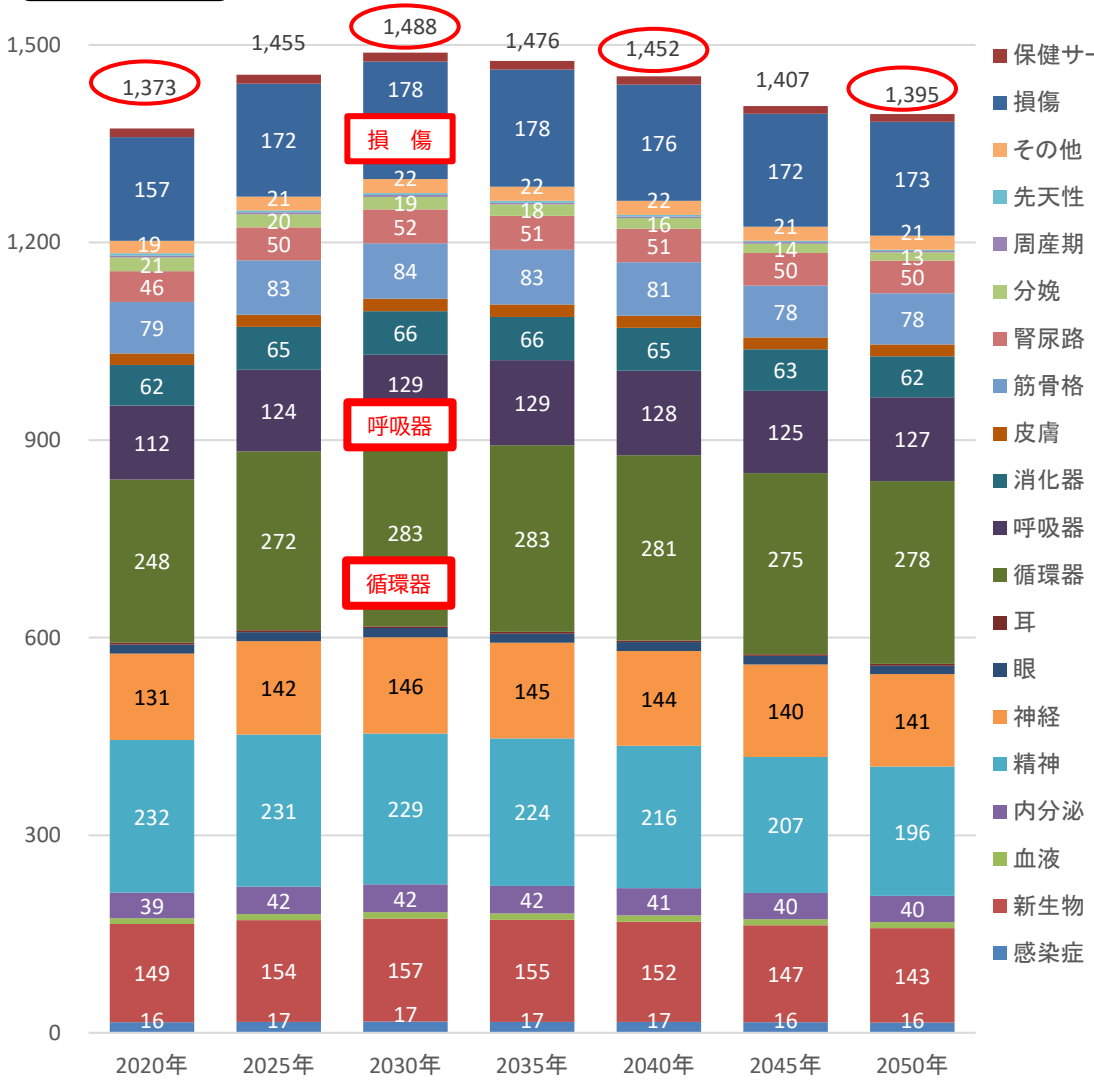
医療需要の推計 ～入院患者数（坂井地域）～

・入院患者数（需要）は、2030年（令和12年）頃まで増加し、高齢化に伴い増加する疾患（呼吸器系、循環器系（心疾患、脳梗塞等）、損傷（骨折等）など）では、2020年（令和2年）対比10%以上の増加が2050年（令和32年）まで続く見込み。
・2030年以降、入院患者数は減少するものの、2050年までは2020年を上回る入院患者数が続く見込み。

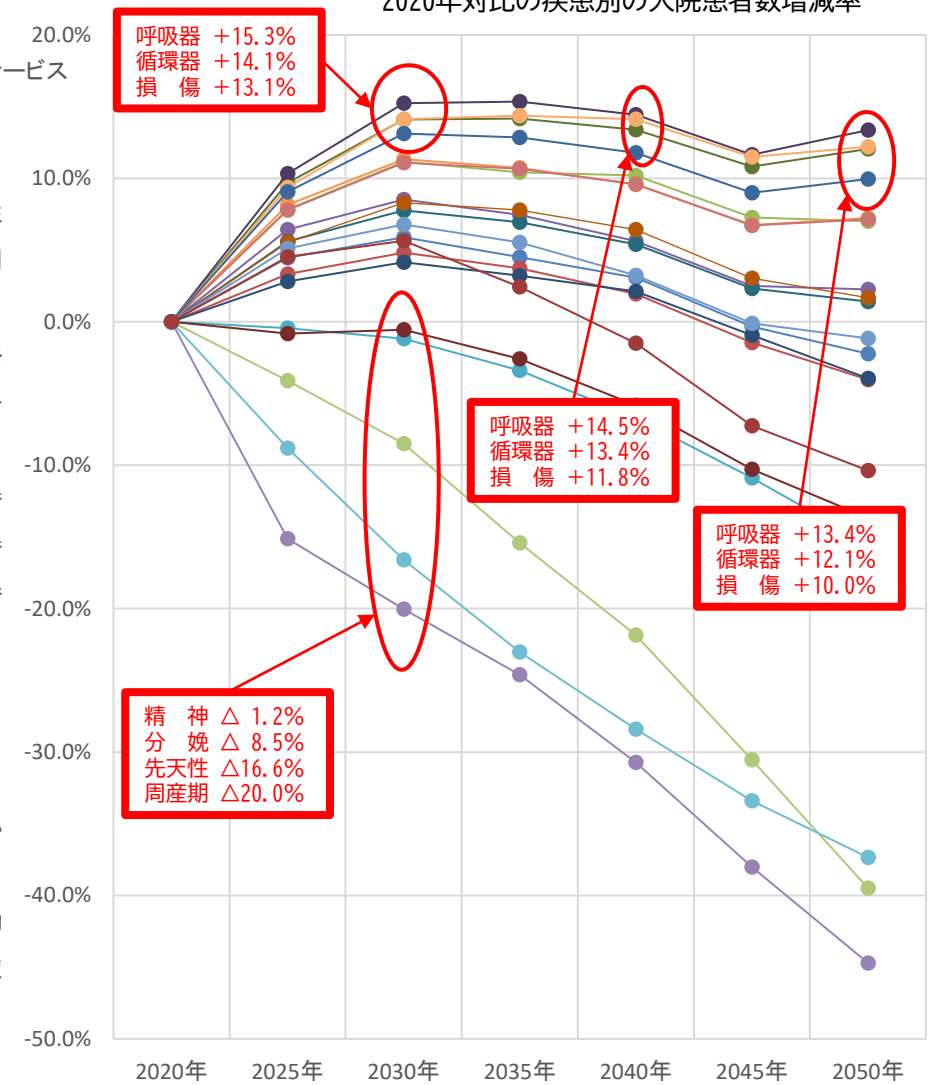
坂井

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

疾患別の入院患者数推計（人／日）



2020年対比の疾患別の入院患者数増減率



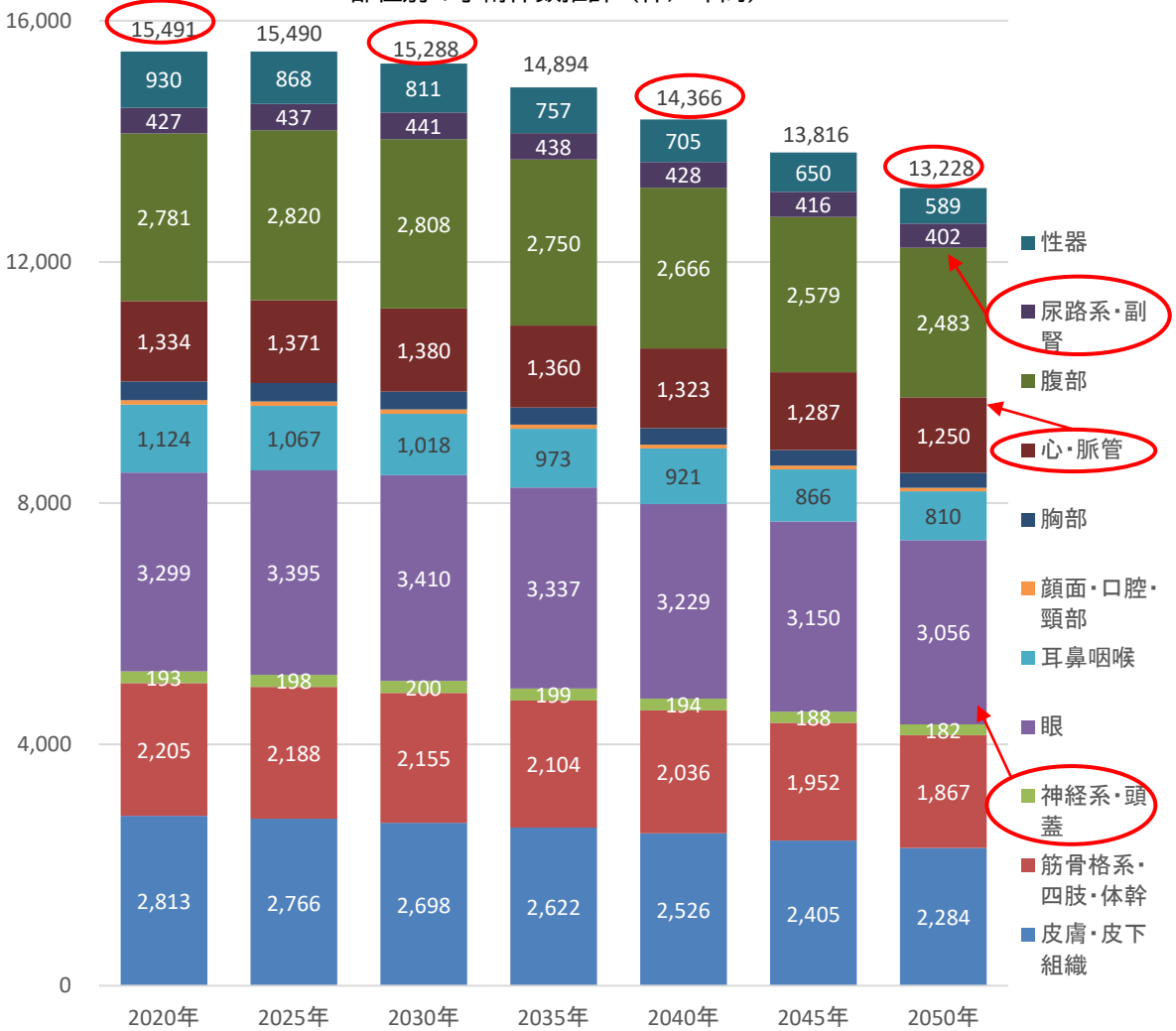
医療需要の推計 ～手術件数（坂井地域）～

・手術件数（需要）は、すでに減少傾向にあると推測
・部位別では、神経系・頭蓋、心・脈管、尿路系・副腎については2030年（令和12年）頃まで微増し、2040年（令和22年）頃までは2020年（令和2年）と同程度の手術件数がある見込み

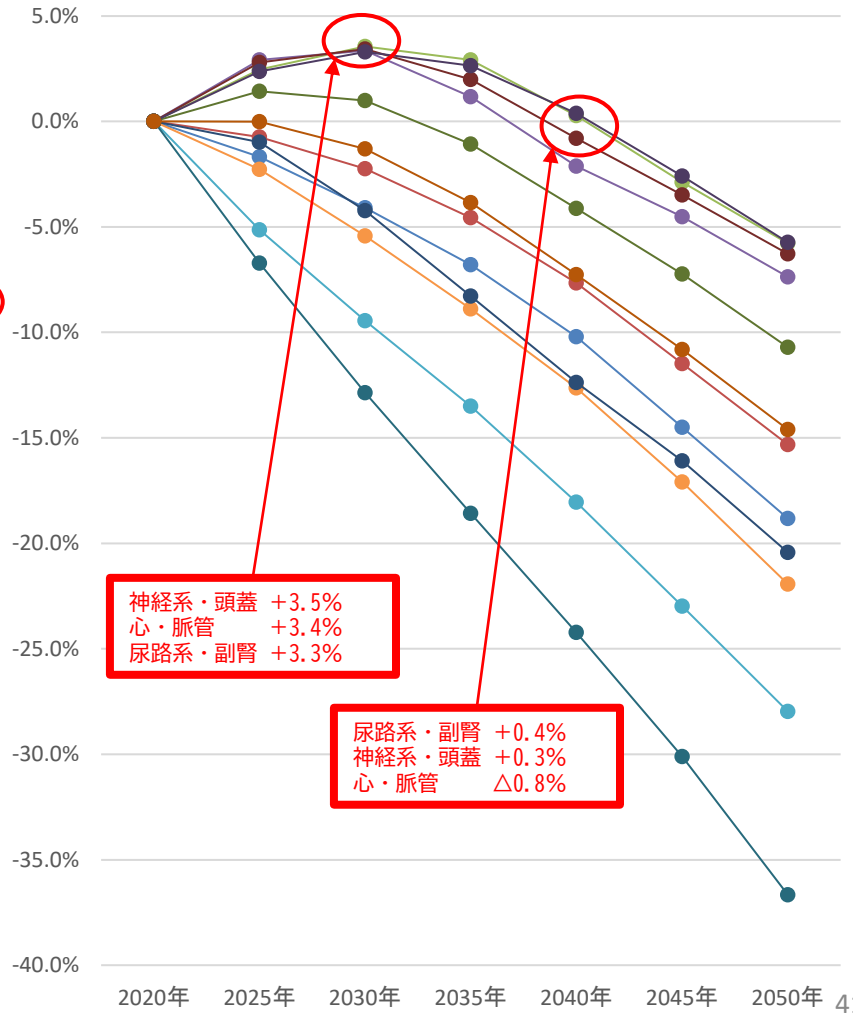
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、性年齢別の発生率について「令和元年10月1日推計人口」（総務省）、「第6回NDBオープンデータ（2019年4月～2020年3月）」（厚労省）をもとに推計

坂井

部位別の手術件数推計（件／年間）



2020年対比の部位別の手術件数増減率



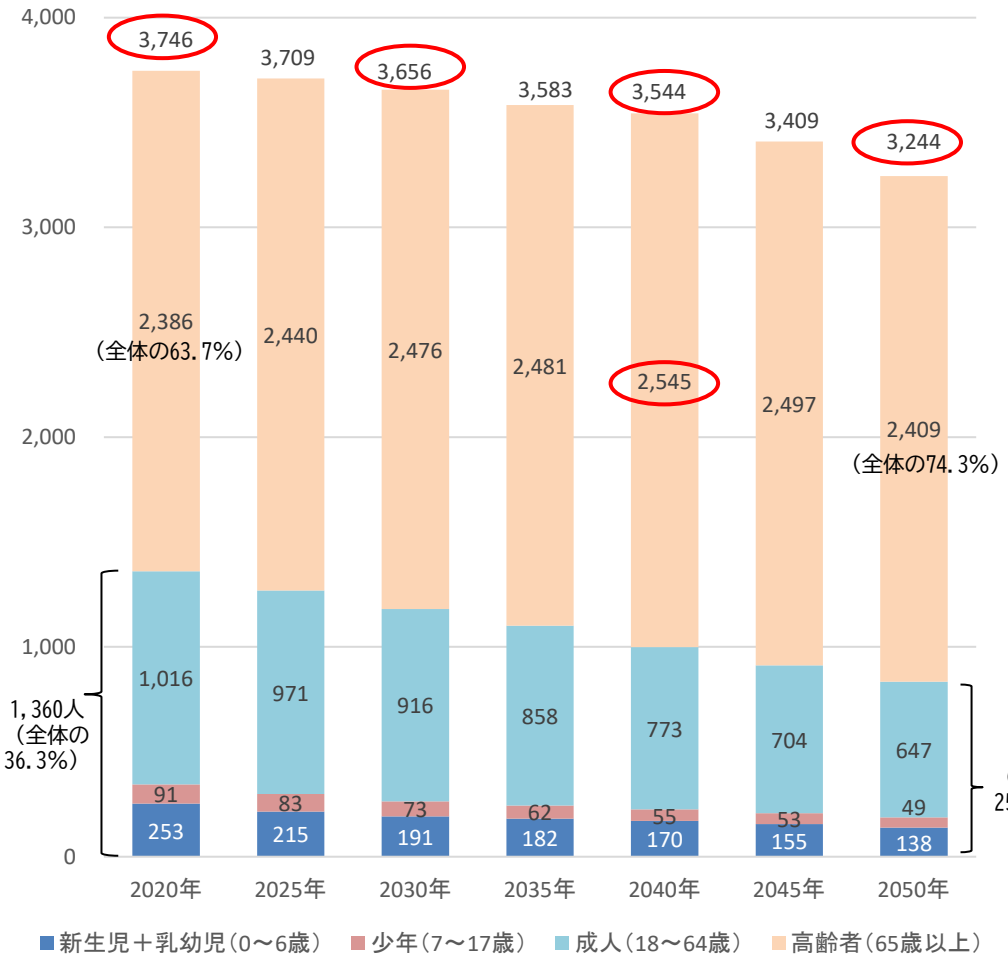
医療需要の推計 ～救急搬送件数（坂井地域）～

・救急搬送件数（需要）は2020年（令和2年）以降すでに減少傾向にあると推測
・高齢者の搬送件数は、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年（令和22年）頃に最多となる見込み
・重症度別では、中等症および重症に比べ、65歳未満に多い軽傷の搬送が大きく減少

坂井

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、発生率について「救急救助の現況（2020年版、2019（令和元）年調査）」（消防庁）、「令和元年10月1日推計人口」（総務省）をもとに推計

急病の年齢区分別搬送の人数推計（人／年間）



急病の傷病程度別の人数推計（人／年間）

医療需要の推計　～往診、訪問診療（坂井地域）～

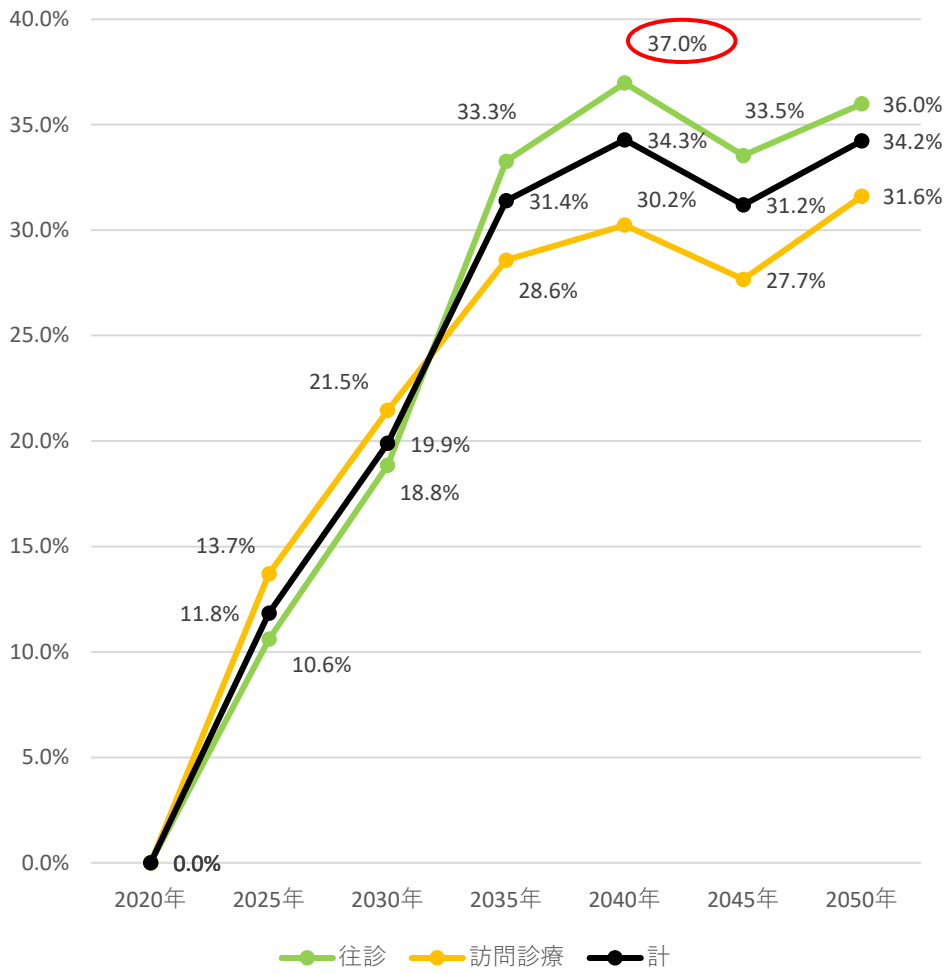
・往診、訪問診療（一日あたり）を必要とする患者数は2040年（令和22年）頃にかけて増加し、それ以降も同程度の患者数がある見込み
・85歳以上人口の増加に伴い、急な体調不良等に対応する往診を必要とする患者が特に増加する見込み

坂井

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

往診、訪問診療が必要な患者数推計（人／日）

2020年対比の往診、訪問診療が必要な患者数推計（人／日）



介護需要の推計～要介護・要支援認定者数（坂井地域）～

・要介護・要支援認定者数は2020年（令和2年）から2040年（令和22年）にかけて32%程度増加する見込み
・このうち、要介護者は2020年から2040年にかけて33%程度増加する見込み

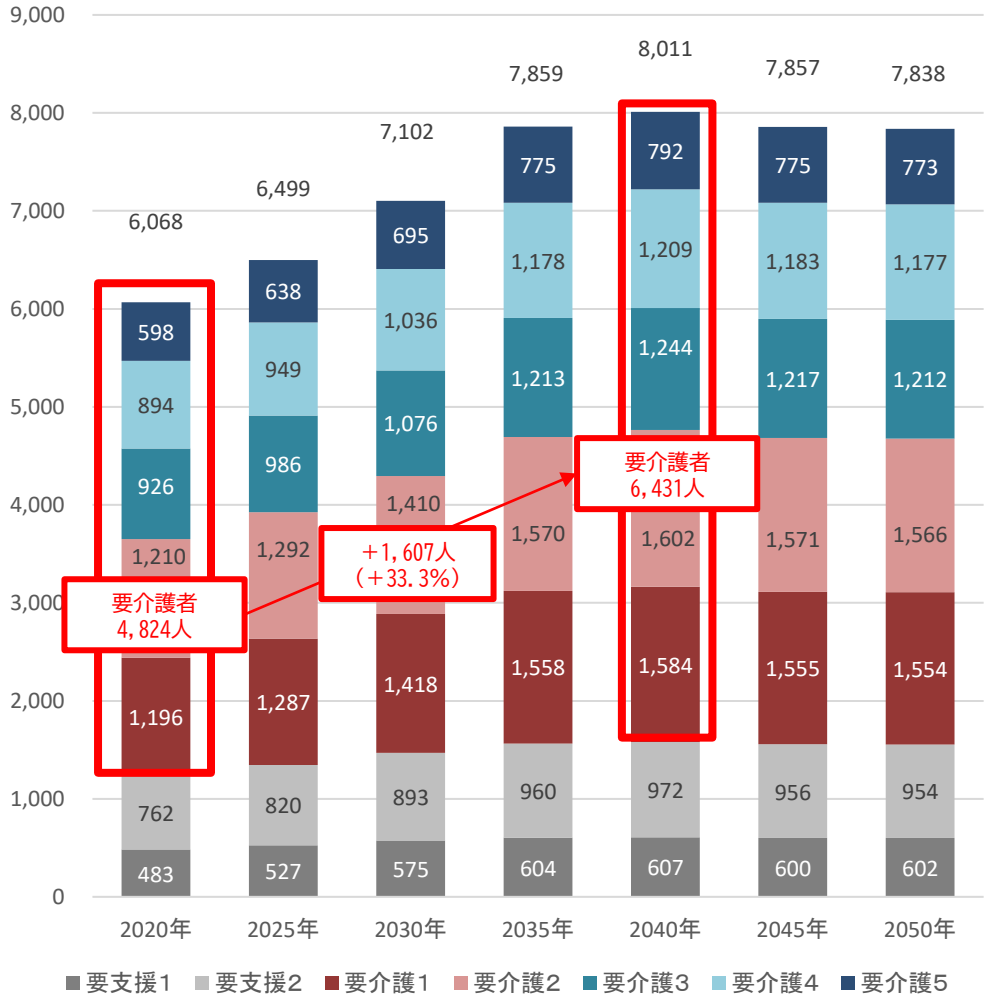
※令和6年3月に策定した「福井県高齢者福祉計画 福井県介護保険事業支援計画」では、市町の推計をもとに2040年までの見込を記載している。この資料では、左記の出典をもとに2050年までの推計を行ったため、前記の計画とは数字が一致しない点に注意

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、発生率について「令和元年度介護事業状況報告（年報）都道府県別要介護（要支援）認定者数」（厚生労働省）、「令和元年10月1日推計人口」（総務省）をもとに推計

坂井

年齢区分別の要介護・要支援認定者数の推計（人）

要介護度別の要介護・要支援認定者数の推計（人）



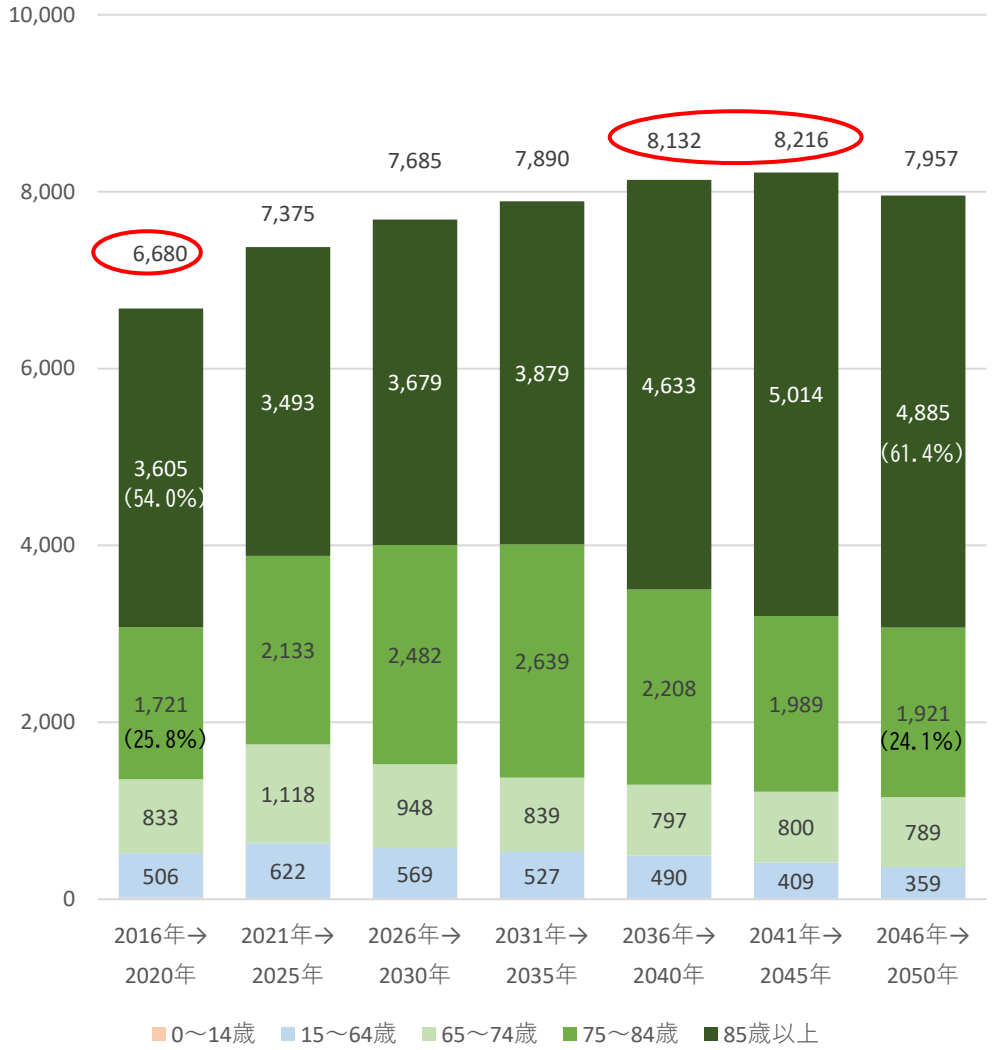
医療・介護需要推計 ～死亡者数（坂井地域）～

・死亡者数は2040年（令和22年）頃に最多となり、今後、看取り需要が増えると推測される。
・後期高齢者（75歳以上）、とくに85歳以上の死亡者数は2045年（令和27年）頃まで増加する見込み

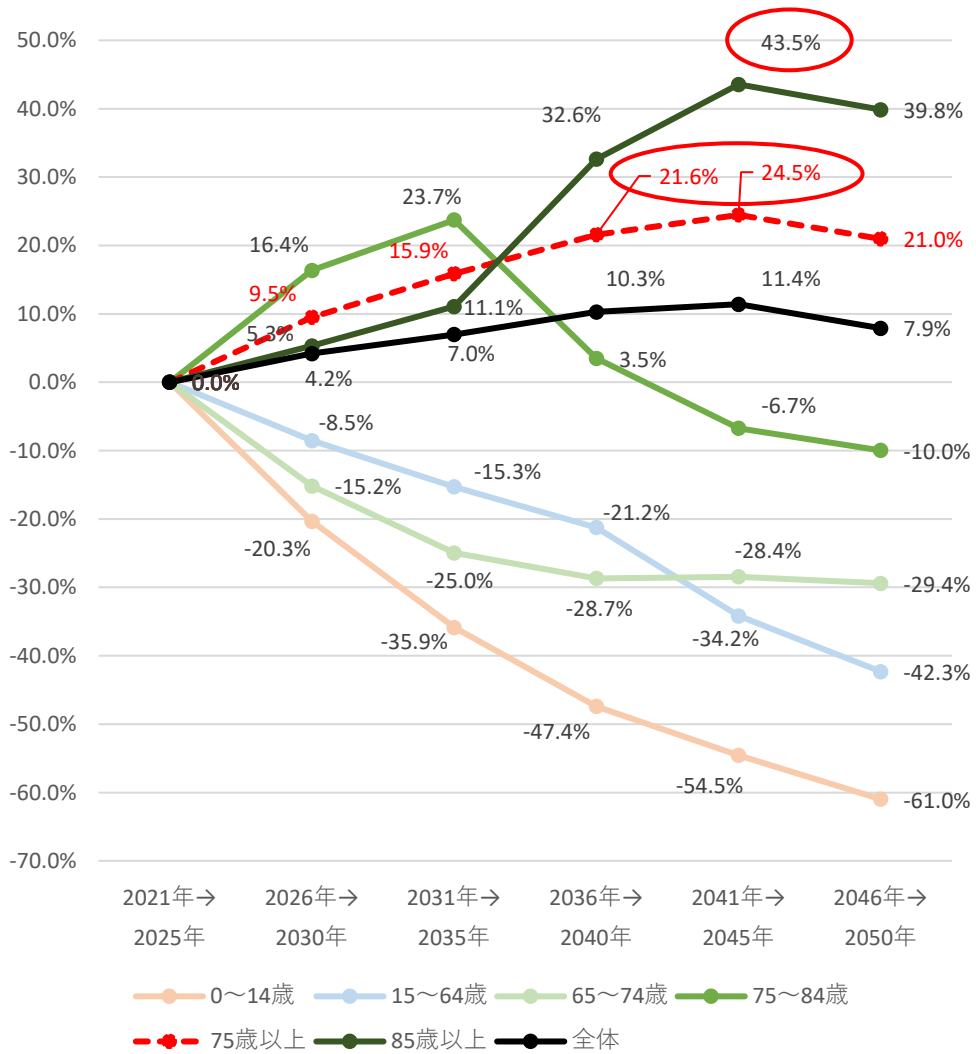
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）
「人口動態統計」（2016年（H28）～2020年（R2））（厚生労働省）は実数

坂井

年齢区分別の死亡者数（5年間）



2021→2025年の5年間と対比した年齢区分別の死亡者増減率



医療・介護需要の推計（坂井地域）　主なもの

2020年に比べて増加する指標はオレンジ色網掛け

	2020年（令和2年）	2030年（令和12年）	2040年（令和22年）	2050年（令和32年）
人口（全体）	116,005 人	106,933 人	96,520 人	85,099 人
人口（85歳以上）	6,543 人	7,438 人	9,837 人	9,466 人
人口（75歳以上）	17,844 人	22,056 人	22,247 人	22,839 人
人口（65歳以上）	35,120 人	36,445 人	37,470 人	35,465 人
高齢化率	30.3 %	34.1 %	38.8 %	41.7 %
外来患者数	6,123 人	5,985 人	5,615 人	5,103 人
2020年対比で 増加する主な疾患	—	循環器 ＋8.0% 神　経 ＋7.0% 筋骨格 ＋3.7%	循環器 ＋6.2% 神　経 ＋4.0% 筋骨格 ＋0.4%	循環器 ＋1.8% 神　経 ＋0.1%
入院患者数	1,373 人	1,488 人	1,452 人	1,395 人
2020年対比で 増加する主な疾患	—	呼吸器＋15.3% 循環器＋14.1% 損　傷＋13.1%	呼吸器＋14.5% 循環器＋13.4% 損　傷＋11.8%	呼吸器＋13.4% 循環器＋12.1% 損　傷＋10.0%
手術件数	15,491 人	15,288 人	14,366 人	13,228 人
2020年対比で 増加する部位	—	神経系・頭蓋＋3.5% 心・脈管＋3.4% 尿路系・副腎＋3.4%	尿路系・副腎＋0.4% 神経系・頭蓋＋0.3%	なし
救急搬送件数	3,746 人	3,656 人	3,544 人	3,244 人
救急搬送件数（65歳以上）	2,386 人	2,476 人	2,545 人	2,409 人
救急搬送件数に占める高齢者（65歳以上）の割合	63.7 %	67.7 %	71.8 %	74.3 %
訪問診療が必要な患者数	29.4 人	35.7 人	38.2 人	38.6 人
往診が必要な患者数	44.2 人	52.5 人	60.5 人	60.1 人
要介護認定者数	4,824 人	5,635 人	6,431 人	6,282 人
死亡者数　（各年までの5か年）	6,680 人	7,685 人	8,132 人	7,957 人

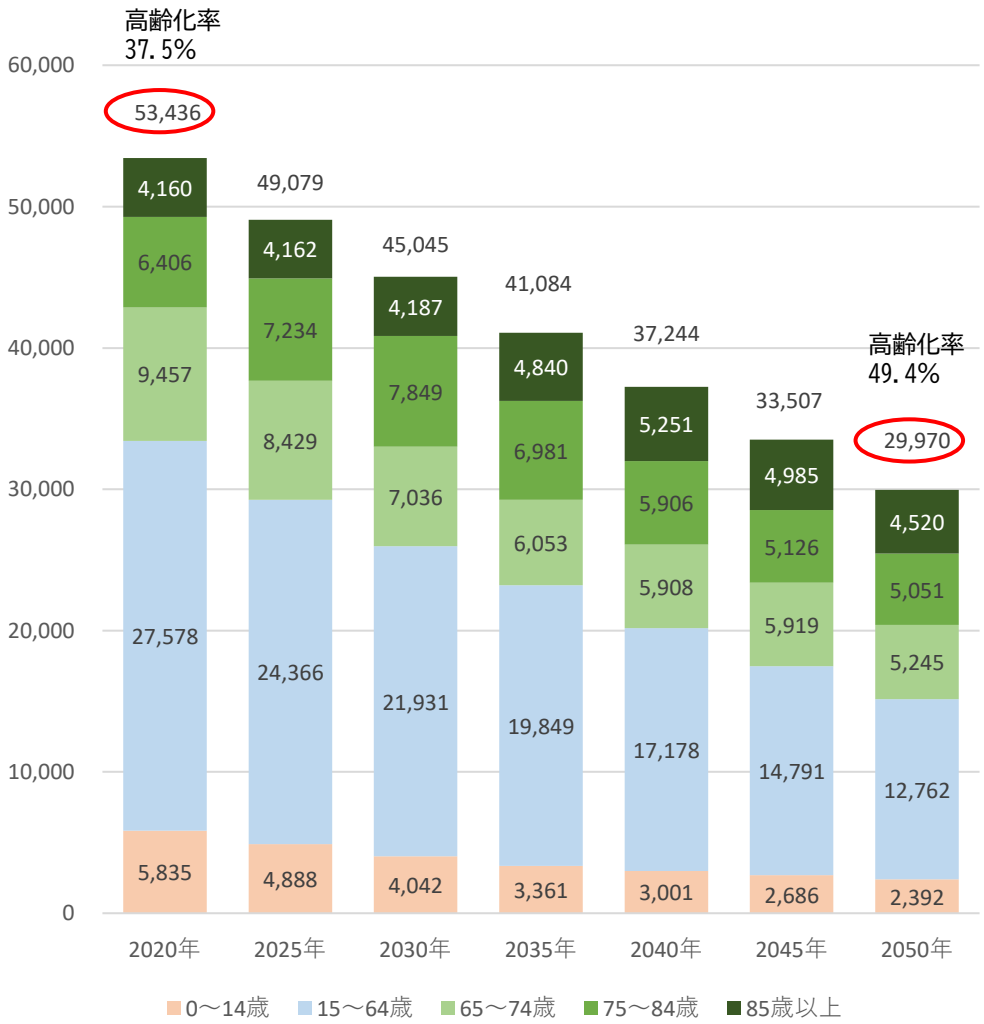
将来推計人口（奥越構想区域）

・人口は2020年（令和2年）から2050年（令和32年）にかけて減少（53,436人→29,970人、△30,906人、△43.9%）
・後期高齢者（75歳以上）は2030年（令和12年）まで増加し、その後は減少。
・85歳以上人口は2040年（令和22年）頃に最多となる見込み
・高齢化率（65歳以上人口割合）は2020年37.5%から2050年49.4%へ上昇

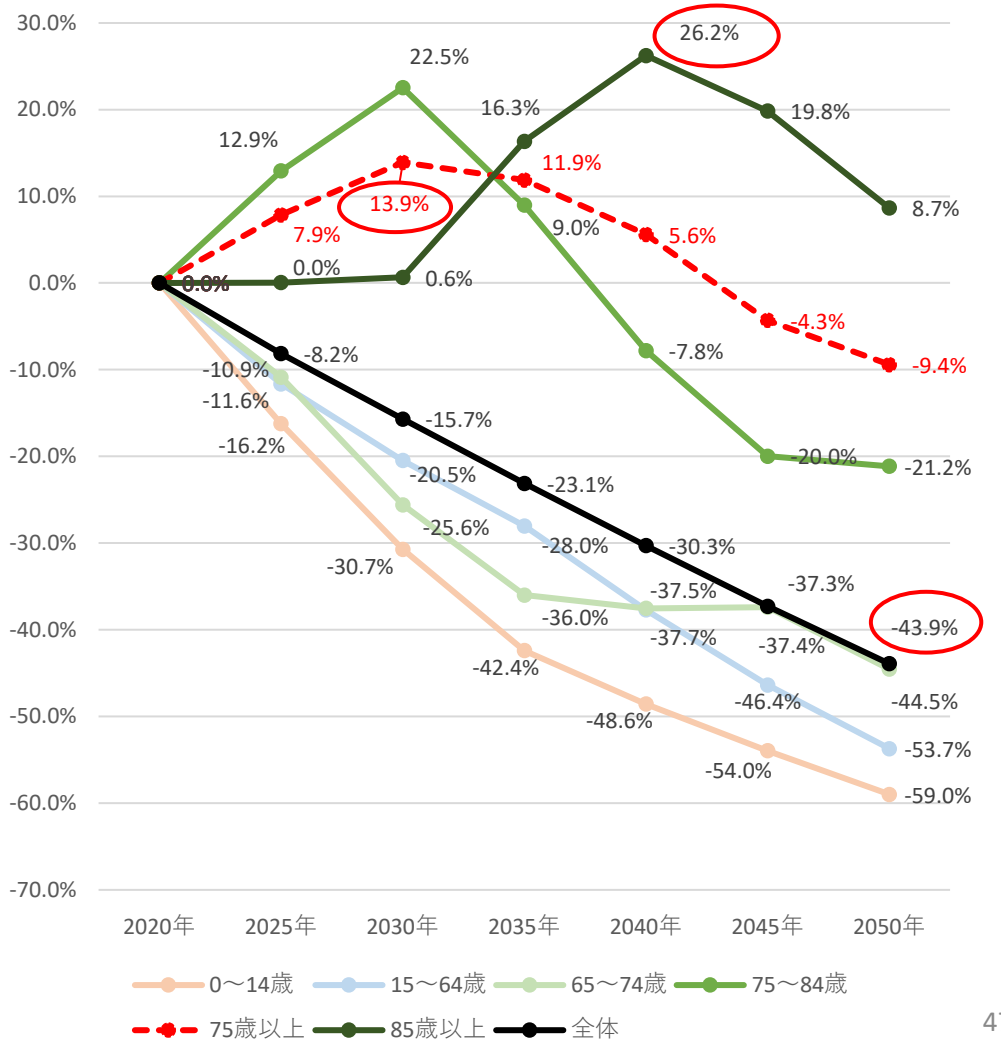
奥越

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）

年齢区分別の人口推計



2020年対比の年齢区分別の人口増減率



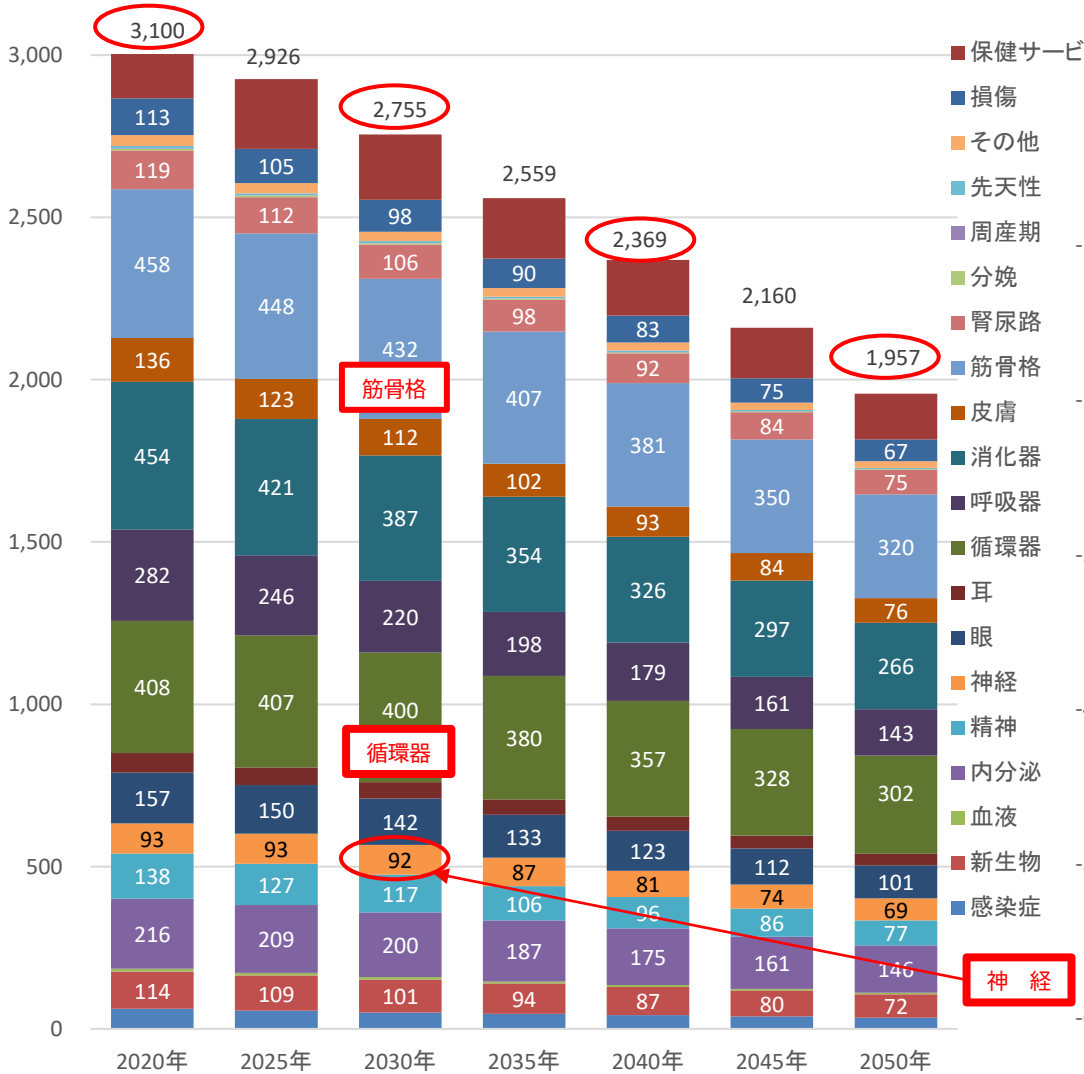
医療需要の推計 ～外来患者数（奥越構想区域）～

・外来患者数（需要）は、すでに減少していると推測
・高齢化に 伴い増加する疾患（循環器系（心疾患、脳梗塞等）、神経系（末梢神経障害等）、筋骨格系（関節症、脊椎障害等）など）では減少率が小さいものの、2040年（令和22年）には2020年（令和2年）と比べて10%以上の減少となる見込み。

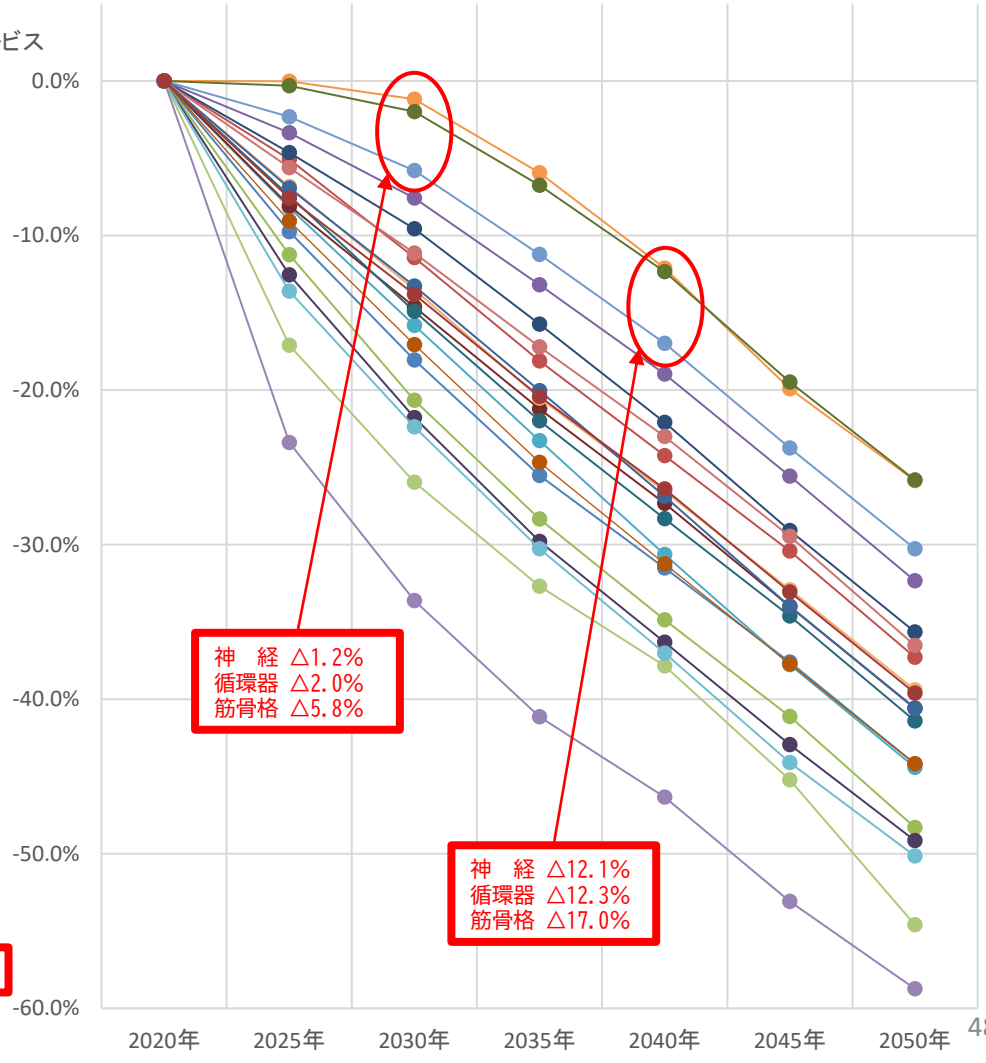
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

奥越

疾患別の外来患者数推計（人／日）



2020年対比の疾患別の外来患者数増減率



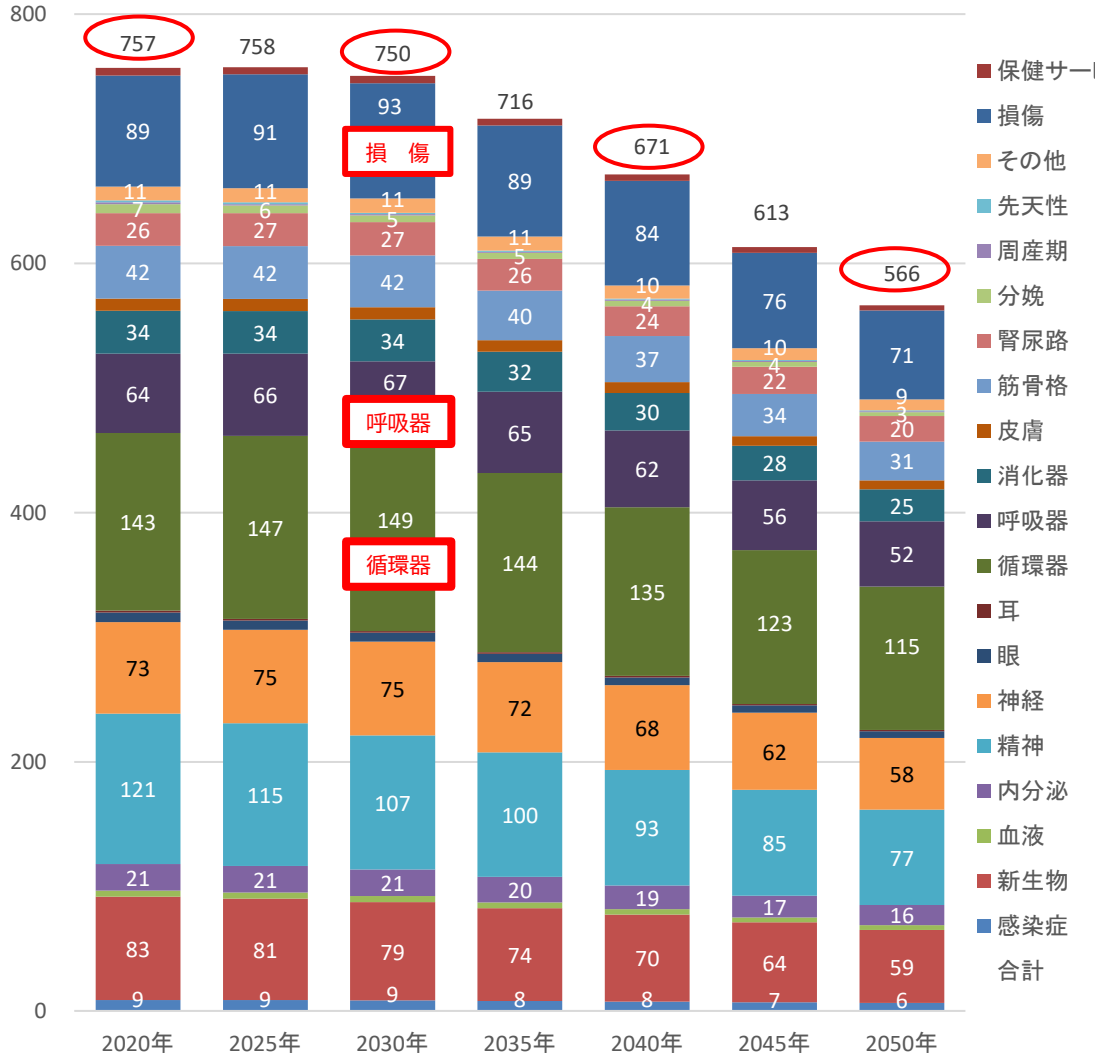
医療需要の推計 ～入院患者数（奥越構想区域）～

・入院患者数（需要）は、2025年（令和7年）以降減少し、高齢化に伴い増加する疾患（呼吸器系、循環器系（心疾患、脳梗塞等）、損傷（骨折等）など）は、2030年（令和12年）頃まで増加するものの、2035年（令和17年）以降は減少する見込み
・2040年（令和22年）には全ての疾患で、2020年（令和2年）の入院患者数を下回る見込み

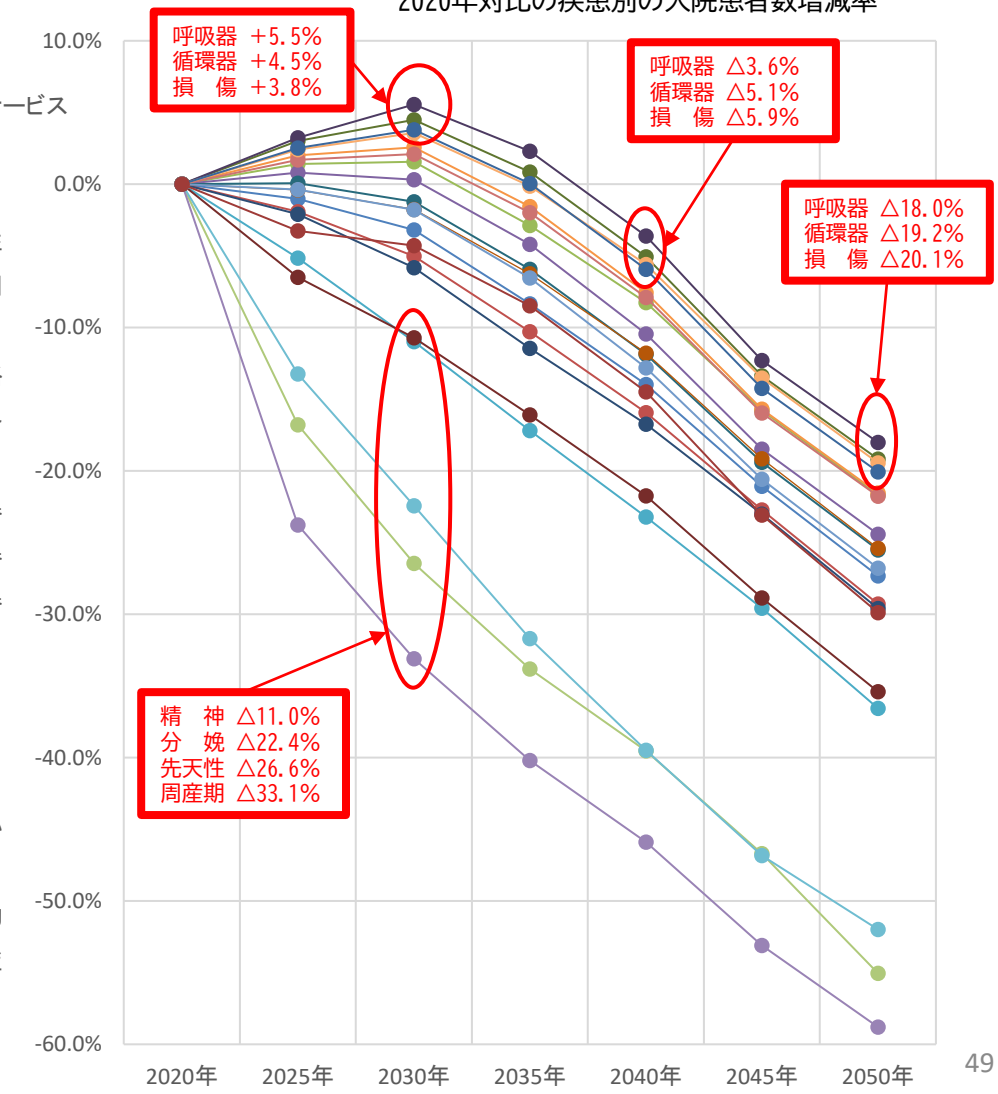
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

奥越

疾患別の入院患者数推計（人／日）



2020年対比の疾患別の入院患者数増減率



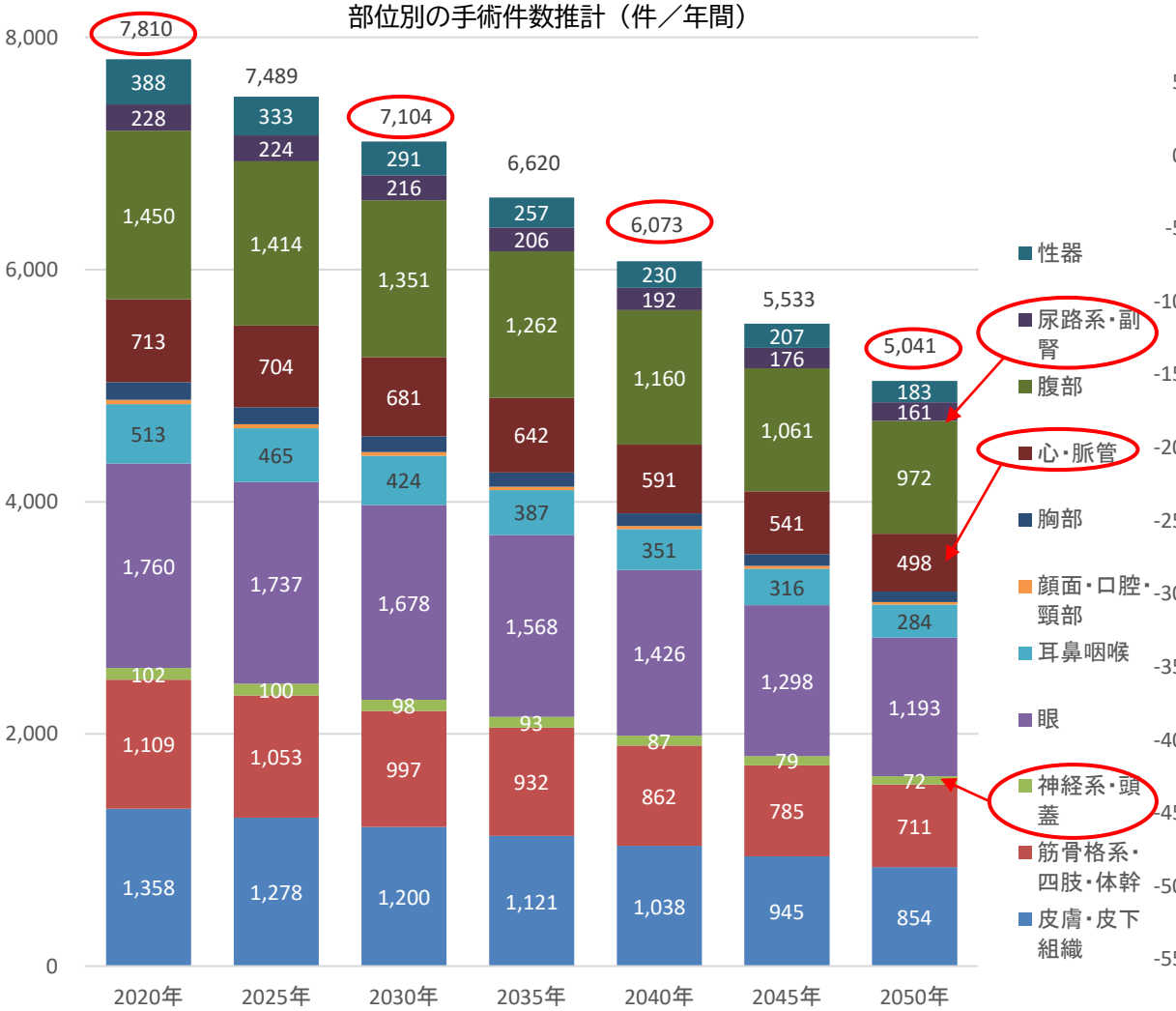
医療需要の推計 ～手術件数（奥越構想区域）～

・手術件数（需要）は、すでに減少傾向にあると推測
・部位別では、神経系・頭蓋、心・脈管、尿路系・副腎については、2030年（令和12年）の2020年（令和2年）対比の減少率は5%程度
・2040年（令和22年）には、全ての部位で2020年対比の減少率が15%を上回る。

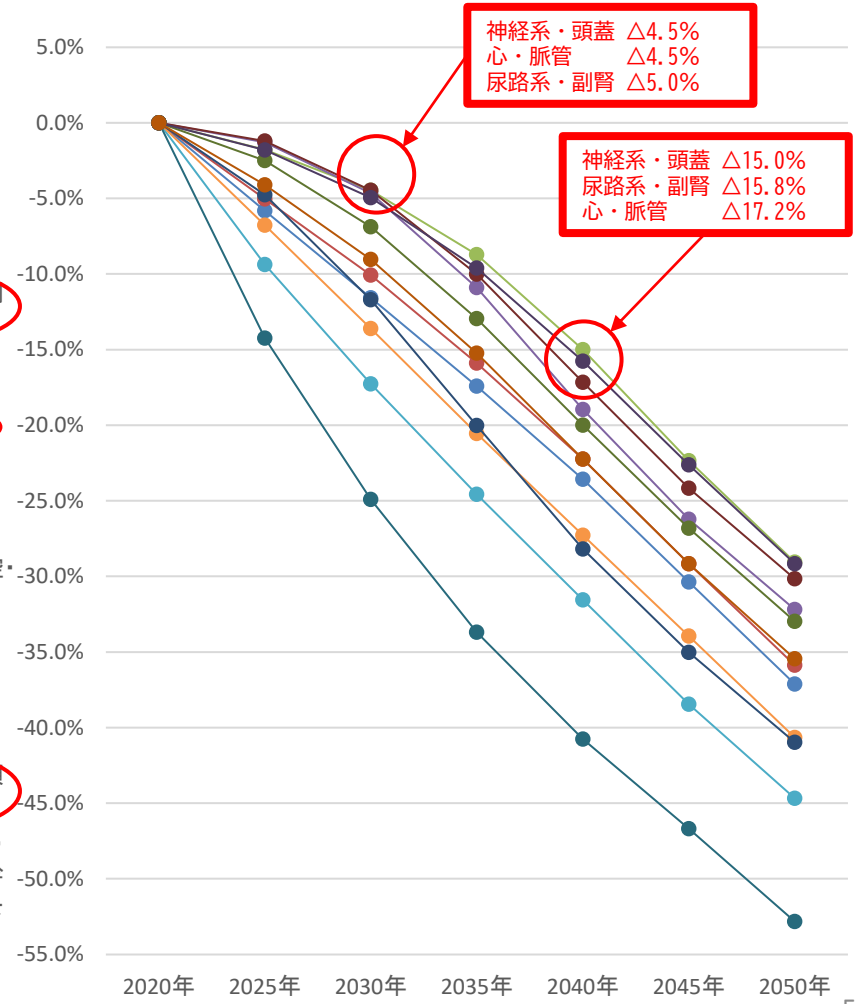
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、性年齢別の発生率について「令和元年10月1日推計人口」（総務省）、「第6回NDBオープンデータ（2019年4月～2020年3月）」（厚労省）をもとに推計

奥越

部位別の手術件数推計（件／年間）



2020年対比の部位別の手術件数増減率



医療需要の推計 ～救急搬送件数（奥越構想区域）～

・救急搬送件数（需要）は2020年（令和2年）以降すでに減少傾向にあると推測
・搬送件数は全ての年齢区分において減少。全体に占める高齢者の割合は、2050年（令和32年）に79.8%
・重症度別では、中等症および重症に比べ、65歳未満に多い軽傷の搬送が大きく減少

奥越

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、発生率について「救急救助の現況（2020年版、2019（令和元）年調査）」（消防庁）、「令和元年10月1日推計人口」（総務省）をもとに推計

急病の年齢区分別搬送の人数推計（人／年間）

急病の傷病程度別の人数推計（人／年間）

医療需要の推計　～往診、訪問診療（奥越構想区域）～

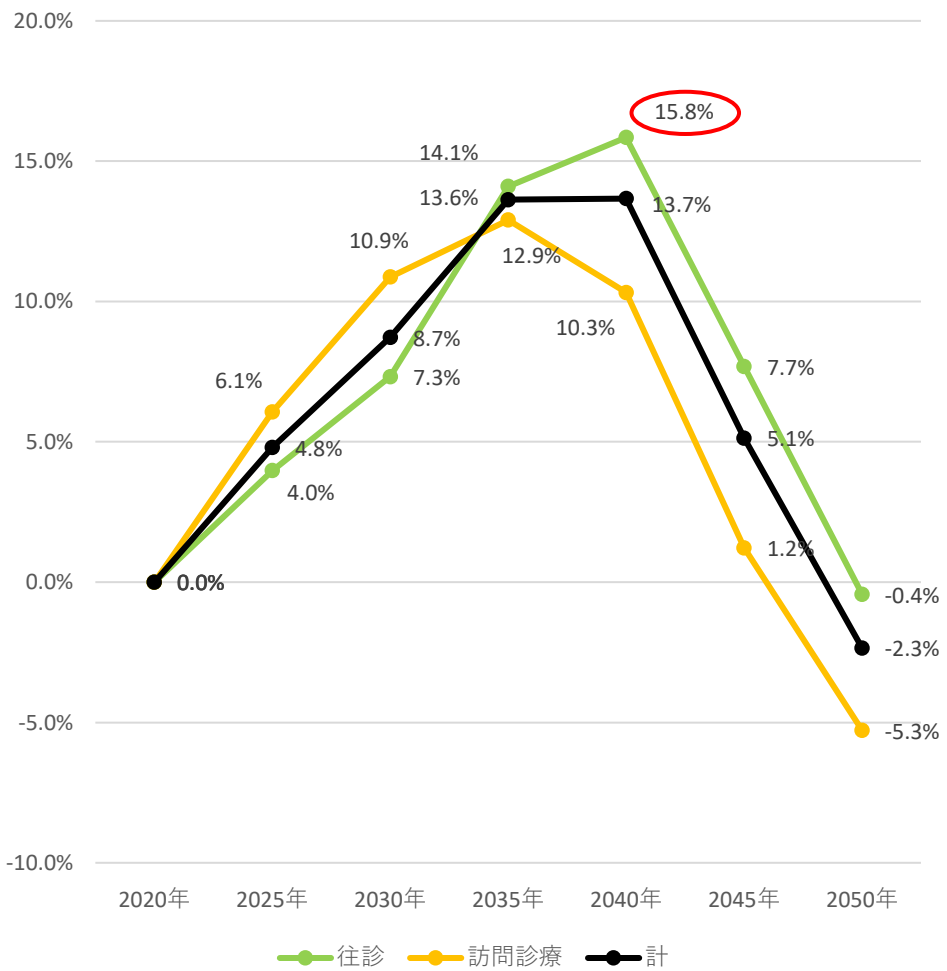
・往診、訪問診療（一日あたり）を必要とする患者数は2035年（令和17年）から2040年（令和22年）頃に最多となり、それ以降は減少する見込み
・85歳以上人口の増加に伴い、急な体調不良等に対応する往診を必要とする患者が特に増加する見込み

奥越

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

往診、訪問診療が必要な患者数推計（人／日）

2020年対比の往診、訪問診療が必要な患者数推計（人／日）



介護需要の推計～要介護・要支援認定者数（奥越構想区域）～

・要介護・要支援認定者数は2020年（令和2年）から2040年（令和22年）にかけて11%程度増加。その後は減少し、2050年（令和32年）には2020年を下回る見込み
・このうち、要介護者は2020年から2040年にかけて12%程度増加する見込み

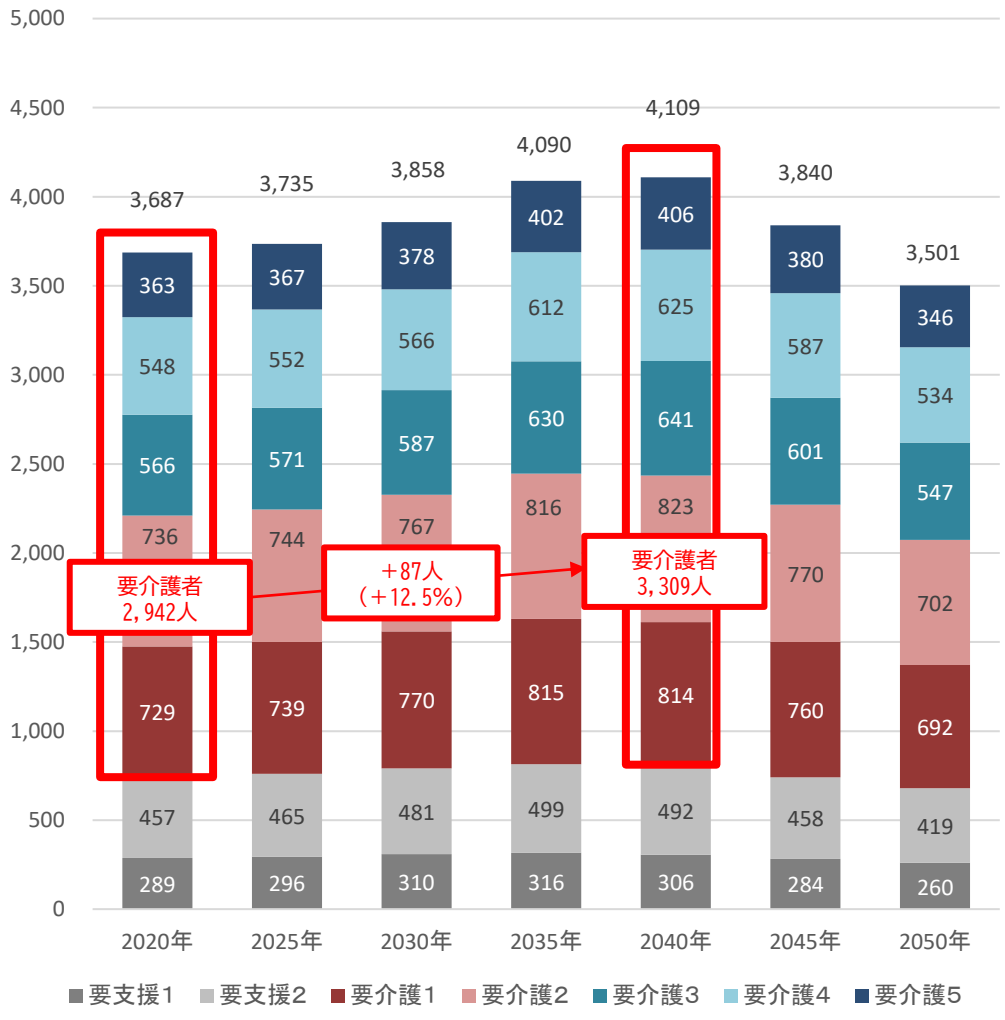
※令和6年3月に策定した「福井県高齢者福祉計画 福井県介護保険事業支援計画」では、市町の推計をもとに2040年までの見込を記載している。この資料では、左記の出典をもとに2050年までの推計を行ったため、前記の計画とは数字が一致しない点に注意

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、発生率について「令和元年度介護事業状況報告（年報）都道府県別要介護（要支援）認定者数」（厚生労働省）、「令和元年10月1日推計人口」（総務省）をもとに推計

奥越

年齢区分別の要介護・要支援認定者数の推計（人）

要介護度別の要介護・要支援認定者数の推計（人）



医療・介護需要推計 ～死亡者数（奥越構想区域）～

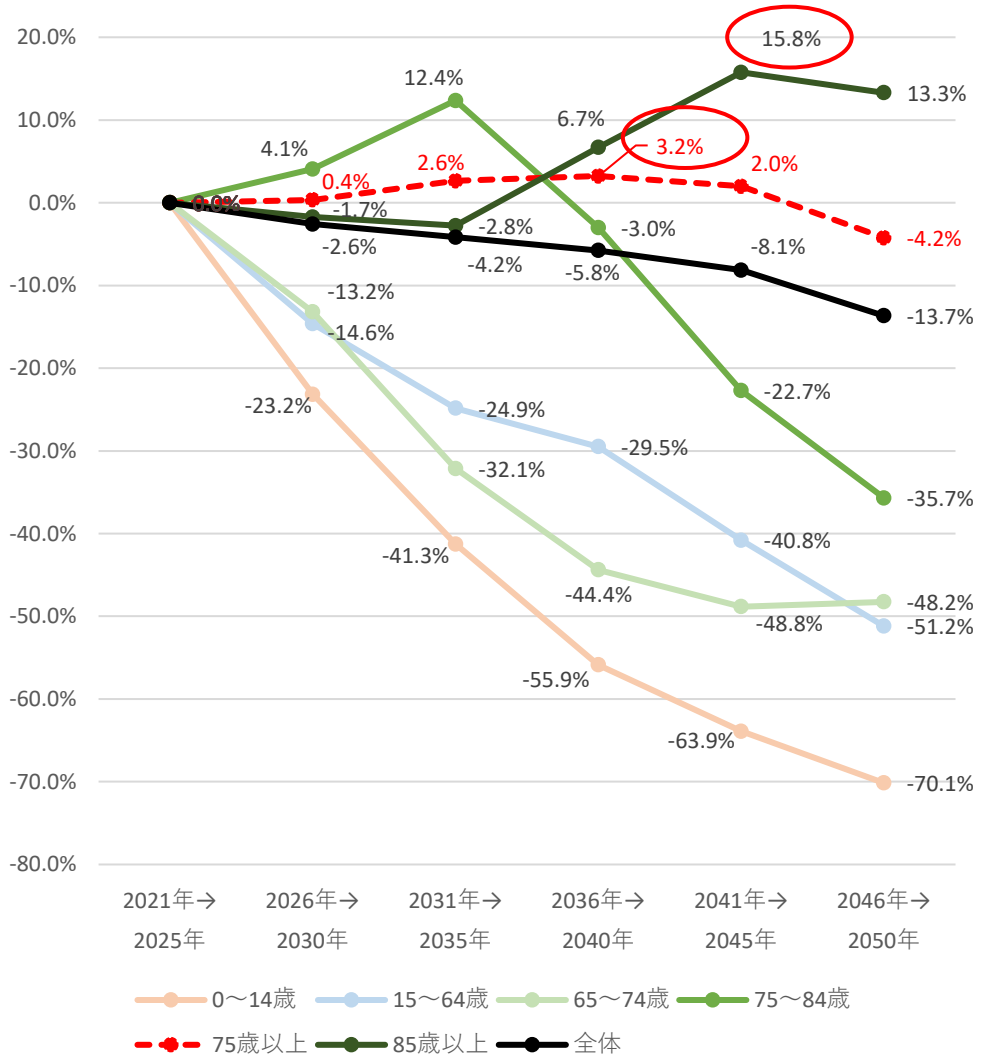
・死亡者数はここ数年間がピークであり、現在、看取り需要が多くなっていると推測。
・後期高齢者（75歳以上）の死亡者数は2040年（令和22年）頃、85歳以上の死亡者数は2045年（令和27年）頃まで増加する見込み

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）
「人口動態統計」（2016年（H28）～2020年（R2））（厚生労働省）は実数

奥越

年齢区分別の死亡者数（5年間）

2021→2025年の5年間と対比した年齢区分別の死亡者増減率



医療・介護需要の推計（奥越構想区域）　主なもの

2020年に比べて増加する指標はオレンジ色網掛け

	2020年（令和2年）	2030年（令和12年）	2040年（令和22年）	2050年（令和32年）
人口（全体）	53,436 人	45,045 人	37,244 人	29,970 人
人口（85歳以上）	4,160 人	4,187 人	5,251 人	4,520 人
人口（75歳以上）	10,566 人	12,036 人	11,157 人	9,571 人
人口（65歳以上）	20,023 人	19,072 人	17,065 人	14,816 人
高齢化率	37.5 %	42.3 %	45.8 %	49.4 %
外来患者数	3,100 人	2,755 人	2,369 人	1,957 人
2020年対比で 増加する主な疾患	—	なし	なし	なし
入院患者数	757 人	750 人	671 人	566 人
2020年対比で 増加する主な疾患	—	呼吸器 ＋5.5% 循環器 ＋4.5% 損　傷 ＋3.8%	なし	なし
手術件数	7,810 人	7,104 人	6,073 人	5,041 人
2020年対比で 増加する部位	—	なし	なし	なし
救急搬送件数	1,922 人	1,727 人	1,499 人	1,261 人
救急搬送件数（65歳以上）	1,360 人	1,296 人	1,159 人	1,006 人
救急搬送件数に占める高齢者（65歳以上）の割合	70.8 %	75.0 %	77.3 %	79.8 %
訪問診療が必要な患者数	17.7 人	19.6 人	19.5 人	16.7 人
往診が必要な患者数	27.1 人	29.1 人	31.4 人	27.0 人
要介護認定者数	2,942 人	3,068 人	3,309 人	2,821 人
死亡者数　（各年までの5か年）	4,305 人	4,251 人	4,112 人	3,767 人

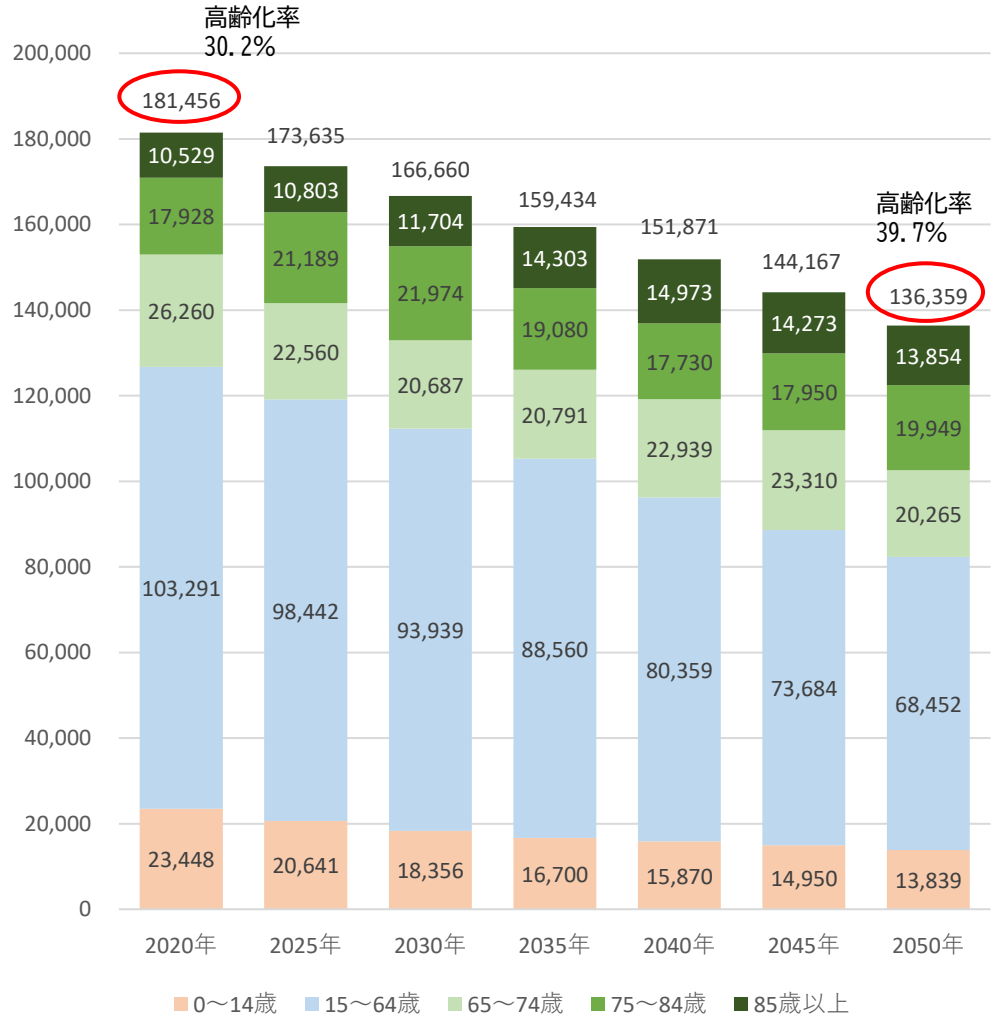
将来推計人口（丹南構想区域）

・人口は2020年（令和2年）から2050年（令和32年）にかけて減少（181,456人→136,359人、△45,097人、△24.9%）
・後期高齢者（75歳以上）は2030年（令和12年）まで増加し、その後は減少。団塊ジュニア世代が後期高齢者となる2050年には再び増加
・85歳以上人口は2040年（令和22年）には2020年対比42.2%増加
・高齢化率（65歳以上人口割合）は2020年30.2%から2050年39.7%へ上昇

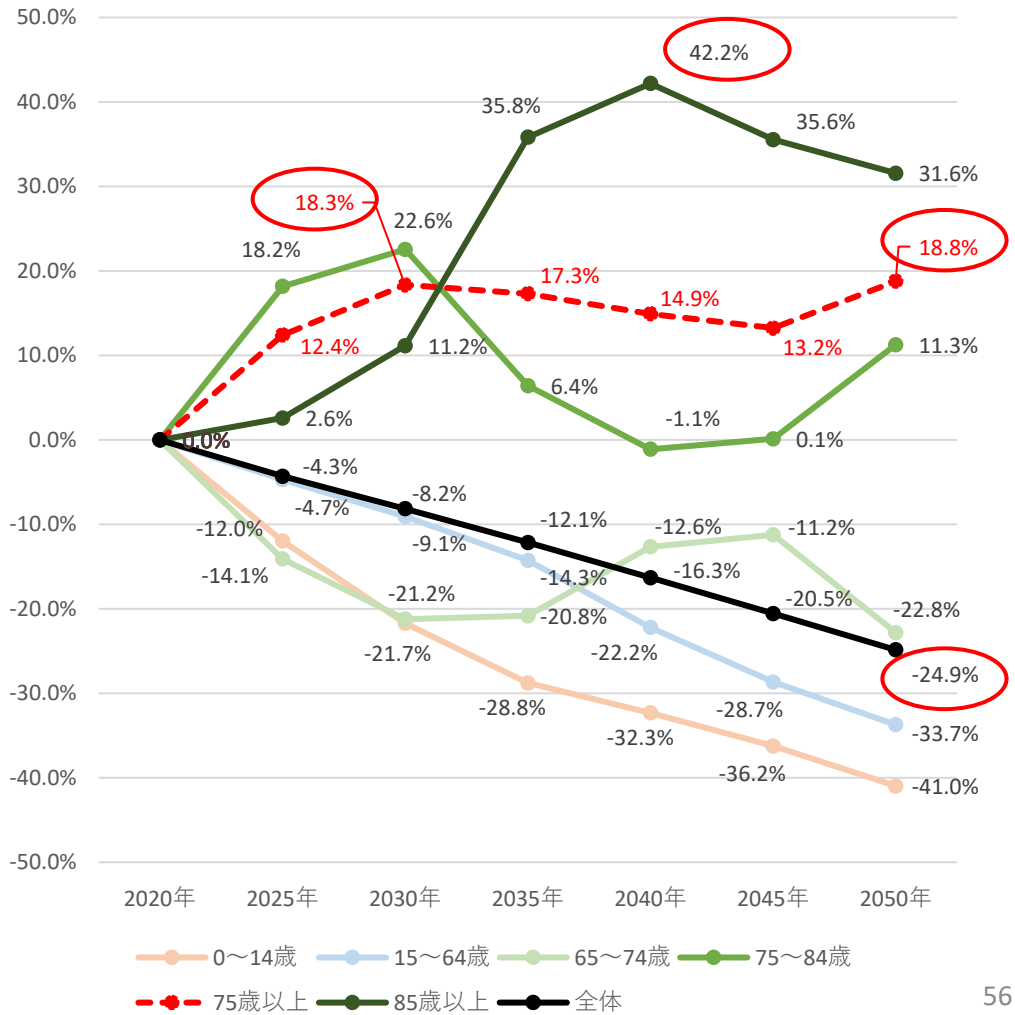
丹南

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）

年齢区分別の人口推計



2020年対比の年齢区分別の人口増減率



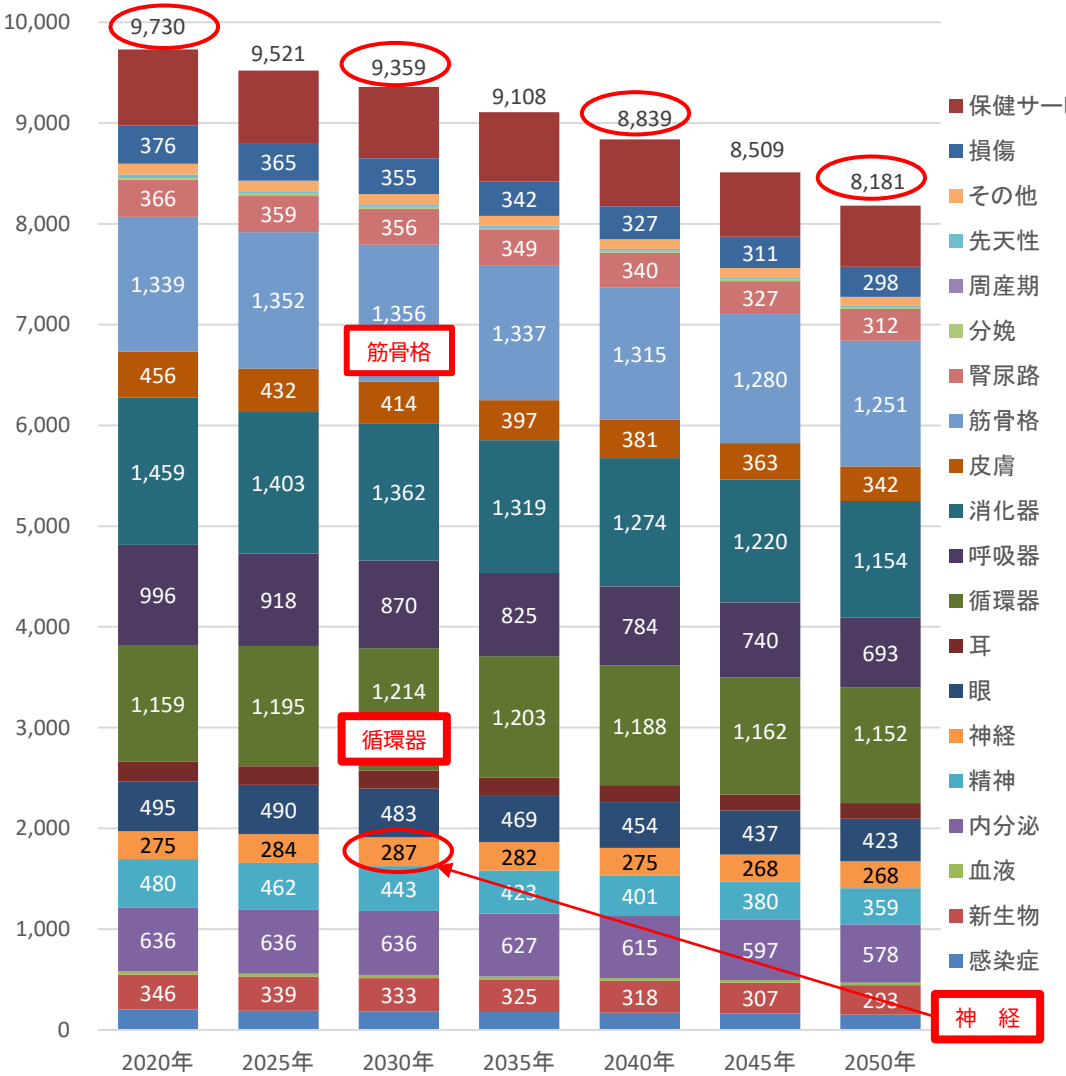
医療需要の推計 ～外来患者数（丹南構想区域）～

・外来患者数（需要）は、すでに減少していると推測
・ただし、高齢化に 伴い増加する疾患（循環器系（心疾患、脳梗塞等）、神経系（末梢神経障害等）、筋骨格系（関節症、脊椎障害等）など）では、2030年（令和12年）頃までは外来患者数が増加し、2040年（令和22年）頃までは2020年（令和2年）を上回る状況が続く見込み。

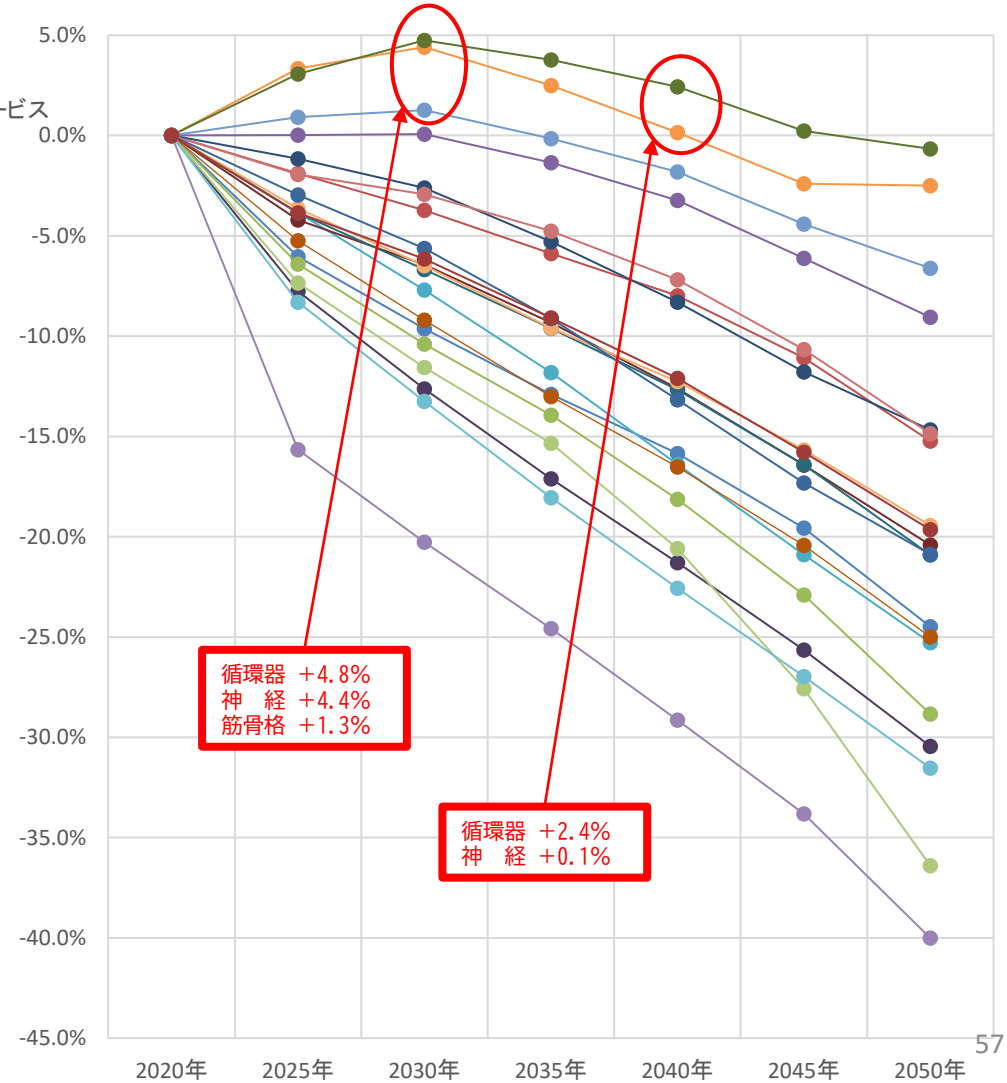
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

丹南

疾患別の外来患者数推計（人／日）



2020年対比の疾患別の外来患者数増減率



医療需要の推計 ～入院患者数（丹南構想区域）～

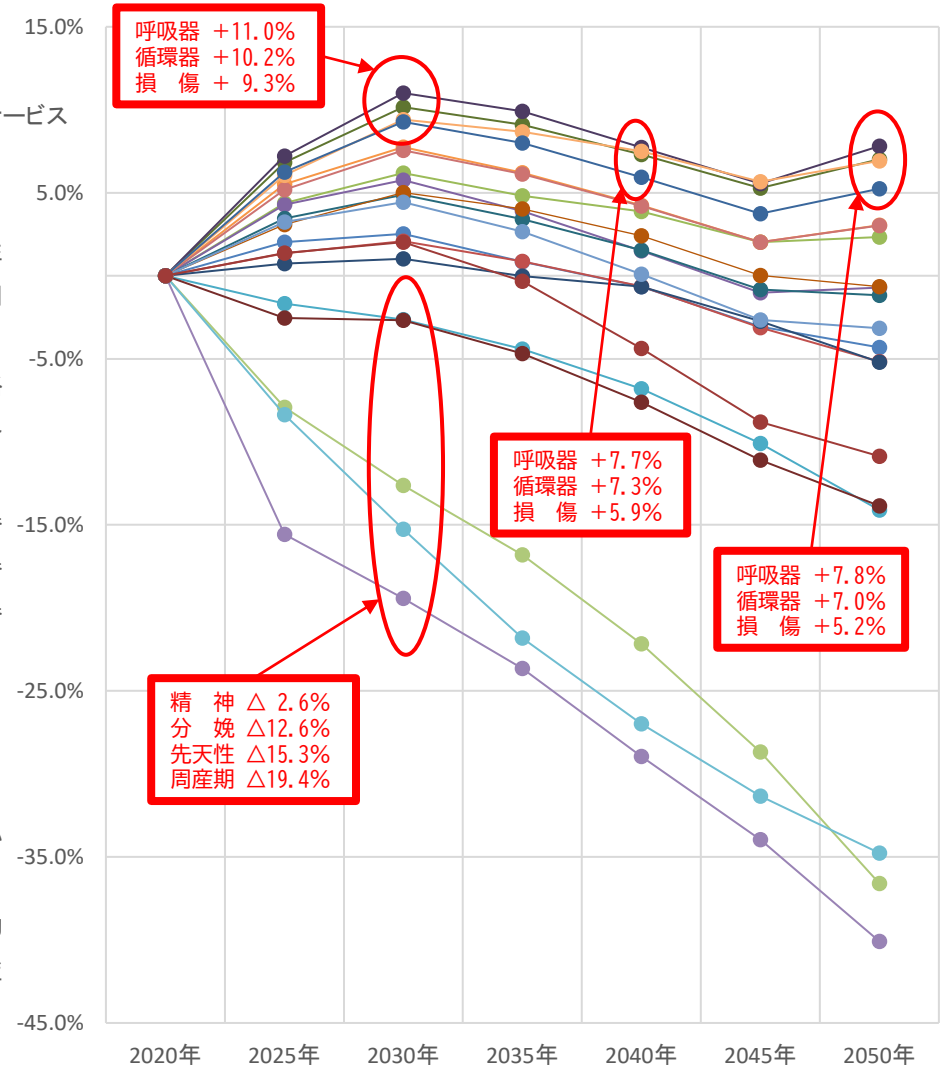
・入院患者数（需要）は、2030年（令和12年）頃まで増加し、高齢化に伴い増加する疾患（呼吸器系、循環器系（心疾患、脳梗塞等）、損傷（骨折等）など）では、2020年（令和2年）対比で5～10%程度の増加が2050年（令和32年）まで続く見込み。
・2030年以降、入院患者数は減少するものの、2050年までは2020年と同程度の入院患者数が続く見込み。

丹南

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

疾患別の入院患者数推計（人／日）

2020年対比の疾患別の入院患者数増減率



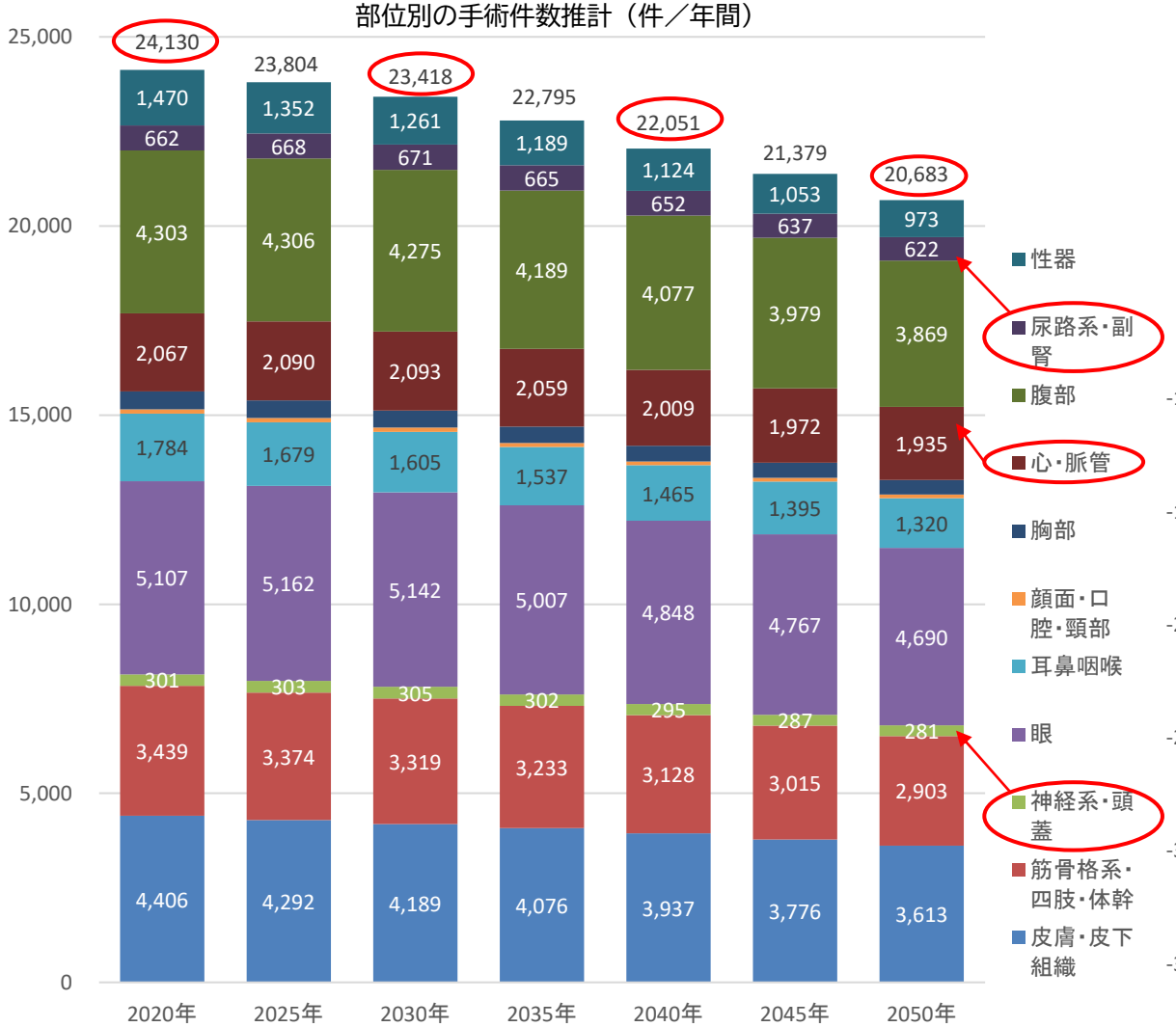
医療需要の推計 ～手術件数（丹南構想区域）～

・手術件数（需要）は、すでに減少傾向にあると推測
・部位別では、神経系・頭蓋、心・脈管、尿路系・副腎については2030年（令和12年）頃までは微増し、それ以降は全ての部位で減少

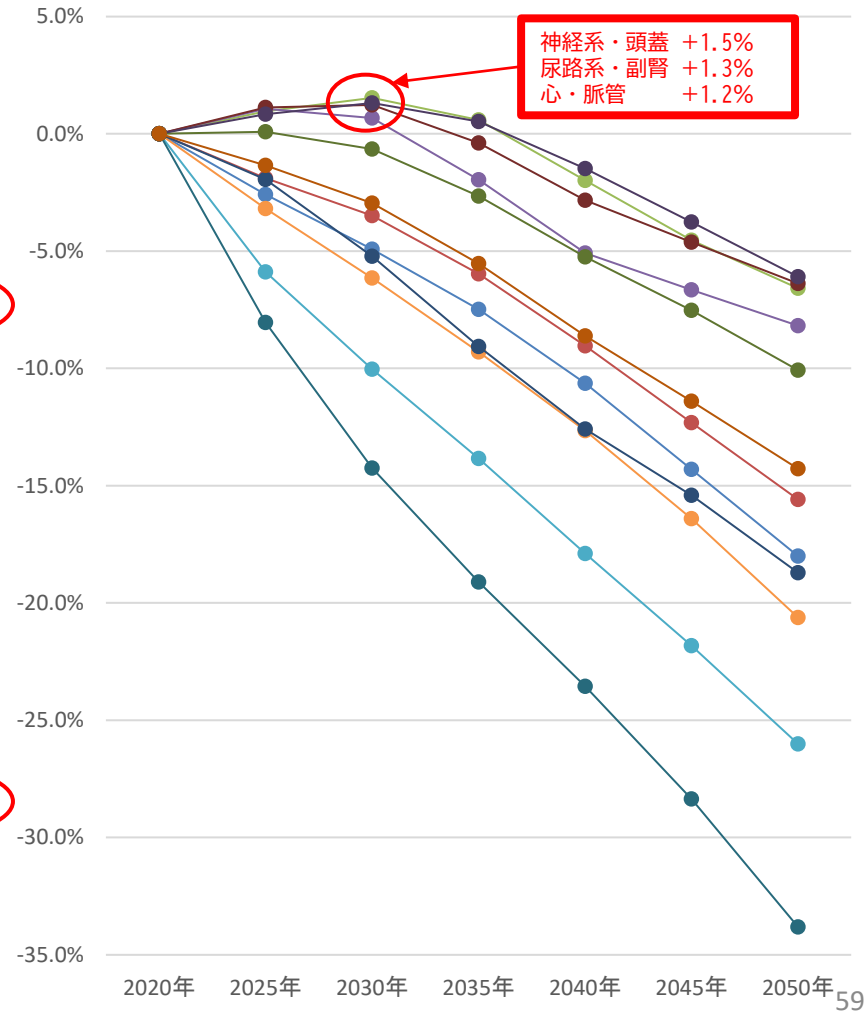
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、性年齢別の発生率について「令和元年10月1日推計人口」（総務省）、「第6回NDBオープンデータ（2019年4月～2020年3月）」（厚労省）をもとに推計

丹南

部位別の手術件数推計（件／年間）



2020年対比の部位別の手術件数増減率

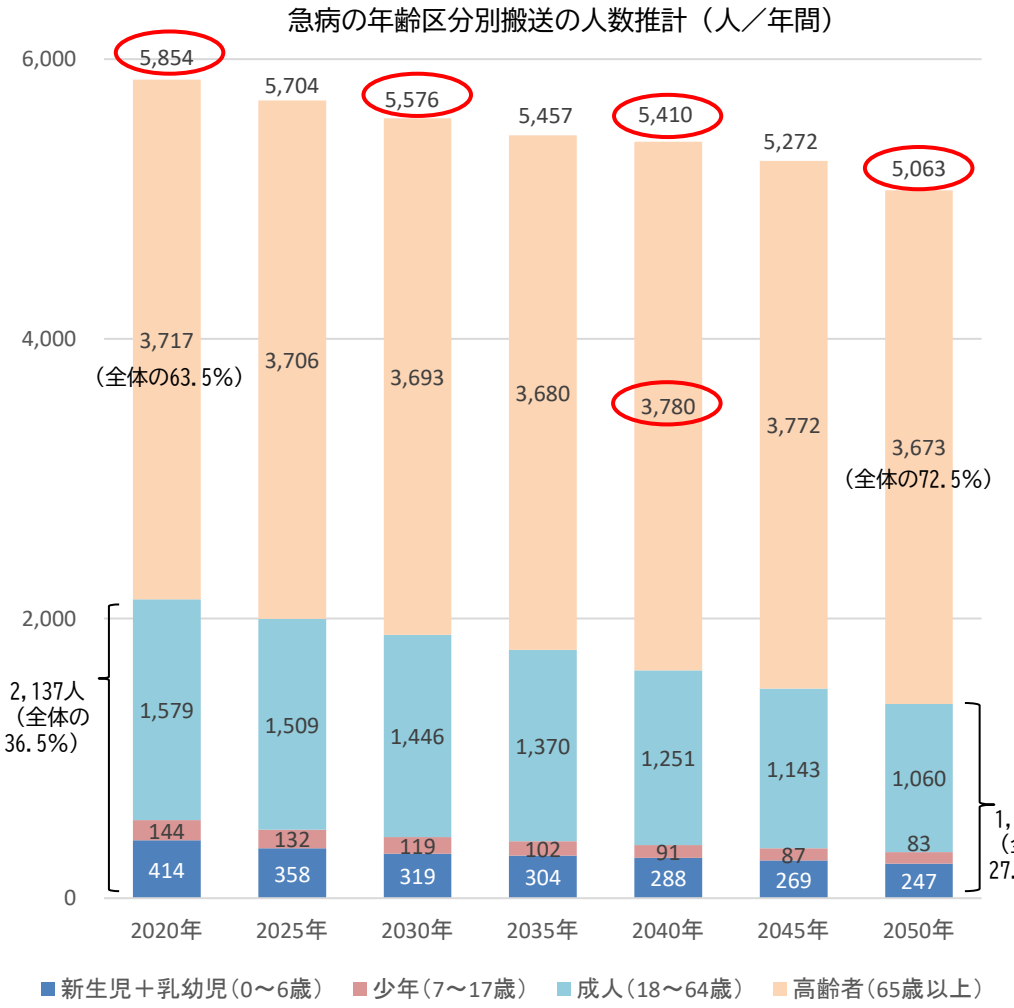


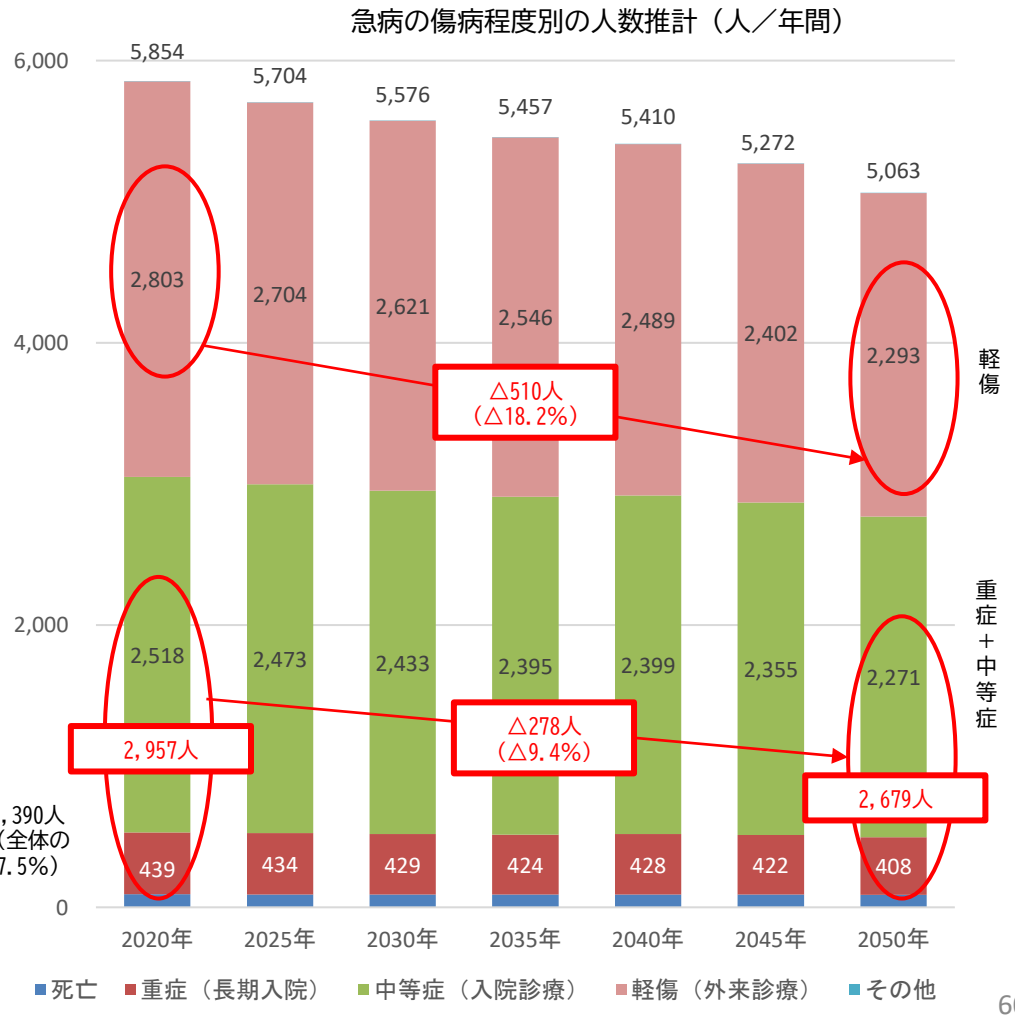
医療需要の推計 ～救急搬送件数（丹南構想区域）～

・救急搬送件数（需要）は2020年（令和2年）以降すでに減少傾向にあると推測
・高齢者の搬送件数は、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年（令和22年）頃に最多となる見込み
・重症度別では、中等症および重症に比べ、65歳未満に多い軽傷の搬送が大きく減少

丹南

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、発生率について「救急救助の現況（2020年版、2019（令和元）年調査）」（消防庁）、「令和元年10月1日推計人口」（総務省）をもとに推計





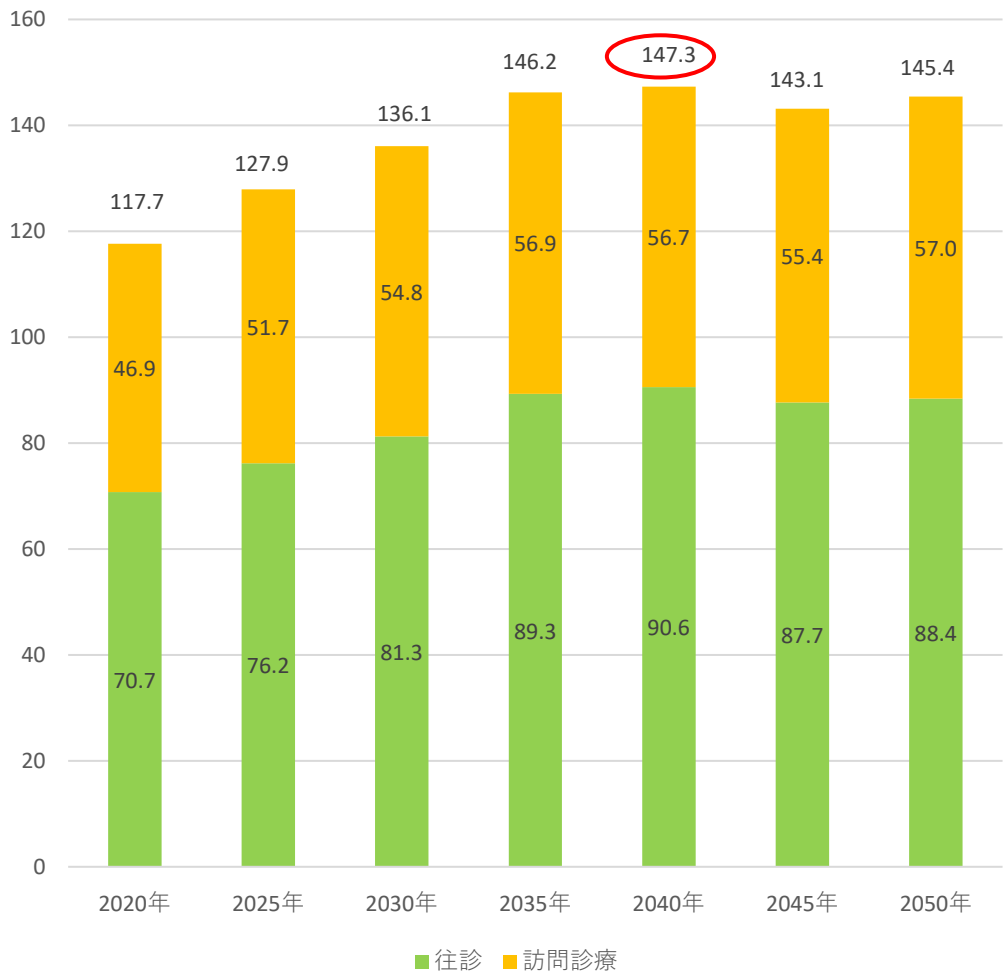
医療需要の推計　～往診、訪問診療（丹南構想区域）～

・往診、訪問診療（一日あたり）を必要とする患者数は2040年（令和22年）頃にかけて増加し、それ以降も同程度の患者数がある見込み
・85歳以上人口の増加に伴い、急な体調不良等に対応する往診を必要とする患者が特に増加する見込み

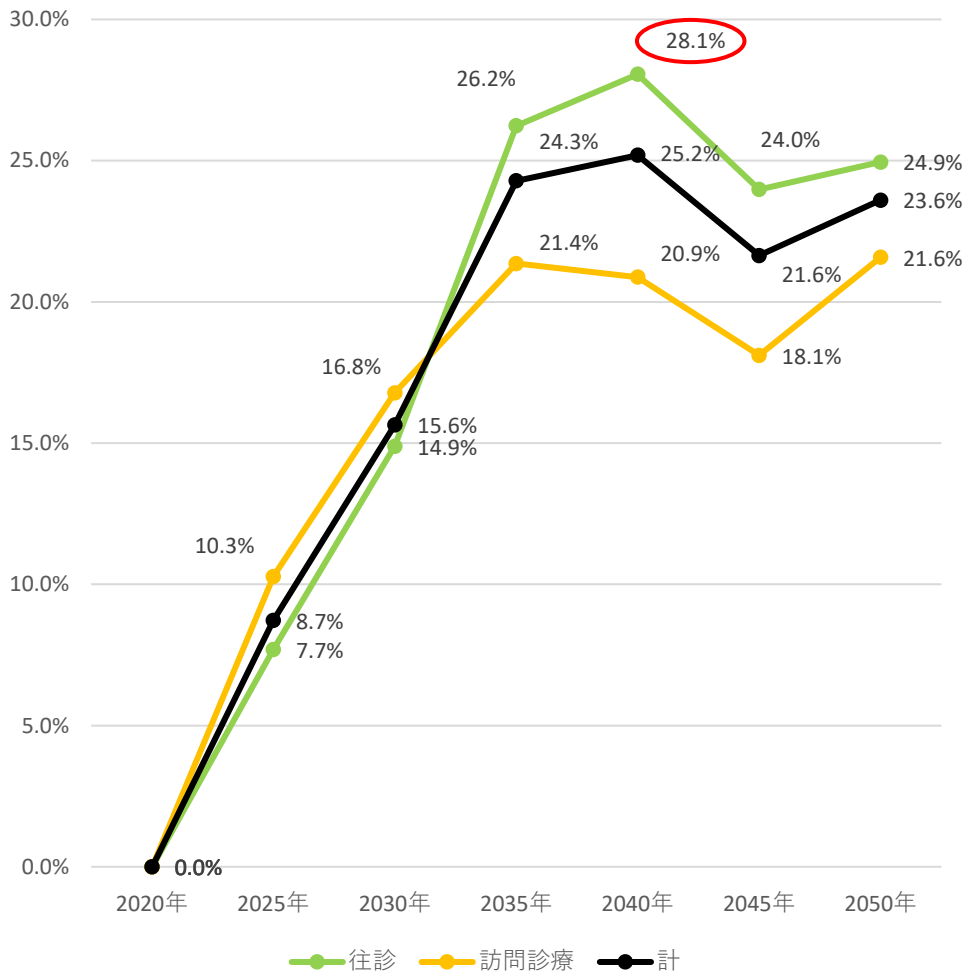
丹南

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

往診、訪問診療が必要な患者数推計（人／日）



2020年対比の往診、訪問診療が必要な患者数推計（人／日）



介護需要の推計～要介護・要支援認定者数（丹南構想区域）～

・要介護･要支援認定者数は2020年(令和2年)から2040年(令和22年)にかけて24%程度増加する見込み
・このうち、要介護者は2020年から2040年にかけて25%程度増加する見込み

※令和6年3月に策定した「福井県高齢者福祉計画 福井県介護保険事業支援計画」では、市町の推計をもとに2040年までの見込を記載している。この資料では、左記の出典をもとに2050年までの推計を行ったため、前記の計画とは数字が一致しない点に注意

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、発生率について「令和元年度介護事業状況報告（年報）都道府県別要介護（要支援）認定者数」（厚生労働省）、「令和元年10月1日推計人口」（総務省）をもとに推計

丹南

年齢区分別の要介護・要支援認定者数の推計（人）

要介護度別の要介護・要支援認定者数の推計（人）

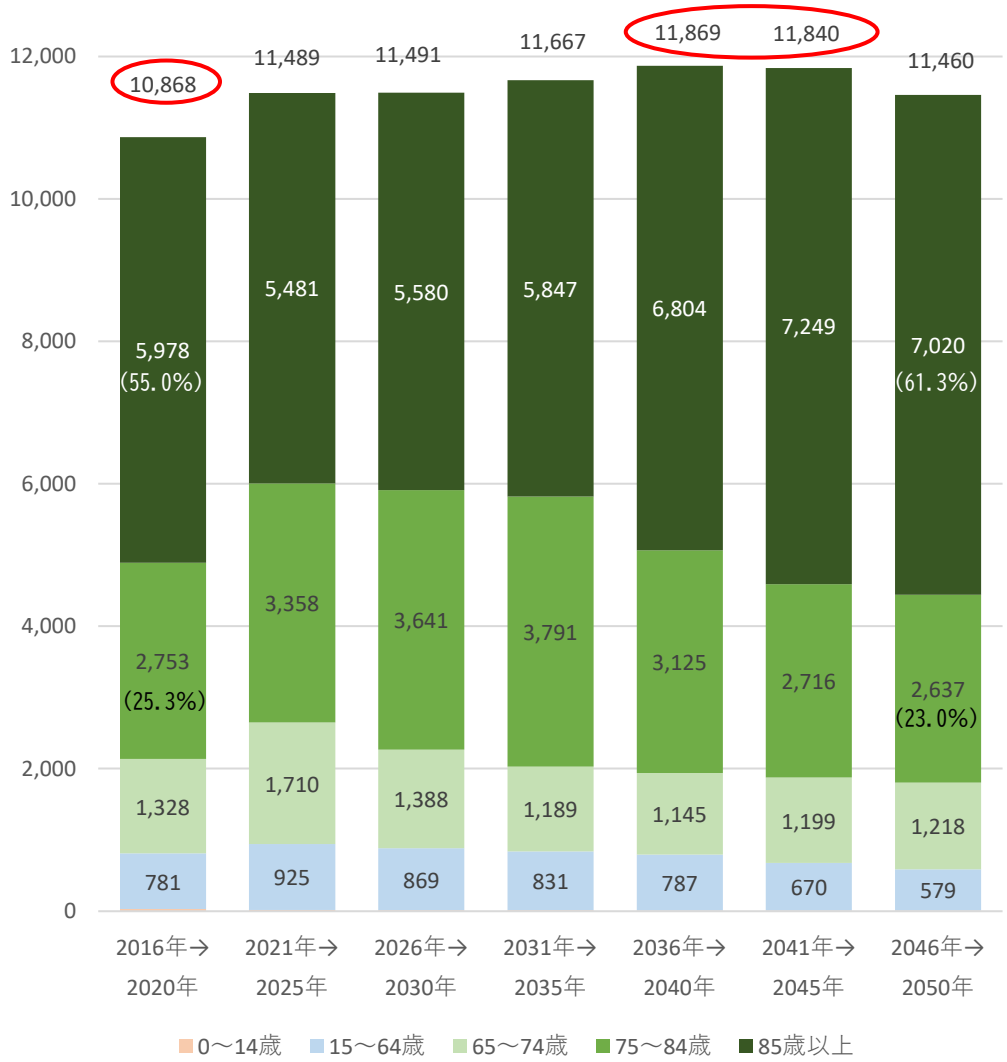
医療・介護需要推計 ～死亡者数（丹南構想区域）～

・死亡者数は2040年（令和22年）頃に最多となり、今後、看取り需要が増えると推測される。
・後期高齢者（75歳以上）、とくに85歳以上の死亡者数は2045年（令和27年）頃まで増加する見込み

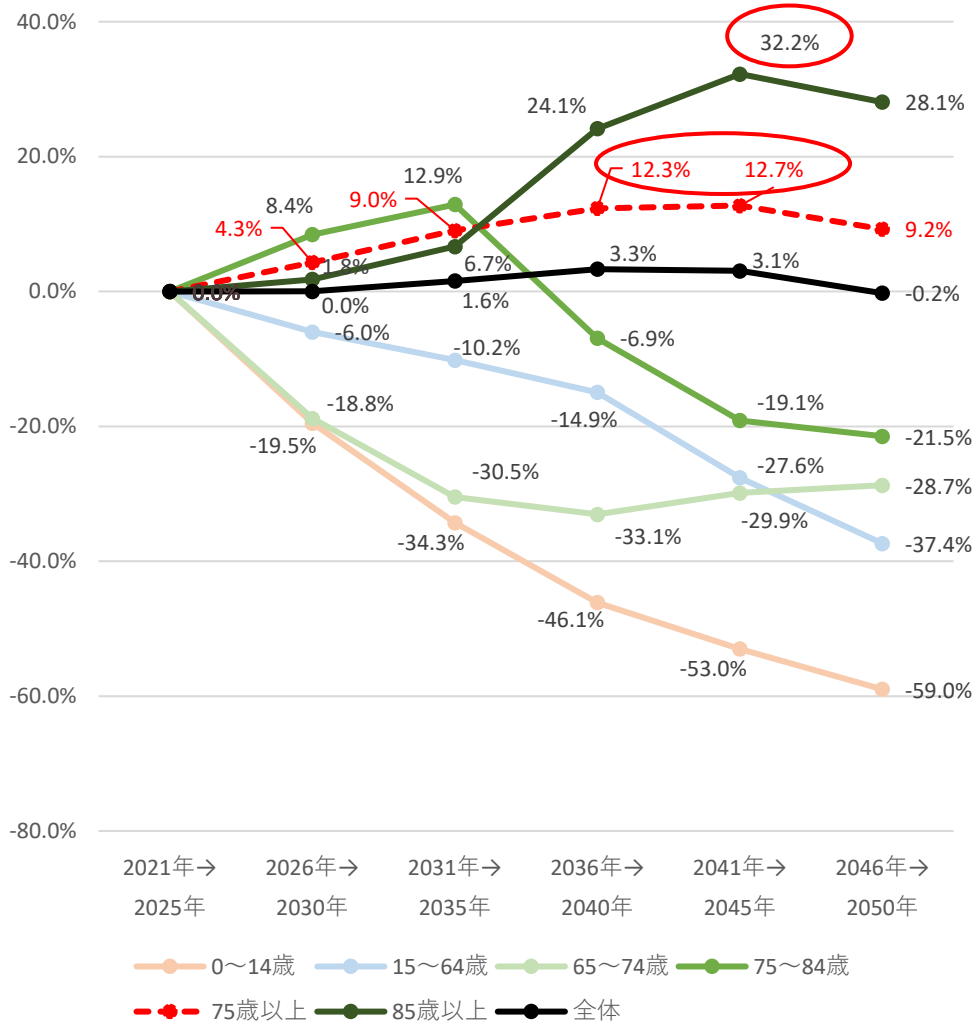
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）
「人口動態統計」（2016年（H28）～2020年（R2））（厚生労働省）は実数

丹南

年齢区分別の死亡者数（5年間）



2021→2025年の5年間と対比した年齢区分別の死亡者増減率



医療・介護需要の推計（丹南構想区域）　主なもの

2020年に比べて増加する指標はオレンジ色網掛け

	2020年（令和2年）	2030年（令和12年）	2040年（令和22年）	2050年（令和32年）
人口（全体）	181,456 人	166,660 人	151,871 人	136,359 人
人口（85歳以上）	10,529 人	11,704 人	14,973 人	13,854 人
人口（75歳以上）	28,457 人	33,678 人	32,703 人	33,803 人
人口（65歳以上）	54,717 人	54,365 人	55,642 人	54,068 人
高齢化率	30.2 %	32.6 %	36.6 %	39.7 %
外来患者数	9,730 人	9,359 人	8,839 人	8,181 人
2020年対比で 増加する主な疾患	—	循環器 ＋4.8% 神　経 ＋4.4% 筋骨格 ＋1.3%	循環器 ＋2.4% 神　経 ＋0.1%	なし
入院患者数	2,211 人	2,328 人	2,250 人	2,188 人
2020年対比で 増加する主な疾患	—	呼吸器＋11.0% 循環器＋10.2% 損　傷 ＋9.3%	呼吸器 ＋7.7% 循環器 ＋7.3% 損　傷 ＋5.9%	呼吸器 ＋7.8% 循環器 ＋7.0% 損　傷 ＋5.2%
手術件数	24,130 人	23,418 人	22,051 人	20,683 人
2020年対比で 増加する部位	—	神経系・頭蓋＋1.5% 尿路系・副腎＋1.3% 心・脈管＋1.2%	なし	なし
救急搬送件数	5,854 人	5,576 人	5,410 人	5,063 人
救急搬送件数（65歳以上）	3,717 人	3,693 人	3,780 人	3,673 人
救急搬送件数に占める高齢者（65歳以上）の割合	63.5 %	66.2 %	69.9 %	72.5 %
訪問診療が必要な患者数	46.9 人	54.8 人	56.7 人	57.0 人
往診が必要な患者数	70.7 人	81.3 人	90.6 人	88.4 人
要介護認定者数	7,698 人	8,694 人	9,662 人	9,278 人
死亡者数　（各年までの5か年）	10,868 人	11,491 人	11,869 人	11,460 人

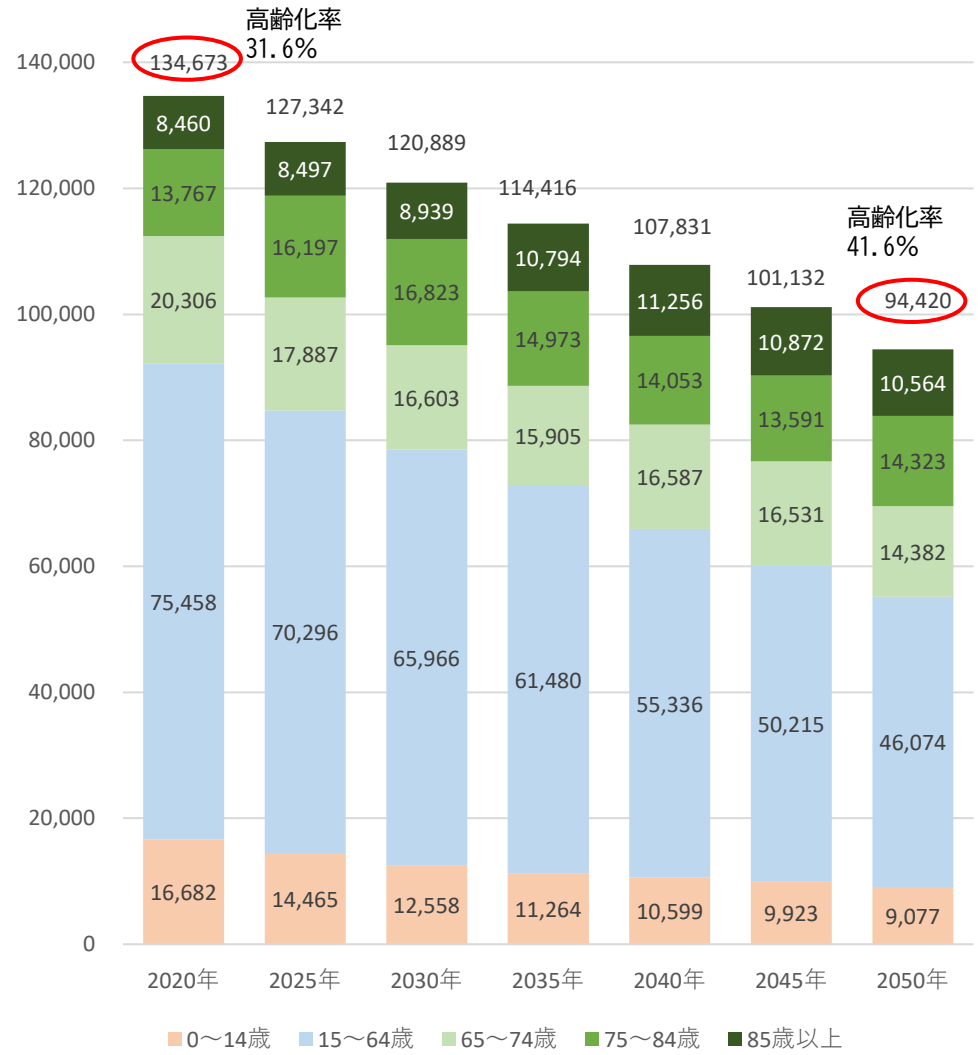
将来推計人口（嶺南構想区域）

・人口は2020年（令和2年）から2050年（令和32年）にかけて減少（134,673人→94,420人、△40,253人、△29.9%）
・後期高齢者（75歳以上）は2035年（令和17年）まで増加し、その後は減少。団塊ジュニア世代が後期高齢者となる2050年には再び増加
・高齢化率（65歳以上人口割合）は2020年31.6%から2050年41.6%へ上昇

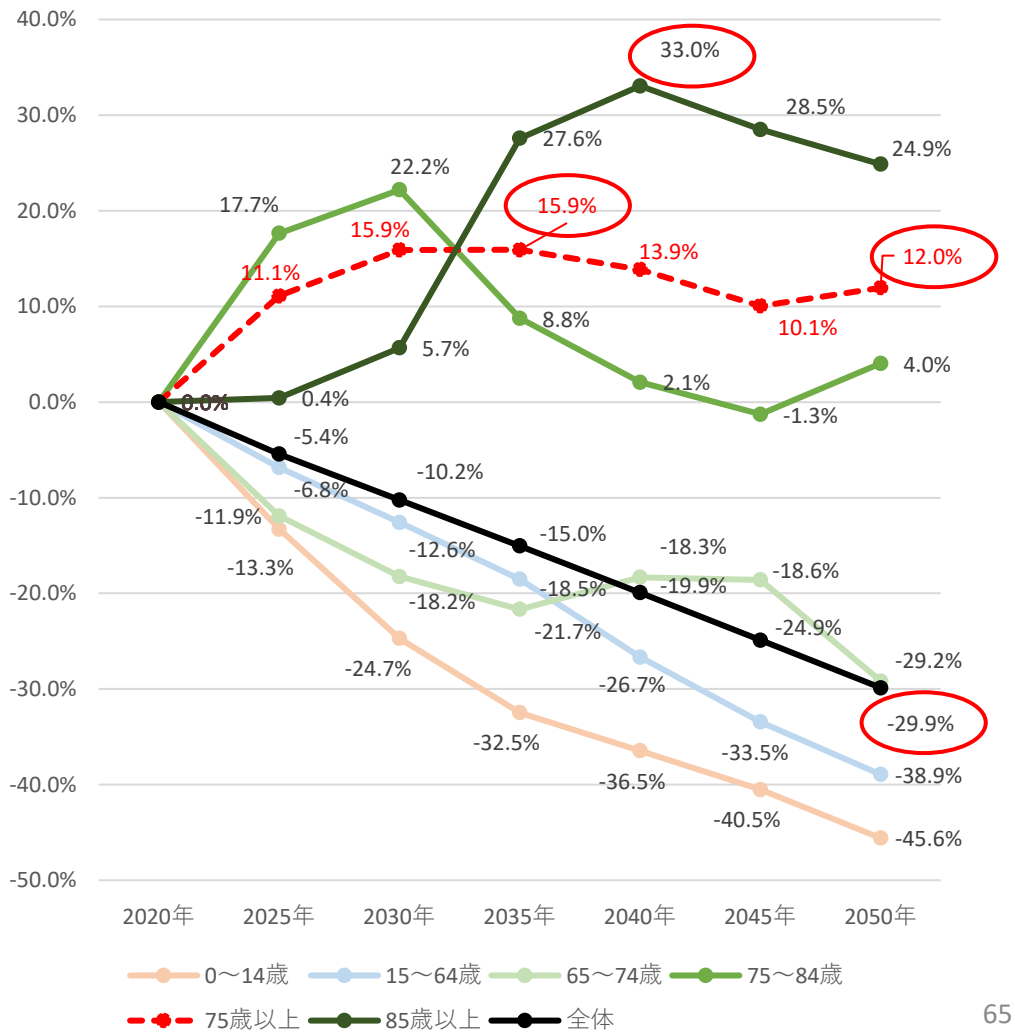
嶺南

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）

年齢区分別の人口推計



2020年対比の年齢区分別の人口増減率



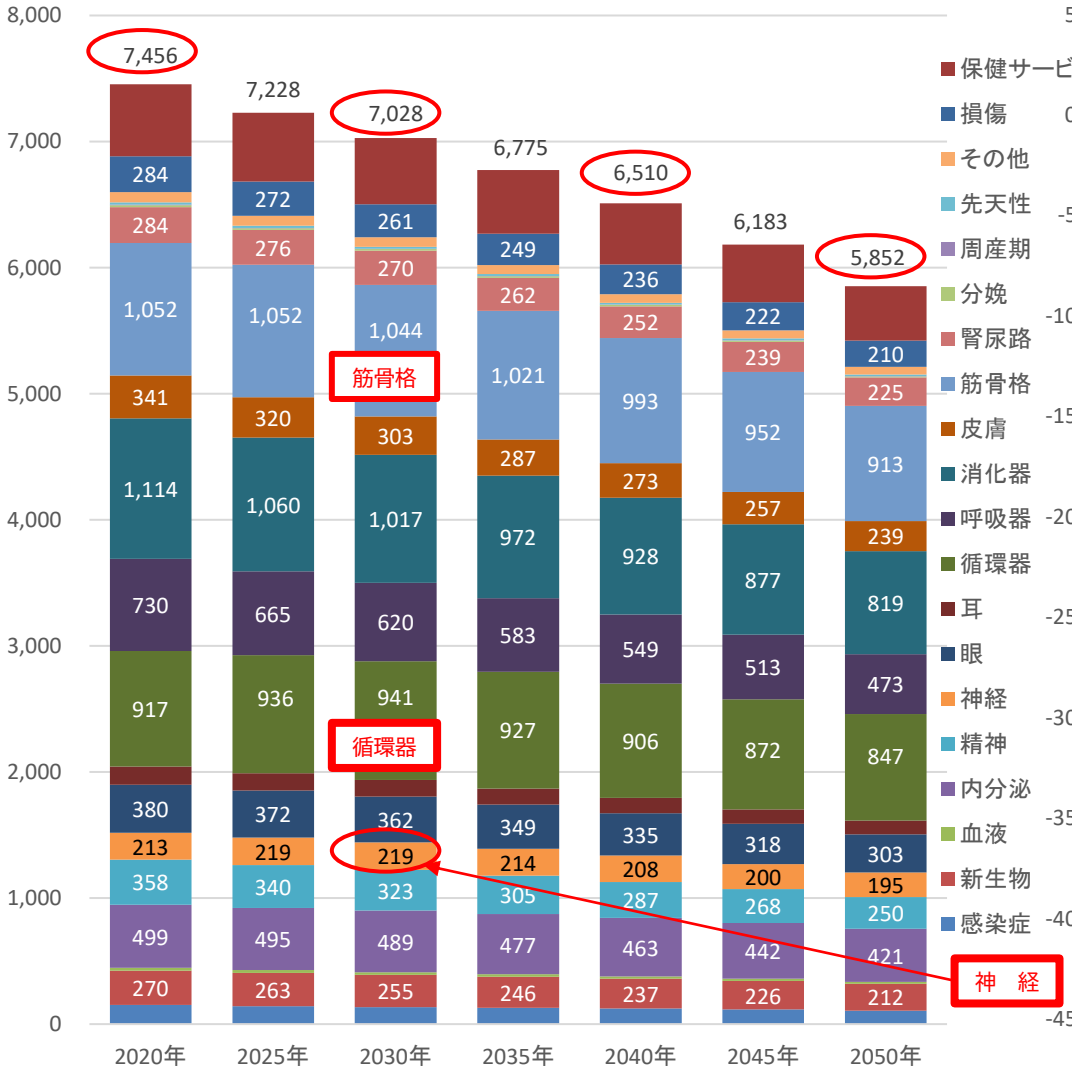
医療需要の推計 ～外来患者数（嶺南構想区域）～

・外来患者数（需要）は、すでに減少していると推測
・ただし、高齢化に 伴い増加する疾患（循環器系（心疾患、脳梗塞等）、神経系（末梢神経障害等）では、2030年（令和12年）頃までは外来患者数が増加し、2040年（令和22年）頃までは減少率が小さい見込み

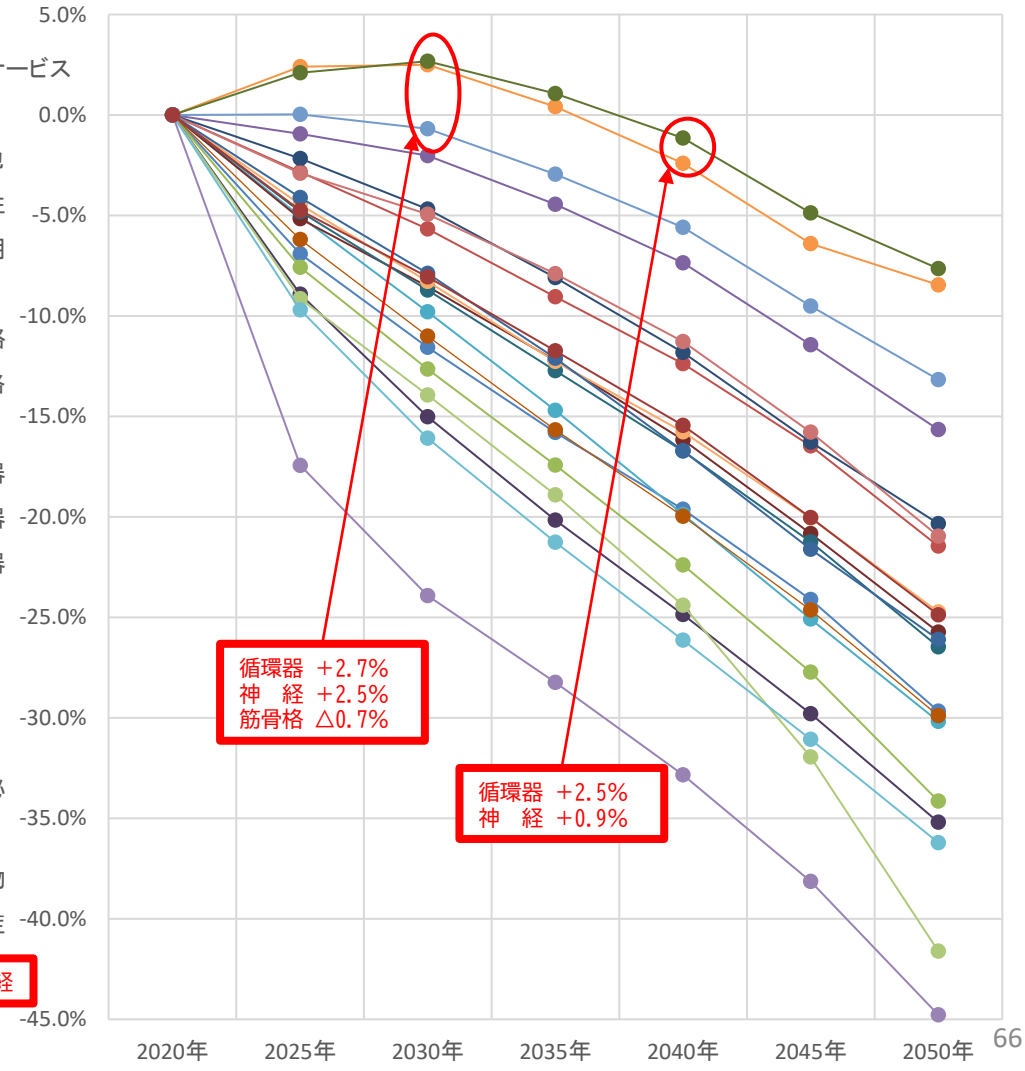
嶺南

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

疾患別の外来患者数推計（人／日）



2020年対比の疾患別の外来患者数増減率



医療需要の推計 ～入院患者数（嶺南構想区域）～

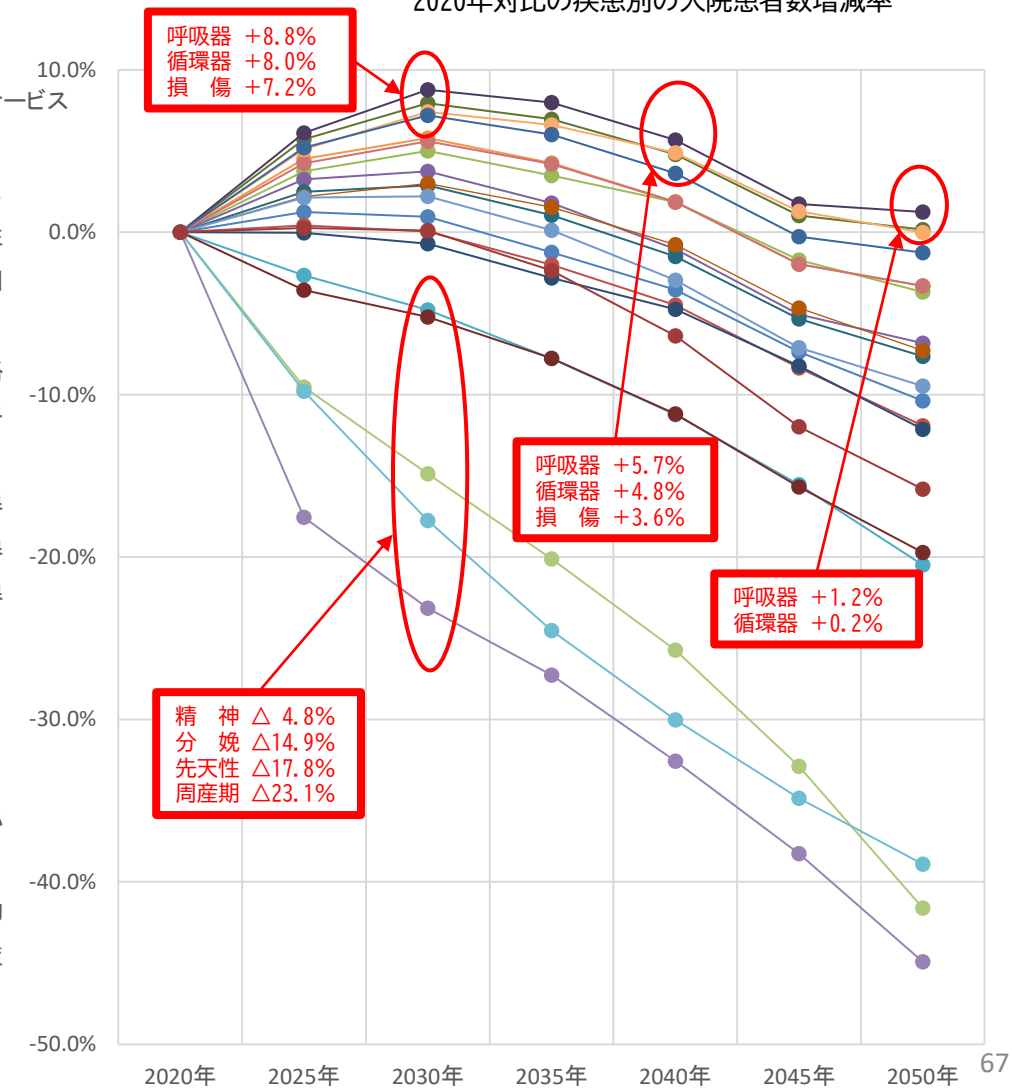
・入院患者数（需要）は、2030年（令和12年）頃まで増加し、高齢化に伴い増加する疾患（呼吸器系、循環器系（心疾患、脳梗塞等）、損傷（骨折等）など）では、2020年（令和2年）対比10%近く増加する見込み。
・2030年以降、入院患者数は減少するものの、呼吸器系、循環器系（心疾患、脳梗塞等）では、2020年と同程度の患者数の見込み

嶺南

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

疾患別の入院患者数推計（人／日）

2020年対比の疾患別の入院患者数増減率



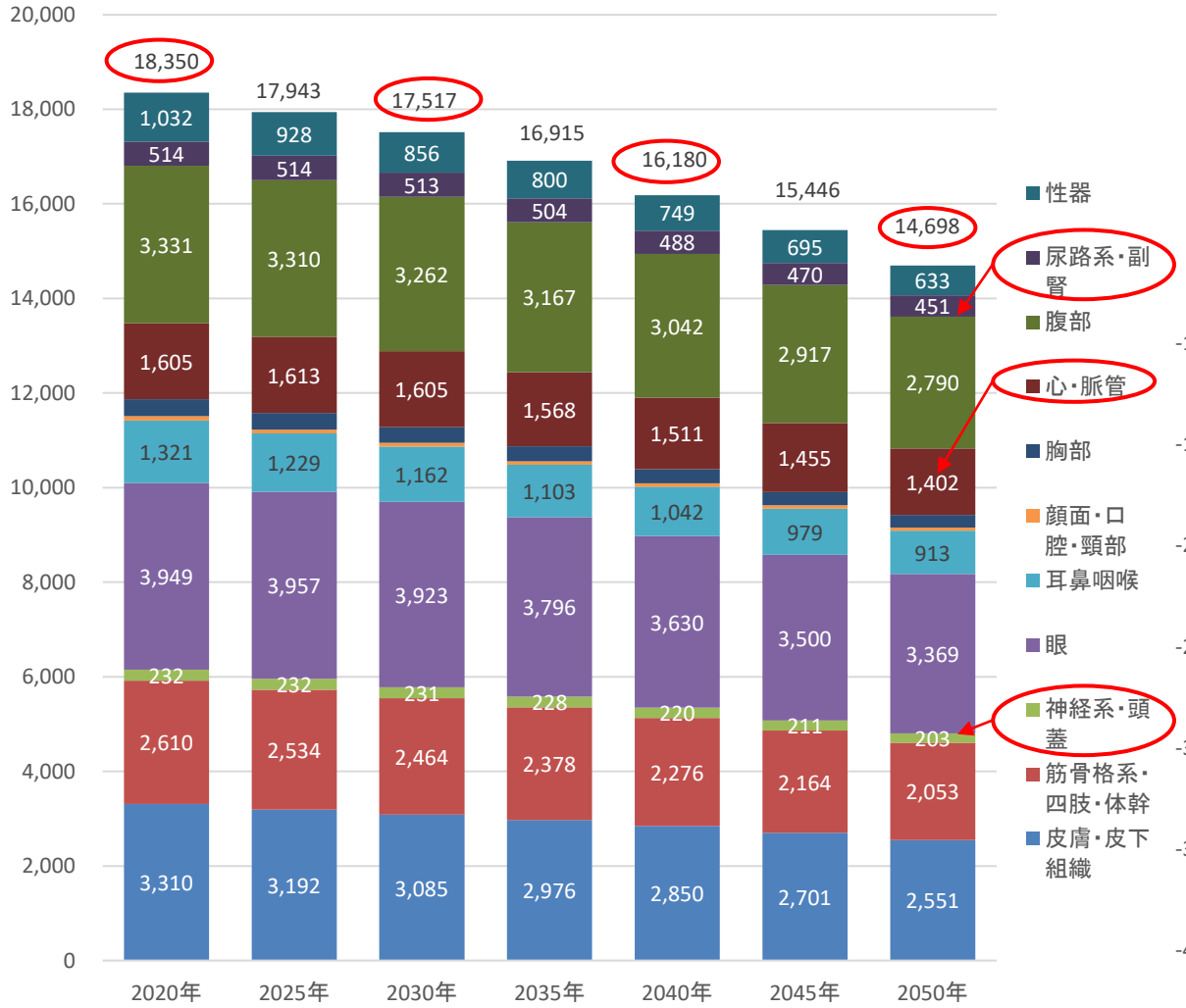
医療需要の推計 ～手術件数（嶺南構想区域）～

・手術件数（需要）は、すでに減少傾向にあると推測
・部位別では、神経系・頭蓋、心・脈管、尿路系・副腎については、2020年（令和2年）対比の減少率は2030年（令和12年）は横ばい、2040年（令和22年）は5%程度

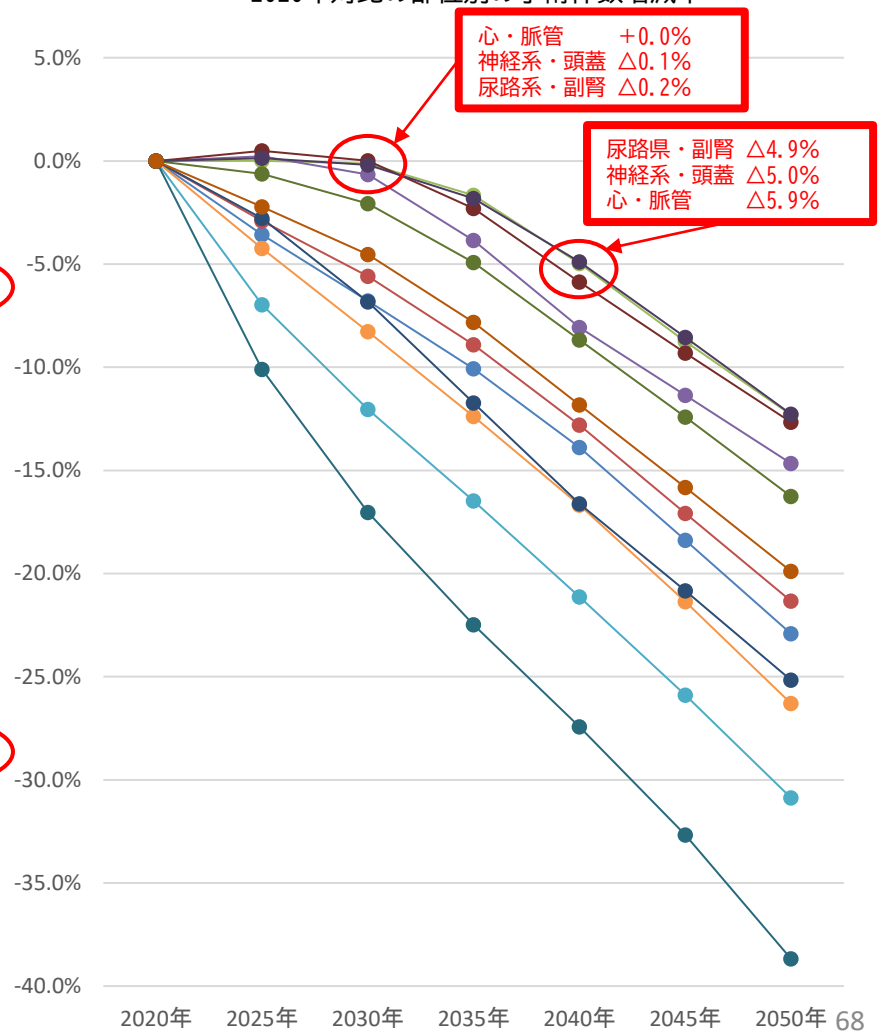
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、性年齢別の発生率について「令和元年10月1日推計人口」（総務省）、「第6回NDBオープンデータ（2019年4月～2020年3月）」（厚労省）をもとに推計

嶺南

部位別の手術件数推計（件／年間）



2020年対比の部位別の手術件数増減率



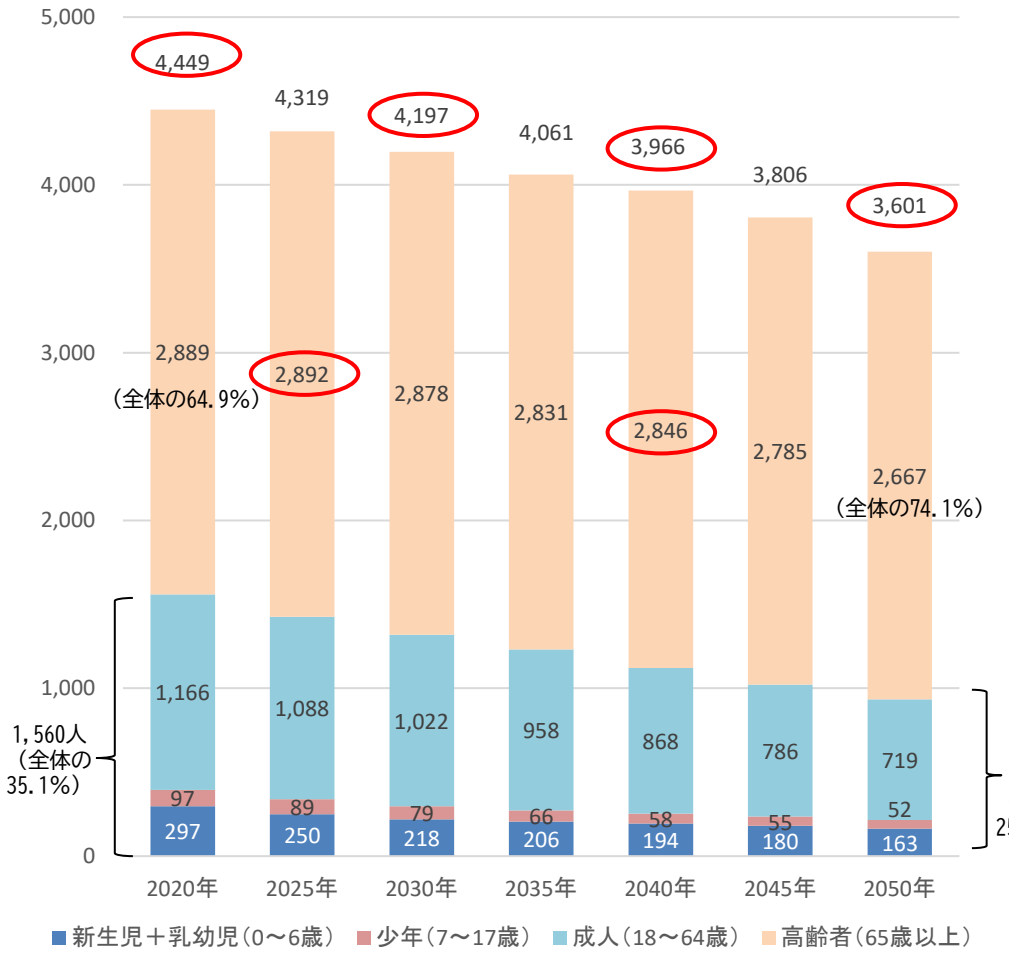
医療需要の推計 ～救急搬送件数（嶺南構想区域）～

・救急搬送件数（需要）は2020年（令和2年）以降すでに減少傾向にあると推測
・高齢者の搬送件数は2025年（令和7年）頃が最多となり、以降は減少するものの、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年（令和22年）頃に再び増加。
・重症度別では、中等症および重症に比べ、65歳未満に多い軽傷の搬送が大きく減少

嶺南

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、発生率について「救急救助の現況（2020年版、2019（令和元）年調査）」（消防庁）、「令和元年10月1日推計人口」（総務省）をもとに推計

急病の年齢区分別搬送の人数推計（人／年間）



急病の傷病程度別の人数推計（人／年間）

医療需要の推計　～往診、訪問診療（嶺南構想区域）～

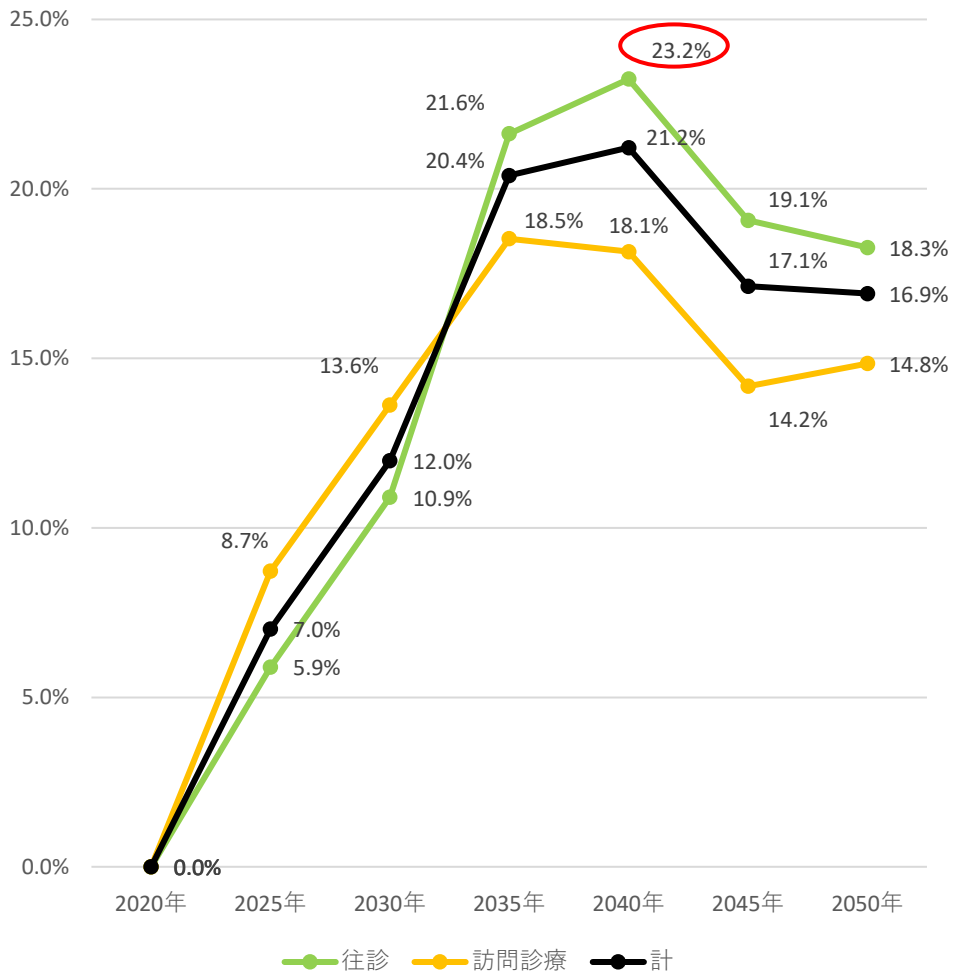
・往診、訪問診療（一日あたり）を必要とする患者数は2040年（令和22年）頃にかけて増加し、それ以降も同程度の患者数がある見込み
・85歳以上人口の増加に伴い、急な体調不良等に対応する往診を必要とする患者が特に増加する見込み

嶺南

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

往診、訪問診療が必要な患者数推計（人／日）

2020年対比の往診、訪問診療が必要な患者数推計（人／日）



介護需要の推計～要介護・要支援認定者数（嶺南構想区域）～

・要介護・要支援認定者数は2020年（令和2年）から2040年（令和22年）にかけて23%程度増加する見込み
・このうち、要介護者は2020年から2040年にかけて24%程度増加する見込み

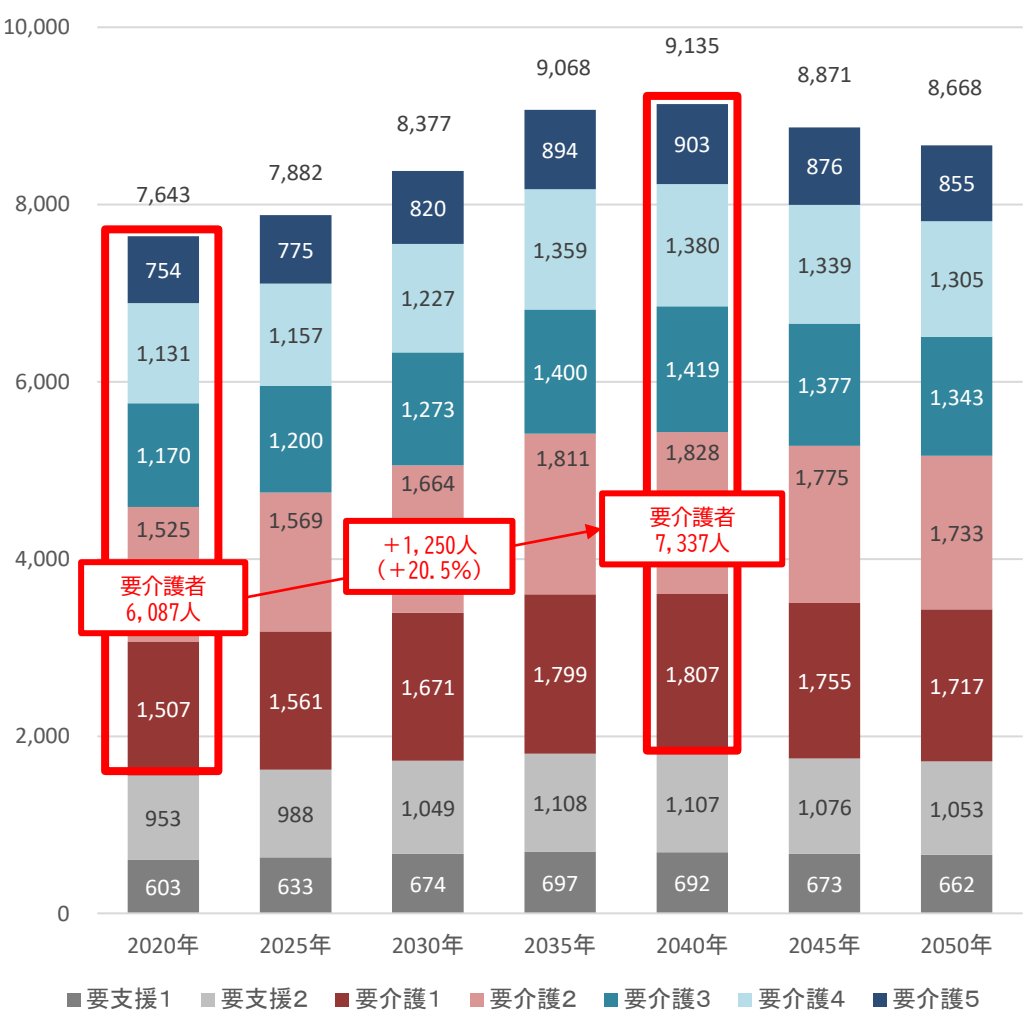
※令和6年3月に策定した「福井県高齢者福祉計画 福井県介護保険事業支援計画」では、市町の推計をもとに2040年までの見込を記載している。この資料では、左記の出典をもとに2050年までの推計を行ったため、前記の計画とは数字が一致しない点に注意

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、発生率について「令和元年度介護事業状況報告（年報）都道府県別要介護（要支援）認定者数」（厚生労働省）、「令和元年10月1日推計人口」（総務省）をもとに推計

嶺南

年齢区分別の要介護・要支援認定者数の推計（人）

要介護度別の要介護・要支援認定者数の推計（人）



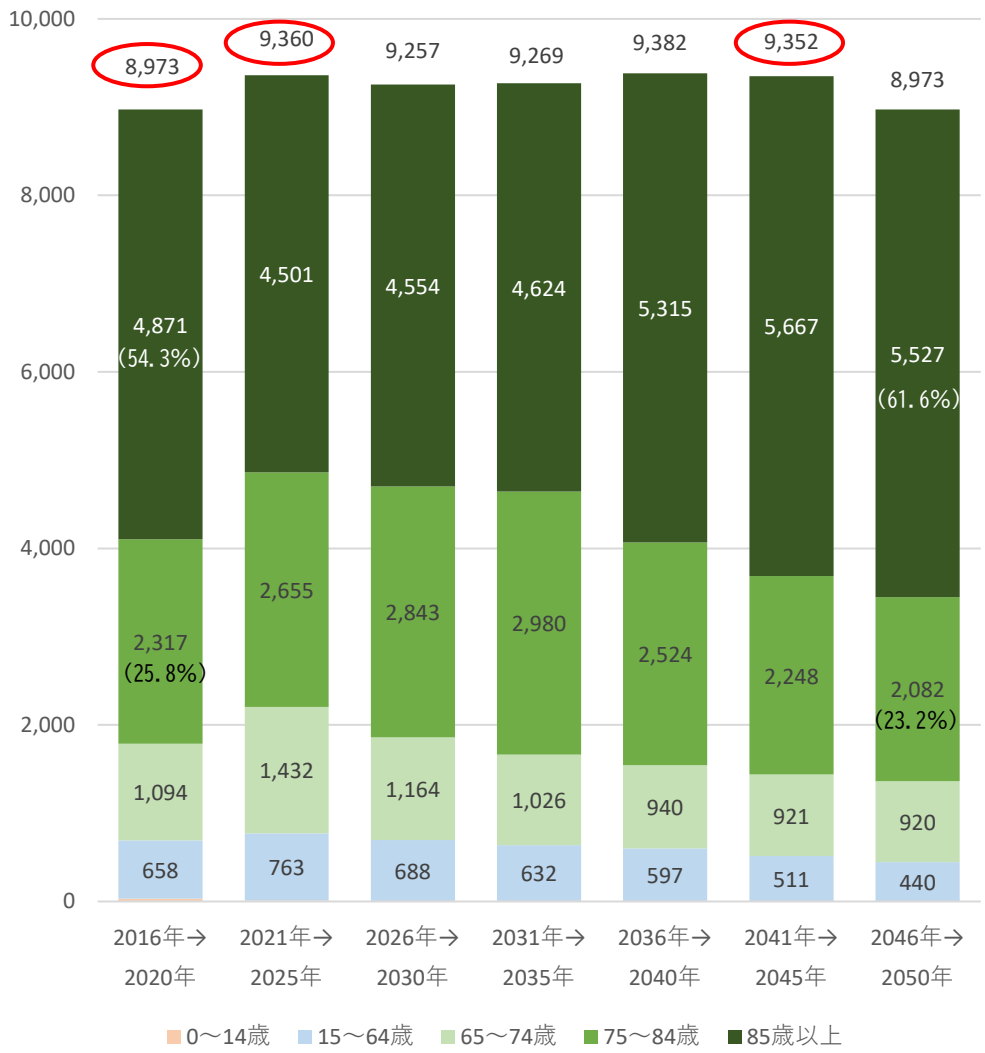
医療・介護需要推計 ～死亡者数（嶺南構想区域）～

・死亡者数の傾向は市町によって異なる（敦賀市、美浜町、高浜町は2040年（令和22年）頃に最多。小浜市、若狭町、おおい町はここ数年間がピーク）
・地域全体では、現在と同程度の死亡者数が2040年頃まで継続する見込み。
・後期高齢者（75歳以上）、とくに85歳以上の死亡者数は2045年（令和27年）頃まで増加する見込み

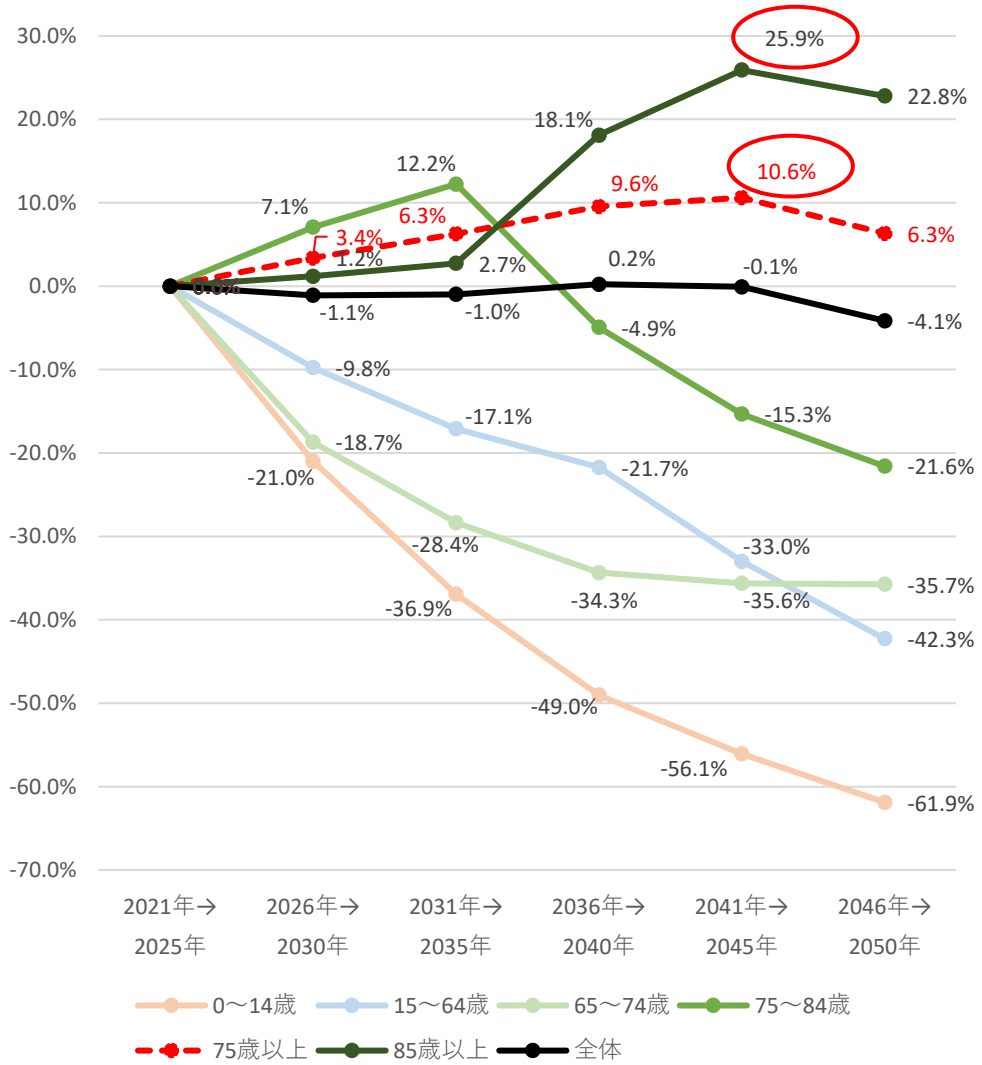
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）
「人口動態統計」（2016年（H28）～2020年（R2））（厚生労働省）は実数

嶺南

年齢区分別の死亡者数（5年間）



2021→2025年の5年間と対比した年齢区分別の死亡者増減率



医療・介護需要の推計（嶺南構想区域）　主なもの

2020年に比べて増加する指標はオレンジ色網掛け

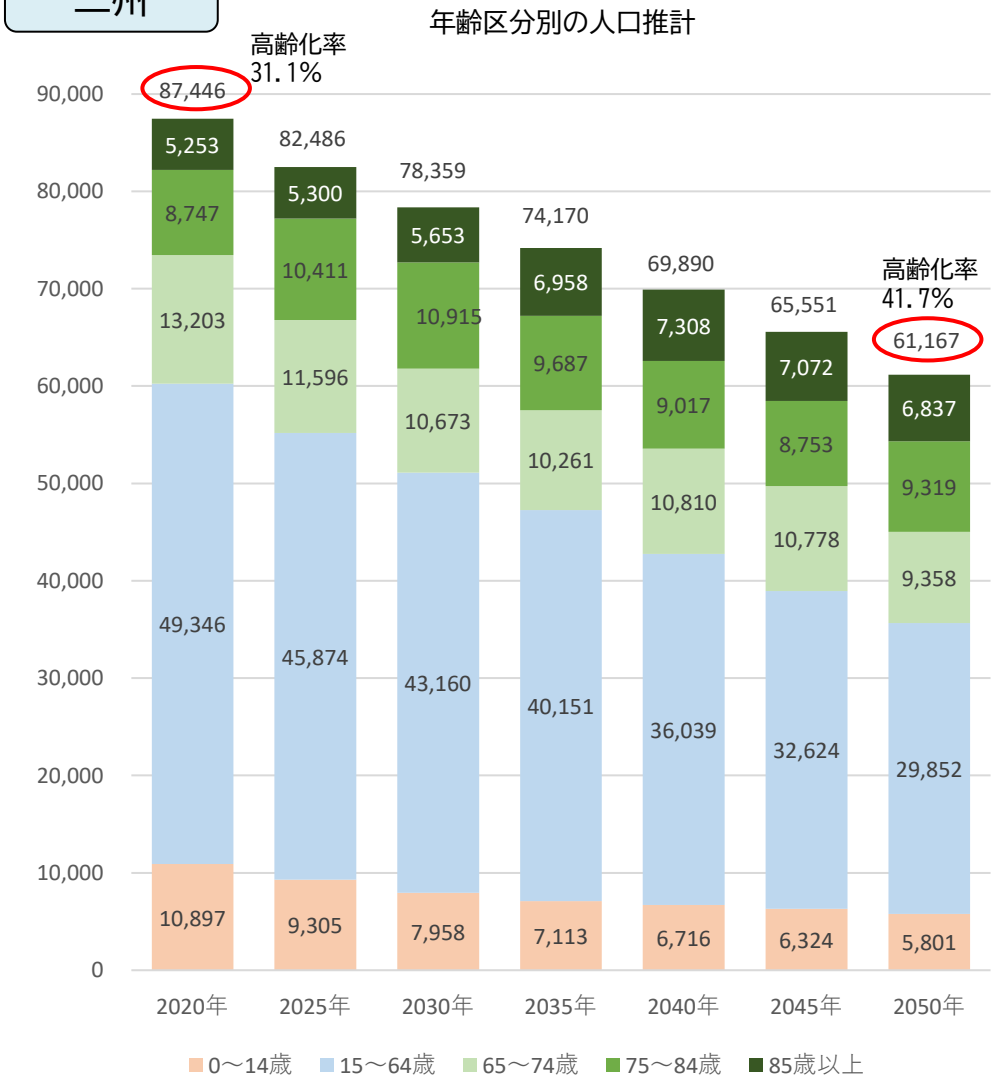
	2020年	2030年	2040年	2050年
人口（全体）	134,673 人	120,889 人	107,831 人	94,420 人
人口（85歳以上）	8,460 人	8,939 人	11,256 人	10,564 人
人口（75歳以上）	22,227 人	25,762 人	25,309 人	24,887 人
人口（65歳以上）	42,533 人	42,365 人	41,896 人	39,269 人
高齢化率	31.6 %	35.0 %	38.9 %	41.6 %
外来患者数	7,456 人	7,028 人	6,510 人	5,852 人
2020年対比で 増加する主な疾患	—	循環器 ＋2.7% 神　経 ＋2.5%	循環器 ＋2.5% 神　経 ＋0.9%	なし
入院患者数	1,729 人	1,785 人	1,709 人	1,600 人
2020年対比で 増加する主な疾患	—	呼吸器 ＋8.8% 循環器 ＋8.0% 損　傷 ＋7.2%	呼吸器 ＋5.7% 循環器 ＋4.8% 損　傷 ＋3.6%	呼吸器 ＋1.2% 循環器 ＋0.2%
手術件数	18,350 人	17,517 人	16,180 人	14,698 人
2020年対比で 増加する部位	—	なし	なし	なし
救急搬送件数	4,449 人	4,197 人	3,966 人	3,601 人
救急搬送件数（65歳以上）	2,889 人	2,878 人	2,846 人	2,667 人
救急搬送件数に占める高齢者（65歳以上）の割合	64.9 %	68.6 %	71.8 %	74.1 %
訪問診療が必要な患者数	36.9 人	41.9 人	43.6 人	42.4 人
往診が必要な患者数	56.0 人	62.1 人	69.0 人	66.2 人
要介護認定者数	6,087 人	6,655 人	7,337 人	6,953 人
死亡者数　（各年までの5か年）	8,973 人	9,257 人	9,382 人	8,973 人

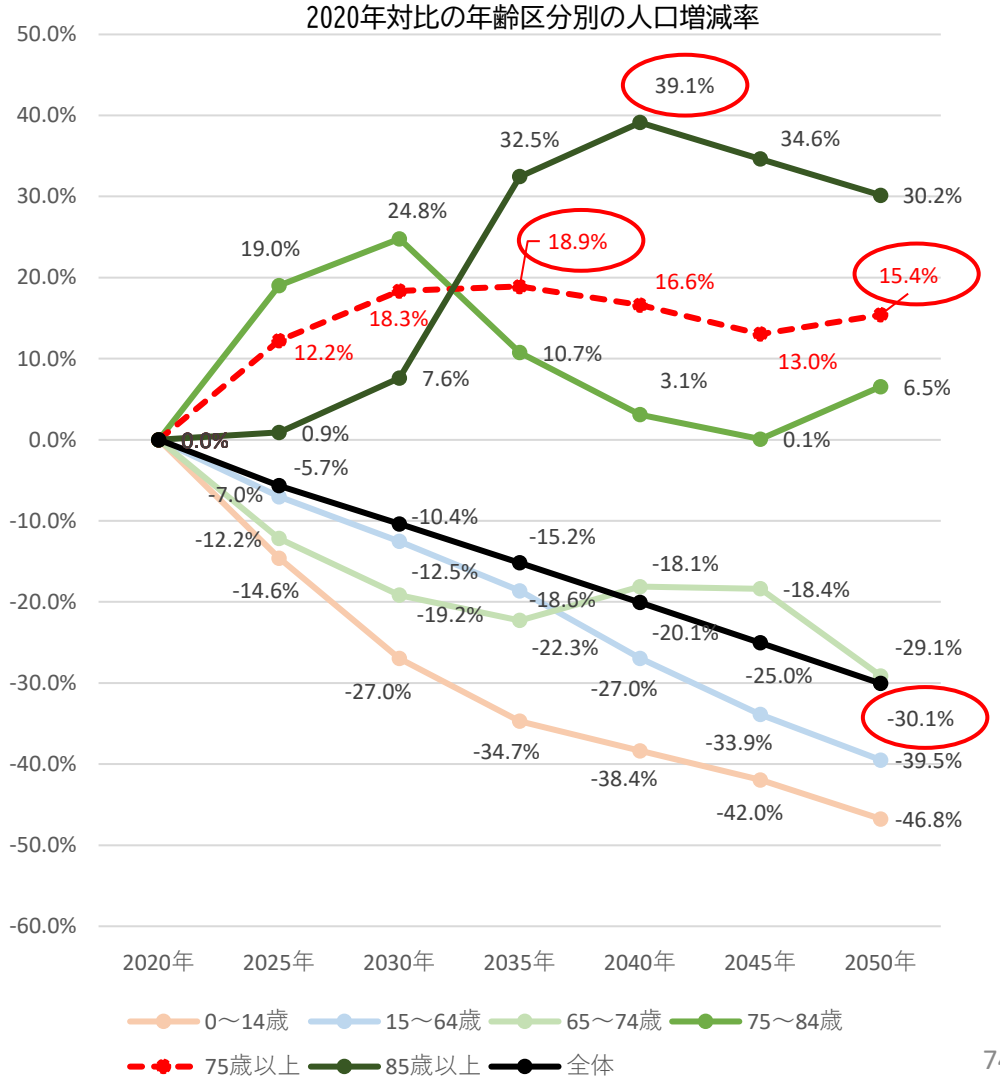
将来推計人口（二州地域（若狭町含む））

・人口は2020年（令和2年）から2050年（令和32年）にかけて減少（87,446人→61,167人、△26,279人、△30.1%）
・後期高齢者（75歳以上）は2035年（令和17年）まで増加し、その後は減少。団塊ジュニア世代が後期高齢者となる2050年には再び増加
・85歳以上人口は2040年（令和22年）には2020年対比+39.1%増加
・高齢化率（65歳以上人口割合）は2020年31.1%から2050年41.7%へ上昇

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）

二州





医療需要の推計 ～外来患者数（二州地域（若狭町含む））～

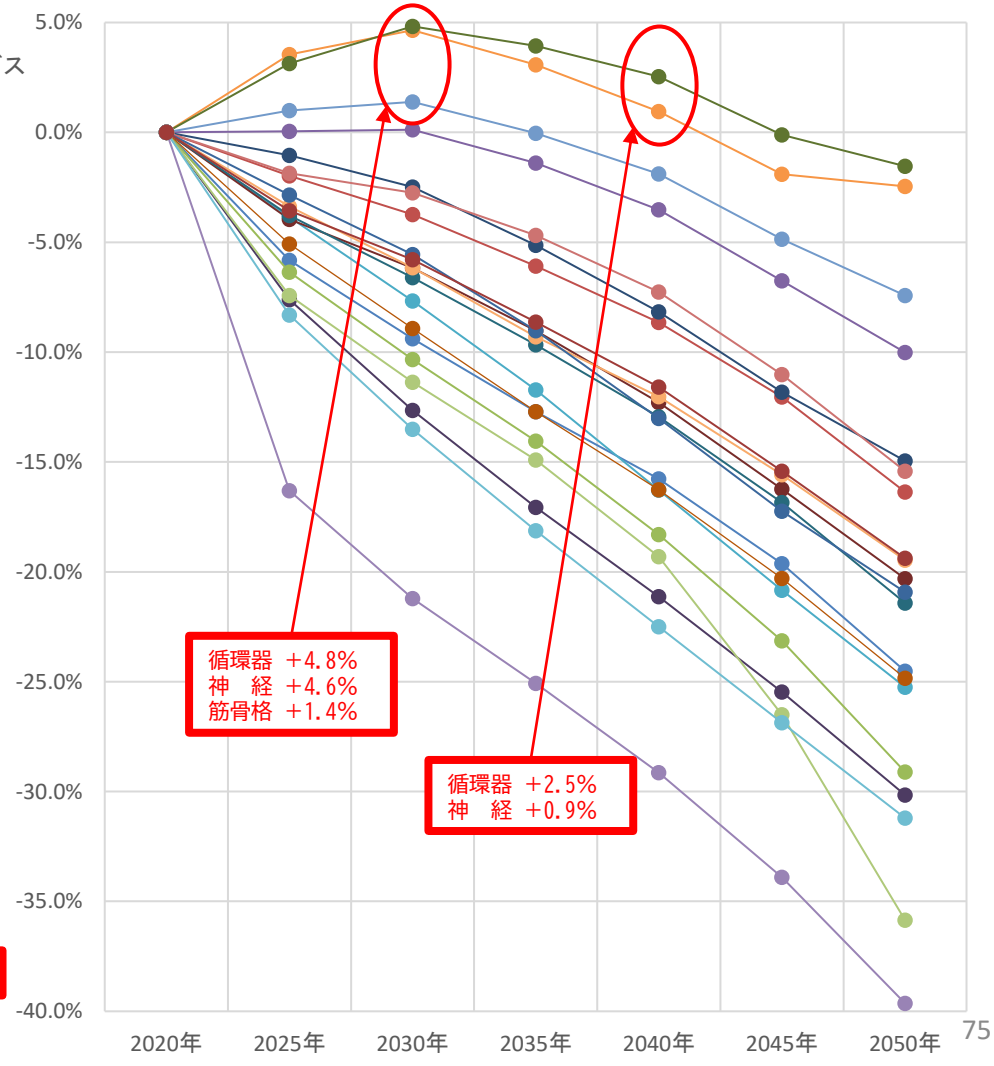
・外来患者数（需要）は、すでに減少していると推測
・ただし、高齢化に 伴い増加する疾患（循環器系（心疾患、脳梗塞等）、神経系（末梢神経障害等）、筋骨格系（関節症、脊椎障害等）など）では、2030年（令和12年）頃までは外来患者数が増加し、2040年（令和22年）頃までは2020年（令和2年）を上回る状況が続く見込み。

二州

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

疾患別の外来患者数推計（人／日）

2020年対比の疾患別の外来患者数増減率



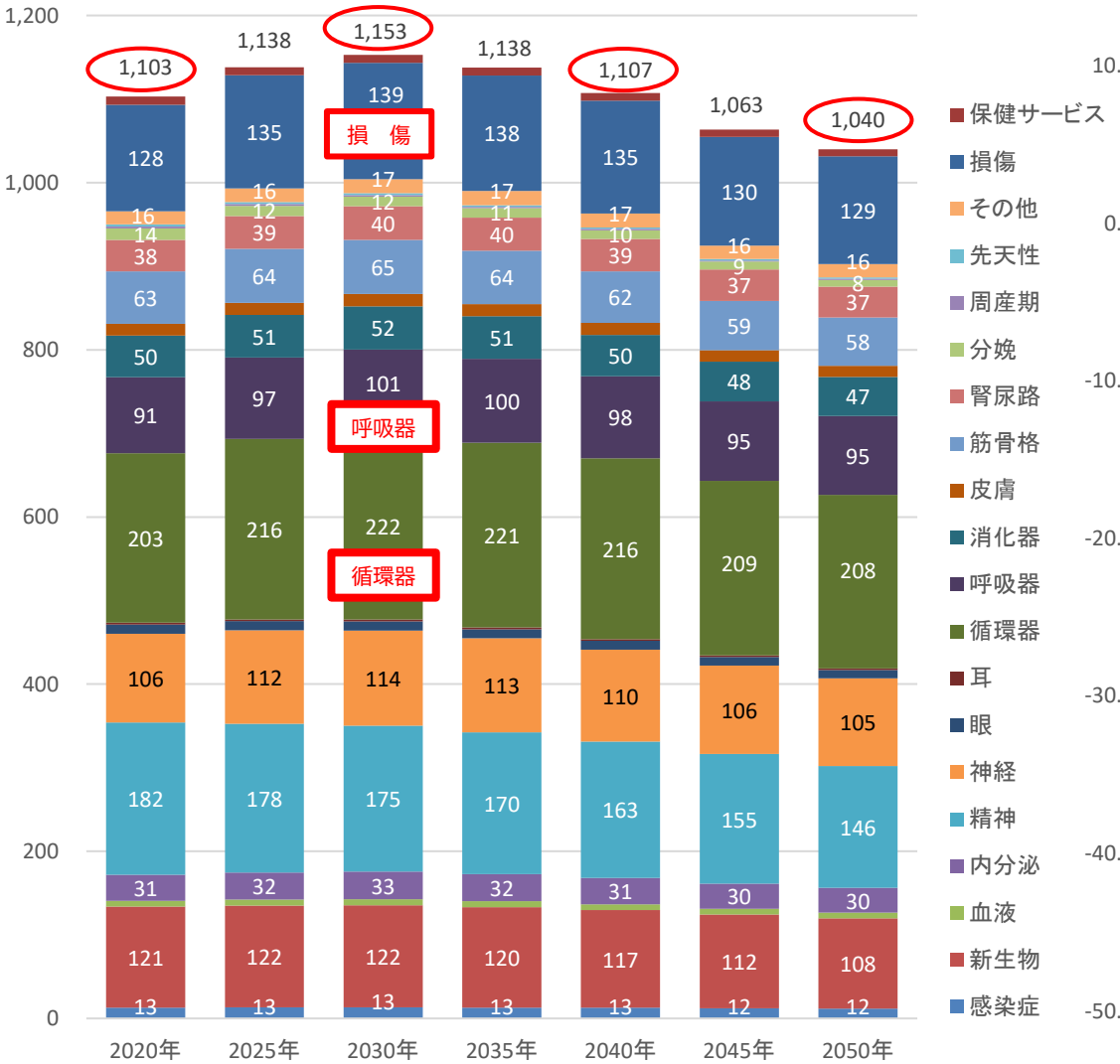
医療需要の推計 ～入院患者数（二州地域（若狭町含む））～

・入院患者数（需要）は、2030年（令和12年）頃まで増加し、高齢化に伴い増加する疾患（呼吸器系、循環器系（心疾患、脳梗塞等）、損傷（骨折等）など）では、2020年（令和2年）対比10%近く増加する見込み。
・2030年以降、入院患者数は減少するものの、呼吸器系、循環器系（心疾患、脳梗塞等）などでは、2020年の患者数を上回る見込み

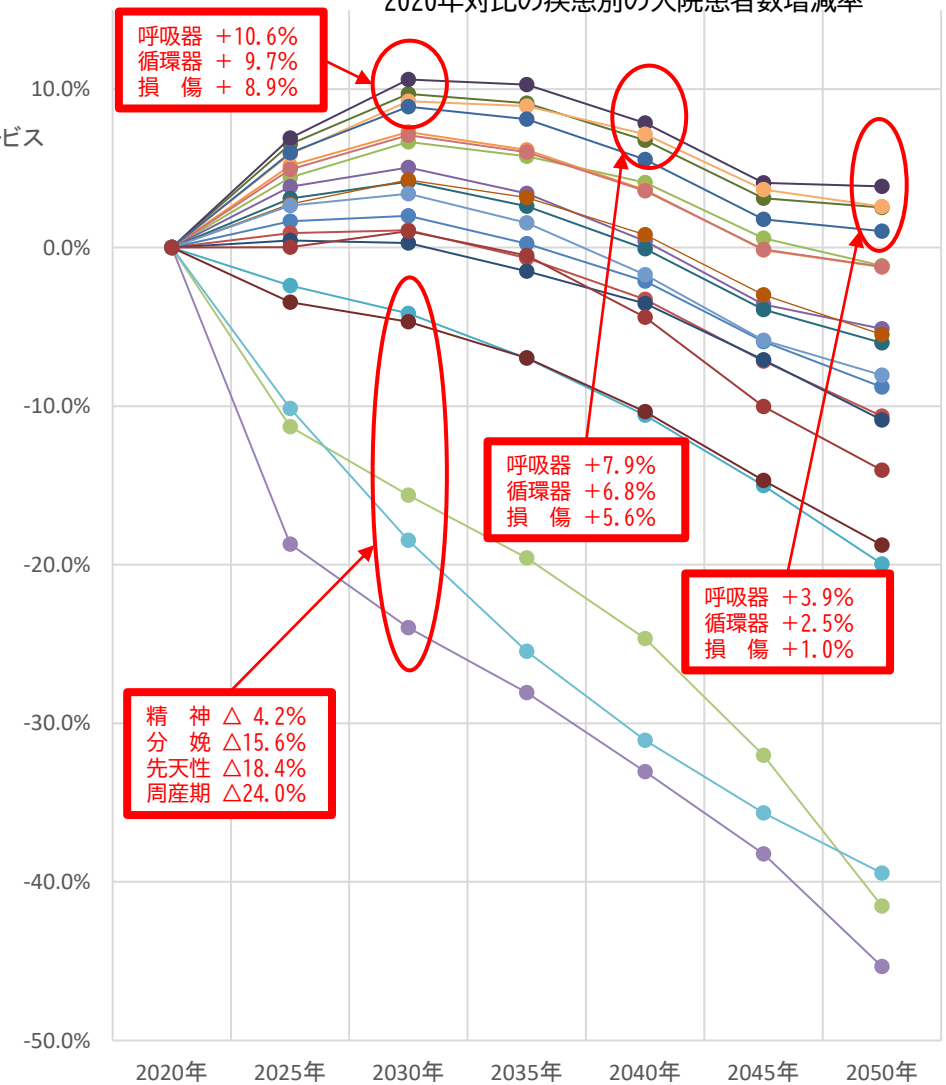
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

二州

疾患別の入院患者数推計（人／日）



2020年対比の疾患別の入院患者数増減率



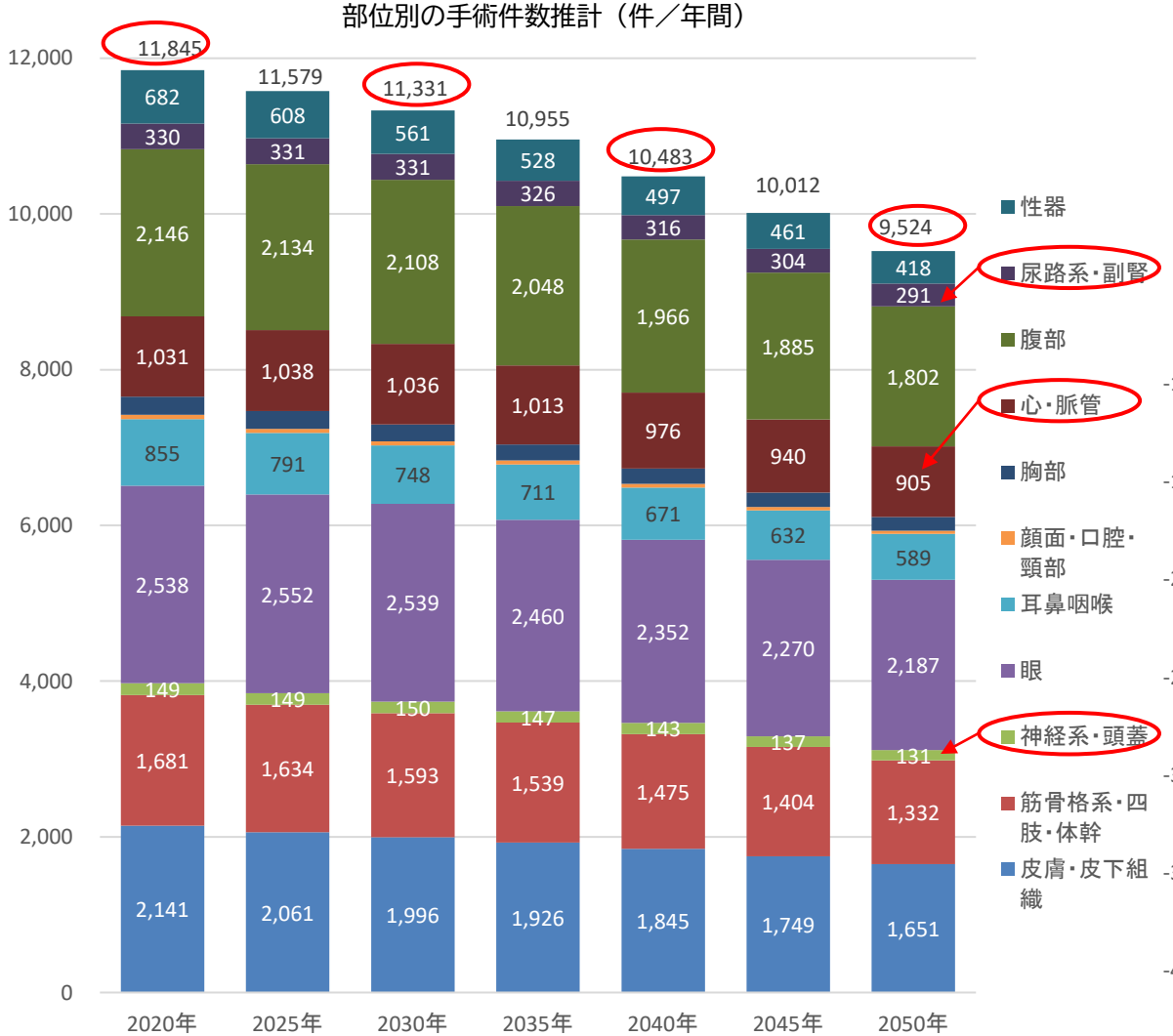
医療需要の推計 ～手術件数（二州地域（若狭町含む））～

・手術件数（需要）は、すでに減少傾向にあると推測
・部位別では、神経系・頭蓋、心・脈管、尿路系・副腎については2030年（令和12年）頃までは微増し、それ以降は全ての部位で減少

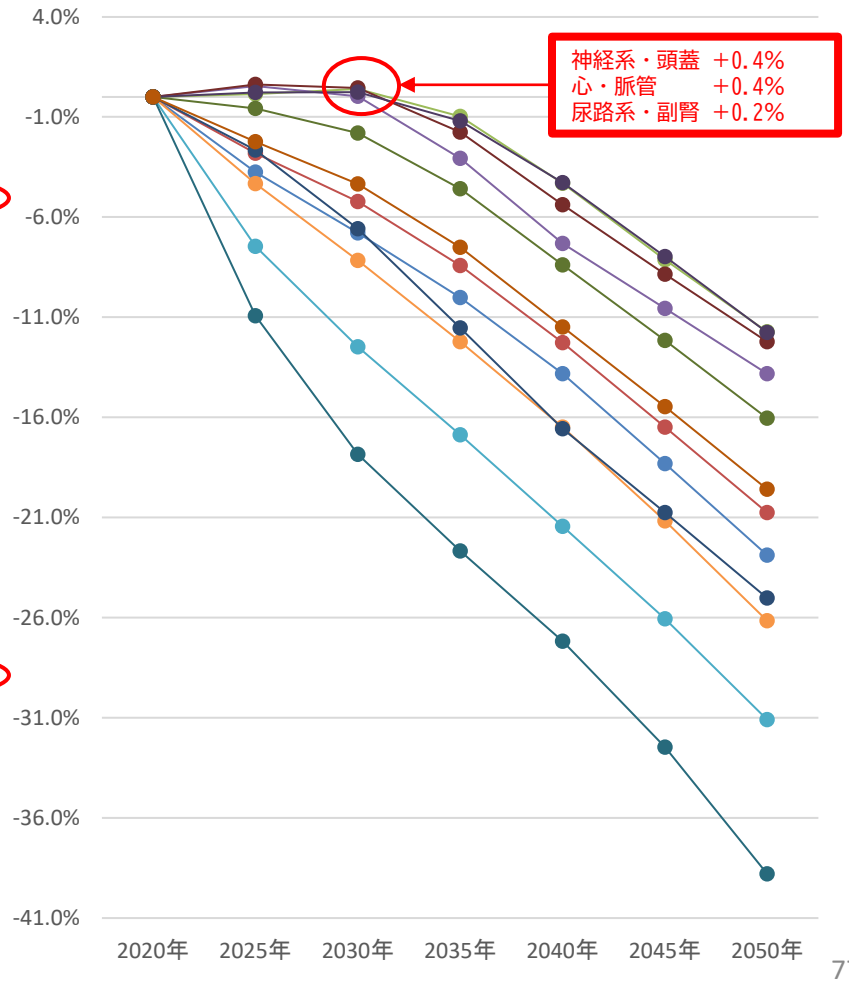
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、性年齢別の発生率について「令和元年10月1日推計人口」（総務省）、「第6回NDBオープンデータ（2019年4月～2020年3月）」（厚労省）をもとに推計

二州

部位別の手術件数推計（件／年間）



2020年対比の部位別の手術件数増減率

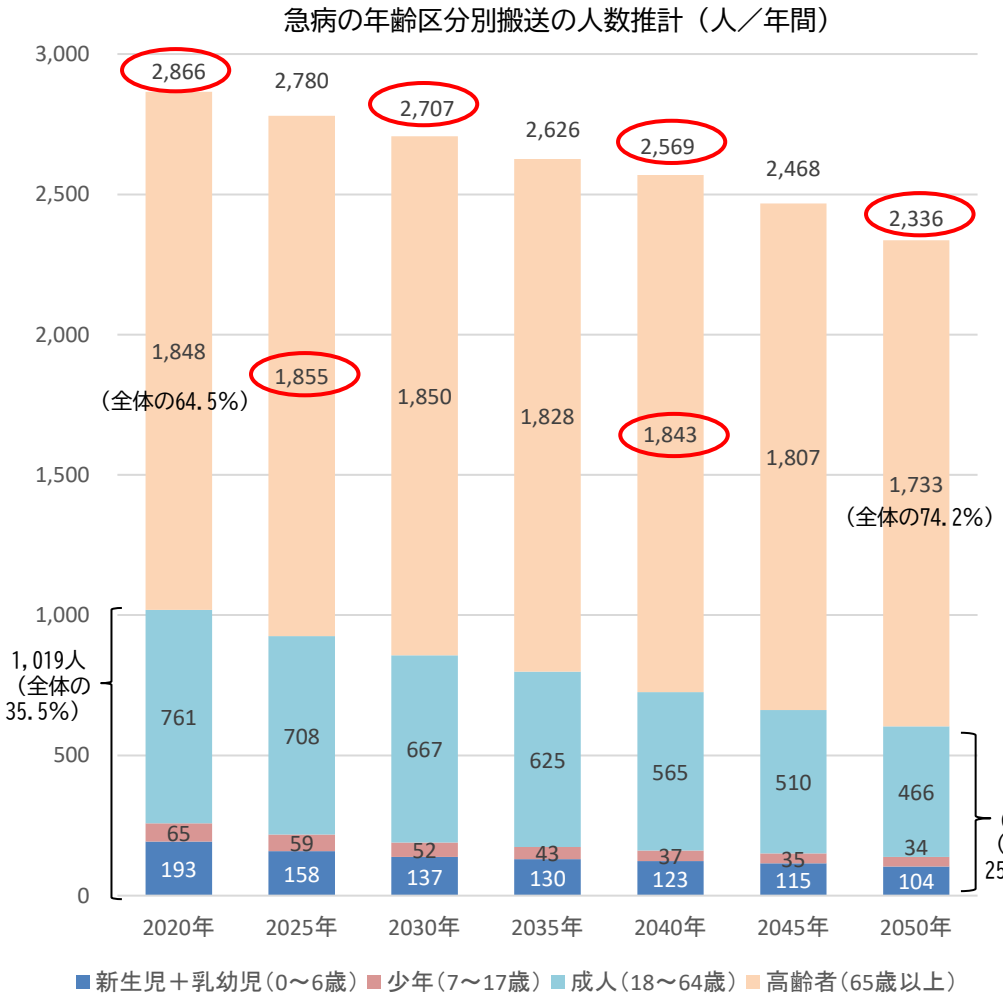


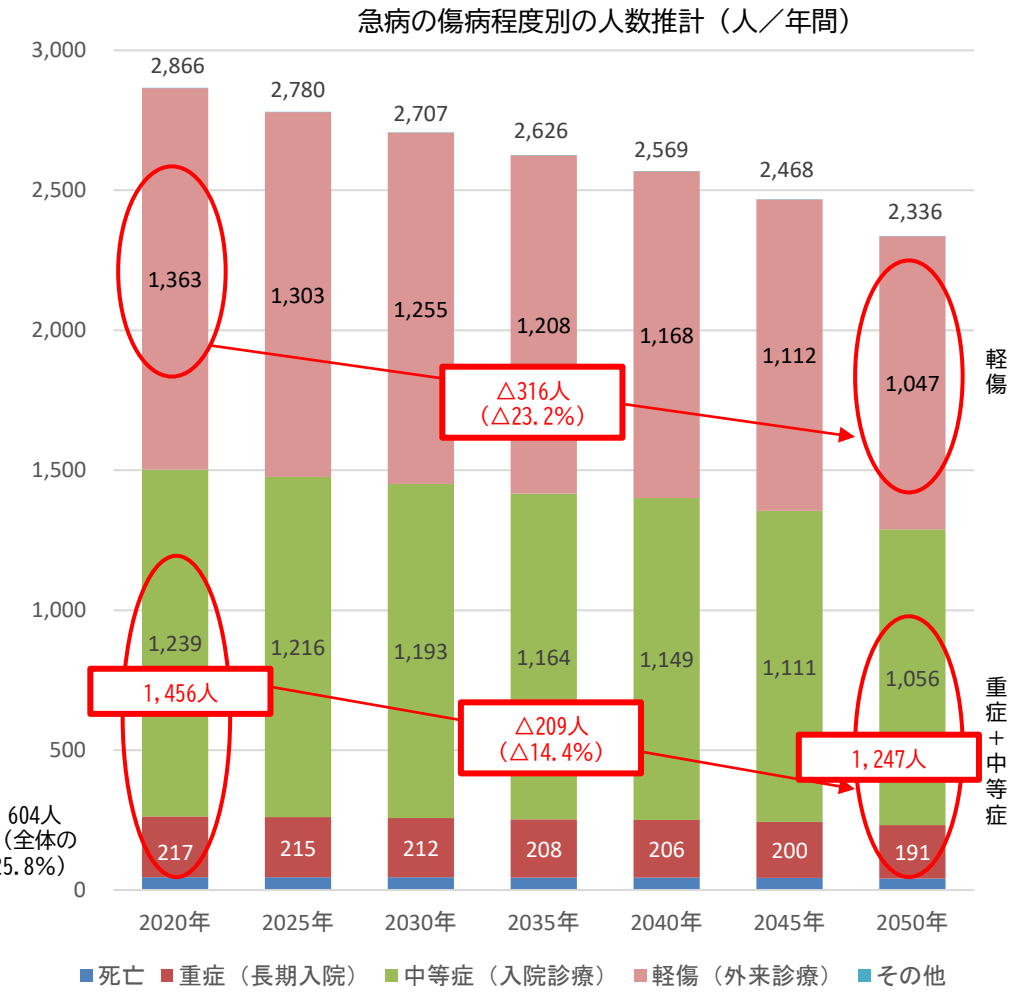
医療需要の推計 ～救急搬送件数（二州地域（若狭町含む））～

・救急搬送件数（需要）は2020年（令和2年）以降すでに減少傾向にあると推測
・高齢者の搬送件数は2025年（令和7年）頃が最多となり、以降は減少するものの、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年（令和22年）頃に再び増加。
・重症度別では、中等症および重症に比べ、65歳未満に多い軽傷の搬送が大きく減少

二州

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、発生率について「救急救助の現況（2020年版、2019（令和元）年調査）」（消防庁）、「令和元年10月1日推計人口」（総務省）をもとに推計





医療需要の推計　～往診、訪問診療（二州地域（若狭町含む））～

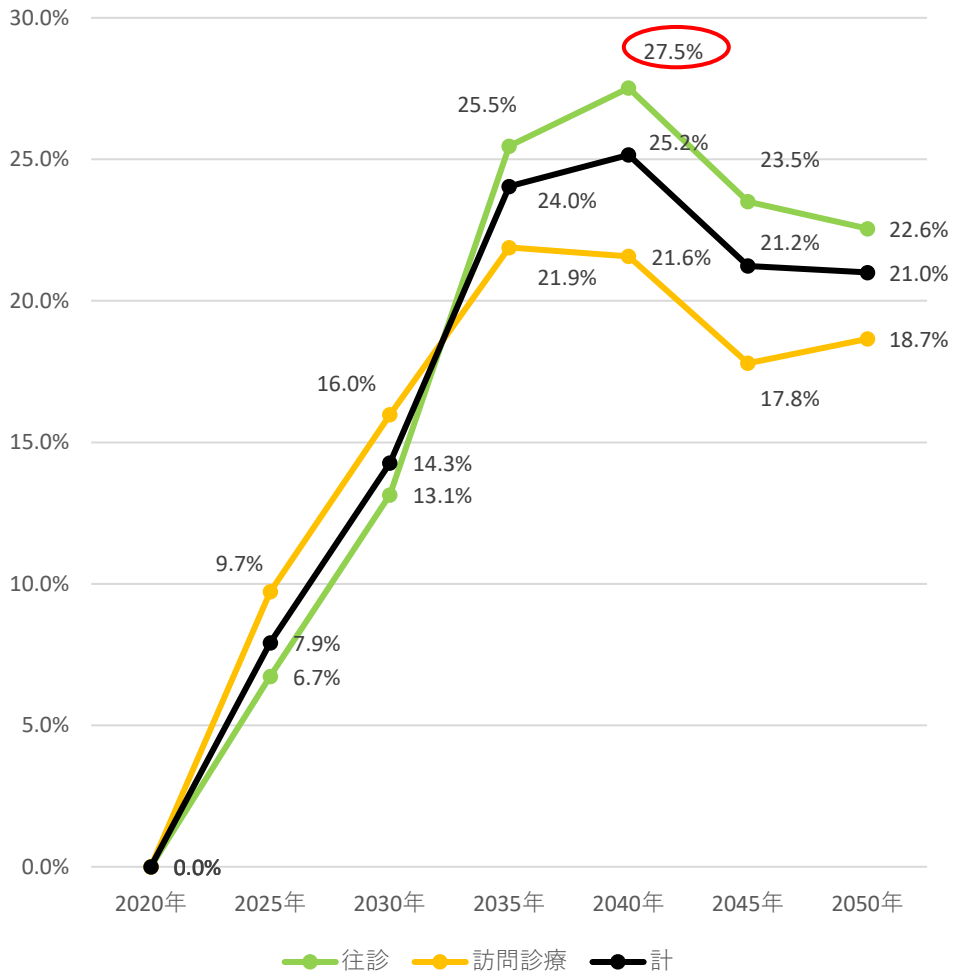
・往診、訪問診療（一日あたり）を必要とする患者数は2040年（令和22年）頃にかけて増加し、それ以降も同程度の患者数がある見込み
・85歳以上人口の増加に伴い、急な体調不良等に対応する往診を必要とする患者が特に増加する見込み

二州

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

往診、訪問診療が必要な患者数推計（人／日）

2020年対比の往診、訪問診療が必要な患者数推計（人／日）



介護需要の推計～要介護・要支援認定者数（二州地域（若狭町含む））～

・要介護・要支援認定者数は2020年（令和2年）から2040年（令和22年）にかけて23%程度増加する見込み
・このうち、要介護者は2020年から2040年にかけて24%程度増加する見込み

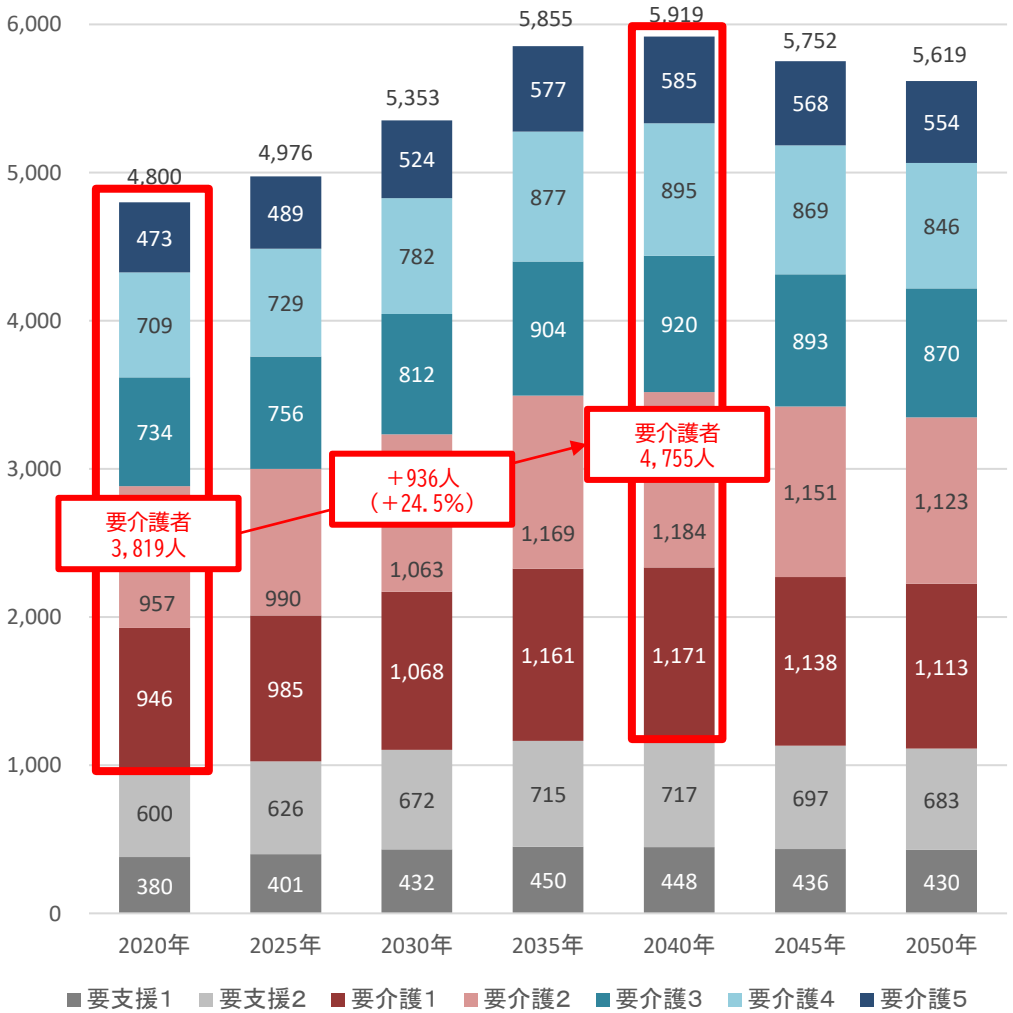
※令和6年3月に策定した「福井県高齢者福祉計画 福井県介護保険事業支援計画」では、市町の推計をもとに2040年までの見込を記載している。この資料では、左記の出典をもとに2050年までの推計を行ったため、前記の計画とは数字が一致しない点に注意

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、発生率について「令和元年度介護事業状況報告（年報）都道府県別要介護（要支援）認定者数」（厚生労働省）、「令和元年10月1日推計人口」（総務省）をもとに推計

二州

年齢区分別の要介護・要支援認定者数の推計（人）

要介護度別の要介護・要支援認定者数の推計（人）



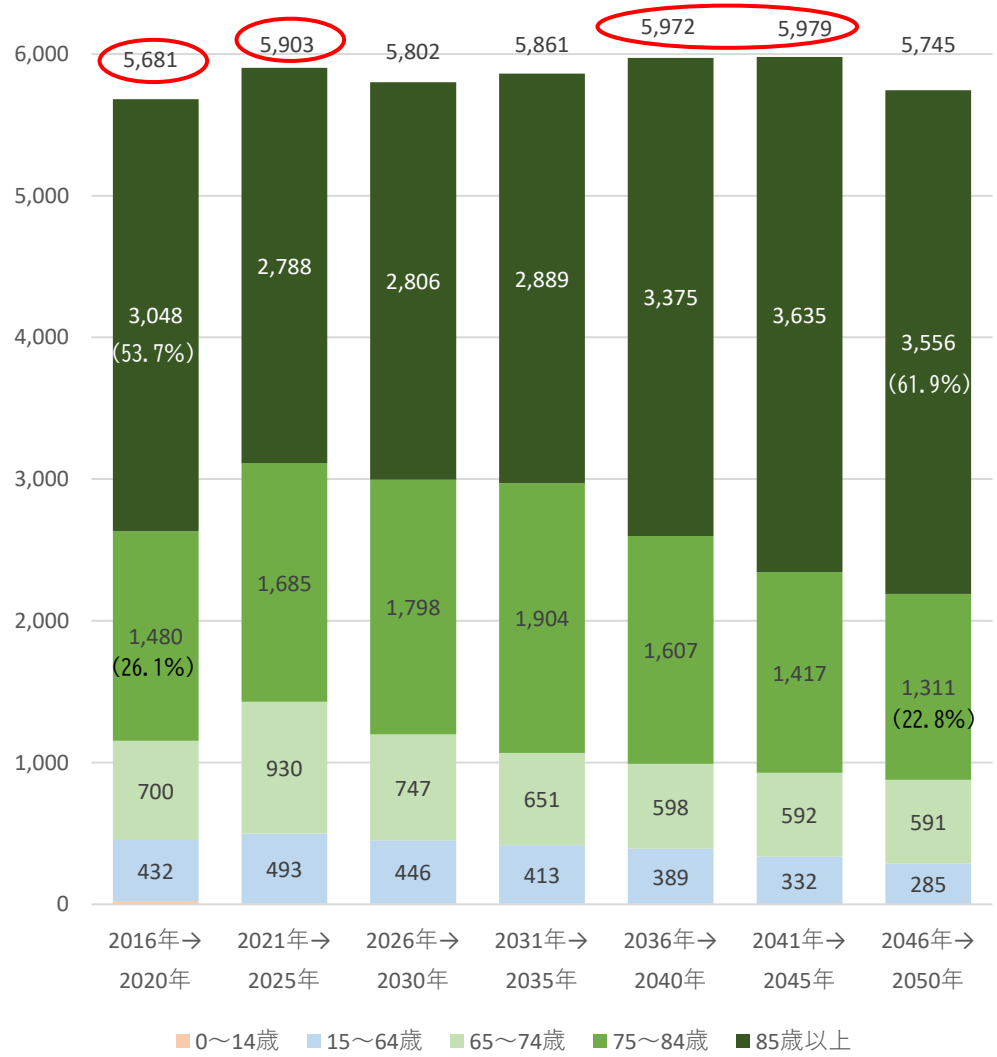
医療・介護需要推計 ～死亡者数（二州地域（若狭町含む））～

・死亡者数の傾向は市町によって異なる（敦賀市、美浜町は2040年（令和22年）頃に最多。若狭町はここ数年間がピーク）
・地域全体では、現在と同程度の死亡者数が2040年頃まで継続する見込み。
・後期高齢者（75歳以上）、とくに85歳以上の死亡者数は2045年（令和27年）頃まで増加する見込み

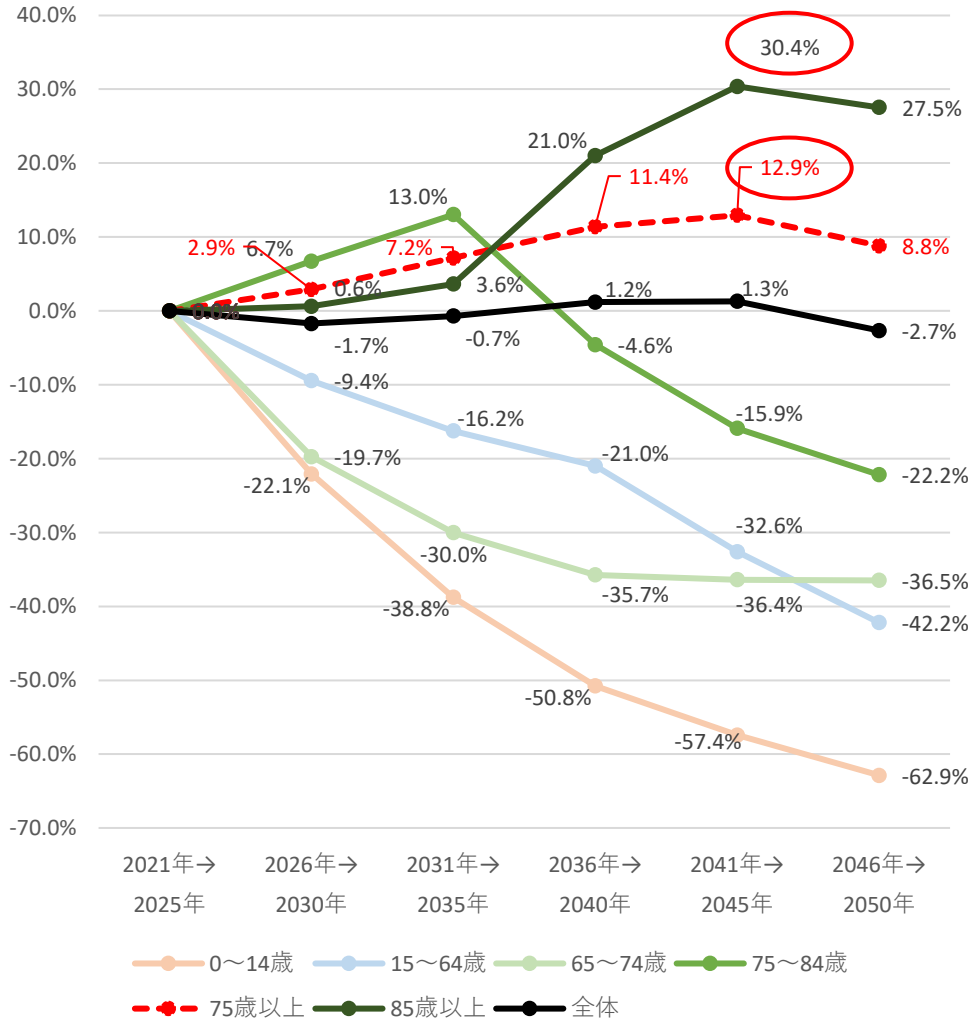
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）
「人口動態統計」（2016年（H28）～2020年（R2））（厚生労働省）は実数

二州

年齢区分別の死亡者数（5年間）



2021→2025年の5年間と対比した年齢区分別の死亡者増減率



医療・介護需要の推計（二州地域（若狭町含む））　主なもの

2020年に比べて増加する指標はオレンジ色網掛け

	2020年	2030年	2040年	2050年
人口（全体）	87,446 人	78,359 人	69,890 人	61,167 人
人口（85歳以上）	5,253 人	5,653 人	7,308 人	6,837 人
人口（75歳以上）	14,000 人	16,568 人	16,325 人	16,156 人
人口（65歳以上）	27,203 人	27,241 人	27,135 人	25,514 人
高齢化率	31.1 %	34.8 %	38.8 %	41.7 %
外来患者数	4,772 人	4,601 人	4,345 人	4,004 人
2020年対比で 増加する主な疾患	—	循環器 ＋4.8% 神　経 ＋4.6% 筋骨格 ＋1.4%	循環器 ＋2.5% 神　経 ＋0.9%	なし
入院患者数	1,103 人	1,153 人	1,107 人	1,040 人
2020年対比で 増加する主な疾患	—	呼吸器＋10.6% 循環器 ＋9.7% 損　傷 ＋8.9%	呼吸器 ＋7.9% 循環器 ＋6.8% 損　傷 ＋5.6%	呼吸器 ＋3.9% 循環器 ＋2.5% 損　傷 ＋1.0%
手術件数	11,845 人	11,331 人	10,483 人	9,524 人
2020年対比で 増加する部位	—	神経系・頭蓋＋0.4% 心・脈管＋0.4% 尿路系・副腎＋0.2%	なし	なし
救急搬送件数	2,866 人	2,707 人	2,569 人	2,336 人
救急搬送件数（65歳以上）	1,848 人	1,850 人	1,843 人	1,733 人
救急搬送件数に占める高齢者（65歳以上）の割合	64.5 %	68.3 %	71.7 %	74.2 %
訪問診療が必要な患者数	23.2 人	26.9 人	28.1 人	27.5 人
往診が必要な患者数	35.0 人	39.6 人	44.7 人	42.9 人
要介護認定者数	3,819 人	4,249 人	4,755 人	4,506 人
死亡者数　（各年までの5か年）	5,681 人	5,802 人	5,972 人	5,745 人

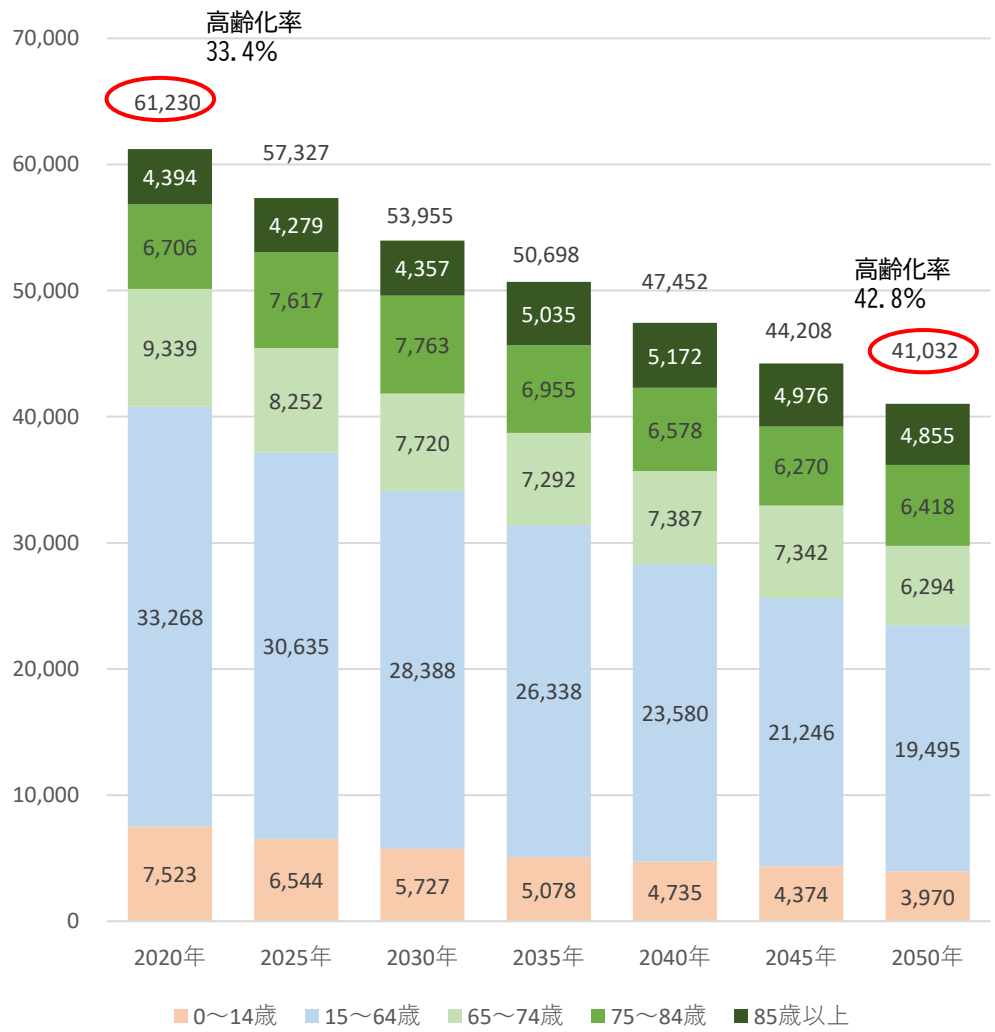
将来推計人口（若狭地域（若狭町含む））

・人口は2020年（令和2年）から2050年（令和32年）にかけて減少（61,230人→41,032人、△20,198人、△33.0%）
・後期高齢者（75歳以上）は2030年（令和12年）まで増加し、その後は減少。団塊ジュニア世代が後期高齢者となる2050年に微増
・85歳以上人口は2040年（令和22年）には2020年対比+17.7%増加
・高齢化率（65歳以上人口割合）は2020年33.4%から2050年42.8%へ上昇

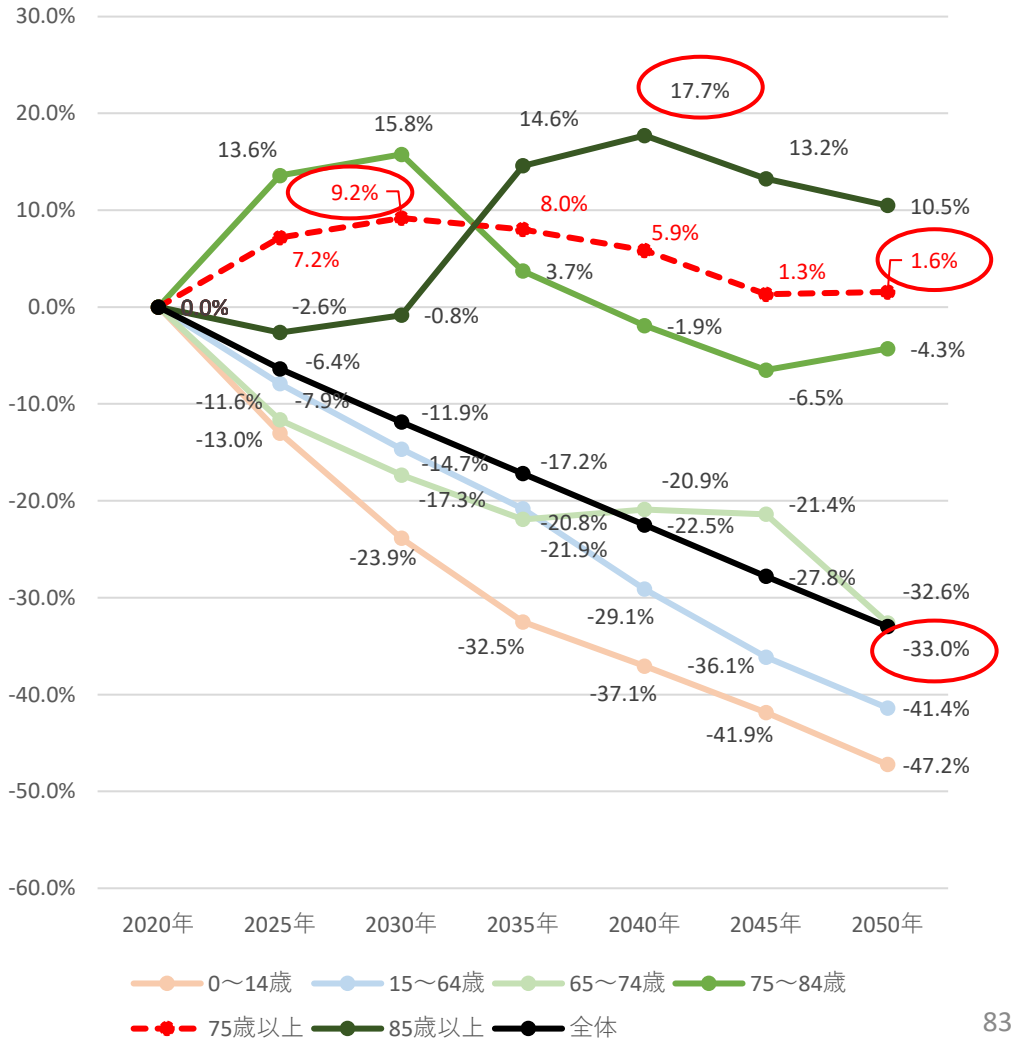
若狭

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）

年齢区分別の人口推計



2020年対比の年齢区分別の人口増減率



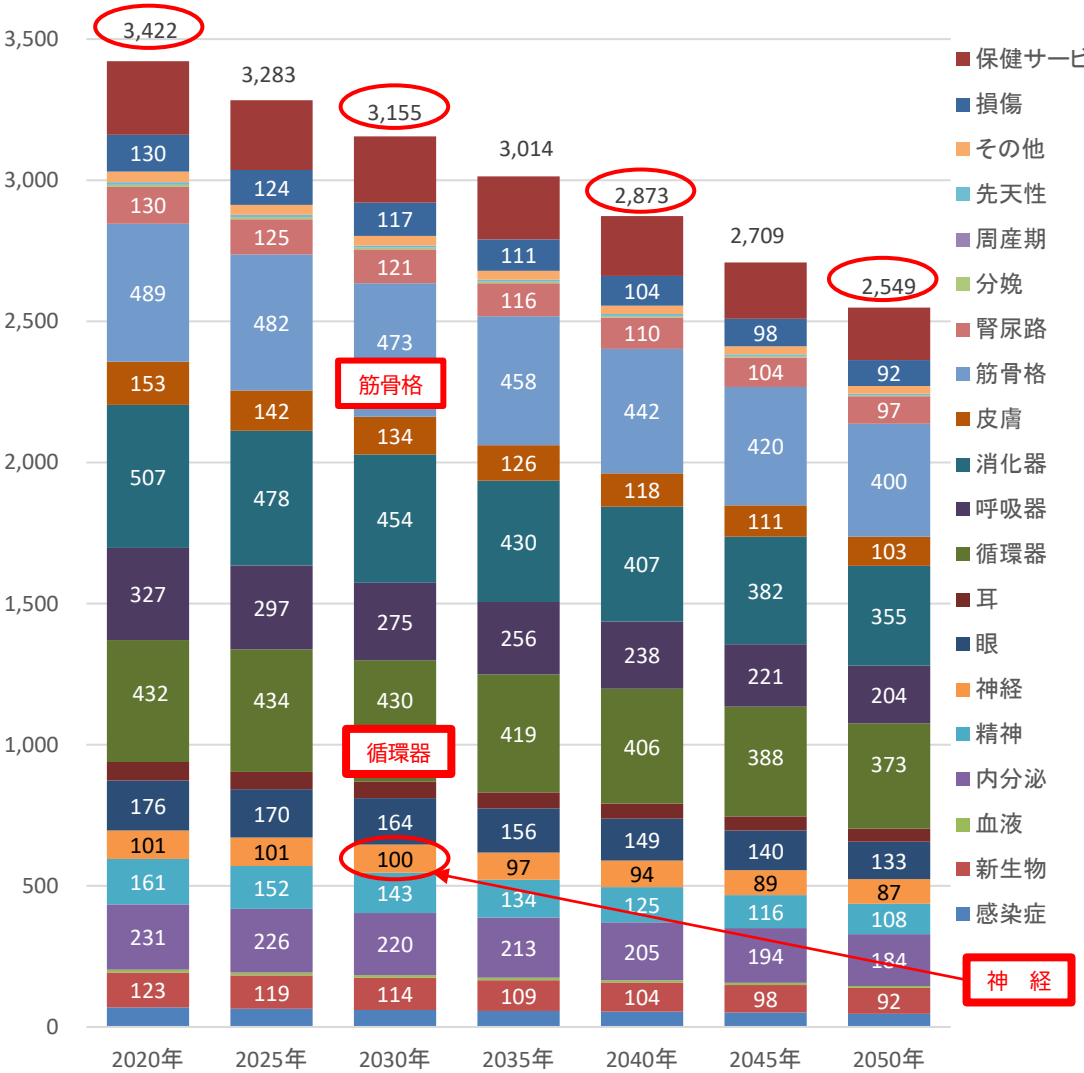
医療需要の推計 ～外来患者数（若狭地域（若狭町含む））～

・外来患者数（需要）は、すでに減少していると推測
・高齢化に 伴い増加する疾患（循環器系（心疾患、脳梗塞等）、神経系（末梢神経障害等）、筋骨格系（関節症、脊椎障害等）など）では減少率が小さいものの、2040年（令和22年）には2020年（令和2年）と比べて5～10%程度減少する見込み。

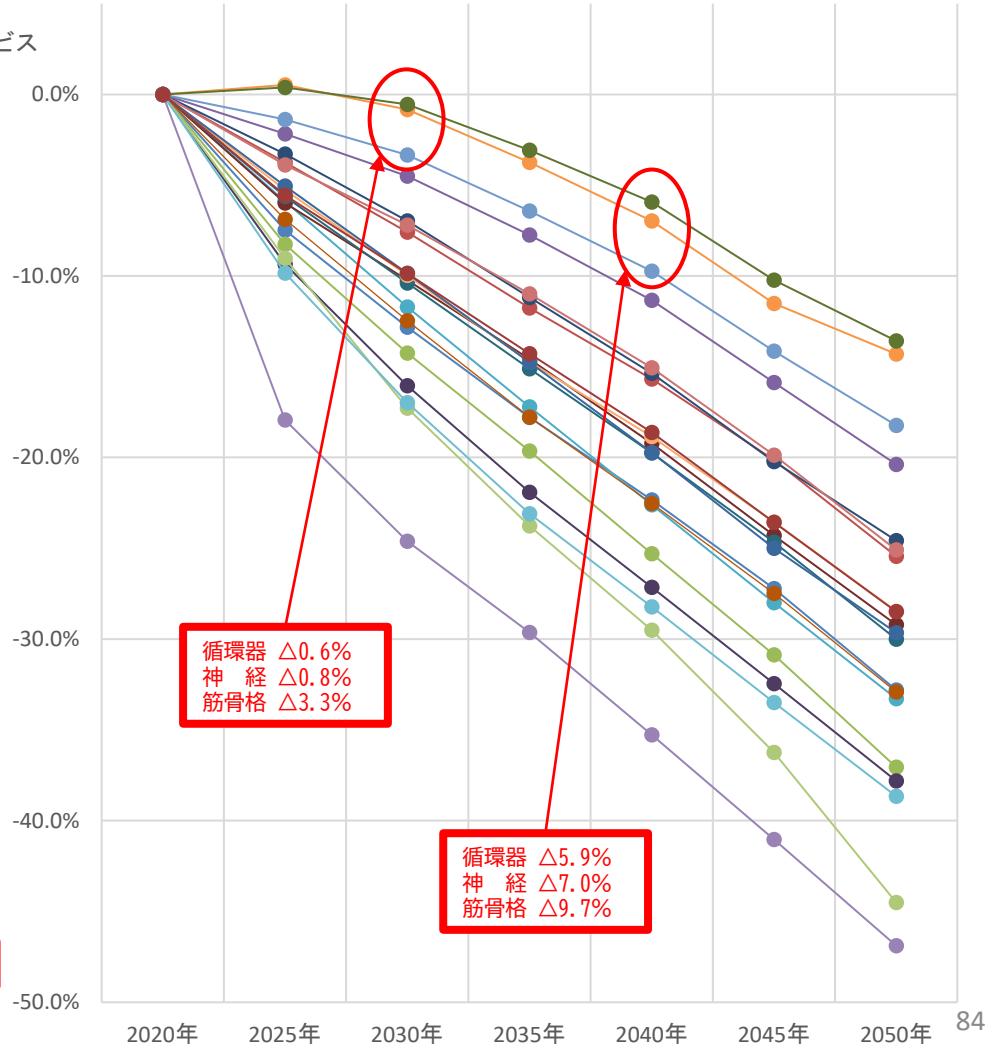
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

若狭

疾患別の外来患者数推計（人／日）



2020年対比の疾患別の外来患者数増減率



医療需要の推計 ～入院患者数（若狭地域（若狭町含む））～

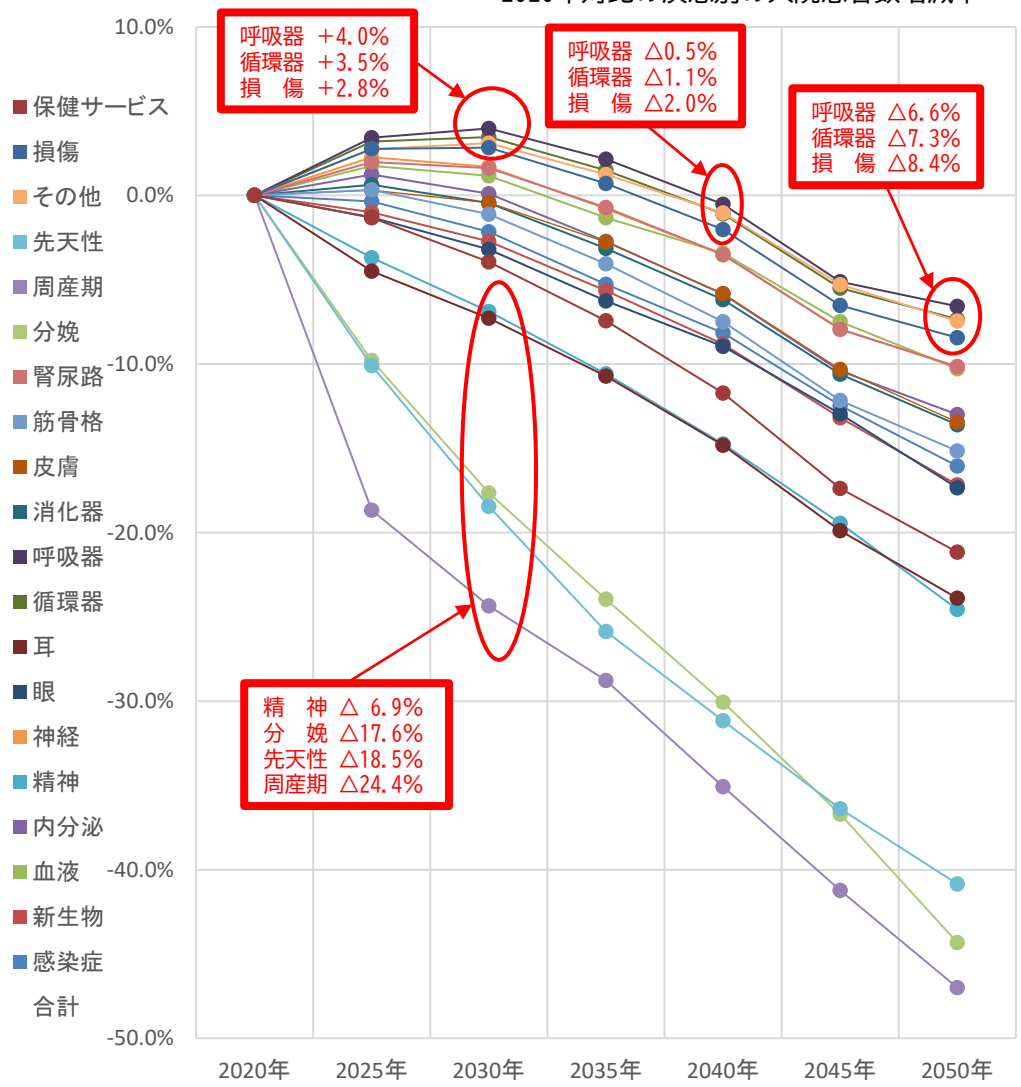
・入院患者数（需要）は、2025年（令和7年）以降減少し、高齢化に伴い増加する疾患（呼吸器系、循環器系（心疾患、脳梗塞等）、損傷（骨折等）など）は、2030年（令和12年）頃まで増加するものの、2035年（令和17年）以降は減少する見込み。
・2040年（令和22年）には全ての疾患で、2020年（令和2年）の入院患者数を下回る見込み。

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

若狭

疾患別の入院患者数推計（人／日）

2020年対比の疾患別の入院患者数増減率



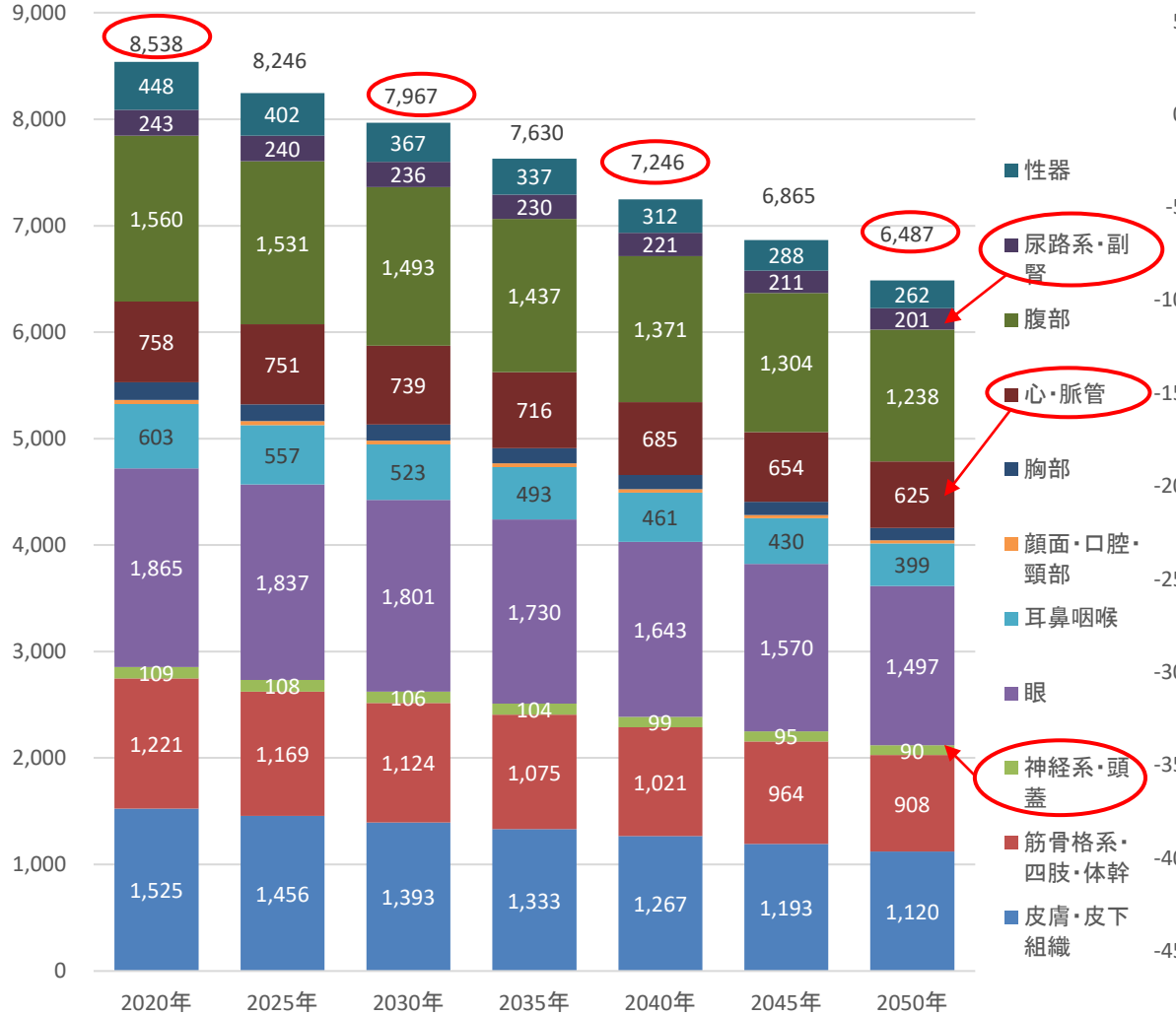
医療需要の推計 ～手術件数（若狭地域（若狭町含む））～

・手術件数（需要）は、すでに減少傾向にあると推測
・部位別では、神経系・頭蓋、心・脈管、尿路系・副腎については、2020年（令和2年）対比の減少率は2030年（令和12年）は3%程度、2040年（令和22年）は10%程度

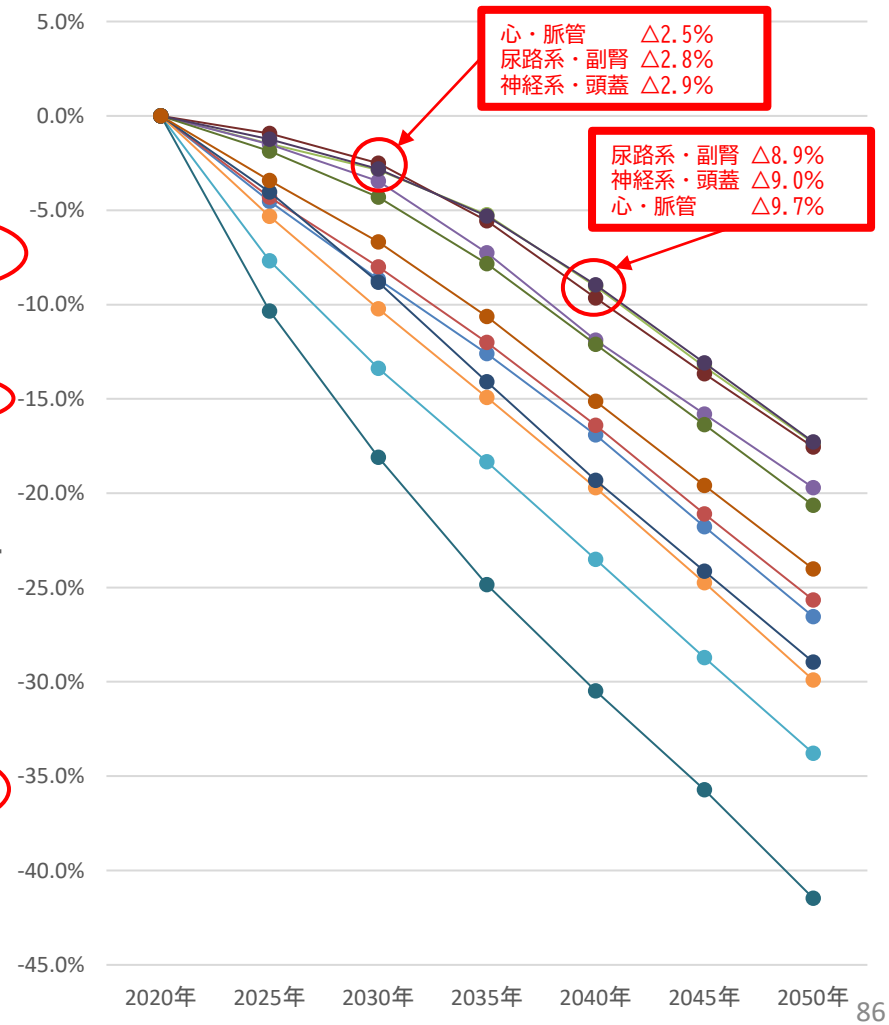
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、性年齢別の発生率について「令和元年10月1日推計人口」（総務省）、「第6回NDBオープンデータ（2019年4月～2020年3月）」（厚労省）をもとに推計

若狭

部位別の手術件数推計（件／年間）



2020年対比の部位別の手術件数増減率



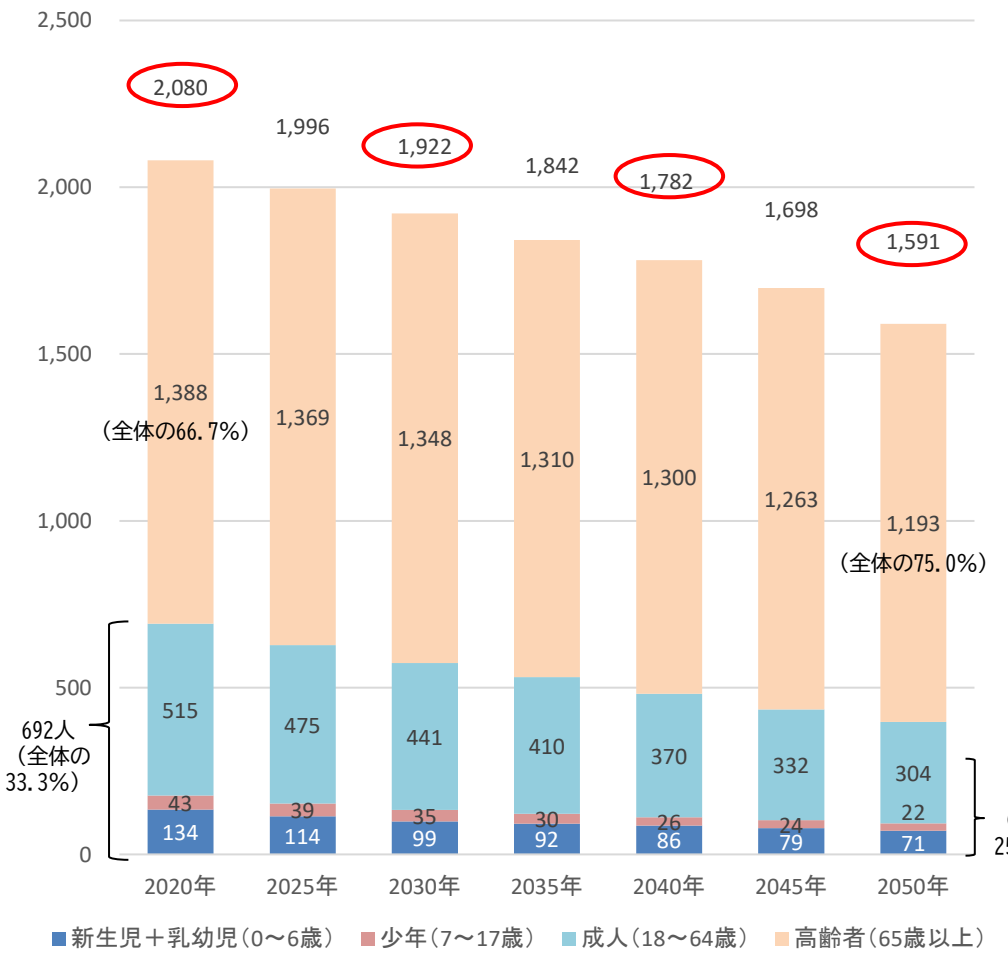
医療需要の推計 ～救急搬送件数（若狭地域（若狭町含む））～

・救急搬送件数（需要）は2020年（令和2年）以降すでに減少傾向にあると推測
・搬送件数は全ての年齢区分において減少。全体に占める高齢者の割合は、2050年（令和32年）に75.0%
・重症度別では、中等症および重症に比べ、65歳未満に多い軽傷の搬送が大きく減少

若狭

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、発生率について「救急救助の現況（2020年版、2019（令和元）年調査）」（消防庁）、「令和元年10月1日推計人口」（総務省）をもとに推計

急病の年齢区分別搬送の人数推計（人／年間）



急病の傷病程度別の人数推計（人／年間）

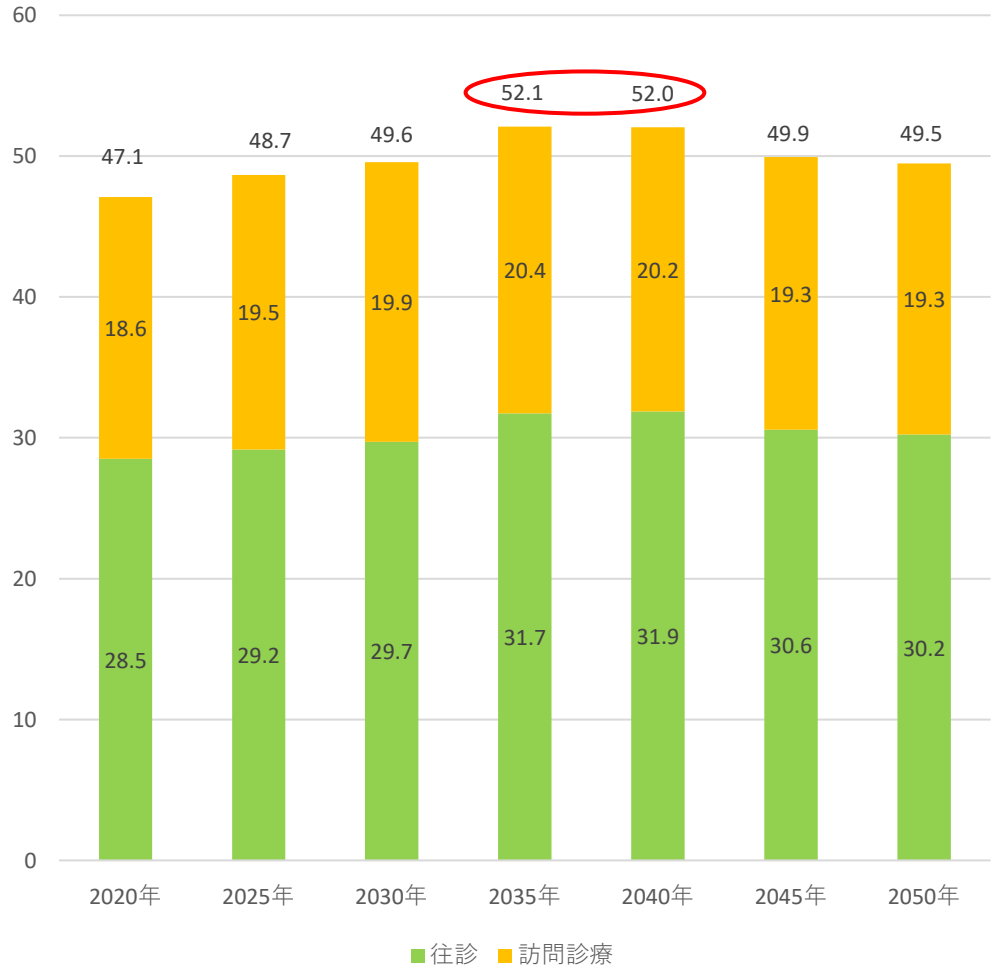
医療需要の推計　～往診、訪問診療（若狭地域（若狭町含む））～

・往診、訪問診療（一日あたり）を必要とする患者数は2035年（令和17年）から2040年（令和22年）頃に最多となり、それ以降は減少する見込み
・85歳以上人口の増加に伴い、急な体調不良等に対応する往診を必要とする患者が特に増加する見込み

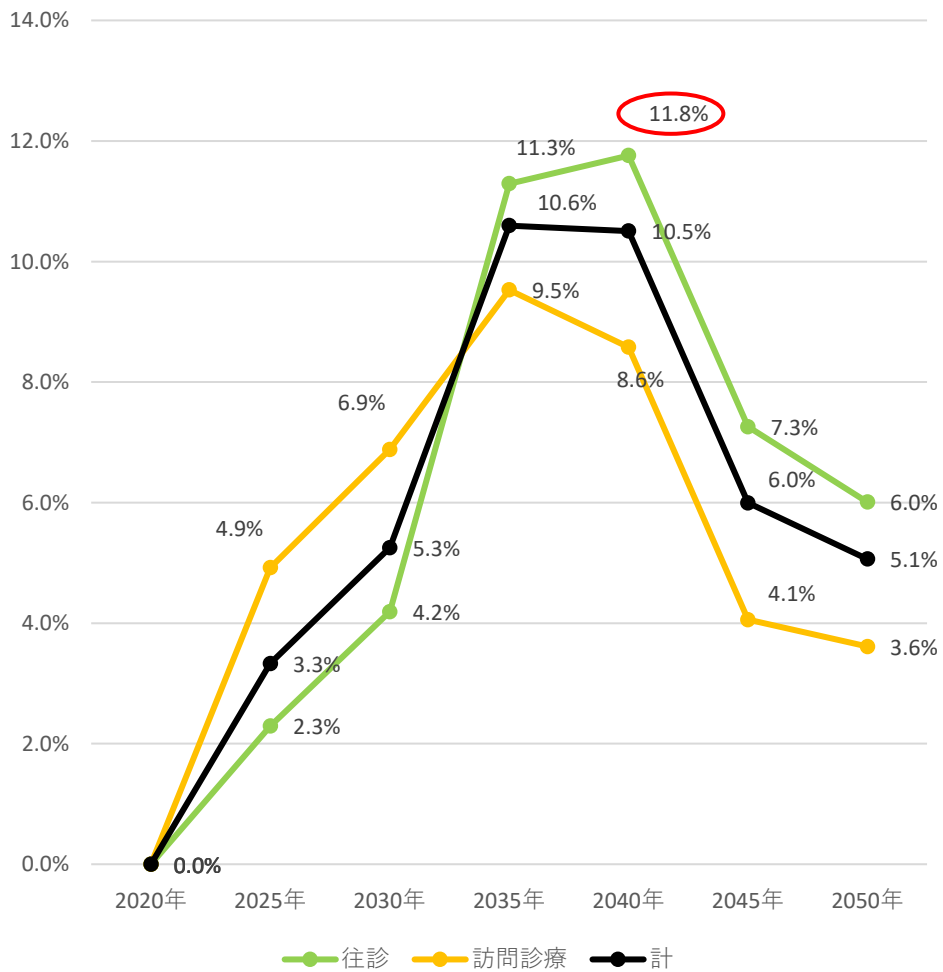
若狭

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、「平成29年度患者調査」をもとに推計

往診、訪問診療が必要な患者数推計（人／日）



2020年対比の往診、訪問診療が必要な患者数推計（人／日）



介護需要の推計～要介護・要支援認定者数（若狭地域（若狭町含む））～

・要介護・要支援認定者数は2035年（令和17年）頃が最多。2020年（令和2年）から2040年（令和22年）にかけて9%程度増加し、その後は減少する見込み
・このうち、要介護者は2020年から2040年にかけて10%程度増加する見込み

※令和6年3月に策定した「福井県高齢者福祉計画 福井県介護保険事業支援計画」では、市町の推計をもとに2040年までの見込を記載している。この資料では、左記の出典をもとに2050年までの推計を行ったため、前記の計画とは数字が一致しない点に注意

出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）、発生率について「令和元年度介護事業状況報告（年報）都道府県別要介護（要支援）認定者数」（厚生労働省）、「令和元年10月1日推計人口」（総務省）をもとに推計

若狭

年齢区分別の要介護・要支援認定者数の推計（人）

要介護度別の要介護・要支援認定者数の推計（人）

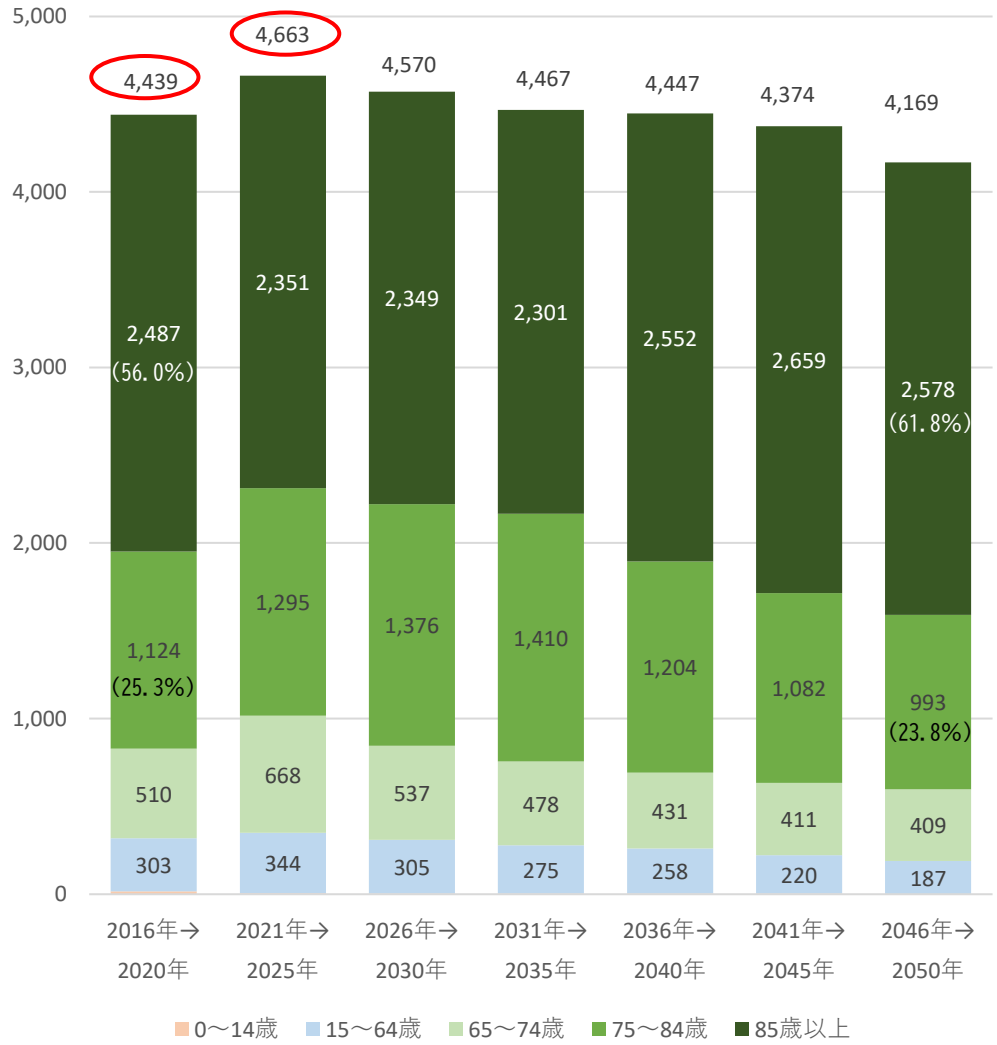
医療・介護需要推計 ～死亡者数（若狭地域（若狭町含む））～

・死亡者数はここ数年間がピークであり、現在、看取り需要が多くなっていると推測。
・後期高齢者（75歳以上）の死亡者数は2040年（令和22年）頃、85歳以上の死亡者数は2045年（令和27年）頃まで増加する見込み

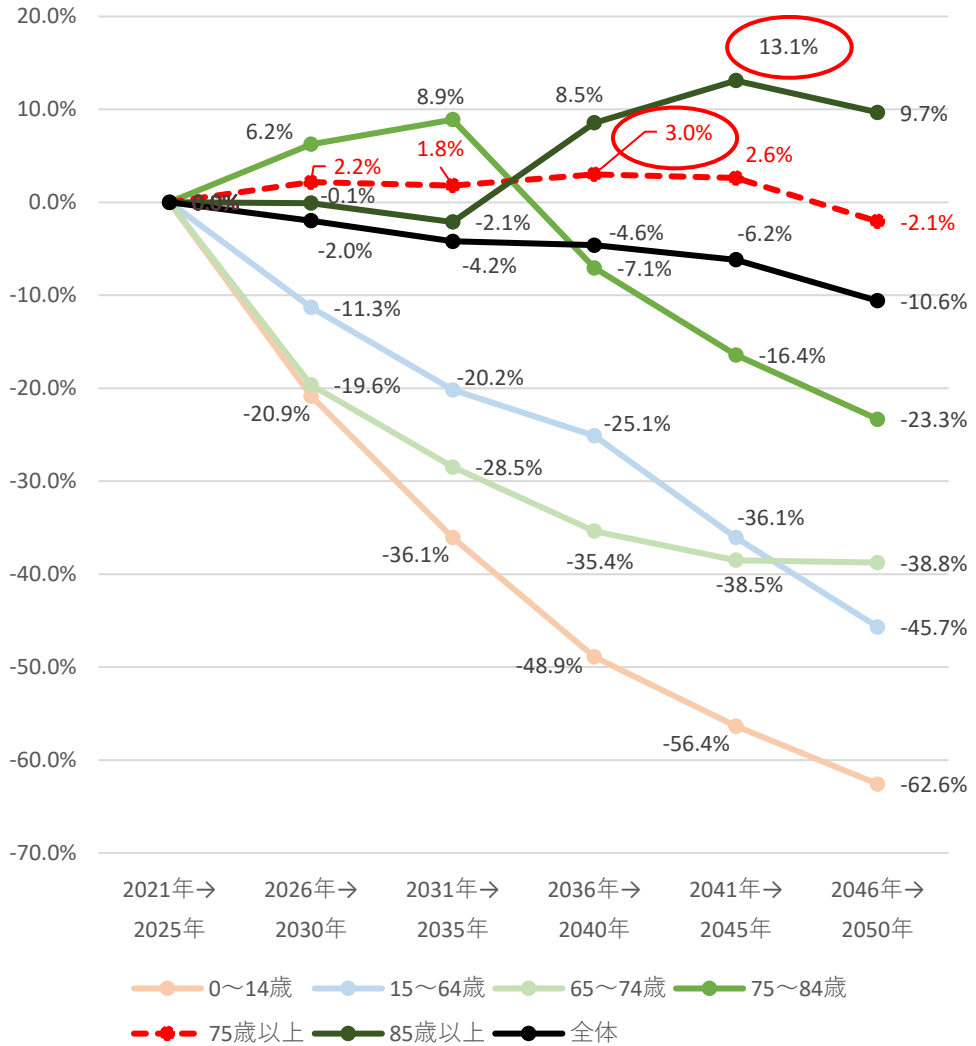
出典：「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）
「人口動態統計」（2016年（H28）～2020年（R2））（厚生労働省）は実数

若狭

年齢区分別の死亡者数（5年間）



2021→2025年の5年間と対比した年齢区分別の死亡者増減率



医療・介護需要の推計（若狭地域（若狭町含む））　主なもの

2020年に比べて増加する指標はオレンジ色網掛け

	2020年	2030年	2040年	2050年
人口（全体）	61,230 人	53,955 人	47,452 人	41,032 人
人口（85歳以上）	4,394 人	4,357 人	5,172 人	4,855 人
人口（75歳以上）	11,100 人	12,120 人	11,750 人	11,273 人
人口（65歳以上）	20,439 人	19,840 人	19,137 人	17,567 人
高齢化率	33.4 %	36.8 %	40.3 %	42.8 %
外来患者数	3,422 人	3,155 人	2,873 人	2,549 人
2020年対比で 増加する主な疾患	—	なし	なし	なし
入院患者数	819 人	817 人	770 人	709 人
2020年対比で 増加する主な疾患	—	呼吸器 ＋4.0% 循環器 ＋3.5% 損　傷 ＋2.8%	なし	なし
手術件数	8,538 人	7,967 人	7,246 人	6,487 人
2020年対比で 増加する部位	—	なし	なし	なし
救急搬送件数	2,080 人	1,922 人	1,782 人	1,591 人
救急搬送件数（65歳以上）	1,388 人	1,348 人	1,300 人	1,193 人
救急搬送件数に占める高齢者（65歳以上）の割合	66.7 %	70.1 %	73.0 %	75.0 %
訪問診療が必要な患者数	18.6 人	19.9 人	20.2 人	19.3 人
往診が必要な患者数	28.5 人	29.7 人	31.9 人	30.2 人
要介護認定者数	3,077 人	3,177 人	3,378 人	3,172 人
死亡者数　（各年までの5か年）	4,439 人	4,570 人	4,447 人	4,169 人

医療・介護需要の推計結果・方向性

推計結果

- 人口は一貫して減少する一方で、後期高齢者は年々増加し、2050年（令和32年）の高齢化率は奥越構想区域では5割近く、その他の区域では4割近くまで上昇。85歳以上人口は2040年（令和22年）頃に最多となる見込み。
- 外来患者数は、すでに減少傾向にあり、今後も一貫して減少する見込み
- 入院患者数は、奥越構想区域を除き2030年（令和12年）頃まで増加し、それ以降は減少するが、2040年頃までは現在と同程度の見込み
- 高齢化に伴い増加する疾患は、2030年頃まで増加し、それ以降も現在と同程度の医療需要がある見込み
  - 外来患者では、循環器系（心疾患、脳梗塞等）、神経系（末梢神経障害等）、筋骨格系（関節症等）が増加
  - 入院患者では、呼吸器系、循環器系（心疾患、脳梗塞等）、損傷（骨折等）が増加
  - 手術の部位別では、心・脈管、神経系・頭蓋、尿路系・副腎（尿路感染症等）が増加
- 救急搬送件数は減少するものの、高齢者の搬送は、奥越構想区域を除き2040年頃まで現在と同程度の件数がある見込み
- 今後、往診を必要とする患者が、特に増加する見込み
- 要介護認定者数は2040年頃まで増加する見込み
- 死亡者数は2040年頃まで増加する見込みであり、医療機関・介護施設、在宅医療における看取り需要が増加すると推測
- 奥越構想区域においては、現在、死亡者数がピークを迎え、往診が必要な患者数がピークとなる時期が他地域より早い見込み

今後のおおまかな方向性

- 2040年（令和22年）頃までは2020年（令和2年）と同程度の医療需要に対応できる体制が必要
- 救急搬送の対象は高齢者に置き換わっていく。外来・入院ともに、高齢の患者が増加する。
- 他地域よりも高齢化が進んでいる地域では、看取りや在宅医療・介護の需要に現在対応できているか、確認する必要がある。